

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2019年6月27日

【会計年度（又は事業年度）】 自 2018年1月1日 至 2018年12月31日

【発行者の名称】 韓国産業銀行
(The Korea Development Bank)

【代表者の役職氏名】 資金部 IR・アジア調達チーム長
金 裕性 (Yoo Seoung Kim)

【事務連絡者氏名】 韓国産業銀行 東京支店長
李 廷權 (Jeong Kwon Lee)

【住所】 東京都千代田区丸の内一丁目9番1号 グラントウキョウ ノースタワー36階

【電話番号】 (03)3214-4541

【縦覧に供する場所】 該当なし

- 注(1)本書中、別段の記載がなければ、「ウォン」と表示された金額はすべて大韓民国ウォンを意味し、また、「米ドル」と表示された金額はすべてアメリカ合衆国ドルをそれぞれ意味する。2018年12月31日にソウル・マネー・ブローカレッジ・サービスズ・リミテッドの発表した平均為替相場は100円につき1,013.18ウォン、1米ドルにつき110.35円および1米ドルにつき1,118.10ウォンであった。
- (2)韓国産業銀行(以下「当行」という。)および大韓民国(以下「韓国」という。)の会計年度は暦年である。
- (3)本書中の表で計数が四捨五入されている場合、これらの表中の合計は計数の総和と必ずしも一致しない。

第1【募集(売出)債券の状況】

募集債券

債券の名称	発行年月	券面総額	償還額	会計年度末の未償還額	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名
第43回韓国産業銀行円貨債券(2013)(1)	2013年6月	65億円	65億円	-	なし
第45回韓国産業銀行円貨債券(2014)(2)	2014年1月	150億円	-	150億円	なし
第48回韓国産業銀行円貨債券(2018)	2018年9月	500億円	-	500億円	なし

注(1)2018年6月7日の満期に全額償還された。

(2)2019年1月29日の満期に全額償還された。

売出債券

債券の名称	発行年月	券面総額	償還額	会計年度末の未償還額	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名
韓国産業銀行2022年7月5日満期豪ドル建債券	2016年7月	22,900,000豪ドル	-	22,900,000豪ドル	なし
韓国産業銀行2022年7月5日満期米ドル建債券	2016年7月	11,700,000米ドル	-	11,700,000米ドル	なし
韓国産業銀行2019年7月5日満期円貨決済型ブラジルレアル建債券	2016年7月	545,800,000ブラジルレアル	-	545,800,000ブラジルレアル	なし

本会計年度中において、上記記載の各債券の所有者の権利に重要な影響を与える事実の発生はなかった。

当行は2019年1月1日以降、日本において募集および売出しを行っていない。

第2【外国為替相場の推移】

当行が本邦において発行した債券の表示通貨である豪ドル、米ドルおよびブラジルレアルと本邦通貨との間の為替相場が、国内において時事に関する事項を掲載する2以上の日刊新聞紙に当行の最近5年間の会計年度において掲載されているため、記載を省略。

(1)【最近5年間の会計年度（又は事業年度）別為替相場の推移】

該当事項なし。

(2)【当会計年度（又は事業年度）中最近6月間の月別為替相場の推移】

該当事項なし。

(3)【最近日の為替相場】

該当事項なし。

第3【発行者の概況】

1【発行者が国である場合】

該当事項なし。

2【発行者が地方公共団体である場合】

該当事項なし。

3【発行者が国際機関又は政府関係機関等である場合】

(1)【設立】

設立の根拠、年月日および沿革

当行は韓国産業銀行法（その後の改正を含む。以下「産銀法」という。）に基づき1954年4月1日に政府系金融機関として設立された。当行は、企業金融業務、投資銀行業務、国際銀行業務、企業再編およびコンサルティング業務等の多数の重要な銀行業務に携わっている。本店所在地は韓国ソウル特別市永登浦区銀行路14である。

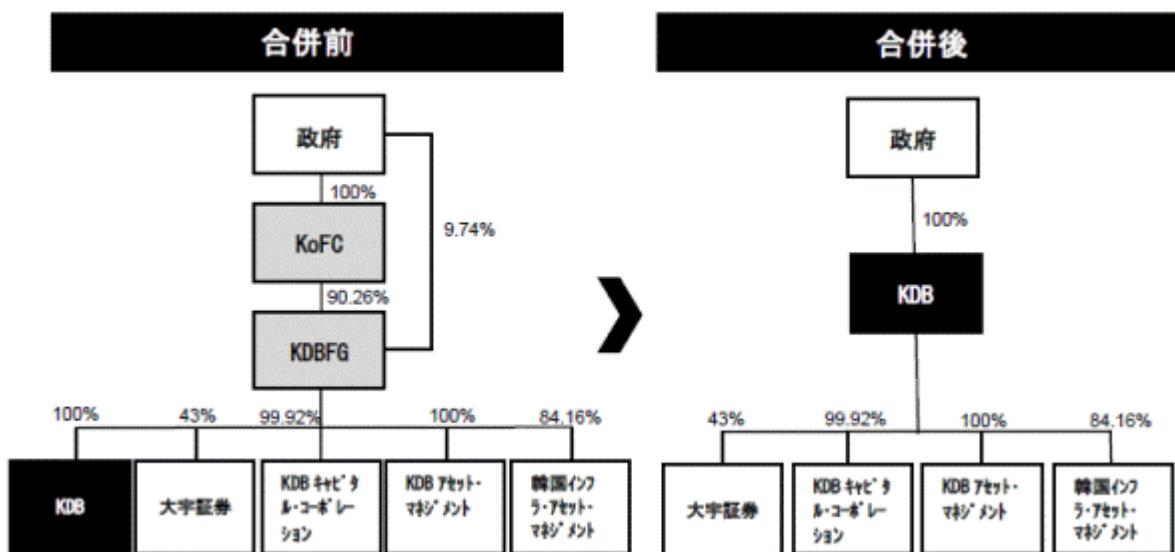
2009年10月28日、当行は、2009年9月8日に開催されたスピンオフ案に関する理事会決議および2009年9月23日にスピンオフの承認のために開催された臨時株主総会の決議に従って、公的融資部門と金融子会社事業支援部門をそれぞれKoFCおよびKDBフィナンシャル・グループ・インク（以下「KDBFG」という。）に分割した。かかる新たな2法人の新株が発行され、スピンオフの日付で按分比例により当行の株主に配分され、当行は残りの業務を継続していた。当行および新法人は、スピンオフ前に存在していたすべての負債について連帯責任を負うこととなっていた。

2009年11月24日、当行の単独株主であった韓国政府（以下「政府」という。）は、当行株式をKDBFG株式と、当行株式1株当たりKDBFG株式0.163608株の比率で交換した。株式交換の完了直後、当行はKDBFGの完全所有子会社となった。

世界経済が依然として不透明であり、2008年下半期以降の国際金融危機の韓国経済に対する影響が長引いており、また、複数の国有の銀行および金融機関の金融政策上の役割が一部重複していることに鑑みて、政府は、2013年4月に、国有の銀行および金融機関の金融政策上の役割の再編（政府による当行の民営化計画を含む。）を検討するための作業部会（以下「作業部会」という。）を組織した。かかる国有法人の監督に責任を負う様々な政府機関の代表者および学識者からなる作業部会は、非公開会議を複数回開催し、政策金融上の役割に関して様々な再編の可能性を検討し、その結果を金融委員会（以下「FSC」という。）に報告した。2013年8月、FSCは、作業部会の所見に基づき、国有の政策銀行および金融機関の重複する役割を合理化し、また、新興企業および中小企業、新成長産業ならびに海外プロジェクトに対するそれらの政策金融上の役割を強化するために、国有の政策銀行および金融機関を再編する政府の計画を発表した。当該計画では、とりわけ、(i) KoFCおよびKDBFGの当行への統合ならびにKoFCの約2兆ウォンの海外資産の韓国輸出入銀行（以下「KEXIM」という。）への譲渡、(ii) KDBキャピタル・コーポレーション（産銀キャピタル（株））およびKDBアセット・マネジメント・カンパニー・リミテッド（産銀アセット・マネジメント（株））を含む政策金融上の役割を有さない当行の子会社の売却、ならびに(iii) 当行のリテールバンキング業務の段階的な縮小が求められていた。

2014年5月、国会は、FSCが発表した計画を概ね反映して、当行の民営化を中止し、急速に変化を続ける国内外の経済情勢に体系的でよりよい対応が可能となるように国有の銀行および金融機関の金融政策上の役割を合理化するよう、産銀法の改正（以下、かかる改正により改正された産銀法を特に「改正産銀法」ということがある。）を可決した。2014年5月に改正された改正産銀法に従って、公的政策金融上の役割が統合かつ強化され、KDBFGおよびKoFC（子会社を含む。）は、公的政策金融における当行の豊富な経験および専門知識を活用するために、2014年12月31日付で当行に合併した。また、当行は、韓国企業に対する公的政策金融支援の提供（2009年に制定された金融産業構造改善法に基づき設置された金融市場安定化基金の管理および運用を含む。）というKoFCの役割を引き継いだ。KoFCの約2兆ウォンの海外資産はKEXIMに譲渡された。政府は2014年12月31日に、KoFCおよびKDBFGに対する持分すべてを当行に譲渡し、代わりに当行の新株3,036,079,768株（額面総額15,180.4十億ウォン）を受領した。新たな統合後の当行は、30,000十億ウォンを上限とする授権資本を有しており、当行の払込資本金は15,180.4十億ウォンであった。本書の日付現在、政府が当行の資本の100%を保有している。

改正産銀法に基づき実施された合併の前後における当行の所有構造を下図に示す。当行の所有構造は、2009年10月のスピノフおよび再編以前の当初の所有構造に戻った。



政府は当行の民営化計画を中止しているが、政策金融上の役割を有さない当行の子会社を、市場の状況に応じて民営化する意図を表明している。

大宇証券株式会社およびKDBアセット・マネジメント・カンパニー・リミテッドは、2016年4月7日付で未来アセット・コンソーシアムに売却された。

改正産銀法では、とりわけ、以下が規定されている。

- ・政府は、当行の民営化計画を取り下げた。
- ・新たに統合された当行を通じて公的政策金融上の役割が強化された。
- ・当行は、合併完了時に、KDBFGおよびKoFCの財産、権利および義務を包括的に承継した。
- ・KDBFGが発行した債券およびKoFCが発行した政策銀行債券は、当行が発行した産業金融債券とみなされるべきこと。
- ・韓国政策金融公社法およびその他の法令に従ってKoFCが従事していた事業は、当行が継続して実施すること。
- ・改正産銀法の施行前のKoFCおよび当行の（発行時の当初年限が1年以上の）外貨建て債務の元利金の返済は、国会による承認を条件として、当行に対する政府の資本持分の最初の売却時点において政府により保証されるべきこと。

目的

産銀法の第1条に規定されているように、当行は国民経済の発展を促進する為の資金等を供給することを主たる目的とする。

当行は、設立以来、韓国の経済成長・開発プロジェクトのための長期資金供給においてリーディングバンクとしての役割を果たしている。

当行は、各経済発展の段階とその時の状況によって重点支援対象となる重要産業の範囲を修正・拡大してきており、経済開発の初期段階であった1950年代には肥料・セメント・板硝子などの基幹産業、1960年代から1980年代初期の経済開発5カ年計画の時期には重化学工業、1980年代末からは先端技術・情報産業やインフラストラクチャー関連事業、そして競争力向上のための海外投融資事業に重点を置き支援してきた。最近では、アジア通貨危機以降、伝統産業および新興産業の双方の企業に対して融資・投資を行うことで金融および産業構造改革への支援を強化している。さらに、中小企業および地方の企業に対する貸付を増加させ、韓国全土におけるバランスのとれた経済発展に寄与している。

法的地位および特権

現在、当行の資本金全額は政府が直接的に出資しており、それにより当行は政策銀行としての準ソブリンの地位を有しています。当行の業務に関する条項に関しては、当行は、政府の承認を受けかつ産銀法に規定された銀行業務の一定部門において営業することができる。産銀法に規定された業務に付随するその他の業務を遂行するためには、当行がFSCの承認を受けることが必要となる。

さらに、産銀法に従って、当行は当期純利益の40%以上を利益準備金に繰入れなければならない。利益準備金は、払込資本金に振替えることができ、繰越欠損金の補填に充当することもできる。会計年度ごとの繰越欠損金の補填に関しては、当行は産銀法に従って、繰越欠損金を利益準備金から補填する。利益準備金が欠損金に達しない場合には政府がこれを補わなければならない。産銀法の条項に従って政府が当行の支払能力の維持に責任を有しているため、当行には、実質的に倒産の虞はない。

アジア通貨危機以降、FSCが自己資本比率および経営の健全性の点で当行を監督・規制している。不良債権の大半を処分し、資本基盤強化のために政府が資本注入を行ったことは、引き続き当行の財務構造全般の支えとなっている。

KDBFGとKoFCの当行への統合を通じて、急速に変化しつつある国内および国際経済情勢に体系的に対応するために政府系銀行および金融機関の間の金融政策上の役割を合理化する目的で、2014年5月、産銀法が政府および国会により改正された。同法は2014年12月31日付で施行された。改正産銀法は、とりわけ、当行の民営化に関する政府の計画を中止し、新たに統合された事業体を通じて公共政策融資を確固たるものへと強化することを規定している。

当行の損失を補填する政府の義務については、改正産銀法における内容の変更ではなく、同法第32条において、「当行の年次の純損失は、各年度において準備金によって補填され、準備金が不足している場合には欠損額は政府が補填する。」と規定されている。

政府保証についても、暫定措置として改正産銀法附則第8条において、「政府は、国会の承認を事前に取得した上で、政府による当行の持分の最初の売却時点で、本法の施行前に当行およびKoFCに発生した外貨建債務の元利金の返済を保証する（本規定は、発行または発生時の期限が1年以上の債券および債務にのみ適用される。）」と再規定されている。

日本との関係

当行は、1969年に東京駐在員事務所を設置し、1991年以降は東京支店を通じて日本において銀行業務を行っている。東京支店は、日本国東京都千代田区丸の内一丁目9番1号 グラントウキョウ ノースタワー36階に置かれている。

日本における資金調達および販売経路を強化するために、大阪駐在員事務所が2013年1月に業務を開始した。しかしながら、非効率な業務のため、大阪駐在員事務所は2015年5月に閉鎖された。

(2) 【資本構成】

資本構成

2018年12月31日現在の当行の資本構成は次の表の通りである。

(単位：十億ウォン)

2018年12月31日

長期債務	(1)(2)
ウォン建て借入金	3,874.5
産業金融債	118,869.2
外貨建て借入金	4,312.8
長期債務合計	127,056.5
資本	
資本金	18,108.1
資本剰余金	2,497.2
利益剰余金	4,412.6
その他の包括利益累計額	(32.7)
資本合計	24,985.2
負債および資本合計	152,041.7

注(1)外貨借入金は、ソウル・マネー・ブローカレッジ・サービスズ・リミテッドが発表した2018年12月31日現在のウォンの米ドルに対する為替相場の仲値である1米ドル=1,118.10ウォンのレートで、外貨からウォン貨に換算されている。

(2)2018年および2017年12月31日現在、当行は、顧客のために発行された保証残高による合計7,847.8十億ウォンおよび7,803.5十億ウォンの偶発債務をそれぞれ負っていた。

出資

現在、当行の払込資本金全額は政府が提供している。2018年12月31日現在、当行の授権資本金は30兆ウォンである。2000年12月29日、当行は、同年度の予想純損失を相殺するため959.8十億ウォンの減資を実施した。その結果生じた欠損金を補うため、2001年6月20日、政府は韓国電力公社（以下「KEPCO」という。）の普通株式を現物出資し、当行資本に対して3兆ウォンの増資を行った。政府は引き続き当行の財政状態の強化に取組んでおり、2001年12月29日には、政府は当行に対して50十億ウォンの現金出資を行った。さらに、2003年8月13日には80十億ウォンの増資が行われた。政府によるかかる資本注入は、地方経済支援のための当行の既存の資金への追加として行われたもので、当該資金は、企業の農村部への業務拡大を促進し、地方都市に拠点を置く企業の研究開発を支援し、かかる企業の生産能力を増強し、他の経済的な取組みを支援することを意図している。2004年4月30日、政府は、KEPCOの株式（695十億ウォン）および韓国水資源公社の出資証書（305十億ウォン）の追加拠出により、当行の資本を1,000十億ウォン増額した。2008年12月18日、政府は、韓国道路公社の株式の拠出により、当行の資本を500十億ウォン増額した。2009年1月30日には、政府は現金の拠出により、当行の資本を900十億ウォン増額した。2010年、当行は、10十億ウォンの株式発行によって増資を行った。2013年12月、政府は当行の資本に10十億ウォンを拠出した。2014年2月には、政府は当行の資本に20十億ウォンの現金出資を行った。2014年12月、KDBFGおよびKoFCとの合併に関連して、当行の払込資本金は5,918.5十億ウォン増加した。社会資本プロジェクト、新たな成長の原動力となる産業、ハイテク産業および新たな再生可能エネルギー産業ならびに企業全般のための当行の資金を支援するため、2015年4月、7月および9月に、政府は当行の資本に対して、韓国土地住宅公社およびKEPCOの普通株式による2兆ウォンの現物出資、40十億ウォンの現金出資ならびに15十億ウォンの現金出資をそれぞれ行った。また、2016年7月、9月および11月に、政府は当行の資本に対してそれぞれ50十億ウォン、247.7十億ウォンおよび10十億ウォンの現金出資を行った。政府は当行の資本に対して、2017年5月に仁川港湾公社および麗水光陽港湾公社の普通株式による250十億ウォンの現物出資を、2017年9月に80十億ウォンの現金出資を、2017年12月に65十億ウォンの現金出資を、ならびに2018年6月に170十億ウォンの現金出資を行った。かかる出資、減資および合併を考慮に入れた2018年12月31日現在の当行の払込資本金は合計18,108.1十億ウォンであった。

利益準備金

産銀法の規定に基づき、当行は会計年度ごとに純利益の40%以上を利益準備金へ繰入れることになっている。利益準備金は、払込済資本金に振替えることができ、また、繰越欠損金の補填に充当することもできる。2018年12月31日現在の当行の利益準備金は173.9十億ウォンであり、同日現在で当行の融資残高の0.1%を占めた。

(3) 【組織】

組織と機能

2018年12月31日現在、当行の役員は、会長兼最高経営責任者1名、専務理事兼最高執行責任者1名、監事1名および理事12名（うち7名は執行副頭取および5名は社外理事であった。）で構成されていた。理事会（会長兼最高経営責任者、専務理事兼最高執行責任者、監事および理事5名からなる。）は、理事の過半数の出席をもって定足数とし、理事会決議は出席した理事の過半数の賛成票により採決される。

2018年12月31日現在、当行は74カ所の韓国内の支店、9カ所の海外支店、5カ所の海外現地法人および8カ所の海外駐在員事務所を有している。

当行の74カ所の国内支店は都市部および地方都市に所在している。海外支店は、東京、上海、シンガポール、ニューヨーク、ロンドン、北京、広州、瀋陽および青島の9カ所にあり、海外現地法人は香港、ダブリン（アイルランド）、ブダペスト（ハンガリー）、サンパウロ（ブラジル）およびタシケント（ウズベキスタン）の5カ所に所在する。海外駐在員事務所は、フランクフルト、ホーチミンシティ、アブダビ、ヤンゴン、モスクワ、バンコク、マニラおよびシドニーの8カ所に所在する。当行の内外支店、海外現地法人および海外駐在員事務所は、各種銀行業務およびマーチャントバンク業務を営んでいる。

当行の従業員数は2018年12月31日現在、3,149人であり、うち1,946人がソウル本社に勤務している。

役員の任免

当行の会長は、FSC委員長の推薦を受けて韓国の大統領が任免する。執行副頭取および理事は、当行の会長の推薦を受けてFSC委員長が任免する。監事はFSCが任免する。会長、執行副頭取、理事および監事の任期はいずれも3年である。

役員

2018年12月31日現在、当行の理事会のメンバーおよび監事は次のとおりであった。

理事会

会長兼最高経営責任者 李 東傑 (Dong Gull Lee)

専務理事兼最高執行責任者 李 大賢(Dai Hyun Lee)⁽¹⁾

執行副頭取 金 建烈 (Keon Yeol Kim)
曹 昇鉉 (Seung Hyun Cho)
成 周永(Joo Yung Sung)⁽²⁾
白 仁均 (In Gyun Baek)
全 永三 (Young Sam Jun)⁽³⁾
林 孟鎬 (Maeng Ho Lim)
金 載益 (Jae Ik Kim)⁽³⁾

社外理事 金 正湜(Jung Sik Kim)
金 南俊(Nam Jun Kim)
崔 方吉(Bhang Gil Choi)
梁 彩烈 (Chae Yeol Yang)
李 潤(Yune Lee)

監事

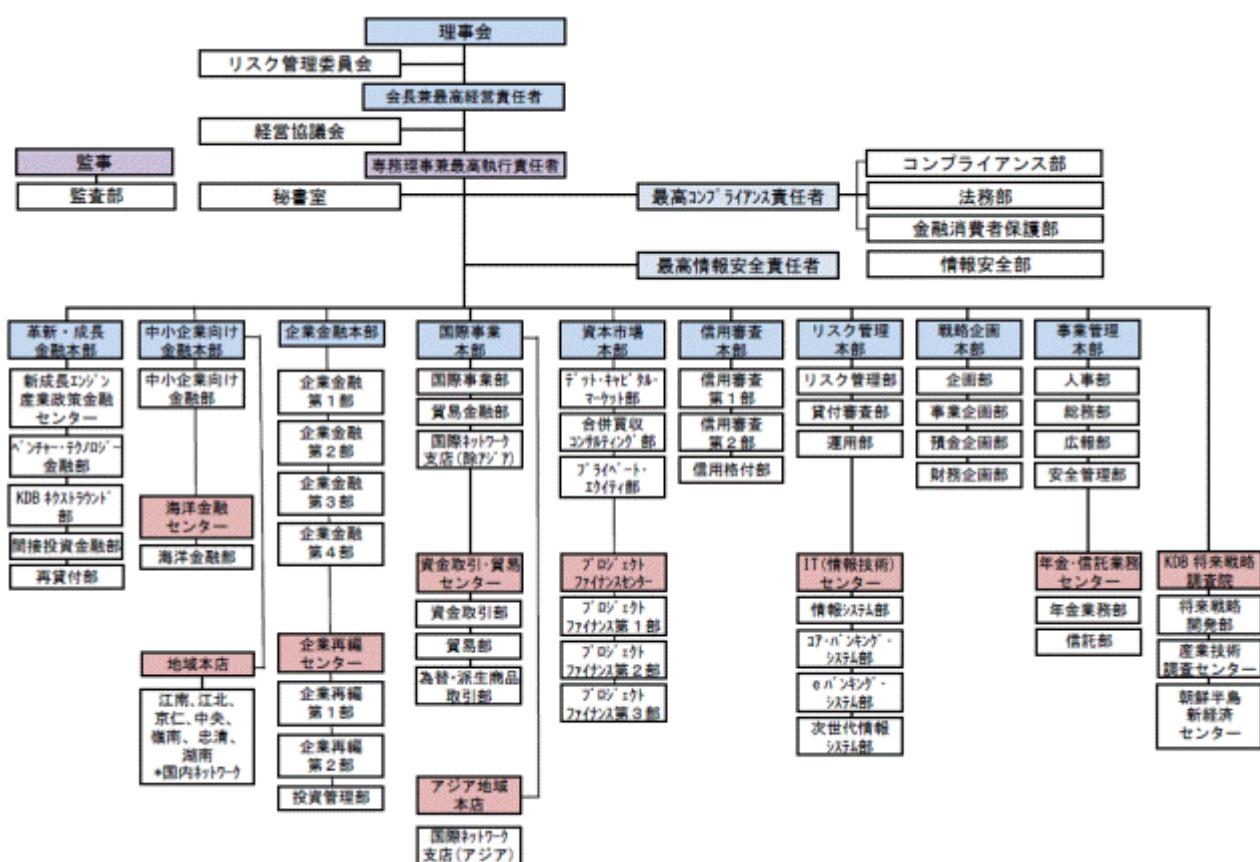
監事 徐 哲煥(Cheol Hwan Seo)

注(1)2019年1月2日付で辞任した。2019年1月3日付で成 周永 (Joo Yung Sung) 氏が専務理事兼最高執行責任者に任命された。

(2)2019年1月3日付で専務理事兼最高執行責任者に任命された。

(3)2019年1月9日付で辞任し、2019年1月10日付で張 炳敦 (Byoung Don Chang) 氏、吳 振教 (Jin Kyo Oh) 氏、崔 大賢 (Dae Hyon Choi) 氏、裴 永云 (Young Un Bae) 氏、梁 基祐 (Ki Ho Yang) 氏が執行副頭取に任命された。

組織図（2018年12月31日現在）



(4) 【業務の概況】

産銀法および同法施行令が当行のあらゆる活動の根拠となっている。

当行は重要産業に対する設備および運転資金の貸付、もしくは同産業に必要な高度技術開発のための資金の貸付、同産業の資金調達のための債務保証または債務引受、重要産業事業資金の調達のために発行する社債と公共団体が発行する債券の応募・引受および投資や保証、重要産業を営む法人の株式の引受、投資業務を行う。

そして、こうした業務を円滑に営むために必要な資金の調達、外国為替業務および政府・公共団体・金融機関またはその他の事業体から委託を受けて行う特定事業に対する経済的・技術的妥当性の検討の計画・調査・分析・評価・指導・諮詢などの役務の提供を行う。

貸付

当行は、重要産業プロジェクトを行う韓国の民間企業向けを中心とする設備資金および運転資金の貸付を行っている。かかる貸付は、一般にプロジェクト総費用の80%以下を賄うが、100%を賄うこともある。設備資金貸付には、高度技術開発および設備機器の取得、改良または修繕のための重要産業に対する貸付が含まれる。すべての設備資金貸付は1年超を年限とする。当行は、設備資金貸付先または保証の提供先である主体、政府または当行が全部または一部所有する企業およびハイテク事業を行う中小企業に対して運転資金貸付を行うことができる。

貸付資金が目的に従って使用されるよう、資金の供給は分割して行われる。当行は資金供給先、投資先のプロジェクトまたは企業をモニターをするよう産銀法に規定されており、また、産銀法により経営支援の必要のある貸付先に対して当行の従業員を配属する権限を与えられている。

当行が貸付を承認する際に考慮する主たる要素は、プロジェクトにより韓国の得る経済的利益、プロジェクトの政府の産業政策における優先度合、プロジェクトの実現可能性、貸付およびプロジェクトの収益性、ならびに貸付先の経営の質である。

当行は、15%（延滞利息の最大値）までの貸付金利を賦課できるが、一般に、中小企業に対しては金利引下げを行っている。当行は毎月、プライム・レートを調整する。基準金利への上乗セスプレッドは、貸付の目的、年限および貸付先の信用格付により異なる。一定の貸付には、市場金利を下回る金利が適用されている。一般に、設備資金貸付は5年ないし10年の当初年限を有し、10年超の年限の設備資金貸付が行われることもある。運転資金貸付は、通常、2年以内の期限である。

当行が会社などの企業向けに行う貸付は、一般に、大企業については貸付実行時において貸付金額の100%を超える価額の、中小企業については貸付金額までの価額の担保を取得する。担保物の内容は貸付先および貸付の種類によって異なり、貸付金によって購入する設備、プラント、不動産、市場性有価証券など多様である。当行は、年1回以上、担保価値の評価を行う。

2018年度の産業部門別新規貸付の実績は以下の通りである。

（単位：十億ウォン（%を除く。）

2018年12月31日

終了年度の構成比

	2018年	2017年	(%)
製造業	28,898.7	28,691.1	60.6
金融・保険業	4,813.9	4,801.8	10.1
運輸業	3,161.2	3,133.3	6.6
電気・ガス・水道業	1,360.8	1,107.3	2.9
その他 ⁽¹⁾	9,423.5	8,865.3	19.8
合計	47,658.1	46,598.8	100.0
前年度比増減率	2.3%	5.8%	

注(1)卸売・小売業、不動産業および賃貸業ならびに建設業が含まれる。

次の表は、設備資金および運転資金の産業部門別融資残高を示す。⁽¹⁾

(単位：十億ウォン(%)を除く。)

2018年12月31日

現在の構成比

	2018年12月31日	2017年12月31日	(%)
製造業	54,563.5	55,204.0	49.1
金融・保険業	26,142.6	25,373.6	23.5
運輸業	7,020.6	7,075.5	6.3
行政	692.0	778.8	0.6
電気・ガス・水道業	4,018.9	3,409.8	3.6
その他 ⁽²⁾	18,672.8	19,694.7	16.9
合計	111,110.4	111,536.4	100.0
前年度比増減率	(0.4%)	(1.6%)	

注(1)上表には、関連会社に対する融資額が含まれる。

(2)卸売・小売業、不動産業および賃貸業ならびに建設業が含まれる。

保証

当行は、顧客に対して、その他の借入を援助し、重要産業プロジェクトの資金調達のための保証を行うことができる。当行は、ウォン建の社債、ウォン建ローンおよびその他ウォン建の債務ならびに国内外の韓国の金融機関および外国の金融機関からの外貨建ローンについて保証を行う。産銀法および当行の定款により、産業金融債債務および保証債務の総額には上限が設けられている。

当行の保証は、一般に、保証金額の100%を超える価額の担保を取得する。当行は、年1回以上、担保価値の評価を行う。担保物の内容は貸付先によって異なり、プラント、不動産、市場性有価証券など多様である。

当行の確認された引受および保証残高は以下の通りである。

	2018年12月31日現在	2017年12月31日現在
引受け	631.3	399.2
国内借入保証	1,104.6	1,055.5
国外借入保証	6,057.4	6,311.7
輸入者向け保証状	54.5	37.1
合計	7,847.8	7,803.5

投資

当行は、韓国の多様な民間企業および政府系企業に投資を行っており、政府からのその旨の指示がない限り会社の支配持分を保有することはない。当行の投資の売却は、一般に「授權に関する規則」に基づく内部承認により決定される。当行は、行内の客觀性および収益性のために、売却の最適な規模および時期の決定には慎重な手段を講じている。また、以前行われたかかる売却の中には、政府の再編計画を満たすことを目的として行われたものもあった。政府は、市場の状況に応じて、以前の再編計画において取得した一定の民間企業（大宇造船海洋を含む。）に対する直接または間接の持分の売却を計画している。当該計画に従って、当行は、売却のための好機が得られれば、一定の民間企業に対する当行の株式持分を売却する予定である。2018年12月31日現在の当行の株式投資は、2017年12月31日現在の34,334.6十億ウォンから34,823.2十億ウォンに増加した。

その他の業務

当行は、貸付および保証の提供以外にも、経済産業研究、エンジニアリング調査の実施、事業分析および経営支援の提供ならびに信託サービスの提供等の広範な産業振興活動に携わっている。

資金源

当行は、資本金および準備金のほか、主として、政府借入、国内外の資本市場での債券発行、国際金融機関または外国銀行からの借入および預金によって資金を調達している。

当行の資金調達はすべて無担保で行われている。

政府借入金

当行は、政府の一般目的基金および特定目的基金から借入を行っている。一般目的借入金は、一般にウォン建であり、固定利付で5年ないし20年の年限を有する。当行は、融資を行う特定のプロジェクトに関連して、主に観光推進基金、エネルギー使用の合理化基金および中小企業振興基金から特定目的借入を行う。政府は、各特定目的借入の金利および年限を、当該特定プロジェクトのために当行が行う融資の条件に連動させる。

国内外の資本市場

当行は、国内外において産業金融債を発行しており、その一部は政府の直接保証付である。国内で発行する産業金融債は一般に固定利付で年限が1年から10年である。

産銀法の規定により、当行の産業金融債の発行残高総額（政府が直接保証し、購入した産業金融債を除く。）と当行のオン・バランスシートおよびオフ・バランスシートの保証債務残高総額（法令により除外されるものを除く。）との合計は、当行の払込済資本金と利益準備金との合計額の30倍を超えてはならない。2018年12月31日現在の当行の産業金融債の発行残高総額および保証債務残高総額（2018年12月31日にはまだ借入が行われていなかった貸付に関連する保証債務を含む。）は132,954.8十億ウォンであった。これは、当行の授権額である589,621.3十億ウォンの22.5%に相当する。

外貨建借入

当行は、外国金融機関（主に商業銀行団）から外貨建の借款を行っており、それに関連して金利および通貨スワップ取引を行うこともある。当該借入の年限は一般に1年ないし5年である。2018年12月31日現在の当行の外貨建借入残高は、12.2十億米ドルであった。

2018年12月31日現在の当行の長短期外貨建借入金は、2017年12月31日の11,875.7十億ウォンから13,609.5十億ウォンに増加した。

預金

当行は、一般から要求払預金および定期・貯蓄預金を受け入れている。定期・貯蓄預金は通常満期が3年未満であり、固定利付である。2018年12月31日現在の当行の要求払預金残高は1,892.9十億ウォンであり、定期・貯蓄預金残高は27,275.6十億ウォンであった。

日本との関係

当行は、日本の資本市場で債券発行等により資金を調達している。

(5) 【経理の状況】

当行は年度ごとに財務書類を作成の上、監事の意見書を添付してFSCに提出するよう産銀法に規定されており、FSCは財務書類に基づき当行に対して監督権限を持つ。当行の監事は当行の財務を検査し、財務書類および報告書を監査する責任を負う。

また、1998年度からは韓国政府とIMFとの協約により韓国の大手銀行は国際的に認められた会計監査法人から監査を受けることになっており、当行は、2017年度および2018年度の財務書類について三徳会計法人（Nexia Samduk）から監査を受けている。

下記は、2017年12月31日および2018年12月31日に終了した2年間についての当行および子会社の連結財務書類ならびに当行の財務書類の和文訳である。なお、参考のために、連結財務書類および非連結財務書類のそれぞれについて、三徳会計法人が発行した監査報告書の和文訳も以下に記載する。

1. 連結財務書類

独立監査人の監査報告書

韓国産業銀行
理事会および株主 御中

私どもは、韓国産業銀行およびその子会社（以下「当グループ」と総称する。）の、2018年および2017年12月31日現在の連結財政状態計算書、同日に終了した年度の連結包括利益計算書、連結持分変動計算書および連結キャッシュ・フロー計算書ならびに重要な会計方針の要約からなる財務書類に対する注記により構成される添付の連結財務書類を監査しました。

私どもの意見では、添付の連結財務書類は、韓国採択国際会計基準（以下「韓国IFRS」という。）に準拠して、2018年および2017年12月31日現在の当グループの連結財政状態ならびに同日に終了した年度の連結財務実績およびその連結キャッシュ・フローを、すべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

意見の基礎

私どもは、韓国の監査基準に準拠して監査を行いました。かかる基準に基づく私どもの責任は、本報告書の「連結財務書類の監査に対する監査人の責任」に詳述されています。私どもは、韓国における連結財務書類に対する私どもの監査に関する倫理規定に従って当グループから独立しており、またかかる規定に従い、私どものその他の倫理的責任を果たしています。私どもは、私どもの意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと考えています。

その他の事項

監査基準およびその適用は、国によって異なります。韓国において、かかる連結財務書類の監査に使用された手続きおよび慣行は、その他の国で一般に認められ適用されるものとは異なる可能性があります。

連結財務書類に対する経営者および統治責任者の責任

経営者は、韓国IFRSに準拠した本連結財務書類の作成および適正な表示ならびに不正または誤謬による重大な虚偽の記載がない連結財務書類の作成を可能とするために必要であると経営者が判断する内部統制に責任を負います。

本連結財務書類の作成に当たって、経営者は、継続企業として存続する当グループの能力を評価し、経営者が当グループの清算または営業の停止を意図している場合を除き、継続企業の前提に関する事項を適宜開示し、継続企業の会計基準を使用することに責任を負います。

統治責任者は、当グループの財務報告手続きの監督に責任を負います。

連結財務書類の監査に対する監査人の責任

私どもの目的は、不正または誤謬によるか否かを問わず、本連結財務書類全体に重要な虚偽記載ないかどうかについて合理的な保証を得ること、および私どもの意見を含む監査報告書を発行することです。合理的な保証は高水準の保証ですが、韓国の監査基準に準拠して行われた監査が、重要な虚偽記載が存在する場合にそれを必ず発見することを保証するものではありません。虚偽記載は、不正または誤謬から発生する可能性があり、個別にまたは集合的に本連結財務書類に基づいてなされる利用者の経済的意思決定に影響を及ぼすと合理的に予想できる場合に重要とみなされます。

韓国の監査基準に準拠した監査の一環として、私どもは、監査の全過程において専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持しています。また、私どもは以下も行っています。

- 不正または誤謬によるか否かを問わず、本連結財務書類の重要な虚偽記載のリスクを識別および評価し、かかるリスクに対応する監査手続きを策定および実行し、私どもの意見の基礎となるために十分かつ適切な監査証拠を入手すること。不正は、共謀、偽造、意図的な脱漏、不実表示または内部統制の抑制を伴うことがあるため、不正による重要な虚偽記載を発見できないリスクは、誤謬による重要な虚偽記載を発見できないリスクよりも高くなります。
- 状況に応じて適切な監査手続きを策定するために、（ただし、当グループの内部統制の有効性についての意見を表明するためではなく、）監査に関連する内部統制を理解すること。
- 使用される会計方針の適切性ならびに経営陣により行われた会計上の見積りおよび関連する開示の合理性を評価すること。

- ・ 経営陣による継続企業の会計基準の使用の適切性、および入手した監査証拠に基づき、継続企業として存続する当グループの能力に重大な疑義を生じさせる可能性のある事象または状況に関して重要な不確実性が存在するかどうかについて結論を下すこと。重要な不確実性が存在すると結論づけた場合、私どもは、本連結財務書類における関連する開示について、私どもの監査報告書において注意を促す必要があり、かかる開示が不十分な場合には私どもの意見を修正する必要があります。私どもの結論は、監査報告書の日付までに入手した監査証拠に基づいています。ただし、将来の事象または状況により、当グループが継続企業として存続しなくなる可能性があります。
- ・ 本連結財務書類（開示書類を含む。）の全体的な表示、構造および内容ならびに本連結財務書類が基礎となる取引および事象を適正に表示しているかどうかを評価すること。
- ・ 本連結財務書類に対する意見を表明するために、当グループ内の事業体または事業活動の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手すること。私どもは、当グループ監査の指示、監督および実施に対して責任を負います。私どもは、私どもの監査意見に対してのみ責任を負います。

私どもは、とりわけ計画した監査の範囲および時期ならびに重要な監査所見（監査の過程で発見した内部統制の著しい不備を含む。）に関して、統治責任者と話し合います。

三徳会計法人

韓国ソウル特別市

2019年3月28日

本監査報告書は、監査報告書の日付である2019年3月28日現在で有効です。監査報告書の日付から本報告書が読まれるまでの期間に発生する可能性がある一定の後発事象または状況は、添付の連結財務書類およびその注記に重大な影響を及ぼす可能性があります。従って、本監査報告書の読者は、上記監査報告書がかかる後発事象または状況（もしあれば）の影響を反映して訂正されなければならない可能性があることを理解しなければなりません。

韓国産業銀行および子会社
連結財政状態計算書
2018年および2017年12月31日現在

(単位：百万ウォン)

	注記	2018年 12月31日(*)	2017年 12月31日(*)
資産			
現金および預け金	4,49,58,59,62	8,730,028	8,235,486
損益を通じて公正価値で測定される有価証券	5,58,59,62	13,490,715	-
売買目的金融資産	6,58,59,62	-	1,904,649
当期損益認識金融資産	7,58,59,62	-	120,019
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される有価証券	8,49,58,59,62	30,277,386	-
売却可能金融資産	9,49,58,59,62	-	39,593,926
償却原価で測定される有価証券	10,49,58,59,62	5,691,616	-
満期保有金融資産	11,58,59,62	-	6,040,641
損益を通じて公正価値で測定される貸出債権	12,58,59,62	779,520	-
償却原価で測定される貸出債権	13,51,58,59,62	142,156,494	-
貸出債権	14,51,58,59,62	-	143,224,116
金融派生商品資産	15,58,59,60,62	3,925,505	6,382,579
関連会社投資	16,61	27,952,330	28,054,557
有形固定資産（純額）	17,61	5,951,840	6,026,911
投資不動産（純額）	18,61	367,271	412,586
無形固定資産（純額）	19,61	939,784	1,292,426
繰延税金資産	47	924,659	920,983
当期税金資産		86,459	74,516
その他の資産	20,58,59,62	18,660,416	21,264,039
売却目的保有資産	21	142,138	264,294
資産合計		260,076,161	263,811,728
負債			
当期損益認識金融負債	22,58,59,62	2,164,538	1,626,185
預金	23,58,59,62	33,949,175	34,300,089
借入金	24,58,59,62	26,379,539	28,692,715
債券	25,58,59,62	123,175,447	120,228,005
金融派生商品負債	15,58,59,60,62	3,229,104	5,823,991
保険契約準備金	26	16,325,334	15,586,838
確定給付負債	27	447,116	403,092
引当金	28	2,157,120	1,687,266
繰延税金負債	47	3,713,425	3,512,909
当期税金負債		96,270	369,572
その他の負債	29,58,59,62	14,185,647	17,991,308
売却目的保有負債	21	-	18,954
負債合計		225,822,715	230,240,924
資本			
資本金	30	18,108,099	17,938,099
資本剰余金	30	813,820	1,058,374
資本調整	30	316,429	324,596
その他の包括利益累計額	30	24,710	694,547
利益剰余金	30	10,518,889	9,827,095
(規制上の貸倒引当金：2018年および2017年12月31日現在、それぞれ1,405,853百万ウォンおよび1,347,622百万ウォン)			
(規制上の貸倒引当金強制積立(戻入)金額：2018年および2017年12月31日現在、それぞれ(148,180)百万ウォンおよび58,231百万ウォン)			

(規制上の貸倒引当金積立(戻入)予定金額：2018年および2017年12月31日現在、それぞれ(148,180)百万ウォンおよび58,231百万ウォン)

親会社の株主に帰属する資本合計	29,781,947	29,842,711
非支配持分	4,471,499	3,728,093
資本合計	34,253,446	33,570,804
負債および資本合計	260,076,161	263,811,728

(*)2018年12月31日現在の連結財政状態計算書は、韓国IFRS第1109号および第1115号に準拠して作成されているが、2017年12月31日現在の比較連結財政状態計算書は、韓国IFRS第1109号および第1115号を適用して遡及修正再表示されなかった。

添付の連結財務書類に対する注記を参照されたい。

韓国産業銀行および子会社
連結包括利益計算書
2018年および2017年12月31日に終了した年度
(単位：百万ウォン。1株当たり利益を除く。)

	注記	2018年(*)	2017年(*)
受取利息	31	6,112,194	5,753,821
支払利息	31	(4,031,035)	(3,499,555)
純利息収益	61	2,081,159	2,254,266
純手数料収益	32	435,001	478,674
受取配当金	33	274,734	260,147
損益を通じて公正価値で測定される有価証券に係る純損失	34	(8,018)	-
売買目的金融商品に係る純損失	35	-	(27,311)
当期損益認識金融商品に係る純利益（損失）	36	(64,227)	73,452
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される有価証券に係る純利益	37	41,191	-
売却可能金融資産に係る純損失	38	-	(155,078)
償却原価で測定される有価証券に係る純損失	39	(16)	-
満期保有金融資産に係る純利益	40	-	193
金融派生商品に係る純利益	41	19,243	1,058,089
為替取引純利益（損失）	42	240,173	(754,779)
その他営業利益（純額）	43	584,131	741,803
非利息収益（純額）		1,522,212	1,675,190
貸倒引当金繰入（戻入）	44	(372,276)	1,371,885
一般管理費	45,61	1,709,566	1,790,269
営業利益	61	2,266,081	767,302
関連会社投資に関連する純利益（損失）	16	(796,791)	273,350
その他営業外収益	46	250,945	1,749,961
その他営業外費用	46	(541,468)	(1,244,920)
営業外利益（費用）（純額）		(1,087,314)	778,391
税引前利益		1,178,767	1,545,693
法人税費用	47	472,787	982,321
当期純利益	30	705,980	563,372
(規制上の貸倒引当金調整後当期純利益：2018年および2017年12月31日に終了した年度：それぞれ854,160百万ウォンおよび505,141百万ウォン)			
当期中のその他の包括利益（損失）（税引後）	30	(262,080)	(36,608)
後に損益に振り替えられるかまたはその可能性のある項目：			
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される有価証券に係る純損失		(51,762)	-
売却可能金融資産評価益（純額）		-	113,596
関連会社のその他の包括利益（損失）に対する持分		(106,818)	207,928
海外事業の為替換算差額		34,326	(289,413)
キャッシュ・フロー・ヘッジ評価益		3,770	7,737
その他		(522)	(88,713)

	(121,006)	(48,865)
後に損益に振り替えられない項目 :		
確定給付負債の再測定	(46,156)	12,257
信用リスクによる当期損益認識金融負債の公正価値変動	(6,342)	-
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される有価証券に係る純損失	(54,323)	-
関連会社のその他の包括損失に対する持分	(34,253)	-
	(141,074)	12,257
当期包括利益合計	443,900	526,764

利益の帰属先:

親会社株主	30	529,266	493,412
非支配持分		176,714	69,960
当期純利益		705,980	563,372

包括損益合計の帰属先 :

親会社株主		266,310	605,419
非支配持分		177,590	(78,655)
当期包括利益合計		443,900	526,764

1株当たり利益 :

基本的および希薄化後 1株当たり利益 (ウォン)	48	147	139
-----------------------------	----	-----	-----

(*)2018年12月31日に終了した年度の連結包括利益計算書は、韓国IFRS第1109号および第1115号に準拠して作成されているが、2017年12月31日に終了した年度の比較連結包括利益計算書は、韓国IFRS第1109号および第1115号を適用して遡及的に修正再表示されなかった。

添付の連結財務書類に対する注記を参照されたい。

韓国産業銀行および子会社
連結持分変動計算書
2018年および2017年12月31日に終了した年度
(単位：百万ウォン)

	親会社株主帰属分									
	資本金	資本剰余金	資本調整	累計額	その他の 包括利益		利益 剰余金	合計	非支配持分	資本
					資本	剰余金				
2017年1月1日現在	17,543,099	1,236,666	215,236	582,540	9,333,683	28,911,224	2,108,246	31,059	56,960	56,960
当期純利益	-	-	-	-	493,412	493,412	69,960	69,960	56,960	56,960
売却可能金融資産評価益（損）	-	-	-	122,203	-	122,203	(8,607)	113,596	113,596	113,596
関連会社のその他の包括利益（損失）に対する持分	-	-	-	209,903	-	209,903	(1,975)	207,928	207,928	207,928
海外事業の為替換算差額	-	-	-	(232,218)	-	(232,218)	(57,195)	(289,413)	(289,413)	(289,413)
キャッシュ・フロー・ヘッジ評価益	-	-	-	7,737	-	7,737	-	7,737	-	7,737
確定給付負債の再測定	-	-	-	(437)	-	(437)	12,694	12,694	12,694	12,694
その他	-	-	-	4,819	-	4,819	(93,532)	(88,713)	(88,713)	(88,713)
当期包括利益合計	-	-	-	112,007	493,412	605,419	(78,655)	526,764	526,764	526,764
払込資本金の増加	395,000	(1,946)	-	-	-	393,054	-	393,054	-	393,054
支配権を維持している子会社に対する持分の取得／処分	-	(176,346)	109,360	-	-	(66,986)	1,698,502	1,698,502	1,698,502	1,698,502
所有者との取引	395,000	(178,292)	109,360	-	-	326,068	1,698,502	2,024,570	2,024,570	2,024,570
2017年12月31日現在(*)	17,938,099	1,058,374	324,596	694,547	9,827,095	29,842,711	3,728,093	33,576	526,764	526,764
2018年1月1日現在	17,938,099	1,058,374	324,596	694,547	9,827,095	29,842,711	3,728,093	33,576	526,764	526,764
会計方針の変更（注記63）	-	(372)	-	(372,123)	274,862	(97,633)	(115,803)	(213,570)	526,764	526,764
2018年1月1日修正再表示後残高	17,938,099	1,058,002	324,596	322,424	10,101,957	29,745,078	3,612,290	33,358	526,764	526,764
当期純利益	-	-	-	-	529,266	529,266	176,714	705,980	526,764	526,764
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される有価証券に係る純利益（損失）	-	-	-	(144,170)	34,758	(109,412)	3,327	(106,085)	526,764	526,764
関連会社のその他の包括損失に対する持分	-	-	-	(139,150)	-	(139,150)	(1,921)	(141,071)	526,764	526,764
海外事業の為替換算差額	-	-	-	14,690	-	14,690	19,636	34,326	526,764	526,764
キャッシュ・フロー・ヘッジ評価益	-	-	-	3,770	-	3,770	-	3,770	-	3,770
確定給付負債の再測定	-	-	-	(25,386)	-	(25,386)	(20,770)	(46,156)	526,764	526,764
信用リスクによる当期損益認識金融負債の公正価値変動	-	-	-	(6,342)	-	(6,342)	-	(6,342)	-	(6,342)
その他	-	-	-	(1,126)	-	(1,126)	604	604	526,764	526,764
当期包括利益合計	-	-	-	(297,714)	564,024	266,310	177,590	446,224	526,764	526,764
配当金	-	-	-	-	(147,092)	(147,092)	-	(147,092)	526,764	526,764
払込資本金の増加	170,000	(824)	-	-	-	169,176	-	169,176	526,764	526,764
支配権を維持している子会社に対する持分の取得／処分	-	(243,358)	(8,167)	-	-	(251,525)	681,619	430,100	526,764	526,764
所有者との取引	170,000	(244,182)	(8,167)	-	(147,092)	(229,441)	681,619	430,100	526,764	526,764
2018年12月31日現在(*)	18,108,099	813,820	316,429	24,710	10,518,889	29,781,947	4,471,499	34,253	526,764	526,764

(*)2018年12月31日に終了した年度の連結持分変動計算書は、韓国IFRS第1109号および第1115号に準拠して作成されているが、2017年12月31日に終了した年度の比較連結持分変動計算書は、韓国IFRS第1109号および第1115号を適用して遡及的に修正再表示されなかった。

添付の連結財務書類に対する注記を参照されたい。

韓国産業銀行および子会社
連結キャッシュ・フロー計算書
2018年および2017年12月31日に終了した年度

(単位：百万ウォン)

	注記	2018年(*)	2017年(*)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
当期純利益		705,980	563,372
調整項目：			
法人税費用	47	472,787	982,321
受取利息	31	(6,112,194)	(5,753,821)
支払利息	31	4,031,035	3,499,555
受取配当金	33	(274,734)	(260,147)
損益を通じて公正価値で測定される有価証券の評価損		15,491	-
売買目的金融資産評価損	35	-	7,993
当期損益認識金融商品評価損（益）	36	54,190	(79,375)
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される有価証券に係る純利益	37	(41,191)	-
売却可能金融資産に係る純損失	38	-	155,078
償却原価で測定される有価証券に係る純損失	39	16	-
満期保有金融資産に係る純利益	40	-	(193)
損益を通じて公正価値で測定される貸出債権に係る評価益	12	(32,227)	-
金融派生商品評価益		(178,788)	(178,417)
公正価値ヘッジ対象に係る純損失（利益）	41	36,381	(622,318)
為替換算損（益）	42	(175,519)	815,036
関連会社投資の処分損	43	285,187	128,018
関連会社投資減損損失	16	347,317	27,379
関連会社の損失（利益）に対する持分	16	449,474	(300,729)
貸倒引当金繰入	13,14	172,686	976,961
預け金に係る引当金繰入	44	45	-
支払保証引当金繰入（戻入）	28	69,769	(10,312)
未実行貸出残高引当金繰入（戻入）	28	(15,916)	59,186
金融保証引当金繰入（戻入）	28	(39,825)	83,412
訴訟引当金繰入	28	10,458	355,894
原状回復債務の戻入	28	(430)	(615)
その他引当金繰入	28	73,687	14,034
その他の資産に係る引当金繰入（戻入）	44	(559,035)	262,635
確定給付費用	27	163,088	161,430
有形固定資産減価償却費	17	276,323	266,617
有形固定資産に係る損失（利益）	46	(4,077)	438,159
投資不動産減価償却費	18	6,083	6,301
投資不動産に係る純損失	46	21,484	1,353
無形固定資産償却費	19	214,411	218,737
無形固定資産に係る純損失	46	219,332	527,917
売却目的保有資産に係る純損失（利益）	46	26,122	(22,299)
要求払株式資本に係る純損失	43	106,398	107,549
債券償還益	43	(8)	(122)
		(382,180)	1,867,217
営業資産・負債の変動			
預け金		(1,430,715)	(476,022)
損益を通じて公正価値で測定される有価証券		(6,638,000)	-
売買目的金融資産		-	934,917
当期損益認識金融資産		-	223,078
損益を通じて公正価値で測定される貸出債権		386,262	-
償却原価で測定される貸出債権		(42,647)	-
貸出債権		-	250,234
金融派生商品		(94,861)	(691,673)
その他の資産		3,611,943	752,505

当期損益認識金融負債	-	(189,213)
預金	(341,516)	(5,071,831)
保険契約準備金	738,495	1,152,859
確定給付負債	(106,710)	(111,891)
引当金	(120,213)	(309,555)
その他の負債	(4,286,560)	(3,258,427)
	(8,324,522)	(6,795,019)
法人税支払	(567,370)	(59,432)
受取利息	6,028,806	5,627,812
支払利息	(3,548,469)	(3,699,746)
受取配当金	709,490	857,186
営業活動による正味キャッシュ・フロー	(5,378,265)	(1,638,610)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
損益を通じて公正価値で測定される有価証券の純減少	1,368,215	-
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される有価証券の処分	8 16,319,720	-
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される有価証券の取得	8 (11,362,496)	-
売却可能金融資産の処分	9 -	21,741,259
売却可能金融資産の取得	9 -	(17,964,038)
償却原価で測定される有価証券の償還	10 390,743	-
償却原価で測定される有価証券の取得	10 (2,246,392)	-
満期保有金融資産の償還	11 -	76,906
満期保有金融資産の取得	11 -	(857,249)
有形固定資産の処分	17 148,746	32,188
有形固定資産の取得	17 (296,965)	(717,844)
投資不動産の取得	18 (1,908)	(460)
無形固定資産の処分	19 14,217	9,527
無形固定資産の取得	19 (106,810)	(92,547)
売却目的保有資産および負債の処分	152,248	587,752
関連会社投資の処分	16 553,136	471,495
関連会社投資の取得	16 (2,044,736)	(1,449,906)
子会社変動による正味キャッシュ・フロー	257,957	705,109
投資活動による正味キャッシュ・フロー	3,145,675	2,542,192

財務活動によるキャッシュ・フロー

当期損益認識金融負債の純増加	485,839	-
借入金手取金	36,576,654	38,897,054
借入金の返済	(38,902,233)	(40,508,902)
債券発行手取金	111,594,315	99,353,713
債券償還	(108,745,920)	(100,110,868)
払込資本金の増加	169,176	143,054
要求株式資本の減少	(9,461)	-
非支配持分の増加	1,132	-
配当金支払額	(147,092)	-
財務活動による正味キャッシュ・フロー	1,022,410	(2,225,949)

現金および現金同等物に対する為替変動による影響	(83,402)	(616,256)
現金および現金同等物の純減	(1,293,582)	(1,938,623)
期首現金および現金同等物	10,334,990	12,273,613
期末現金および現金同等物	56 9,041,408	10,334,990

(*)2018年12月31日に終了した年度の連結キャッシュ・フロー計算書は、韓国IFRS第1109号および第1115号に準拠して作成されているが、2017年12月31日に終了した年度の比較連結キャッシュ・フロー計算書は、韓国IFRS第1109号および第1115号を適用して遡及的に修正再表示されなかった。

添付の連結財務書類に対する注記を参照されたい。

韓国産業銀行および子会社

連結財務書類に対する注記

2018年および2017年12月31日現在

1. 報告主体

添付の連結財務書類は、韓国産業銀行（以下「KDB」または「当行」という。）およびその子会社（以下「当グループ」と総称する。）からなる。当行およびその子会社の一般情報は以下のとおりである。

(1) 支配会社

KDBは、産業の発展の促進および国民経済の推進を目指して、重要産業プロジェクトに対する融資を行い、管理するため、韓国産業銀行法に基づいて1954年4月1日に設立された。

当行は、韓国産業銀行法およびその他の適用法令に基づく銀行業務ならびに金融投資サービスおよび資本市場法に基づく信託業務に従事している。

従前に最終親会社であった韓国政策金融公社（以下「KoFC」という。）および従前に直接親会社であったKDBフィナンシャル・グループ・インク（以下「KDBFG」という。）は、2009年10月28日に当行の複数の部門のスピンオフにより設立された。2014年12月31日付で、KoFCおよびKDBFGは当行に合併された。2018年12月31日現在、当行の資本金は18,108,099百万ウォンであり、発行済株式は3,621,619,768株である。当行株式はすべて韓国政府が所有している。

当行の本店所在地は、韓国ソウル特別市永登浦区汝矣島洞銀行路14であり、2018年12月31日現在のその業務ネットワークは次のとおりである。

	国内		海外			合計
	本店	支店	支店	子会社	駐在員事務所	
KDB	1	74	9	5	8	97

(2)連結子会社

2018年および2017年12月31日現在の当グループの連結対象となる直接および間接所有子会社に対するその持分比率は以下のとおりである。

投資者	投資先企業	国	業種	2018年		2017年	
				会計年度末	持分比率(%)	会計年度末	持分比率(%)
子会社							
KDB	産銀亞州金融有限公司	香港	金融	12月	100.00	100.00	
	産銀アイルランド・リミテッド	アイル蘭 ド	金融	12月	100.00	100.00	
	産銀ウズベキスタン・リミテッド	ウズベキス タン	金融	12月	86.32	86.32	
	KDBバンク・ヨーロッパ・リミテッド	ハンガリー	金融	12月	100.00	100.00	
	バンコKDBブラジルS.A.	ブラジル	金融	12月	100.00	100.00	
	KDBキャピタル・コーポレーション	韓國	ファイナン ス・リース	12月	99.92	99.92	
	KDBインフラストラクチャー・インベス トメント・アセット・マネジメント・カ ンパニー・リミテッド	韓國	資産運用	12月	84.16	84.16	
	大宇造船海洋	韓國	製造	12月	55.72	56.01	
	新韓重工業(*1)(*5)	韓國	製造	12月	89.22	89.22	
	サムウ重工業(*1)(*5)	韓國	製造	12月	100.00	100.00	
	大韓造船(*1)(*5)	韓國	製造	12月	70.04	70.04	
	韓国インフラ構造基金	韓國	金融投資	12月	85.00	85.00	
	韓国教育基金(*3)	韓國	金融投資	半期	50.00	50.00	
	韓国BTL基金第1号(*3)	韓國	金融投資	半期	41.67	41.67	
	韓国鉄道基金第1号(*3)	韓國	金融投資	半期	50.00	50.00	
	元利金保証信託(*4)	韓國	金融投資	12月	-	-	
	元金保証信託(*4)	韓國	金融投資	12月	-	-	
	KDBベンチャーエム・アンド・エー・ プライベート・エクイティ・ファンド	韓國	金融投資	12月	57.56	57.56	
	KDBコンサス・バリュー・プライベー ト・エクイティ・ファンド	韓國	金融投資	12月	68.20	58.08	
	コンボーネンツ・アンド・マテリアル ズ・エム・アンド・エー・プライベー ト・エクイティ・ファンド	韓國	金融投資	12月	83.33	83.33	
	産銀バリュー・プライベート・エクイ ティ・ファンド第6号	韓國	金融投資	12月	99.84	99.84	
	産銀バリュー・プライベート・エクイ ティ・ファンド第7号(*5)	韓國	金融投資	12月	55.00	55.00	
	KDBシグマ・プライベート・エクイ ティ・ファンド第2号(*5)	韓國	金融投資	12月	73.33	73.33	
	KDBアジア・プライベート・エクイ ティ・ファンド(*5)	韓國	金融投資	12月	65.00	65.00	
	KoFC-KBICフロンティア・チャンプ2010- 5プライベート・エクイティ・ファンド (*2)	韓國	金融投資	12月	50.00	50.00	
	KTB韓国・オーストラリア・グローバ ル・コオペレーション・プライベート・ エクイティ・ファンド(*6)	韓國	金融投資	12月	-	95.00	
	KDBC IPインベストメント・ファンド第 2号(*5)	韓國	金融投資	12月	66.66	66.66	
	KoFC-KDBCパイオニア・チャンプ2010-4 ベンチャー・インベストメント・ファン ド(*5)	韓國	金融投資	12月	100.00	100.00	
	NVESTOR2016 プライベート・エクイ ティ・ファンド	韓國	金融投資	12月	80.00	80.00	
	KDB-IAP OBOR プライベート・エクイ ティ・ファンド(*2)(*5)	韓國	金融投資	12月	44.69	44.69	
	KDBスマール・ミディアム・メザニン・ プライベート・エクイティ・ファンド (*5)	韓國	金融投資	12月	73.33	-	
	K-Five第五証券化専門会社およびその他 7社(*7)	韓國	金融投資	12月	-	-	

KIAMCOロード・インベストメント・プライベート・ファンド・スペシャル・アセット・トラスト第2号および32受益証券	韓国	金融投資	12月	-	-
孫会社					
KDBキャピタル・コーポレーション	ベトナム・インターナショナル・リーシング・カンパニー・リミテッド	ベトナム	金融投資	12月	81.65
I-Cubeインベストメント・ファンド第1号(*2)(*5)	韓国	金融投資	12月	18.70	18.70
KDBCバイオメディカル・ニュー・グロース・インベストメント・ファンド	韓国	金融投資	12月	60.00	60.00
KDBCフード・インダストリー・インベストメント・ファンド第1号(*2)	韓国	金融投資	12月	50.00	50.00
株式担保ローンMMT第4号(*6)	韓国	金融投資	12月	-	100.00
ワラント付アパッチ・ゴルフ・ボンド・スペシャル・マネー・トラスト	韓国	金融投資	12月	100.00	100.00
キャップストーン・プロフェッショナル・インベスター・プライベート・ブレースメント・リアル・エステート・インベストメント・トラスト第9号(*6)	韓国	金融投資	12月	-	50.00
DB金融投資MMT	韓国	金融投資	12月	100.00	100.00
信栄証券MMT	韓国	金融投資	12月	100.00	100.00
教保証券MMT	韓国	金融投資	12月	100.00	-
SK証券MMT	韓国	金融投資	12月	100.00	-
KDBキャピタル第6証券化専門会社(*7)	韓国	金融投資	12月	-	-
KDBキャピタル第8証券化専門会社(*7)	韓国	金融投資	12月	-	-
DBキュリアス・プライベート・エクイティ・ファンドL.P.	韓国	金融投資	12月	98.74	98.74
KCLAVISマイスター・ファンド第49号	韓国	金融投資	12月	58.82	-
STキャピタル・ザ・サード・ニュー・テクノロジー・コンビネーション	韓国	金融投資	12月	81.97	-
大宇造船海洋	DWマンガリア重工業S.A.(*6)	ルーマニア	造船	12月	-
DSME山東	中国	船舶部品製造	12月	100.00	100.00
新韓重工業(*1)	韓国	船舶部品製造	12月	-	-
DeWindカンパニー(*6)	米国	風力発電	12月	-	100.00
サムウ重工業(*1)	韓国	船舶部品製造	12月	-	-
DKマリタイムS.A.	パナマ	造船	12月	100.00	100.00
DSMEオマーンLLC(*6)	オマーン	不動産開発	12月	-	70.00
DSMEファー・イーストLLC	ロシア	造船	12月	100.00	100.00
PT. DSME ENR CEPU(*6)	インドネシア	鉱区投資	12月	-	85.00
DSMEインフォメーション・コンサルティング・カンパニー・リミテッド	韓国	サービス	12月	100.00	100.00
DSMEカザフスタン LLP	カザフスタン	建設	12月	100.00	-
KDBコンサス・バリュー・プライベート・エクイティ・ファンド	KDB生命保険(*8)	韓国	金融	12月	92.73
産銀バリュー・プライベート・エクイティ・ファンド第6号	大宇建設(*8)	韓国	建設	12月	51.34
I-Cubeインベストメント・ファンド第1号	IP-Cubeパートナーズ・カンパニー・リミテッド(*6)	韓国	サービス	12月	-
					100.00

(*1)2017年12月31日に終了した年度の会社再編促進法に基づく行政手続の開始により、当行が当該投資先への支配力を有するため、当行は、大宇造船海洋の子会社であったかかる投資先を直接連結対象としている。

(*2)かかる投資先に対する当グループの持分は50%未満であるが、当グループは同投資先への関与から生じる変動リターンに晒されているか、または変動リターンに対する権利を有しており、同投資先に対するパワーを通じて、これらのリターンに影響を及ぼす能力を有しているため、当グループは同投資先を支配している。

(*3)かかる投資先は、当行から資金調達を受け、KDBインフラストラクチャー・インベストメント・アセット・マネジメント・カンパニー・リミテッドにより運営されている。同投資先は、当行が保有する議決権の割合は50%未満であるが、当行が変動リターンに晒されており、同投資先に対するパワーを通じて、これらのリターンに影響を及ぼす能力を有しているため、連結対象に含まれている。

(*4)かかる信託は、当行が、かかる事業体の財務および事業方針を支配するように同信託に対するパワーを有し、元利金または元本のみの保持のための契約を通じて変動リターンに晒されているため、連結対象に含まれている。

(*5)子会社を通じた間接所有分が含まれている。

(*6)2018年12月31日現在、かかる投資先は清算または処分により連結対象に含まれていない。

(*7)かかる投資先は、投資者の事業のために設立されているか、または投資者が投資先の利益の大半を得る権利を有するかもしくは投資者が投資先に関連するリスクの大半を保持するストラクチャード・エンティティである。同投資先は、投資者が同事業体の財務および事業方針を支配するように同投資先に対するパワーを有し、同投資先への関与から生じる変動リターンに晒されているか、または変動リターンに対する権利を有しており、これらのリターンに影響を及ぼすように同投資先に対してパワーを使用する能力を有しているため、連結対象に含まれている。

(*8)かかる孫会社の親会社は特別目的会社であり、連結財務書類において個別に開示されていない。

(3) 子会社の変更

2018年12月31日現在の連結財務書類に新たに含まれる子会社および連結財務書類から除外された子会社は以下のとおりである。

() 2018年12月31日現在の連結の範囲に新たに含まれた子会社

理由	子会社
アセット・パック・コマーシャル・ペーパー与信枠および購入コ ル・ミットメント	K-Five第七証券化専門会社、Sinokor SF第三株式会社、KDBスマート・ミディアム・メザニン・プライベート・エクイティ・ファンド

() 2018年12月31日現在の連結の範囲から除外された子会社

理由	子会社
清算	K-Five第四証券化専門会社、Ubest第三証券化専門会社、KDBカンパニー・グロース・ディディムドル・プライベート・エクイティ・インベストメント・ファンド、KTB韓国・オーストラリア・グローバル・コオペレーション・プライベート・エクイティ・ファンド、マルチ・アセットKDBシッピング・プライベート・ファンドSNT-2

(4) 子会社の財務情報

2018年および2017年12月31日現在ならびに同日に終了した年度の連結財務書類に含まれる子会社の財務情報は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年					
	資産	負債	資本	営業収益	純利益 (損失)	包括利益 (損失)合 計
産銀亞州金融有限公司	1,956,143	1,615,419	340,724	84,594	19,153	30,281
産銀アイルランド・リミテッド	460,344	373,580	86,764	26,832	7,245	7,190
産銀ウズベキスタン・リミテッド	633,731	568,471	65,260	26,901	8,993	10,400
KDBバンク・ヨーロッパ・リミテッド	917,265	835,739	81,526	85,749	2,478	(398)
バンコKDBブラジルS.A.	328,486	256,040	72,446	149,042	11,764	2,641
KDBキャピタル・コーポレーション	5,594,986	4,694,534	900,452	480,479	121,616	121,110
KDBインフラストラクチャー・インベ ストメント・アセット・マネジメン ト・カンパニー・リミテッド	47,347	8,617	38,730	31,468	17,705	17,655
大宇造船海洋	11,918,522	8,078,300	3,840,222	9,644,384	344,722	332,469
新韓重工業	331,754	290,565	41,189	252,022	13,592	12,284
サムウ重工業	271,540	238,267	33,273	116,797	107	89
大韓造船	620,478	736,212	(115,734)	521,071	(52,747)	(54,366)
韓国インフラ構造基金	7,655	6	7,649	671	580	580
韓国教育基金	120,183	7	120,176	4,938	4,614	4,614
韓国BTL基金第1号	439,795	301	439,494	17,279	15,913	15,913
韓国鉄道基金第1号	203,497	9	203,488	5,635	5,081	5,081
元利金保証信託	248,069	237,766	10,303	11,008	3,693	3,693
元金保証信託	268,233	262,043	6,190	7,041	187	187
KDBベンチャード・エム・アンド・ エー・プライベート・エクイティ・ ファンド	120	7,910	(7,790)	-	-	-
KDBコンサス・バリュー・プライベ ート・エクイティ・ファンド	18,700,778	17,896,897	803,881	3,909,771	51,684	171,878
コンポーネンツ・アンド・マテリアル ズ・エム・アンド・エー・プライベ ート・エクイティ・ファンド	1,136	1,812	(676)	4	(26)	(26)
産銀バリュー・プライベート・エクイ ティ・ファンド第6号	9,358,161	7,578,192	1,779,969	10,733,868	(99,183)	(111,750)
産銀バリュー・プライベート・エクイ ティ・ファンド第7号	96,390	3,226	93,164	40,487	12,973	18,127
KDBシグマ・プライベート・エクイ ティ・ファンド第2号	220,445	543	219,902	994	(1,215)	(1,958)
KoFC-KBICフロンティア・チャンプ 2010-5プライベート・エクイティ・ ファンド	469	3	466	1,460	1,453	1,453
KDBアジア・プライベート・エクイ ティ・ファンド	42,549	200	42,349	-	(4,643)	616
KDBC IPインベストメント・ファンド 第2号	10,096	3,085	7,011	1,143	712	712
KoFC-KDBCパイオニア・チャンプ2010- 4ベンチャー・インベストメント・ ファンド	6,050	2	6,048	1,432	(394)	(394)
NVESTOR2016プライベート・エクイ ティ・ファンド	70,452	25,252	45,200	29,149	8,711	8,711
KDB-IAP OBORプライベート・エクイ ティ・ファンド	146,697	49,982	96,715	-	6,870	10,885
KDBスマール・ミディアム・メザニ ン・プライベート・エクイティ・ファ ンド	17,968	1,278	16,690	7	(1,520)	(1,520)
K-Five第五証券化専門会社およびその 他7社	687,997	788,889	(100,892)	37,217	(3,886)	(3,886)
KIAMCOロード・インベストメント・ プライベート・ファンド・スペシャル・ アセット・トラスト第2号および32受 益証券	2,431,919	5,768	2,426,151	193,451	130,009	127,939

2017年

	資産	負債	資本	営業収益	純利益 (損失)	包括利益 (損失)合計
産銀亞州金融有限公司	1,481,387	1,171,441	309,946	76,587	22,762	(16,026)
産銀アイルランド・リミテッド	399,436	320,670	78,766	21,616	7,606	(1,212)
産銀ウズベキスタン・リミテッド	745,374	677,237	68,137	90,386	60,790	(42,187)
KDBバンク・ヨーロッパ・リミテッド	873,868	793,699	80,169	46,576	6,096	6,917
バンコKDBブラジルS.A.	363,222	293,418	69,804	140,860	10,046	1,048
KDBキャピタル・コーポレーション	5,078,188	4,281,709	796,479	429,661	115,107	93,859
KDBインフラストラクチャー・インベ	38,805	6,729	32,076	25,456	13,418	13,480
ストメント・アセット・マネジメン						
ト・カンパニー・リミテッド						
大宇造船海洋	11,446,753	8,456,091	2,990,662	11,101,818	621,492	527,133
新韓重工業	315,526	286,621	28,905	46,853	3,165	2,378
サムウ重工業	281,704	248,520	33,184	38,824	(3,361)	(3,457)
大韓造船	543,676	602,057	(58,381)	438,857	(6,352)	(6,352)
韓国インフラ構造基金	9,775	6	9,769	865	751	751
韓国教育基金	128,391	7	128,384	5,011	4,668	4,668
韓国BTL基金第1号	469,776	321	469,455	18,526	17,072	17,072
韓国鉄道基金第1号	309,417	12	309,405	13,879	13,040	13,040
元利金保証信託	252,947	246,337	6,610	16,434	(1,477)	(1,477)
元金保証信託	272,342	266,339	6,003	5,559	176	176
KDBベンチャーエム・アンド・エー・プライベート・エクイティ・ファンド	120	7,910	(7,790)	-	-	-
KDBコンサス・バリュー・プライベート・エクイティ・ファンド	17,331,649	17,089,983	241,666	4,515,023	49,595	(14,937)
コンポーネンツ・アンド・マテリアルズ・エム・アンド・エー・プライベート・エクイティ・ファンド	1,162	1,812	(650)	4	(2,251)	4,712
産銀バリュー・プライベート・エクイティ・ファンド第6号	9,797,318	7,732,081	2,065,237	12,068,750	(458,596)	(483,214)
産銀バリュー・プライベート・エクイティ・ファンド第7号	214,051	62,087	151,964	15,766	10,027	(3,105)
KDBシグマ・プライベート・エクイティ・ファンド第2号	222,435	574	221,861	2	4,595	4,525
KoFC-KBICフロンティア・チャンプ2010-5プライベート・エクイティ・ファンド	15,017	3	15,014	2,131	(294)	18
KTB韓国・オーストラリア・グローバル・コオペレーション・プライベート・エクイティ・ファンド	1,286	5	1,281	2	1,861	1,861
KDBアジア・プライベート・エクイティ・ファンド	26,353	195	26,158	-	(2,619)	(4,466)
KDBC IPインベストメント・ファンド第2号	9,398	3,000	6,398	2,167	2,162	1,776
KoFC-KDBCパイオニア・チャンプ2010-4ベンチャー・インベストメント・ファンド	11,621	179	11,442	3,410	3,227	1,571
NVESTOR2016プライベート・エクイティ・ファンド	62,384	25,886	36,498	13,717	96	96
KDB-IAP OBORプライベート・エクイティ・ファンド	140,592	47,894	92,698	-	(1,598)	(8,062)
K-Five第五証券化専門会社およびその他7社	767,162	863,933	(96,771)	43,211	(10,939)	(10,949)
KIAMCOロード・インベストメント・プライベート・ファンド・スペシャル・アセット・トラスト第2号および34受益証券	2,370,818	7,313	2,363,505	150,995	120,659	105,610

2. 作成の基準

(1) 会計基準の適用

当該連結財務書類は、株式会社の外部監査に関する法律に規定される韓国採択国際会計基準(以下「K-IFRS」という。)に従って作成されている。

(2) 会計方針の変更および開示

(i) 適用された新たなまたは改訂された基準および解釈

当グループは、2018年1月1日に開始した会計年度から以下の改訂および制定された基準を新たに適用した。各新基準または改訂の性質および影響は以下に記載されている。

K-IFRS第1109号「金融商品」

K-IFRS第1109号「金融商品」は、K-IFRS第1039号「金融商品：認識および測定」の既存のガイダンスに代わるものである。K-IFRS第1109号は、金融商品の会計処理に関するプロジェクトの3つの点（分類および測定、減損ならびにヘッジ会計）をすべてまとめたものである。また、K-IFRS第1107号「開示」は、K-IFRS第1109号に従って改訂された。

当グループの会計方針は変更され、財務書類に認識される金額は、2018年1月1日にK-IFRS第1109号を適用したことにより修正された。経過規定に従い、2017年12月31に終了した年度の財務書類は修正再表示されていない。

当該基準の主な特徴には、金融資産の管理に係る事業モデル、金融資産の契約上のキャッシュ・フロー特性に基づく金融資産の分類および測定、予想信用損失に基づく金融商品の減損モデル、ヘッジ会計の要件を満たすヘッジ対象、ヘッジ手段の増加またはヘッジの有効性の評価方法の変更が含まれている。

金融資産の分類および測定

K-IFRS第1109号は、以下のとおり、金融資産の保有者の事業モデルおよび金融商品の契約上のキャッシュ・フロー特性に基づいて、当初認識後に金融資産を償却原価、その他の包括利益を通じた公正価値（以下「FVOCI」という。）または損益を通じた公正価値（以下「FVTPL」という。）で分類および測定することを求めている。混合契約に含まれる主契約が金融資産である場合、組込デリバティブは主契約から分離されず、混合契約全体がK-IFRS第1109号の要件にしたがって分類される。

事業モデル	契約上のキャッシュ・フロー特性	
	元利金のみで構成	その他
契約上のキャッシュ・フローの回収が目的	償却原価で測定(*1)	FVTPLで測定(*2)
契約上のキャッシュ・フローの回収および金融資産の売却が目的	FVOCIで測定(*1)	
売却等が目的	FVTPLで測定	

(*1)金融資産は、会計上のミスマッチを除去または削減するために、FVTPLで測定されるものとして取消不能の形で指定することができる。

(*2)売買目的で保有されていない持分金融商品への投資は、FVOCIで測定されるものとして取消不能の形で指定することができる。

金融負債の分類および測定

K-IFRS第1109号は、FVTPLで測定されるものとして指定された金融負債の公正価値の変動額のうち信用リスクの変動に起因するものは、その他の包括利益に表示され、かかる変動額は損益に再分類してはならないことを規定している。かかる要件が損益における会計上のミスマッチを生み出すかまたは拡大する場合、信用リスクの変動による影響を含むかかる負債におけるすべての損益を損益計算書に表示しなければならない。

減損：金融資産および契約資産

K-IFRS第1109号においては、償却原価またはFVOCIで測定される債務証券、リース債権、契約資産、貸出債権のコミットメントおよび金融保証契約の減損は、予想信用損失（以下「ECL」という。）減損モデルに基づいて認識される。

K-IFRS第1109号は、当初認識以降の信用リスクの変動に基づく3段階の減損モデルについて説明している。損失引当金は、K-IFRS第1039号の発生損失モデルよりも早期に信用損失を認識できる12ヶ月のECLまたは全期間のECLに基づき測定される。

分類	損失引当金
ステージ 1 当初認識以降、信用リスクに著しい増加がみられない資産	12ヶ月のECL：報告日後12ヶ月以内に発生する可能性がある債務不履行事象に起因する予想信用損失
ステージ 2 当初認識以降、信用リスクに著しい増加がみられる資産	全期間のECL：金融商品の残存期間にわたって発生する可能性のあるすべての債務不履行事象に起因する予想信用損失
ステージ 3 信用減損資産	

K-IFRS第1109号においては、当初認識以降の全期間のECLの累積変動は、組成された信用減損金融資産に対する損失引当金として認識されている。

ヘッジ会計

K-IFRS第1109号では、K-IFRS第1039号に規定されたヘッジ会計の仕組み（公正価値ヘッジ、キャッシュ・フロー・ヘッジおよび海外事業に対する純投資ヘッジ）を維持しているが、過度に複雑で厳格なK-IFRS第1039号の要件と異なり、K-IFRS第1109号はより実務的かつ原則主義で、寛容であり、事業体のリスク管理活動を重視している。また、K-IFRS第1109号は、より広範なヘッジ対象およびヘッジ手段を認めており、K-IFRS第1039号では、ヘッジ有効性テストにより、相殺の程度が80-125%の範囲である場合にのみヘッジの有効性が高いと評価される。K-IFRS第1109号においては、かかる要件は緩和されている。

K-IFRS第1109号の適用による影響に関する詳細については注記63を参照されたい。

K-IFRS第1115号「顧客との契約から生じる収益」

K-IFRS第1115号「顧客との契約から生じる収益」は、K-IFRS第1011号「工事契約」、K-IFRS第1018号「収益」、K-IFRS第2113号「カスタマー・ロイヤルティ・プログラム」、K-IFRS第2115号「不動産の建設に関する契約」、K-IFRS第2118号「顧客からの資産の移転」およびK-IFRS第2031号「収益 - 宣伝サービスを伴うバーター取引」の現行のガイドラインに代わるものである。当グループは、2018年1月1日以降開始する会計年度からK-IFRS第1115号を適用し、初度適用期間である2018年1月1日現在、かかる基準の適用開始による累積的影響を利益剰余金に対する調整として認識した。

新たなK-IFRS第1115号では、顧客とのすべての契約に対して5段階の収益認識モデル（顧客との契約の識別 契約における履行義務の識別 取引価格の算定 契約における個々の履行義務への取引価格の配分 履行義務を果たした時点での収益の認識）を適用することにより収益が認識される。

K-IFRS第1115号の適用による影響に関する詳細については注記63を参照されたい。

K-IFRS第1028号「関連会社およびジョイント・ベンチャーに対する投資」

関連会社またはジョイント・ベンチャーに対する投資が、ベンチャー・キャピタル企業、ミューチュアル・ファンド等の事業体に保有されているか、またはかかる事業体を通じて間接的に保有されている場合、事業体は、かかる投資を損益を通じて公正価値で測定することを選択できる。かかる改訂は、事業体が、関連会社またはジョイント・ベンチャーの当初認識時に関連会社またはジョイント・ベンチャーごとにかかる選択を行うことを明確化している。K-IFRS第1028号の適用は、当グループの財務書類に重要な影響を及ぼしていない。

K-IFRS第1102号「株式に基づく報酬」

K-IFRS第1102号の改訂は、現金決済型から持分決済型への取引の分類変更となる株式に基づく報酬の条件変更に関する会計処理方法および現金決済型の株式に基づく報酬の公正価値の測定に使用される評価方法を明確化している。K-IFRS第1102号の適用は、当グループの財務書類に重要な影響を及ぼしていない。

解釈指針第2122号「外貨建取引と前渡・前受対価」の適用

かかる基準「外貨建取引と前渡・前受対価」によると、関連する資産、費用または収益（またはその一部）の当初認識時に使用する為替レートの決定について、取引日とは、事業体が前渡または前受対価から生じる非貨幣性資産または非貨幣性負債を当初認識した日である。前払または前受対価が複数ある場合は、事業体はそれぞれの前払または前受対価ごとに取引日を決定しなければならない。解釈指針第2122号の適用は、当グループの財務書類に重要な影響を及ぼしていない。

(i) 公表されたが発効していない新基準および解釈

以下の新基準、解釈および現行基準の改訂は、公表されているが2018年1月1日より後に開始する会計年度に発効しておらず、当グループが早期適用していないものである。当グループは現在、かかる基準、解釈および改訂の適用による財務書類への潜在的な影響を分析しているところである。

K-IFRS第1116号「リース」

K-IFRS第1116号「リース」は、K-IFRS第1017号「リース」、解釈指針第2104号「契約にリースが含まれているか否かの判断」、解釈指針第2015号「オペレーティング・リース - インセンティブ」および解釈指針第2027号「リースの法形式を伴う取引の実質の評価」に代わるものである。当グループは、この基準を2019年1月1日以降開始する会計年度に適用する予定である。

契約開始時において、当グループは契約がリースであるか、またはリースを含んでいるかどうかを評価しなければならない。また、初度適用日において、当グループは契約が当該基準に従ったリースであるか、またはリースを含んでいるかも評価しなければならない。ただし、当グループは、初度適用日より前に締結した契約に適用することができる実務上の便法を適用することで、すべての契約を再評価する必要はない。

リースであるか、またはリースを含む契約については、当グループは、契約における各リースの構成要素を契約の非リース構成要素から分離したリースとして会計処理しなければならない。借り手は、原資産を使用する権利およびリース料を支払う義務を示す使用権資産およびリース負債をそれぞれ認識しなければならない。ただし、短期リースおよび少額資産のリースの場合、免除規定が適用される。また、借り手は実務上の便法として、原資産の種類ごとに非リース構成要素とリース構成要素を区別しないことを選択でき、各リース構成要素と関連する非リース構成要素を一つのリース構成要素として会計処理することができる。

貸し手の会計の観点から、K-IFRS第1116号はK-IFRS第1017号と比べて重要な変更はない。

(a) 借り手の会計処理

借り手は、そのリースに対して、当該基準を(a)K-IFRS第1008号「会計方針、会計上の見積りの変更および誤謬」を適用して表示された過去の各報告期間に遡及的に適用（完全遡及適用）するか、または(b)K-IFRS第1116号の適用開始による累積的影響を初度適用日に認識するかのいずれかにより適用しなければならない。

当行は、K-IFRS第1116号を遡及適用し、当該基準の適用開始の累積的影響を（利益剰余金または適切な場合には、資本の構成要素に）認識する。したがって、当行は比較目的で財務書類を修正再表示する予定はない。

当グループは、K-IFRS第1116号の適用による潜在的な財務上の影響を把握するために影響評価を実施した。かかる評価は、2019年の財務書類への影響を把握するため、2019年1月1日現在の入手可能な情報に基づいて行われた。

オペレーティング・リースに関連して当行が支払うと予想される最低リース料支払総額（現在価値割引前）は40,257百万ウォンである。支払額が借手の追加借入利子率で割り引かれる場合、最低リース料支払総額は37,144百万ウォンである。リースであるかまたはリースを含むすべて（または一部）の契約について、当行は各リース構成要素および関連する非リース構成要素を単一のリース構成要素として会計処理する実務上の便法を適用する予定である。

影響評価に基づき、当行は、2019年1月1日現在の使用権資産およびリース負債がそれぞれ46,496百万ウォンおよび37,132百万ウォン増加すると予想している。財務上の影響に関する評価の結果は、当グループが将来入手する可能性がある追加の情報により変動する可能性がある。

(b) 貸し手の会計処理

貸手としてのリース会計について、当グループの観点から、当グループはK-IFRS第1116号を適用する財務諸表への影響は重要ではないと予想している。

K-IFRS第1109号「金融商品」の改訂

K-IFRS第1109号「金融商品」に対して行われた狭い範囲の改訂により、事業体は負の補償を伴う特定の期限前償還可能な金融資産を償却原価で測定することが可能となっている。償却原価で測定される金融負債の条件変更が認識の中止を生じさせない場合、条件変更による損益は純損益に認識されなければならない。当該改訂は、2019年1月1日以降開始する会計年度に適用され、早期適用が認められている。

K-IFRS第1019号「従業員給付」の改訂

当該改訂により、事業体は制度改訂、縮小または清算後の残りの報告期間について、当期勤務費用および利息純額を変更日以降の最新の保険数理上の仮定に基づいて計算しなければならない。また、当該改訂は、資産の上限の影響によりその剰余金が過去に認識されなかった場合でも、剰余金の減少を純損益に認識しなければならないことも規定している。当該改訂は、2019年1月1日以降開始する報告期間中に生じる制度改訂、縮小および清算に対して有効であり、早期適用が認められている。

K-IFRS第1028号「関連会社およびジョイント・ベンチャーに対する投資」の改訂

当該改訂は、事業体が持分法が適用されない関連会社またはジョイント・ベンチャーにおける金融商品にK-IFRS第1109号を適用しなければならないことを明確化している。これには、実質的に関連会社またはジョイント・ベンチャーに対する事業体の純投資の一部を形成する長期持分が含まれている。当該改訂は、事業体が持分法が適用されない関連会社またはジョイント・ベンチャーの他の持分にK-IFRS第1109号を適用しなければならないことを明確化している。また、事業体はまず、実質的に関連会社またはジョイント・ベンチャーに対する事業体の純投資の一部を形成する他の長期持分にK-IFRS第1109号の減損規定を適用しなければならない。当該改訂は、2019年1月1日以降開始する会計年度に遡及的に適用開始され、早期適用が認められている。K-IFRS第1109号の経過規定により、比較情報が修正再表示される必要はなく、当該改訂の遡及的な適用開始による累積的影響は、適用開始日現在の利益剰余金（または、適宜、その他の資本の構成要素）の期首残高に認識されなければならない。

K-IFRS第2123号「法人所得税務処理に関する不確実性」の適用

当該解釈指針は、税務上の取扱いについて不確実性がある場合の繰延および当期税金資産ならびに繰延および当期税金負債の認識および測定方法を説明しており、これにはそれぞれの不確実な税務上の取扱いを個別または一緒に検討するかの判断方法に関する指針が含まれている。また、当該解釈指針は、判断または見積もりの見直しが必要な状況の例も示している。当該解釈指針は、2019年1月1日以降開始する会計年度に適用され、早期適用が認められている。また、事業体は比較財務書類を遡及的に修正再表示するか、または当該解釈指針の適用による累積的影響を適用開始日現在の期首残高の調整として認識することができる。

K-IFRS年次改善2015-2017年サイクル

K-IFRS第1103号「企業結合」の改訂は、共同支配の取決めの当事者がジョイント・オペレーションである事業の支配を獲得し、かつ取得日の直前にかかるジョイント・オペレーションに関連する資産に対する権利および負債に対する義務を有する場合に、当該取引は段階的に達成された企業結合であることを明確化している。また、K-IFRS第1111号「共同契約」、K-IFRS第1012号「法人所得税」およびK-IFRS第1023号「借入コスト」の改訂が公表されている。

(3) 測定の基準

当該連結財務書類は、連結財政状態計算書の下記の重要な項目を除いて、取得原価基準で作成されている。

- 公正価値で測定された金融派生商品
- 当期損益認識金融商品
- 公正価値で測定された売却可能金融商品
- ヘッジされたリスクによる公正価値の変動が損益計算書に計上される公正価値ヘッジ金融商品
- 確定給付債務の現在価値から制度資産の公正価値を控除した合計の純額として認識される確定給付制度にかかる負債

(4) 機能通貨および表示通貨

当グループの連結財務書類を作成する際、外貨建て取引は、取引日の機能通貨の各実勢レートで当グループ会社により当初認識されている。当グループの連結財務書類は、当グループの機能通貨でもあるウォン建てで表示されている。下記の当グループの事業体は、その表示通貨とは異なる機能通貨を有している。

機能通貨	子会社
米ドル	産銀亞州金融有限公司 産銀アイルランド・リミテッド KDBアジア・プライベート・エクイティ・ファンド KDB-IAP OBORプライベート・エクイティ・ファンド マルチ・アセットKDBシッピング・プライベート・ファンドSP0-1 マルチ・アセットKDBシッピング・プライベート・ファンドSNT-1 マルチ・アセットKDBシッピング・プライベート・ファンドDA-3 マルチ・アセットKDBシッピング・プライベート・ファンドKLC-1 マルチ・アセットKDBオーシャン・バリューアップ・プライベート・ファンド第5号 マルチ・アセットKDBオーシャン・バリューアップ・プライベート・ファンド第6号
ウズベキスタン・スム	産銀ウズベキスタン・リミテッド
ハンガリー・フォrintト	KDBバンク・ヨーロッパ・リミテッド

(5) 見積りおよび判断の使用

K-IFRSに準拠した連結財務書類の作成にあたり、経営陣は、会計方針の適用ならびに資産、負債、収益および費用の報告された金額に影響を及ぼす判断、見積りおよび仮定を行うことが求められる。報告日現在の経営陣の最善の判断に基づいた見積りおよび仮定が実際の環境と異なる場合、経営陣の見積りは実際の業績と異なることがある。

見積りおよび基礎となる仮定は、継続的に評価される。会計上の見積りの変更は、かかる見積りが変更された期および影響を受ける将来の年度にわたって認識される。

以下は、報告期間末現在の将来における見積りの不確実性のその他の主な要因に関する主要な仮定である。これは、次期会計年度の資産および負債の帳簿価額に重要な調整をもたらす重大なリスクを有している。

(i) 金融商品の公正価値

売買目的金融商品、当期損益認識金融商品、売却可能金融資産および金融派生商品は、公正価値で認識され、測定される。金融商品市場が活発でない場合は、公正価値は評価技法を使用するかまたは独立した第三者評価機関のいずれかにより決定される。評価技法には、取引の知識がある自発的な当事者の直近の第三者間取引、入手可能な場合には、実質的に同一の他の金融商品の直近の公正価値の参照、割引キャッシュ・フロー分析およびオプション評価モデルの使用が含まれる。

市場で活発に取引されていない金融商品および市場価格の透明性が低い金融商品は、公正価値の客観性が低く、流動性、集中、市場要因の不確実性ならびに価格決定における仮定およびその他のリスクに関する広範な判断が求められる。

金融商品の公正価値を決定するために、一般に認められた市場評価モデルから、様々な種類の仮定および变数を組み込んだ内部で開発された評価モデルまで多様な評価技法が用いられる。

() 貸倒引当金（貸倒引当金、支払保証引当金および未実行貸出残高）

当グループは減損テストを行い、償却原価で測定される金融資産、その他の包括利益を通じて公正価値で測定される債務証券に係る損失引当金を認識しており、また支払保証および未実行貸出残高に係る引当金を認識している。貸倒引当金の正確性は、個別に評価された貸倒引当金に対する借入人の予想キャッシュ・フローの見積りならびに貸出金、支払保証および未実行貸出残高のグループに対する集合的評価された引当金に関して使用された仮定および手法に依拠している。

() 繰延税金

繰延税金資産および負債は、報告日に制定または実質的に制定されている税率（および税法）に基づいて、資産が実現する期または負債が決済される期に適用されると見込まれる税率で測定される。繰延税金資産は、繰延税金資産の全部または一部を利用できる十分な課税所得が生じるであろう範囲で認識される。将来における実際の法人税は、認識された繰延税金資産および負債と一致しない可能性がある。

() 確定給付債務

当グループは、確定給付制度を運用している。確定給付債務は、報告日現在の保険数理評価により毎年計算される。保険数理評価を行うために、割引率に関する仮定、将来昇給率等を見積もらなければならない。確定給付制度には、その長期的性質により、重要な見積りの不確実性が含まれる。

(6) 連結財務書類の承認日

当該連結財務書類は、2019年3月28日の理事会により発行を許可されており、2019年3月29日の株主総会において承認取得のために提出される予定である。

3. 重要な会計方針

当グループがその連結財務書類の作成に適用した重要な会計方針は、以下に記載されている。以下の会計方針は、本連結財務書類において表示されるすべての期間について一貫して適用されている。

(1) 連結基準

(i) 子会社および企業結合

子会社は、当グループにより支配される事業体である。当グループは、事業体との関与から生じる変動リターンに晒されているか、または変動リターンに対する権利を有しており、また、かかる事業体に対するパワーを通じてかかるリターンに影響を及ぼす能力を有する場合、かかる事業体を支配している。子会社の財務書類は、支配が開始する日から支配を喪失する日まで連結財務書類に含まれる。

当グループの子会社が、類似の状況における同様の取引および事象に関して、当該連結財務書類に適用される以外の会計方針を使用する場合、連結財務書類の作成にあたり、子会社の財務書類に適切な調整を行う。

企業結合の定義に当てはまる取得については、取得法が用いられる。企業結合において取得した識別可能な資産ならびに引き受けた負債および偶発負債は、取得日にその公正価値で当初測定される。当初連結から発生する一切のれんは、少なくとも年1回および事象または状況の変化によって減損の必要性が示唆される場合に減損テストを行う。取得原価は、移転された対価（取得日の公正価値で測定された移転された資産、発行された持分金融商品および発生したまたは引き受けた負債）ならびに被取得企業のすべての非支配持分の金額の合計額として測定される。取得関連費用は、発生時に費用計上される。

取得された識別可能な純資産の当グループ持分の公正価値に対する取得原価の超過分はのれんとして計上される。取得原価が、取得された純資産の当グループ持分の公正価値を下回る場合、その差額は連結包括利益計算書に直接認識される。

内部取引による債権債務残高、収益および費用、未実現利益および損失ならびに内部取引による配当金は全額消去される。

支配の変更を伴わない子会社の所有持分の変動は、資本取引として計上される。当グループが子会社に対する支配を喪失した場合、残余の投資を公正価値で認識し、生じた差額を損益に認識する。

(ii) 関連会社投資

関連会社は、当グループが重要な影響力を有するが、支配はしていないすべての事業体である。当グループが議決権の20%から50%を有している場合に、重要な影響力が存在するとみなされる。関連会社に対する投資は持分法により会計処理され、当初は原価で認識される。当グループの関連会社に対する投資には、取得時に認識されるのれん（減損損失累計額控除後）が含まれる。関連会社の識別可能な資産および負債の公正価値に対する投資企業の持分が、関連会社持分の取得原価を超える場合、その超過額は取得年度の収益として認識される。

関連会社の取得後の損益に対する当グループの持分は、包括利益計算書に認識され、取得後の剩余金の増減のうちの当グループ持分は剩余金において認識される。関連会社の損失に対する当グループ持分が、他の無担保債権を含む当該関連会社に対するその持分に等しいかまたはこれを超える場合、関連会社に変わって債務を負担するか、または支払いを行うのでない限り、当グループは更なる損失を認識しない。持分法投資および投資企業の純投資の一部を構成する長期持分の帳簿価額は、関連会社持分に含まれる。

当グループとその関連会社の取引による未実現利益および損失は、関連会社に対する当グループ持分の限度で消去される。当グループが採用する会計方針との統一性を確保する必要がある場合において、関連会社の会計方針は変更されている。

() 共通支配下にある事業体の取得

取得した資産および負債は、当グループの支配株主の連結財務書類において従前に認識されていた帳簿価額で認識される。支払った現金と取得した純資産の差額は、資本に計上される。

() 非支配持分

子会社の非支配持分は、子会社における親会社の所有持分から区別して会計処理される。純損益およびその他の包括利益の各構成要素は、配分により非支配持分の残高がゼロ以下に減少する場合でも、親会社の株主および非支配持分の所有者に帰属する。

() 親会社の所有持分の変動

支配の喪失を生じない子会社における親会社の所有持分の変動は、所有者としての立場での所有者との資本取引として会計処理される。非支配持分に対する調整は、子会社の純資産に相応する金額に基づいている。対価と非支配持分の調整金額との差額は、資本に直接認識し、親会社の株主に帰属させる。

(2) 事業セグメント

事業セグメントは、収益を獲得および費用を発生させる可能性のある事業活動に従事する当グループの構成要素である（当グループのすべての他の構成要素との取引に関連する収益や費用を含む。）。最高経営意思決定者に報告されるセグメントの業績は、セグメントに直接帰属する項目および合理的な基準で配分可能な項目を含んでいる。非配分項目は、主に全社資産（主に当グループ本社）、本社費用ならびに法人税資産および負債からなる。当グループは、最高経営責任者を最高経営意思決定者として認識している。

(3) 外国為替

(i) 外貨建て取引

外貨建て取引は、取引日の為替レートで当グループの事業体の機能通貨に換算される。報告日現在の外貨建て貨幣性資産および負債は、かかる日の為替レートで機能通貨に換算される。公正価値で測定される外貨建て非貨幣性資産および負債は、公正価値が決定された日の為替レートで機能通貨に換算される。外貨建ての取得原価で測定される非貨幣性項目は、取引日現在の為替レートを用いて換算される。

換算により生じる為替差額は、その他の包括利益に認識される売却可能持分金融商品、海外事業への純投資のヘッジまたは適格なキャッシュ・フロー・ヘッジとして指定された金融負債の換算により生じる差額を除き、損益に認識される。非貨幣性項目からの損益に係る為替レートの影響は、かかる損益がその他の包括利益または損益のどちらに認識されているかによって分類される。

() 海外事業

当グループの表示通貨が海外事業の機能通貨と異なる場合、海外事業の財務書類は以下の方法を用いて表示通貨に換算される。

海外事業の機能通貨が超インフレ状態にない限り、海外事業の資産および負債は、報告期間末現在の為替レートの終値で換算される。包括利益計算書に含まれる収益および費用は、取引日現在の為替レートで換算される。換算から生じる為替差額はその他の包括利益として認識される。

海外事業の取得により生じるのれんおよびかかる取得により生じる資産および負債の帳簿価額の公正価値調整額は、海外事業の資産および負債として会計処理される。従って、それらは海外事業の機能通貨で表示され、海外事業の他の資産および負債とともに決算日の為替レートで換算される。

海外事業が処分される場合、その他の包括利益とは別途認識された海外事業に関する換算差額の累計額は、処分損益の認識時点で資本から損益に振り替えられる。

() 海外事業への純投資にかかる為替換算

予測可能な将来に決済される計画も可能性もない海外事業からの未収金または海外事業への未払金となる貨幣性項目は、海外事業への純投資の一部とみなされる。そのため、為替換算差額は、連結財務書類のその他の包括利益または損失に認識され、関連する純投資の処分時に損益に振り替えられる。

(4) 金融商品の認識および測定

(i) 当初認識

当グループは、当行グループが金融商品の契約条項の当事者となったときに、財政状態計算書において金融資産または金融負債を認識している。通常の方法による金融資産の売買は、取引日基準を用いて認識および認識中止される。

当グループは、金融資産を管理する当グループの事業モデルおよび金融資産の契約上のキャッシュフローの特性に基づき、金融資産を損益を通じて公正価値で測定される金融資産、その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産、または償却原価で測定される金融資産に分類している。当グループは、金融負債を損益を通じて公正価値で測定される金融負債、または償却原価で測定される金融負債に分類している。

当初認識時に、損益を通じて公正価値で測定されない金融資産または金融負債の場合、金融資産または金融負債は、金融資産または金融負債の取得または発行に直接起因する取引コストを加減した公正価値で測定される。

()その後の測定

当初認識後、金融商品は当初認識時の分類に基づき償却原価または公正価値で測定される。

償却原価

償却原価は、金融資産または金融負債が当初認識時に測定された金額から元本返済額を控除し、かかる当初認識額と満期金額との差額の実効金利法による償却累計額を加減し、金融資産については損失引当金を調整した金額である。

公正価値

当グループが主に金融商品の測定に使用する公正価値は、入手可能な場合には活発な市場で取引される金融商品の市場価格またはディーラーの提示価格に基づく公表価格であり、これらが公正価値の最善の証拠である。金融商品は、市場価格が取引所、ディーラー、ブローカー、同業他社、価格サービス業者または規制当局から容易にかつ定期的に入手可能であり、それらの価格が実際にかつ定期的に発生する第三者間市場取引を表す場合に、活発な市場で取引されるとみなされる。

金融商品の市場が活発でない場合、公正価値は、評価技法または独立した第三者評価機関のいずれかにより決定される。評価技法には、取引の知識がある自発的な当事者間の直近の第三者間市場取引の使用、入手可能な場合には、実質的に同一である他の金融商品の現在の公正価値の参照、割引キャッシュ・フロー分析およびオプション価格設定モデルが含まれている。

当グループは、市場参加者によって一般的に使用され、当グループが市場で観察可能なインプットに基づくオプション、金利スワップおよび通貨スワップなどの一般的な店頭デリバティブの公正価値を決定するためにカスタマイズされた評価モデルを使用している。より複雑な金融商品については、当グループは通常、業界で一般的に使用される評価手法および評価技法に基づく内部開発モデル、または評価モデルに対するインプットの全部または一部が市場で観察可能でないために一定の仮定に基づく公正価値の見積りが必要となる場合に、独立した外部評価機関によって測定された値を公正価値として使用している。

評価技法が、市場参加者が価格の設定にあたり考慮するであろうすべての要因を反映していない場合、公正価値はかかる要因を反映するように調整される。かかる要因には、カウンターパーティー信用リスク、ビッド・アスク・スプレッド、流動性リスク等が含まれている。

選択された評価技法は、市場のインプットを最大限に活用し、事業体固有のインプットへの依存を最小限に抑えるものである。これには、市場参加者が価格の設定にあたり考慮するであろうすべての要因が組み込まれており、金融商品の価格設定に適用される経済的方法と一致している。当グループは、定期的に評価技法を調整し、同一の金融商品の観察可能な現在の市場取引の価格を使用するか、または他の関連する観察可能な市場データに基づいて、その有効性をテストしている。

()認識の中止

認識の中止は、過去に認識された金融資産または金融負債を財政状態計算書から除去することである。当グループは、次の場合にのみ金融資産または金融負債の認識を中止する。

金融資産の認識の中止

金融資産は、金融資産からのキャッシュ・フローに対する契約上の権利が消滅した場合、金融資産が譲渡され、その金融資産の所有に伴う概ねすべてのリスクおよび経済価値が移転された場合、または金融資産の所有に伴う概ねすべてのリスクおよび経済価値を移転も保持もせず、当グループが支配を保持しない場合、その認識が中止される。当グループが金融資産の所有に伴う概ねすべてのリスクおよび経済価値を移転も処分もしない場合、当グループは金融資産に対する継続的関与を有している範囲において、金融資産を継続して認識する。

当グループが金融資産のキャッシュ・フローを受け取る契約上の権利を譲渡するが、金融資産の所有に伴う概ねすべてのリスクおよび経済価値を保持している場合、当グループは譲渡資産全体の認識を継続し、受け取った対価について金融負債を認識する。

金融負債の認識の中止

金融負債は、契約に規定された債務が免責、取消または失効した場合に、財政状態計算書からその認識が中止される。

()相殺

金融資産および金融負債は、認識された金額を相殺する法的に強制力のある権利が存在し、かつ純額ベースで決済するか、または資産の実現と負債の決済を同時に使う意思がある場合に相殺され、財政状態計算書に純額が計上される。

(5) 現金および現金同等物

現金および現金同等物は、手許現金と要求払預金および当初満期が3ヶ月以内の流動性の高いその他の短期投資を含む、公正価値の変動のリスクが少ない、取得日から3ヶ月以内に当初満期が到来するもので構成されている。

(6) 非派生金融商品資産

()当期損益認識金融資産

売買目的に分類されるか、またはその他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産もしくは償却原価で測定される金融資産に分類されない非派生金融商品資産は、当期損益認識金融資産に分類される。

当グループは、かかる指定が資産もしくは負債の測定または異なる基準による資産もしくは負債に係る損益の認識から生じるであろう測定または認識の不整合（「会計上のミスマッチ」とも呼ばれる。）を除去または大幅に削減させる場合、当初認識時に一定の金融資産を当期損益認識金融資産として指定することができる。

当初認識後、当期損益認識金融資産は公正価値で測定され、公正価値の変動により生じる損益は損益に認識される。また、当期損益認識金融資産からの受取利息および受取配当金は、包括利益計算書に認識される。

()その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産

当グループは、金融資産が以下の条件を満たす場合、それらをその他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産として分類している。1) 契約上のキャッシュ・フローの回収と金融資産の売却の両方によって目的が達成される事業モデルであり、元本および元本残高に対する利息の支払いのみである債務証券、または2) 売買目的で保有されておらず、短期的な価格変動またはディーラーのマージンから利益を生み出すことを目的としており、その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産として指定されている持分証券。

当初認識後、その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産は公正価値で測定される。公正価値の変動による損益（実効金利法で償却される受取配当金および受取利息ならびに受取利息および支払利息として損益に直接認識される貨幣性項目に生じる換算差額を除く。）は、資本のその他の包括利益に認識される。

その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産の処分にあたり、累積損益は報告期間の損益に認識される。ただし、その他の包括利益を通じて公正価値で測定される持分証券の累積損益は、処分時に損益にリサイクルされない。

その他の包括利益を通じて公正価値で測定される外貨建て金融資産は、決算日レートで換算される。償却原価の変動により生じる換算差額は損益に認識され、その他の変動は資本に認識される。

()償却原価で測定される金融資産

契約上のキャッシュ・フローを回収するために資産を保有することを目的とする事業モデルにおいて保有されており、元本および元本残高に対する利息の支払いのみである金融資産は、償却原価で測定される金融資産に分類される。償却原価で測定される金融資産は、当初認識後は実効金利法を用いて償却原価で測定され、受取利息は実効金利法を用いて認識される。

(7) 金融資産の予想信用損失

当グループは報告期間末時点で、償却原価およびその他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産（損益を通じて公正価値で測定される金融資産を除く。）について、予想信用損失を測定し、損失引当金を認識している。

予想信用損失（以下「ECL」という。）は、貨幣の時間的価値、過去、現在および将来の状況の予想ならびに過度の労力をかけずに利用可能な情報を反映した一定の範囲で生じうる結果による加重平均金額である。

当グループは、K-IFRSに従って、以下の3つの測定技法を使用している。

- 一般的なアプローチ：下記の2つのアプローチが適用されない金融資産およびオフバランスシートの未使用の与信枠に対するもの。
- 単純化したアプローチ：受取債権、契約資産およびリース債権に対するもの。
- 信用減損アプローチ：購入または組成された信用減損金融資産に対するもの。

一般的なアプローチの適用は、信用リスクの増大の重要度に応じて異なる。報告日現在において、金融商品の信用リスクが当初認識から著しく増加していない場合、事業体はかかる金融商品の損失引当金を12ヶ月の予想信用損失に等しい金額で測定しなければならない。かかる金融商品の信用リスクが当初認識後に著しく増加した場合は、事業体は各報告日における全期間の予想信用損失に等しい金額で金融商品の損失引当金を測定しなければならない。

当グループは、1)重大な金融要素を有しない売上債権および契約資産、または2)単純化したアプローチの適用に合わせて当グループの会計方針が決定された場合の売上債権、契約資産およびリース債権に対して単純化したアプローチを適用している。当該アプローチでは、金融資産の当初認識から全期間の予想損失を認識することが求められている。信用減損アプローチのもとでは、当グループは、購入または組成された信用減損金融資産の損失引当金として、当初認識以降の全期間の予想信用損失の変動累計額のみを認識しなければならない。

以下の網羅的でない情報のリストは、信用リスクの変動の評価にあたり関連性のある可能性がある。

- 開始時以降の信用リスクの変動の結果としての信用リスクの内部価格指標の著しい変動。
- 金融商品が報告日時点で新たに組成または発行された場合に、著しく異なるであろう既存の金融商品の率または条件のその他の変動。
- 金融商品の外部信用格付けにおける実際のまたは予想される著しい変化。
- 内部的に信用リスクを評価するために使用された、借り手の実際のまたは予想される内部信用格付けの引下げまたは行動スコアリングの低下。
- 借り手の営業成績における実際のまたは予想される著しい変化。
- 期日経過情報

()将来予測的な情報

当グループは、当初認識後に信用リスクが著しく増大したかどうかを判断し、予想信用損失を測定するにあたり将来予測的な情報を使用する。

当グループは、リスク要素が景気循環と一定の相関関係があると仮定し、将来予測的な情報をマクロ経済変数とともに測定インプットに反映させることにより予想信用損失を計算している。

予想信用損失の計算に使用される将来予測的な情報は、経営計画のシナリオ、ストレステストに使用される最悪のシナリオ、第三者予測などを含む様々な要因を総合的に考慮して導出される。

()償却原価で測定される金融資産の予想信用損失の測定

償却原価で測定される金融資産の損失額は、資産の帳簿価額と金融資産の当初の実効金利で割り引いた見積将来キャッシュ・フローの現在価値との差額として測定される。当グループは、個別に重要な金融資産の予想される将来キャッシュ・フローを見積もっている（減損の個別的評価）。

個別に重要ではない金融資産については、当グループは、貸出債権を同様の信用リスク特性を有するグループに分類することにより予想信用損失を一括して見積もっている（減損の集合的評価）。

減損の個別的評価

減損損失の個別的評価は、見積将来キャッシュ・フローの現在価値について経営陣の最善の見積りを使用して計算されている。当グループは、借り手の営業キャッシュ・フローおよび保有担保の正味実現可能価額を含むすべての入手可能な情報を使用している。

減損の集合的評価

損失引当金の集合的評価には、将来予測的な情報を加えた過去の損失実績が含まれる。かかるプロセスには、担保、商品および借り手の種類、信用格付け、ポートフォリオの規模および回収期間などの要素が組み込まれ、回収方法の種類によって資産グループのデフォルト確率およびデフォルト時損失率が適用される。また、予想信用損失モデルには、損失実績および将来予測的な情報に基づいてインプットを決定するための一定の仮定が含まれている。これらのモデルおよび仮定は、見積損失額と実際の損失実績との間の差を小さくするために定期的に見直される。

償却原価で測定される金融資産の予想信用損失は損失引当金として認識され、金融資産が回収不能であると判断された場合、帳簿価額および損失引当金が減少する。過去に償却された金融資産が回収された場合、損失引当金は増加し、その差額が当期損益に認識される。

()その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産の予想信用損失の測定

その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産の予想信用損失の測定方法は、その他の包括利益として認識される損失引当金の変動を除き、償却原価で測定される金融資産の測定方法と同様である。その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産の売却または返済のためにその他の包括利益に認識された金額は純損益に振り替えられる。

(8)ヘッジ会計を含む金融派生商品

金融派生商品は、契約締結時の公正価値で当初認識され、その後、公正価値で再評価される。金融派生商品の公正価値の変動による損益の認識は以下のとおりである。

()ヘッジ会計

金融派生商品はヘッジ会計適用の有無により異なる会計処理がなされ、売買目的金融派生商品とヘッジ目的金融派生商品に分類されている。ヘッジ目的の金融派生商品取引においては、2種類の異なるヘッジ会計、すなわち公正価値ヘッジおよびキャッシュ・フロー・ヘッジが適用される。公正価値ヘッジは、認識されている資産、負債、未認識の確定約定、またはかかる資産、負債もしくは確定約定の識別された一部分の公正価値の変動に対するエクスポージャーのうち、特定のリスクに帰属し損益に影響を及ぼす可能性のあるヘッジである。キャッシュ・フロー・ヘッジは、()認識されている資産または負債に関連する特定のリスク（変動利付債に係る将来の金利支払の全部または一部等）または実現可能性の高い予定取引に起因し、()損益に影響を及ぼす可能性のあるキャッシュ・フローの変動に対するエクスポージャーのヘッジである。

ヘッジ関係開始時に、当グループはヘッジ対象およびヘッジ手段との関係（リスクの性質、ヘッジ目的およびヘッジ戦略を含む。）およびヘッジ関係の有効性評価に用いられる方法を正式に文書化する。

公正価値ヘッジ

指定された適格な公正価値ヘッジについては、ヘッジ目的金融派生商品の公正価値の変動は包括利益計算書の損益に認識される。一方、ヘッジされたリスクに帰属するヘッジ対象の公正価値の変動は、ヘッジ対象の帳簿価額の一部として計上されるとともに、包括利益計算書の損益においても認識される。ヘッジがヘッジ会計の適用基準をもはや満たさない場合、ヘッジ関係は解消される。償却原価で計上されたヘッジ対象については、解消時のヘッジ対象の帳簿価額と額面価格の差額は実効金利を用いてその満期まで償却される。

キャッシュ・フロー・ヘッジ

指定された適格なキャッシュ・フロー・ヘッジについては、ヘッジ手段に係る損益の有効部分が資本に当初直接認識される。ヘッジ手段に係る損益のうち非有効部分は直ちに包括利益計算書に認識される。ヘッジされたキャッシュ・フローが包括利益計算書の損益に影響を与える場合、ヘッジ手段に係る損益は包括利益計算書の損益の対応する収益または費用として計上される。ヘッジがもはやヘッジ会計の適用基準を満たさない場合は、その時点で資本に計上されている累積損益は資本に留まり、ヘッジ対象である予定取引が最終的に包括利益計算書に認識されるときに損益として認識される。予定取引がもはや発生しないと予想される場合は、資本に計上された累積損益は直ちに包括利益計算書の損益に振り替えられる。

売買目的金融派生商品

売買目的金融派生商品取引については、金融派生商品の公正価値の変動は純利益に認識される。

(9)取引日損益の認識

市場で観察不可能な評価変数を使用して測定される公正価値レベルのヒエラルキーにおいてレベル3として分類された金融商品については、当初認識時の公正価値と取引価格の差額（取引日損益と等しい。）は定額法を用いて存続期間にわたって償却される。

(10)リース

リースの分類は、貸し手および借り手が有するリース資産の所有に伴うリスクおよび経済価値の範囲に基づいている。

()ファイナンス・リース

当グループが所有に伴うほとんどすべてのリスクおよび経済価値を有するリース資産は、ファイナンス・リースとして分類され、当グループは、リースへの純投資に相当する金額を受取債権に表示する。また、直接および追加的に発生した手数料、法的費用および内部未払費用を含む初期直接費用はファイナンス・リース債権に含まれる。当グループは、リース支払額をファイナンス・リース債権および利息収益に配分することにより会計処理を行い、利息収益は実効金利法を用いて正味ファイナンス・リース投資未回収額に認識される。

()オペレーティング・リース

リースが、所有に伴うほとんどすべてのリスクおよび経済価値を移転しない場合、オペレーティング・リースとして分類され、関連する資産は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額で表示される。さらに、保証残存価値を除く最低リース支払額は、定額法により、リース期間にわたって収益として認識される。オペレーティング・リースの交渉および準備にあたり、借り手により発生した初期直接費用は、リース資産の帳簿価額に加算され、リース期間にわたり費用として認識されなければならない。また、償却可能なリース資産に対する償却方針は、類似の資産に対する借り手の通常の償却方針と一貫性がなければならない。

(11)有形固定資産

当グループの有形固定資産は取得原価から減価償却累計額および減損損失累計額を控除した帳簿価額で認識される。取得原価には、資産の取得に直接関連する費用が含まれる。

その後の費用は、有形固定資産の帳簿価額に認識されるか、または当該資産に関連する将来の経済的便益が当グループに流入する可能性が高く、当該資産の取得原価が信頼性をもって測定できる場合に、適宜、別個の資産として認識される。取替部分の帳簿価額は認識が中止される。さらに、すべてのその他の修繕維持費は発生時に損益に認識される。

土地は減価償却されない。その他の資産の減価償却費は、以下の推定耐用年数にわたり、残存価値から取得費用を控除して定額法により計算される。

種類	耐用年数(年)
建物	12~60
構築物	10~51
賃借物件改良	4
車両	4
機器	4~8
その他の不動産	2~40

有形固定資産は、その帳簿価額が回収可能額を超過するとき減損が生じる。当グループは各報告日現在でその資産の残存価値と経済的耐用年数を評価し、必要な場合にはその耐用年数を調整する。資産の処分損益（資産の正味処分代金と帳簿価額との差額として算出）は、連結包括利益計算書の営業外収益（費用）として認識される。

(12)投資不動産

当グループは、賃借料収入または資本増価の利益を目的として保有する不動産を投資不動産として分類する。投資不動産は、取引コストを含めて原価で当初測定される。当初認識後は、取得原価モデルが適用される。当初認識後、投資不動産の項目は、原価から減価償却累計額および減損損失累計額を控除して計上される。

投資不動産は、これらが処分されたか、または永久に使用されなくなり、その処分により将来の経済的便益が期待できないときに認識中止となる。当該資産の正味処分代金と帳簿価額の差額は、認識が中止された期の包括利益計算書において認識される。該当する投資不動産の使用目的が変更された場合に、投資不動産から他の勘定へまたは他の勘定からの振替が行われる。

投資不動産の減価償却費は、以下のとおりその推定耐用年数にわたり定額法により計算される。

種類	耐用年数(年)
建物	20~50
構築物	10~40

(13)無形固定資産

無形固定資産は、その取得原価が信頼性をもって測定でき、当該資産からの将来の経済的便益が当グループに流入する可能性が高い場合に限り、認識される。無形固定資産が個別に取得された場合は取得原価で当初認識され、その後は、原価から償却累計額および減損損失累計額を控除した額が帳簿価額として認識される。

耐用年数が有限の無形固定資産は経済的耐用年数(4~30年)にわたって、定額法を用いて償却される。各報告期間末に、当グループは、減損を示す証拠の有無について無形固定資産の見直しを行い、かかる証拠が存在する場合、当グループは回収可能額を見積もり、それに従って損失を認識する。無形固定資産は、これらが処分されたか、または永久に使用されなくなり、その処分により将来の経済的便益が期待できないときに認識が中止される。

耐用年数が確定できない無形固定資産は償却されないが、毎年減損テストが行われる。さらに、当グループは、かかる資産の耐用年数が確定できないとみなすことが適当であるかどうかを判断するため、かかる無形固定資産を見直す。当グループがかかる資産の耐用年数が確定できないと区分するには不適格であると結論づける場合、将来に向けてかかる資産を有限とみなすよう措置が講じられる。

新たな科学または技術上の知識および理解を得るために実施される研究活動費用は、発生時に損益に認識される。開発費は、開発費が信頼性をもって測定でき、成果物またはプロセスが技術的および商業的に実行可能であり、将来の経済的便益が生じる可能性が高く、かつ当グループが開発を完成させ、かかる資産を利用または売却する意図または十分な資源を有する場合にのみ資本化される。その他の開発費は、発生時に損益に認識される。

(14) 非金融資産の減損

当グループは、各報告期間末に、資産に減損の証拠がないかのテストを行い、回収可能額を見積ることで減損の有無を検討している。当グループは、資金生成単位の資産の金額を見積もることができる場合を除いて、各資産または資金生成単位全体の回収可能額を見積もっている。資産の回収可能額は、取得費用を控除した公正価値またはその使用価値のいずれか高い金額となる。当グループは、帳簿価額が回収可能額を上回る場合に、資産の帳簿価額と回収可能額との差額を減損損失として認識している。

事業の取得により生じるのれんは、相乗効果による便益を得ることが期待される各資金生成単位に配分される。資金生成単位の減損損失では、かかる資金生成単位に配分されたのれんの帳簿価額を控除後、その他の資産の帳簿価額に応じてその他の資産が控除される。のれんの減損損失は、減損の認識後は戻入を行うことはできない。

戻入が行われないのれんの減損損失を除き、回収可能額の算定に用いられた見積りに変更がある場合は、減損損失が戻し入れられる。戻入は、当該資産の帳簿価額がその回収可能額を超過しない、また過年度に当該資産について減損損失が認識されなかった場合に決定される帳簿価額（減価償却費控除後）を超えないよう制限されている。

(15) 売却目的保有資産

継続的使用よりも主に売却を通じて回収されると見込まれる非流動資産（または処分グループ）は、売却目的保有に分類される。売却目的保有に分類されるためには、当該資産（または処分グループ）が、現状において直ちに売却でき、その売却の可能性が非常に高くなければならない。売却目的保有に分類される資産（または処分グループ）は、帳簿価額または売却費用控除後の公正価値のいずれか低い金額で測定される。

当グループは、当初またはその後の資産（または処分グループ）の売却費用控除後の公正価値までの評価減について、減損損失を認識する。売却費用控除後の公正価値のその後の増加については、以前認識した減損損失累計額を限度に評価益を認識する。

売却目的保有に分類される非流動資産または売却目的保有に分類される処分グループの一部は、減価償却（または償却）されない。

(16) 非派生金融商品負債

当グループは、金融負債の契約上の取り決めの内容およびその定義に従って、非派生金融商品負債を当期損益認識金融負債またはその他の金融負債に分類している。当グループは、当グループがかかる金融負債の契約条項の当事者となる場合、連結財政状態計算書において金融負債を認識する。

() 当期損益認識金融負債

当期損益認識金融負債は、売買目的金融負債および当初認識時に当期損益認識金融負債に指定された金融負債を含む。金融負債および金融派生商品は、近い将来に買い戻す目的で取得される場合は売買目的金融商品に分類される。金融負債は、当該負債からの損益が、損益として認識される方がより目的に即していると示される場合、当初認識時に当期損益認識金融負債として分類される。その後の測定において、当期損益認識金融負債は公正価値指定され、関連する未認識の損益は損益として認識される。

() 債却原価で測定される金融負債

債却原価で測定される金融負債は、公正価値（取引コスト控除後）で当初認識され、その後は債却原価で計上される。手取金（取引コスト控除後）と償還価格の差額は、実効金利を用いてかかる負債の存続期間にわたって包括利益計算書に認識される。

貸付ファシリティの設定に係る支払手数料は、ファシリティの一部または全部が借入実行される可能性が高い場合には貸付の取引コストとして認識される。かかる金額は、金融負債が借入実行されるまで繰り延べられる。ただし、ファシリティの一部または全部の借入が実行されると結論づけるための十分な証拠がない場合に、当該手数料は流動性役務に係る前払費用として資産計上され、それが関連するファシリティ期間にわたって償却される。

()金融負債の認識の中止

金融負債は、当該負債に基づく義務が免責、取消または終了したとき、その認識を中止する。既存の金融負債が同一の貸付人から実質的に異なる条件で別の金融負債に交換される場合、または既存の負債の条件が実質的に変更される場合には、かかる交換または変更により負債は当初の負債の認識の中止および新規の負債の認識として処理される。当初の金融負債の帳簿価額と支払われた対価の差額は損益に認識される。

(17)従業員給付

()短期従業員給付

短期従業員給付は、従業員が関連する役務を提供する期の報告期間末後12ヶ月以内にすべて決済される予定である従業員給付である。従業員が、ある会計期間中に当グループに役務を提供する場合に、当グループはかかる役務と引き換えに支払うと見込まれる短期従業員給付の割り引かない金額を認識する。

()退職給付：確定拠出制度

確定拠出制度は、当グループが固定の拠出金を別個の基金に支払う年金制度である。当グループは、確定拠出制度にかかる一定の金額または金銭の一定の割合を支払後、予測可能な将来の負債に対して義務を負わない。当該年金制度が早期退職を認める場合、支払額は従業員給付として認識される。既に支払った拠出額が、報告期間末前の役務に対する拠出額を超える場合、当グループはその前払金が将来の支払の控除または現金の払戻しをもたらす範囲で、かかる超過額を資産として認識する。

()退職給付：確定給付制度

当グループは、確定拠出制度を除くすべての年金を確定給付制度に分類している。確定給付制度に関する当グループの正味債務は、従業員が当期および過年度において稼得した将来の給付額を推定し、かかる金額を割り引き、一切の制度資産の公正価値を控除して計算される。確定給付債務は、有資格の保険数理士により予測単位積立方式を用いて毎年計算される。確定給付債務の現在価値は、給付が支給される通貨建てで、関連年金債務の期間と類似の満期を有する優良会社社債の利回りを用いて見積将来キャッシュ・アウトフローを割り引いて決定される。

保険数理上の損益、制度資産収益（利息を除く。）および資産の上限額の影響（もしあれば。利息を除く。）からなる正味確定給付負債（資産）の再測定は、直ちにその他の包括利益に認識される。

(18)引当金

引当金は、当グループが過去の事象により現在の法的または推定的債務を有しており、経済的便益をもつ資源の流出が債務の決済に必要となる可能性が高く、かつ債務金額が信頼性をもって見積もることができる場合に認識される。

(19)金融保証契約

金融保証契約は、支払期限に特定の債務者が支払を怠ったことにより債権者が被った損失を、債務証券の当初または変更後の契約条項に従って補償するために保証発行者（当グループ）に対して特定の支払を義務付ける契約である。金融保証は、保証が付与された日の公正価値で財務書類に当初認識される。当初認識後、かかる保証に基づく当グループの負債は、以下のうちいちずれか高い金額で測定される。

- K-IFRS第1109号「金融商品」および
- 当初認識額からK-IFRS第1115号「顧客との契約から生じる収益」に従って認識された償却累計額を適宜控除した金額

(20)売戻および買戻条件付有価証券

売戻しを目的とした契約に基づき購入された有価証券はその他の貸出債権および受取債権として計上され、かかる有価証券からの関連利息は受取利息として計上される。買戻しを目的とした契約に基づき売却された有価証券は借入金として計上され、かかる有価証券からの関連利息は支払利息として計上される。

(21)保険契約にかかる保険契約準備金

保険事業法および関連保険基準に従って、当グループは、保険料積立金、未経過保険料積立金、支払備金、契約者配当準備金および超過契約者配当準備金および配当付き保険にかかる損失準備金からなる保険契約準備金を確保することが義務付けられており、これらは負債に計上される。かかる負債は、金融監督委員会が発行した「保険料および保険契約準備金の計算マニュアル」に従って測定される。詳細は以下のとおりである。

()保険料積立金

保険料積立金は純保険料評価に基づいて計算された金額であり、金融監督院（以下「FSS」という。）が定めた標準金利および標準リスクを用いて計算された金額と当グループにおける内部金利を用いて計算された金額のうち多い金額である。保険料積立金がゼロ以下である場合、ゼロで計上される。

()未経過保険料積立金

未経過保険料積立金は、当報告期間内に当初支払日が到来する保険料のうち、報告期間末以後の将来の支払となる一定の保険料について配賦された金額である。

()保証給付準備金

保証給付準備金は、将来の期待損失を考慮して一定水準の保険金請求を保証する。当グループの保証給付準備金は以下のものからなる。

- 最低年金原資保証：契約時の所定金額に相当する年金給付額にかかる原資を保証する準備金
- 最低死亡給付保証：契約時の所定金額に相当する死亡給付額を保証する準備金
- 最低解約返戻金保証：契約時の所定金額に相当する中間返戻金を中間返戻期間中に保証する準備金
- 終身引出保証：契約時の所定金額に相当する中間返戻金を生存中に保証する準備金
- その他の保証給付金：一定の水準を超える保険金給付保証にかかる上記以外の保証給付準備金

()支払備金

支払備金は、報告日以前の保険事故で、決済または確定されていない損失について見積により算定される準備金である。詳細は以下のとおりである。

- ・未払保険金：保険会社に報告されているが、未だに決済手続中である損失（請求額の一部が支払われている場合、その残額が報告される。）
- ・既発生未報告損害（以下「IBNR」という。）：発生したものの未だ保険会社に報告されていない保険金請求を生じさせる事象にかかる保険会社の負債の実績データに基づく見積金額
- ・無効契約準備金：一定期間内に復活または繰り延べができる保険料の支払がなされないため無効となった契約に係る保険解約払戻準備金
- ・未払の保険金請求：保険会社が保険契約者に対して未だ支払っていない補償、払戻および配当金等の適法の要償

()契約者配当準備金

契約者配当準備金は、利率配当準備金、危険率配当準備金、利差保証準備金および長期配当準備金に分類される。

()超過契約者配当準備金

関連法令および契約に基づき、当グループは、関連する保険商品の実績に従って超過契約者配当準備金を設定することができる。同準備金は、契約者配当または追加配当の支払に充当することができる。

(22)資本

普通株式は資本として分類される。普通株式の発行および株式オプションに直接帰属する増分費用は、税効果控除後、資本からの控除として認識される。

当グループがその株式資本を買い戻す場合、支払対価の金額は資本からの控除として認識され、自己株式に分類される。自己株式の購入、処分、再発行または消却による損益は、当期損益として認識されない。当グループが自己株式を取得および保持する場合、支払対価または受取対価は資本に直接認識される。

非支配持分は、直接または間接的に親会社に帰属しない子会社の資本を示す。非支配持分は、K-IFRS第1103号「企業結合」に基づいて、当初結合日に算定された少数株主持分純利益および企業結合後の資本の変動における少数株主持分で構成される。

(23)政府交付金

一定の資産の取得に用いられる返済義務のない政府交付金は、取得資産の取得原価から控除して会計処理される。かかる交付金額は、取得資産の耐用年数にわたって、かかる資産の減価償却費または償却費と相殺される。

(24)受取利息および支払利息

受取利息および支払利息は、実効金利法を用いて損益に認識される。実効金利法では、金融商品の償却原価を測定し、関連期間中に受取利息または支払利息を配分する。

実効金利の計算に際して、当グループは金融商品のすべての契約条件（将来の貸倒損失を除く。）を考慮して将来キャッシュ・フローを見積もる。計算には、支払ったかまたは受領した一切の手数料またはポイント、取引コストおよびすべての関連割増金または割引額も反映される。金融商品のキャッシュ・フローおよび予想期間を信頼性をもつて見積もることができない場合、実効金利は、契約期間にわたり契約上のキャッシュ・フローにより計算される。

金融資産または類似の資産のグループにおいて減損損失が認識されると、その後の受取利息は、減損損失を測定する目的で将来キャッシュ・フローを割り引くために使用した金利で認識される。

(25)手数料収益

手数料収益および費用は、関連規則に従って以下のように分類されている。

()金融商品からの手数料

金融資産または負債の実効金利の不可分である手数料収益および費用は、実効金利の測定に含まれる。手数料収益および費用には、借入人の財政状態、保証、担保、その他の取決めの評価および関連する評価ならびに事業取引に関する手数料、文書作成および記録等の業務に対する報酬ならびに金融負債の発行の際に発生した手数料が含まれる。ただし、金融商品が当期損益認識金融商品に分類される場合、手数料は当初認識時に収益として認識される。

()役務からの手数料

資産運用手数料、委託手数料および保証サービス料など、一定期間中に提供する役務と引き換えに請求される手数料収益は、関連する役務の提供時に認識される。貸出債権のコミットメントが、借入実行されることが予想されず、K-IFRS第1039号「金融商品：認識および測定」が当該コミットメントに適用されない場合、関連する貸出債権のコミットメント手数料は収益として、コミットメントの期間にわたって時間に比例して認識される。

()重要な取引からの手数料

株式およびその他の有価証券の売買、第三者のための交渉および仲介活動（例えば事業譲渡および買収）等の重要な取引からの手数料は、取引の完了時に認識される。

(26)受取配当金

受取配当金は、当グループの支払を受け取る権利が確定されたとき認識される。

(27)法人税費用

法人税費用は、当期法人税および繰延法人税からなる。当期法人税および繰延法人税は、その他の包括利益に認識されるかもしくは資本に直接認識される取引もしくは事象または企業結合から発生する税金を除いて、損益に認識される。

繰延税金資産および負債は、報告期間末までに制定または実質的に制定されている税率（および税法）に基づいて、資産が実現する期または負債が決済される期に適用されると見込まれる税率で測定される。繰延税金資産および

負債の測定は、報告期間末に当グループが資産および負債の帳簿価額の回収または決済を行うと見込んでいる方法から生じるであろう税務上の影響を反映する。

子会社は、それぞれの税法に基づいて法人税を計算しており、その金額を当期税金負債として計上している。

当グループは、子会社および関連会社に対する投資ならびにジョイント・ベンチャーの持分に関連して生じるすべての将来加算一時差異について、当グループがその一時差異を解消する時期をコントロールでき、一時差異が予測可能な将来に解消しない可能性が高い範囲を除いて、繰延税金負債を認識する。当グループは、関連会社投資により生じるすべての将来減算一時差異について、その一時差異が予測可能な将来に解消され、一時差異を利用できる課税所得が獲得される可能性が高い範囲で、繰延税金資産を認識する。

繰延税金資産の帳簿価額は各報告期間末に見直され、繰延税金資産の一部または全部の便益を利用できる十分な課税所得が獲得される可能性が高くなかった範囲で減額される。

繰延税金資産および繰延税金負債は、当グループが関連する当期税金資産および負債を相殺する法的強制力のある権利を有し、かかる資産および負債が同一の税務当局によって課された法人税に関連しており、純額ベースで決済することを意図している場合にのみ相殺される。

(28)信託勘定の会計処理

当グループは、財務報告のために、金融投資サービスおよび資本市場法に従って信託資産を識別可能資産から区分している。さらに、当グループは、信託資産の申請、運用および処分から信託報酬を受領し、かかる報酬を信託勘定収益に配分している。

また、不特定の元利金保証信託からの報酬が元利金額に満たない場合、当グループは、信託報酬および特別準備金による損失補填後も、信託勘定の損失残高を補填し、かかる金額を信託勘定損失に配分する。

(29)規制上の貸倒引当金

K-IFRSに基づく貸倒引当金の合計額が銀行業務監督規則第29条(1)が規定する金額を下回る場合、当グループは、各報告期間末現在でその差額を規制上の貸倒引当金として計上する。

既存の規制上の貸倒引当金が報告日現在の積立所要額残高を上回る場合、その剩余额は戻し入れることができる。さらに、未処理損失がある場合、損失処理後、規制上の貸倒引当金を積み立てる。

(30)1株当たり利益

当グループは、連結包括利益計算書に希薄化後および基本的1株当たり利益を表示している。基本的1株当たり利益は、当グループの株主に帰属する当期純利益を報告期間中の発行済普通株式の加重平均株式数で除して計算される。希薄化後1株当たり利益は、当グループの普通株主に帰属する純利益および発行済普通株式の加重平均株式数を、すべての潜在的普通株式による希薄化効果を考慮して調整することにより計算される。

(31)誤謬の訂正

過年度の誤謬は、誤謬による特定期間にかかる影響または累積的な影響を判断することが実務上不可能である範囲を除いて、かかる誤謬の発見後に最初に承認された財務書類において、遡及的修正再表示によって訂正しなければならない。

4. 現金および預け金

(1) 2018年および2017年12月31日現在の現金および預け金は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年12月31日	2017年12月31日
現金	559,610	516,380
ウォン建て預け金:		
韓国銀行預け金	3,375,325	2,136,005
その他銀行預け金	1,288,122	2,340,959
	4,663,447	4,476,964
外貨建て／オフショア預け金	3,506,971	3,242,142
	8,730,028	8,235,486

(2) 2018年および2017年12月31日現在の使途制限されている預け金は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年12月31日	2017年12月31日
預金準備金	2,070,742	1,248,969
通貨安定勘定預け金	1,460,000	1,100,000
特別目的会社のための元利金支払準備金	-	79,906
その他	972,978	344,347
	4,503,720	2,773,222

5. FVTPLで測定される有価証券

(1) 2018年12月31日現在の当期損益認識金融資産における有価証券の内訳は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年12月31日		
	額面金額	取得原価	公正価値 (帳簿価額)
ウォン建て有価証券:			
株式	-	1,599,836	1,433,758
持分投資	-	1,002,650	1,046,920
受益証券	-	5,483,266	5,337,309
国公債	579,000	583,584	590,661
金融債	2,174,641	2,162,733	2,162,170
社債	811,016	793,201	1,166,400
コマーシャル・ペーパー	115,000	114,549	115,879
その他	242,595	363,349	385,527
	3,922,252	12,103,168	12,238,624
外貨建て／オフショア有価証券:			
株式	-	2,938	2,694
持分投資	-	23,768	34,992
受益証券	-	285,525	511,338
債務証券	95,818	96,598	642,658
	95,818	408,829	1,191,682
貸付有価証券	60,000	60,455	60,409
	4,078,070	12,572,452	13,490,715

(2) 2018年12月31日現在の当期損益認識金融資産における売却制限付持分証券は以下のとおりである。(単位:百ウォンおよび株)

	2018年12月31日		
会社名	株式数	帳簿価額	制限期間
ナショナル・ハピネス・ファンド・カンパニー・リミテッド	34,066	68,757	定めなし

6. 売買目的金融資産

(1) 2017年12月31日現在の売買目的金融資産は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

2017年12月31日

ウォン建て売買目的金融資産:

持分証券	
株式および持分投資	100,631
受益証券	509,055
	609,686

債務証券:

国公債	604,538
金融債	54,301
社債	196,515
	855,354
	1,465,040

外貨建て／オフショア売買目的金融資産:

持分証券	15,534
債務証券	424,075
	439,609
	1,904,649

(2) 2017年12月31日現在の売買目的金融資産における債務証券の内訳は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

2017年12月31日

	額面金額	取得原価	公正価値 (帳簿価額)
ウォン建て国公債	611,399	605,030	604,538
ウォン建て金融債	55,041	54,558	54,301
ウォン建て社債	199,343	198,715	196,515
外貨建て債務証券	425,236	425,637	424,075
	1,291,019	1,283,940	1,279,429

7. FVTPLで測定されるものとして指定された金融資産

2017年12月31日現在の当期損益認識金融資産は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

2017年12月31日

FVTPLで測定されるものとして指定されたウォン建ての有価証券	100,117
FVTPLで測定されるものとして指定された外貨建ての有価証券	19,902
	120,019

上記の当期損益認識金融資産は、株価指数リンク債等からなる。組込金融派生商品および主契約をFVTPL項目として指定することで、複雑な金融商品の公正価値の変動が損益に認識される。

8 . FVOCIで測定される有価証券

(1) 2018年12月31日現在のFVOCIで測定される有価証券の内訳は以下のとおりである。 (単位 : 百万ウォン)

	2018年12月31日		
	額面金額	取得原価	公正価値 (帳簿価額)
ウォン建て有価証券 :			
株式および持分投資	-	10,114,953	10,193,423
国公債	3,673,435	3,563,031	3,562,665
金融債	1,702,000	1,702,746	1,703,597
社債	7,624,117	7,648,220	7,661,575
その他	103,839	103,120	481,954
	13,103,391	23,132,070	23,603,214
外貨建て / オフショア有価証券 :			
持分証券	-	4,241	1,844
債務証券	6,794,405	7,737,794	6,636,516
その他	35,820	35,684	35,812
	6,830,225	7,777,719	6,674,172
	19,933,616	30,909,789	30,277,386

債務証券からの転換による取得により保有されている持分証券、現物投資ならびにベンチャーおよび中小企業への投資は、FVOCIで測定されるものとして指定されている。2018年12月31日に終了した年度の持分証券の売却に係る実現税引前利益は44,013百万ウォンであり、これは利益剰余金に直接認識された。

(2) 2018年12月31日に終了した年度のFVOCIで測定される有価証券の変動は以下のとおりである。 (単位 : 百万ウォン)

	2018年
期首残高	35,092,658
取得	11,362,496
処分	(16,274,473)
償却による変動	(23,479)
公正価値変動	(131,956)
振替	(11,786)
為替換算差額	207,705
その他(*)	56,221
期末残高	30,277,386

(*1) 2018年12月31日に終了した年度について、「その他」は、債務者再生破産法に基づく再生計画に従って取得したSTX重工業株式会社、STXエンジン株式会社、ウヤンHCカンパニー・リミテッドおよびナムグアン土建株式会社の株式、転換社債の転換権の行使により取得したエコマイスター・カンパニー・リミテッド、アリバイオ・カンパニー・リミテッド等の株式ならびに会社再編促進法に基づく金融機関債権者委員会のデット・エクイティ・スワップに関する決定に従って取得したDIBカンパニー・リミテッドの株式を含むFVOCIで測定される有価証券の増加を表している。

(3) 2018年12月31日現在のFVOCIで測定される有価証券における売却制限付持分証券は以下のとおりである。(単位:百万ウォンおよび株)

会社名	2018年12月31日		
	株式数	帳簿価額	制限期間
UAMCOリミテッド	85,050	118,130	定めなし
大韓電線株式会社(*1)	15,926,991	16,166	定めなし
株式会社EMテック	81,621	1,396	2019年2月7日まで
韓進重工業株式会社	1,208,588	2,000	2019年12月31日まで
ピョンサン・カンパニー・リミテッド	222,222	-	2019年12月31日まで
HMRカンパニー・リミテッド	35,972	-	2019年12月31日まで
クレア・イン・カンパニー・リミテッド	14,383	46	2021年12月31日まで
クムホ・タイヤ・カンパニー・リミテッド	21,339,320	2023年7月6日まで	
		113,312	(*2)
	38,914,147	251,050	

(*1)2018年12月31日に終了した年度に売却制限等の決定が公表されたことにより、株式数が変動した。

(*2)2021年7月6日以降、株式の50%を毎年売却することができる。

(4) 2018年12月31日に終了した年度のFVOCIで測定される有価証券に関連する損失引当金の変動は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年			
	全期間の予想信用損失			
	12ヶ月間の予想 信用損失	信用減損 していない	信用減損 している	合計
期首残高	5,988	8,096	107,010	121,094
12ヶ月間の予想信用損失への振替	40	(40)	-	-
全期間の予想信用損失への振替:				
信用減損していない債務証券への振替	(2,111)	2,111	-	-
損失引当金繰入(戻入)	4,448	(7,261)	17,559	14,746
償却	-	-	(4,848)	(4,848)
売却	(1,556)	(5)	-	(1,561)
デット・エクイティ・スワップ	-	-	(30,950)	(30,950)
為替換算差額	160	2	476	638
その他	(1,294)	(585)	(19,112)	(20,991)
期末残高	5,675	2,318	70,135	78,128

9. 売却可能金融資産

(1) 2017年12月31日現在の売却可能金融資産は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

2017年12月31日

ウォン建て売却可能金融資産：

持分証券	
株式および持分投資	12,579,035
受益証券	2,380,828
その他	377,339
	15,337,202

債務証券：

国公債	3,746,731
金融債	4,827,814
社債	9,240,628
	17,815,173
	33,152,375

外貨建て／オフショア売却可能金融資産：

持分証券	347,999
債務証券	6,093,552
	6,441,551
	39,593,926

活発な市場で取引価格がなく、その公正価値が信頼性をもって測定できない持分証券は、2017年12月31日現在で10,062,034百万ウォンで取得原価で計上されている。

(2) 2017年12月31日に終了した年度の売却可能金融資産の変動は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

2017年

期首残高	43,810,626
取得	18,214,038
処分	(21,695,219)
償却による変動	(46,260)
公正価値変動	162,531
減損損失	(225,227)
減損損失戻入	2,297
振替	(11,118)
為替換算差額	(698,621)
その他(*)	80,879
期末残高	39,593,926

(*)2017年12月31日に終了した年度について、「その他」は、債務者再生破産法に基づく再生計画に従って取得したSTX重工業株式会社の株式、会社再編促進法に基づく金融機関債権者委員会のデット・エクイティ・スワップに関する決定に従って取得したチヌン・インターナショナル・インクの株式および転換社債の転換権の行使により取得したフェニックス・マテリアルズ・カンパニー・リミテッド等の株式を含む売却可能持分証券の増加を表している。

(3) 2017年12月31日現在の売却可能金融資産における売却制限付持分証券は、以下のとおりである。（単位：百万ウォンおよび株）

会社名	2017年12月31日		
	株式数	帳簿価額	制限期間
クムホ・タイヤ・カンパニー・リミテッド	21,339,320	94,426	定めなし
大韓電線株式会社(*1)	16,476,369	18,536	定めなし
アジン・ピー・アンド・ピー・カンパニー・リミテッド	516,270	5,321	定めなし
ナショナル・ハピネス・ファンド	34,066	56,710	定めなし
ジェヨン・ソルテック・カンパニー・リミテッド	1,962,000	3,532	2018年5月18日まで
チヌン・インターナショナル・インク(*2)	11,118,952	21,293	2018年12月31日まで
韓進重工業株式会社	1,208,588	4,000	2018年12月31日まで
クレア・イン・カンパニー・リミテッド	14,383	46	2021年12月21日まで
	52,669,948	203,864	

(*1)2017年12月31日に終了した年度の主要株主等で構成される委員会の決定に従い、一部の株式は売却された。

(*2)2017年12月31日に終了した年度の減資およびデット・エクイティ・スワップに関する決定後、株式数が変動した。

(4) 2017年12月31日現在の売却可能金融資産における債務証券の内訳は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2017年12月31日		
	額面金額	取得原価	公正価値 (帳簿価額)
ウォン建て国公債	3,789,401	3,847,479	3,746,731
ウォン建て金融債	4,838,000	4,834,248	4,827,814
ウォン建て社債	9,419,047	9,442,867	9,240,628
外貨建て／オフショア債務証券	6,221,072	7,265,949	6,093,552
	24,267,520	25,390,543	23,908,725

10. 償却原価で測定される有価証券

(1) 2018年12月31日現在の償却原価で測定される有価証券は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日	
	償却原価	公正価値
ウォン建て有価証券：		
国公債	1,684,759	1,689,794
金融債	1,281,169	1,281,452
社債	1,306,067	1,334,464
その他	104	104
	4,272,099	4,305,814
外貨建て有価証券：		
社債	1,422,345	1,307,909
	5,694,444	5,613,723
控除：		
損失引当金	(2,828)	-
	5,691,616	5,613,723

(2) 2018年12月31日に終了した年度の売却可能金融資産の変動は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年
期首残高	3,784,622
取得	2,246,392
償還	(389,465)
償却による変動	8,007
減損損失	(1,296)
為替換算差額	43,356
期末残高	5,691,616

11. 満期保有金融資産

(1) 2017年12月31日現在の満期保有金融資産は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2017年12月31日	
	償却原価	公正価値
ウォン建て満期保有金融資産：		
国公債	2,701,517	2,525,474
社債	1,979,046	1,903,232
その他	103	103
	4,680,666	4,428,809
外貨建て / オフショア満期保有金融資産：		
債務証券	1,359,975	1,323,970
	6,040,641	5,752,779

(2) 2017年12月31日に終了した年度の満期保有金融資産の変動は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2017年
期首残高	5,446,948
取得	857,249
償還	(76,713)
償却による変動	(25,641)
振替	(561)
為替換算差額	(160,641)
期末残高	6,040,641

12. FVTPLで測定される貸出債権

(1) 2018年12月31日現在のFVTPLで測定される貸出債権は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日	
	償却原価	公正価値
ウォン建て貸出債権：		
設備開発資金貸付	1,639	1,620
私募社債	794,682	777,264
その他	866	636
	797,187	779,520

(2) 2018年12月31日に終了した年度のFVTPLで測定される貸出債権に関連する利益（損失）は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日
FVTPLで測定される貸出債権に係る取引益（損）	
取引益	17,507
取引損	(29,456)
	(11,949)
FVTPLで測定される貸出債権に係る評価益（損）	
評価益	80,637
評価損	(48,410)
	32,227
	20,278

13. 償却原価で測定される貸出債権

(1) 2018年12月31日現在の償却原価で測定される貸出債権および貸倒引当金は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年12月31日	
	償却原価	公正価値
ウォン建て貸出債権:		
運転資金貸付	50,817,833	51,209,468
設備開発資金貸付	49,318,944	50,062,006
個人向け貸付	1,938,506	1,938,735
銀行間貸付	2,335,704	2,233,284
その他	19,544	17,800
	104,430,531	105,461,293
外貨建て貸出債権:		
貸出債権	14,331,909	15,697,934
銀行間貸付	2,359,674	2,783,581
対外借入による貸付	139,186	142,882
オフショア貸付	11,321,258	12,042,473
	28,152,027	30,666,870
その他貸出債権:		
外貨建て買入手形	1,364,594	1,351,344
引受・保証前渡金	93,009	7,595
私募社債	1,882,546	1,595,981
クレジットカード債権	129,975	129,417
その他	8,927,518	7,927,060
	12,397,642	11,011,397
	144,980,200	147,139,560
控除:		
貸倒引当金	(2,821,778)	
現在価値割引差金	(6,749)	
繰延貸出組成手数料	4,821	
	142,156,494	

(2) 2018年12月31日に終了した年度の貸倒引当金の変動は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年			
	12ヵ月間の予想 信用損失	全期間の予想信用損失		
		信用減損 していない	信用減損 している	合計
期首残高	307,032	755,784	1,982,609	3,045,425
12ヵ月間の予想信用損失への振替	5,345	(5,330)	(15)	-
全期間の予想信用損失への振替:				
信用減損していない貸出債権への 振替	(68,534)	535,953	(467,419)	-
信用減損している貸出債権への 振替	(110,508)	(92,961)	203,469	-
貸倒引当金繰入(戻入)	99,888	(88,558)	161,356	172,686
償却	-	-	(238,338)	(238,338)
回収	-	-	72,894	72,894
売却	(215)	-	(114,954)	(115,169)
デット・エクイティ・スワップ	-	-	(120,236)	(120,236)
為替換算差額	1,123	26,306	6,794	34,223
その他	(42,574)	(4,076)	16,943	(29,707)
期末残高	191,557	1,127,118	1,503,103	2,821,778

(3) 2018年12月31日に終了した年度の償却原価で測定される貸出債権に関連する損失は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年
貸倒引当金繰入	(172,686)

貸出債権処分損	(101,146)
	(273,832)

(4) 2018年12月31日に終了した年度の正味繰延貸出組成費用および手数料の変動は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

2018年	
期首残高	(2,921)
新規繰延	14,065
償却	(6,323)
期末残高	4,821

14. 貸出債権および貸倒引当金

(1) 2017年12月31日現在の貸出債権および貸倒引当金は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2017年12月31日	
	償却原価	公正価値
ウォン建て貸出債権:		
運転資金貸付	48,286,948	47,122,419
設備開発資金貸付	51,511,474	51,077,636
個人向け貸付	2,788,599	2,790,563
銀行間貸付	2,133,208	1,922,782
その他	46,344	44,600
	104,766,573	102,958,000
外貨建て貸出債権:		
貸出債権	13,606,255	14,012,041
銀行間貸付	1,343,701	1,345,326
対外借入による貸付	154,063	158,332
オフショア貸付	10,760,842	11,166,776
	25,864,861	26,682,475
その他貸出債権:		
外貨建て買入手形	2,303,336	2,241,469
引受・保証前渡金	113,412	33,272
私募社債	3,063,881	2,607,572
クレジットカード債権	100,872	100,052
その他	10,235,953	10,132,122
	15,817,454	15,114,487
	146,448,888	144,754,962
控除:		
貸倒引当金	(3,006,128)	
現在価値割引差金	(215,857)	
繰延貸出組成手数料	(2,787)	
	143,224,116	

(2) 2017年12月31日に終了した年度の貸倒引当金の変動は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2017年					
	ウォン建て貸出債権			その他貸出債権		
	運転資金 貸付	設備開発 資金貸付	その他	外貨建て 貸出債権	私募社債	その他
期首残高	1,002,761	543,495	154,562	464,849	529,527	368,477
貸倒引当金繰入	523,213	252,312	62	(6,317)	36,472	171,219
償却	(49,090)	(47,074)	(2,471)	(19,926)	-	(2,919)
為替換算差額	-	-	-	(70,332)	(23)	(38,482)
その他	(319,512)	(226,592)	(18)	(26,853)	(67,635)	(163,577)
期末残高	1,157,372	522,141	152,135	341,421	498,341	334,718
						3,006,128

(3) 2017年12月31日に終了した年度の貸出債権に関連する損失は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

2017年

貸倒引当金繰入	(976,961)
貸出債権処分損	(83,011)
	(1,059,972)

(4) 2017年12月31日に終了した年度の正味繰延貸出組成費用および手数料の変動は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2017年
期首残高	(6,323)
新規繰延	13,284
償却	(9,748)
期末残高	(2,787)

15. 金融派生商品

当グループの金融派生商品は、取引の性質に応じて売買目的金融派生商品およびヘッジ目的の金融派生商品からなる。当グループは、主に原資産および負債の公正価値の変動ならびに将来キャッシュ・フローの変動に関連するリスクのヘッジのためにヘッジ目的金融派生商品取引を締結する。

当グループは、原資産の将来価値を見越した裁定取引として先物、先渡、スワップおよびオプション等の売買目的金融派生商品取引を締結している。売買目的金融派生商品取引には、当グループ顧客との契約およびその清算にかかるポジションが含まれる。

金利変動によるウォン建てファンドの公正価値および将来キャッシュ・フローの変動リスクをヘッジする目的で、当グループは、主に金利スワップまたは通貨スワップを用いている。主な相手方は、海外金融機関および地方銀行である。また、金利および為替変動による外貨建て債券の公正価値の変動リスクをヘッジするため、当グループは、主に金利スワップまたは通貨スワップを用いている。

(1) 2018年および2017年12月31日現在の金融派生商品取引の想定元本残高および金融派生商品の帳簿価額は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年12月31日			
	想定元本額		帳簿価額	
	購入	売却	資産	負債
売買目的金融派生商品:				
金利				
先物	-	689,556	-	-
スワップ	224,625,012	224,267,154	1,023,098	768,141
オプション	3,522,037	9,170,743	78,355	143,062
	228,147,049	234,127,453	1,101,453	911,203
通貨				
先物	16,772	-	-	-
先渡	58,264,628	55,296,313	722,550	729,166
スワップ	45,384,061	49,880,825	1,199,601	1,135,874
オプション	185,957	80,891	771	1,643
	103,851,418	105,258,029	1,922,922	1,866,683
株式				
先物	1,515	-	-	-
先渡	-	500,000	128,063	-
オプション	182,777	335,551	19,701	763
	184,292	835,551	147,764	763
その他	866	-	-	-
引当金およびその他調整	-	-	(4,149)	(489)
	332,183,625	340,221,033	3,167,990	2,778,160
ヘッジ目的金融派生商品:				
金利(*)				
先物	-	26,834	-	-
スワップ	24,581,227	24,581,227	613,658	160,246
	24,581,227	24,608,061	613,658	160,246
通貨				
先渡	2,965	2,475,914	45,553	15,726
スワップ	7,065,363	8,106,884	99,158	280,193
	7,068,328	10,582,798	144,711	295,919
引当金およびその他調整	-	-	(854)	(5,221)
	31,649,555	35,190,859	757,515	450,944
	363,833,180	375,411,892	3,925,505	3,229,104

(*)キャッシュ・フロー・ヘッジ会計が適用される金融派生商品契約がキャッシュ・フローの変動リスクに晒される
予想最長期間は、2020年9月11日までである。

2017年12月31日				
	想定元本額		帳簿価額	
	購入	売却	資産	負債
売買目的金融派生商品:				
金利	263,055,552	269,217,941	1,091,959	1,049,139
通貨	90,936,025	94,628,525	4,415,882	4,185,092
株式	788,851	1,782,106	11,482	3,058
コモディティ	1,232	1,232	375	375
組込金融派生商品	663,564	250,000	145,091	4,503
引当金およびその他調整	-	-	(6,313)	(570)
	355,445,224	365,879,804	5,658,476	5,241,597
ヘッジ目的金融派生商品:				
金利	17,494,445	17,512,016	506,903	209,428
通貨	7,651,056	9,780,795	217,588	378,547
引当金およびその他調整	-	-	(388)	(5,581)
	25,145,501	27,292,811	724,103	582,394
	380,590,725	393,172,615	6,382,579	5,823,991

(2)2018年12月31日現在のヘッジ目的金融派生商品の満期別の想定元本は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

2018年12月31日					
	1ヶ月未満	1 - 3ヶ月未満	3 - 12ヶ月未満	1 - 5年未満	5年以上
金利:					合計
想定元本残高	152,871	1,158,547	2,161,580	12,041,881	9,066,348 24,581,227
通貨:					
想定元本残高	-	53,711	1,777,382	4,821,900	412,370 7,065,363

(3)2018年12月31日現在のリスクタイプ別のヘッジ目的金融派生商品残高の内訳は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

2018年12月31日					
	想定元本額		残高		2018年の 公正価値変動
	購入	売却	資産	負債	
キャッシュ・フロー・ヘッジ会計:					
金利リスク					
スワップ	1,250,000	1,250,000	65	3,831	4,393
公正価値ヘッジ会計：					
金利リスク					
先物	-	26,834	-	-	-
スワップ	23,331,227	23,331,227	613,593	156,415	78,475
	23,331,227	23,358,061	613,593	156,415	78,475
為替リスク					
先渡	2,965	2,475,914	45,553	15,726	166,944
スワップ	7,065,363	8,106,884	99,158	280,193	(219,736)
	7,068,328	10,582,798	144,711	295,919	(52,792)
	30,399,555	33,940,859	758,304	452,334	25,683
	31,649,555	35,190,859	758,369	456,165	30,076

(4) 2018年12月31日現在のリスクタイプ別のヘッジ対象残高の内訳は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

2018年12月31日					
帳簿価額		公正価値ヘッジ会計による調整		キャッシュ・フロー・ヘッジ	
資産	負債	資産	負債	2018年の公正価値変動	に係るのその他の包括利益
キャッシュ・フロー・ヘッジ会計:					
金利リスク					
債券	-	1,250,000	-	-	(744)
公正価値ヘッジ会計:					
金利リスク					
FVOCIで測定される有価証券	2,022,991	-	(11,308)	-	(2,001)
債券	-	22,750,065	-	(238,234)	(74,840)
その他の負債 (預金等)	-	105,611	-	(6,199)	4,386
	2,022,991	22,855,676	(11,308)	(244,433)	(72,455)
為替リスク(*)					
外貨建有価証券	3,518,929	-	(34,540)	-	(24,824)
債券	-	7,184,750	-	(227,240)	236,445
	3,518,929	7,184,750	(34,540)	(227,240)	211,621
	5,541,920	30,040,426	(45,848)	(471,673)	139,166
	5,541,920	31,290,426	(45,848)	(471,673)	139,166
					(744)

(*)ヘッジ対象に指定されている確定約定の場合は含まれない。

(5) 2018年12月31日に終了した年度の金融派生商品からの損益に認識されているヘッジの有効性の内訳は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

2018年	
金利リスク	6,020
為替リスク(*)	5,364
	11,384

(*)ヘッジ対象に指定されている確定約定の場合は含まれない。

(6) 2018年12月31日に終了した年度のキャッシュ・フロー・ヘッジ会計の適用により包括利益計算書に影響を及ぼした金額の概要は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

2018年			
	その他の包括利益に認識されたヘッジ手段の価値の変動	損益に認識されたヘッジの有効性(*)	その他の包括利益から損益に振り替えられた金額(*)
金利リスク	4,284	109	468

(*)ヘッジ目的金融派生商品に関連する損益が認識された。

16. 関連会社投資

(1) 2018年および2017年12月31日現在の関連会社投資は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年12月31日	2017年12月31日
韓国電力公社	22,948,911	23,586,443
韓国観光公社	341,233	340,605
韓国インフラ構造基金第2号	233,806	234,167
現代商船	-	117,532
GMコリア・カンパニー	22,681	-
韓国海洋事業公社	134,307	-
その他	4,271,392	3,775,810
	27,952,330	28,054,557

(2) 2018年および2017年12月31日現在の市場性のある関連会社投資の市場価格は以下のとおりである。(単位:百ウォン)

	市場価格		帳簿価額	
	2018年12月31日	2017年12月31日	2018年12月31日	2017年12月31日
韓国電力公社	6,991,887	8,058,625	22,948,911	23,586,443
現代商船	152,231	206,820	-	117,532
東部製鉄	68,880	69,229	32,028	60,698

(3) 2018年および2017年12月31日に終了した年度の関連会社投資の変動は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年							
	2018年 1月1日	取得 / 移転	処分 / 移転	利益(損失) に占める 持分	減損損失(*) に占める持分	その他の包括 利益(損失) に占める持分	配当金	その他
韓国電力公社	23,586,443	-	-	(432,552)	-	(38,104)	(166,876)	-
韓国観光公社	340,605	-	-	12,778	-	(10,298)	(1,852)	-
現代商船	117,532	-	-	(106,485)	-	(88,725)	-	77,678
GMコリア・カンパニー	-	809,025	-	(486,340)	(303,222)	-	-	3,218
韓国インフラ構造基金第2号	234,167	-	(618)	8,477	-	-	(8,220)	-
韓国海洋事業公社	-	134,307	-	-	-	-	-	134,307
その他	3,777,383	1,101,944	(841,455)	554,648	(44,095)	16,201	(257,808)	(35,426)
	28,056,130	2,045,276	(842,073)	(449,474)	(347,317)	(120,926)	(434,756)	45,470
						27,952,330		

(*) 当グループは、2018年12月31日に終了した年度に、GMコリア・カンパニーおよびその他21社について、見積キャッシュ・フローの減少による資金生成単位の公正価値の減少を減損の客観的証拠とみなして、347,317百万ウォンの減損損失を認識した。2018年12月31日現在の回収可能額は380,877百万ウォンである。

	2017年							
	2017年 1月1日	取得 / 移転	処分 / 移転	利益(損失) に占める 持分	減損損失	その他の包括 利益(損失) に占める持分	配当金	その他
韓国電力公社	23,600,344	-	-	427,338	-	(22,993)	(418,246)	-
韓国観光公社	333,029	-	-	9,124	-	(1,548)	-	-
現代商船	138,047	78,809	-	(169,319)	-	68,110	-	1,885
韓国インフラ構造基金第2号	233,676	1,632	(861)	12,166	-	-	(12,446)	-
その他(*)	3,206,812	1,369,465	(654,168)	21,420	(27,379)	84,551	(166,347)	(58,544)
	27,511,908	1,449,906	(655,029)	300,729	(27,379)	128,120	(597,039)	(56,659)
						28,054,557		

(*) 当グループは、2017年12月31日に終了した年度に、トロイカ・リソーシズ・インベストメント・プライベート・エクイティ・ファンドおよびその他10ファンドについて、見積キャッシュ・フローの減少による資金生成単位の公正価値の減少を減損の客観的証拠とみなして、27,379百万ウォンの減損損失を認識した。2017年12月31日現在の回収可能額は、使用価値である155,732百万ウォンであった。

(4) 2018年および2017年12月31日現在ならびに同日に終了した年度の投資した関連会社の主要な財務情報および持分比率は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

2018年12月31日										
	会計 国	年度末	業種	資産	負債	資本	営業収益	当期純利益 (損失)	包括利益 (損失)合計	持分比率 (%)
韓国電力公社	韓国	12月	発電	185,249,061	114,156,299	71,092,762	60,627,610	(1,314,567)	(1,426,477)	32.90
韓国観光公社			文化							
	韓国	12月	観光業	1,428,674	370,333	1,058,341	738,061	9,053	5,690	43.58
現代商船(*1)	韓国	12月	海運	4,121,440	3,081,769	1,039,671	5,222,124	(790,739)	(807,995)	13.05
GMコリア・カンパニー(*2)	韓国	12月	製造	6,128,492	3,862,366	2,266,126	9,341,988	(833,987)	(828,248)	17.02
韓国インフラ構造基金第2号	韓国	12月	金融投資	850,334	32,069	818,265	61,021	54,008	54,008	26.67
韓国海洋事業公社(*3)	韓国	12月	金融投資	2,715,960	344,344	2,371,616	30,663	(195,474)	(200,715)	4.62

2017年12月31日										
	会計 国	年度末	業種	資産	負債	資本	営業収益	当期純利益 (損失)	包括利益 (損失)合計	持分 比率(%)
韓国電力公社	韓国	12月	発電	181,788,915	108,824,274	72,964,641	59,814,862	1,298,720	1,230,194	32.90
韓国観光公社			文化							
	韓国	12月	観光業	1,402,083	359,898	1,042,185	732,967	20,934	17,383	43.58
現代商船(*1)	韓国	12月	海運	3,602,418	2,705,498	896,920	5,028,016	(1,218,503)	(1,325,963)	13.13
GMコリア・カンパニー(*2)	韓国	12月	製造	6,008,278	7,626,156	(1,617,878)	10,913,237	(1,626,576)	(1,629,680)	17.02
韓国インフラ構造基金第2号	韓国	12月	金融投資	829,503	9,885	819,618	29,627	43,704	43,704	26.67

(*1) 現代商船に対する当グループの持分比率は20%未満であるが、当グループが金融機関債権者委員会の主要債権者銀行として現代商船に対して重要な影響力を有しているとみなされているため、持分法が適用されている。

(*2) GMコリア・カンパニーに対する当グループの持分比率は20%未満であるが、当グループが理事会役員の任命権を行使することにより同社に対して重要な影響力を有しているとみなされているため、持分法が適用されている。

(*3) 韓国海洋事業公社に対する当行の持分比率は20%未満であるが、当行は重要な影響力を有しているとみなされている。

17. 有形固定資産

2018年および2017年12月31日に終了した年度の有形固定資産の変動は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年						
	2018年 1月1日	取得/ 減価償却	処分	振替	為替換算 差額	その他	2018年 12月31日
取得原価:							
土地	2,603,869	2,716	(7,871)	56,138	38	(37,215)	2,617,675
建物および構築物	3,666,906	28,614	(258,121)	(1,210)	202	23,959	3,460,350
賃借物件改良	44,643	4,938	(4,231)	(38)	(65)	-	45,247
車両	356,136	17,041	(61,441)	-	2	(6,421)	305,317
備品	821,996	32,590	(7,486)	(158)	(17)	17,344	864,269
建設仮勘定	621,394	111,363	(781)	(79,304)	-	(9,281)	643,391
その他	2,240,615	99,703	(92,557)	166	(2)	2,484	2,250,409
	10,355,559	296,965	(432,488)	(24,406)	158	(9,130)	10,186,658
減価償却累計額:(*)							
建物および構築物	1,258,571	96,580	(90,513)	(355)	1,588	(16,879)	1,248,992
賃借物件改良	35,762	4,262	(3,888)	-	(145)	-	35,991
車両	243,462	19,101	(22,506)	-	8	-	240,065
備品	607,175	37,382	(5,519)	-	12	(874)	638,176
建設仮勘定	2,810	-	-	-	-	-	2,810
その他	1,389,278	118,998	(62,656)	-	13	(25,848)	1,419,785
	3,537,058	276,323	(185,082)	(355)	1,476	(43,601)	3,585,819
減損損失累計額:							
土地	98,111	(9)	(2,178)	-	-	-	95,924
建物および構築物	289,946	(5,426)	(86,098)	-	21	-	198,443
車両	38,669	1	(7,405)	-	-	-	31,265
備品	153,424	182	(162)	-	-	-	153,444
建設仮勘定	24,762	2,379	(781)	-	-	-	26,360
その他	186,678	1,653	(4,892)	-	-	(39,876)	143,563
	791,590	(1,220)	(101,516)	-	21	(39,876)	648,999
	6,026,911	21,862	(145,890)	(24,051)	(1,339)	74,347	5,951,840

(*)かかる金額には政府補助金が含まれている。

2017年

	2017年 1月1日	取得/ 減価償却	処分	振替	為替換算 差額	その他	2017年 12月31日
取得原価:							
土地	2,611,240	99,046	(3,973)	828	(21)	(103,251)	2,603,869
建物および構築物	3,486,528	202,150	(986)	(1,461)	(11,741)	(7,584)	3,666,906
賃借物件改良	46,412	2,676	(2,912)	-	(1,272)	(261)	44,643
車両	375,429	8,630	(1,089)	-	(5,308)	(21,526)	356,136
備品	806,399	50,454	(5,911)	934	(5,402)	(24,478)	821,996
建設仮勘定	671,815	170,453	(17,734)	(2,493)	(8,673)	(191,974)	621,394
その他	2,170,876	184,435	(4,913)	(5,867)	(25,202)	(78,714)	2,240,615
	10,168,699	717,844	(37,518)	(8,059)	(57,619)	(427,788)	10,355,559
減価償却累計額:(*)							
建物および構築物	1,140,183	66,365	(198)	(987)	(2,708)	55,916	1,258,571
賃借物件改良	33,995	4,893	(2,398)	-	(1,026)	298	35,762
車両	240,144	16,686	(526)	-	(291)	(12,551)	243,462
備品	599,693	(4,091)	(4,266)	-	(2,561)	18,400	607,175
建設仮勘定	-	2,810	-	-	-	-	2,810
その他	1,254,646	179,954	(254)	(2,416)	(146)	(42,506)	1,389,278
	3,268,661	266,617	(7,642)	(3,403)	(6,732)	19,557	3,537,058
減損損失累計額:							
土地	3,191	95,069	-	(158)	-	9	98,111
建物および構築物	182,514	63,355	(44)	(21)	-	44,142	289,946
賃借物件改良	298	-	-	-	-	(298)	-
車両	15,485	22,875	-	-	-	308	38,668
備品	3,608	146,234	(15)	-	-	3,598	153,425
建設仮勘定	83,002	(66,583)	-	-	-	8,343	24,762
その他	33,957	179,594	(14)	(2,290)	-	(24,569)	186,678
	322,055	440,544	(73)	(2,469)	-	31,533	791,590
	6,577,983	10,683	(29,803)	(2,187)	(50,887)	(478,878)	6,026,911

(*)かかる金額には政府補助金が含まれている。

18. 投資不動産

2018年および2017年12月31日に終了した年度の投資不動産の変動は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年			
	2018年 1月1日	取得/ 減価償却/ 減損	振替	その他
				2018年 12月31日
取得原価:				
土地	278,635	-	(17,604)	-
建物および構築物	236,856	1,908	(4,959)	-
	515,491	1,908	(22,563)	-
				494,836
減価償却累計額:				
建物および構築物	96,808	6,083	355	(1,602)
				101,644
減損損失累計額:				
土地	2,966	18,182	(1,660)	-
建物および構築物	3,131	3,302	-	-
	6,097	21,484	(1,660)	-
	412,586	(25,659)	(21,258)	1,602
				367,271
	2017年			
	2017年 1月1日	取得/ 減価償却/ 減損	振替	その他
				2017年 12月31日
取得原価:				
土地	279,455	-	(820)	-
建物および構築物	234,532	460	2,677	(813)
	513,987	460	1,857	(813)
				515,491
減価償却累計額:				
建物および構築物	89,440	6,301	976	91
				96,808
減損損失累計額:				
土地	2,808	-	158	-
建物および構築物	1,820	1,353	(42)	-
	4,628	1,353	116	-
	419,919	(7,194)	765	(904)
				412,586

2018年および2017年12月31日現在の独立第三者評価機関の評価基準に基づき算定された当グループの投資不動産の公正価値は、それぞれ391,734百万ウォンおよび435,669百万ウォンであった。また、投資不動産の公正価値は、注記58に記載の公正価値ヒエラルキーに従ってレベル3に分類されている。

19. 無形固定資産

2018年および2017年12月31日に終了した年度の無形固定資産の変動は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年								
	2018年 1月1日	取得	処分	振替	償却	減損損失	為替換算 差額	その他	2018年 12月31日
のれん	107,361	-	-	-	-	(101,826)	2	-	5,537
顧客関連									
無形固定資産	328,200	-	-	-	(61,501)	(43,783)	-	-	222,916
会員権	37,661	-	(1,846)	33	(1,243)	(14)	4	(493)	34,102
その他	819,204	106,810	(12,271)	-	(151,667)	(73,809)	(40)	(10,998)	677,229
	1,292,426	106,810	(14,117)	33	(214,411)	(219,432)	(34)	(11,491)	939,784

	2017年								
	2017年 1月1日	取得	処分	振替	償却	減損損失	為替換算 差額	その他	2017年 12月31日
のれん	584,870	28,469	-	-	-	(498,296)	(28)	(7,654)	107,361
顧客関連									
無形固定資産	389,701	-	-	-	(61,501)	-	-	-	328,200
会員権	40,901	1,124	(2,617)	138	(1,697)	(318)	(10)	140	37,661
その他	946,410	62,954	(6,797)	(1,148)	(155,539)	(29,416)	(883)	3,623	819,204
	1,961,882	92,547	(9,414)	(1,010)	(218,737)	(528,030)	(921)	(3,891)	1,292,426

20. その他の資産

2018年および2017年12月31日現在のその他の資産は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日	2017年12月31日
未収金	3,709,630	6,438,011
未決済為替貸	1,741,236	2,144,474
未収收益	748,108	713,022
保証金	596,576	494,707
受取債権	8,671,984	9,524,417
棚卸資産	2,261,047	1,493,496
前払費用	249,888	464,478
前払金	949,739	1,305,758
繰延取得費用	485,150	559,491
特別勘定資産	636,853	784,526
金融保証資産	22,638	23,371
その他	187,053	181,575
	20,259,902	24,127,326
貸倒引当金	(1,595,571)	(2,860,413)
現在価値割引差金	(3,915)	(2,874)
	18,660,416	21,264,039

上記その他の資産に含まれる金融資産の帳簿価額は、2018年および2017年12月31日現在でそれぞれ15,490,171百万ウォンおよび19,338,002百万ウォンであった。また、その公正価値は、2018年および2017年12月31日現在でそれぞれ15,405,204百万ウォンおよび19,117,731百万ウォンであった。

21. 売却目的保有資産および負債

2018年および2017年12月31日現在の売却目的保有資産および負債は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日	2017年12月31日
売却目的保有資産		
処分資産グループ(*1)	-	2,606
有形固定資産(*2)	127,427	184,489
その他(*2)	14,711	77,199
	142,138	264,294
売却目的負債		
処分負債グループ(*1)	-	18,954

(*1)かかる資産および負債は大宇造船海洋の子会社が保有しており、2018年に売却された。

(*2)かかる金額は、大宇建設および大宇造船海洋等により売却される予定である有形固定資産および関連会社投資等で構成されている。

22. 当期損益認識金融負債

(1) 2018年および2017年12月31日現在の当期損益認識金融負債は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日	2017年12月31日
借入金(*1)	-	42,472
債券(*2)	2,164,538	1,583,713
	2,164,538	1,626,185

(*1)2017年12月31日現在、大宇造船海洋は、51,252百万ウォンを当期損益認識金融負債に指定しており、子会社および関連会社に対する債務保証条件を変更することが予想される。

(*2)ヘッジ会計が適用される仕組み債券の公正価値の変動は損益に認識されるが、ヘッジ会計が適用されない仕組み債券は償却原価で測定される。そのため、ヘッジ会計が適用されない仕組み債券は、会計上の損益の測定におけるミスマッチを除去するために、当期損益認識金融負債に指定されている。

(2) 2018年および2017年12月31日現在の当期損益認識金融負債の帳簿価額と契約上のキャッシュ・フロー額との差額は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日	2017年12月31日
帳簿価額	2,164,538	1,626,185
契約上のキャッシュ・フロー額	2,040,344	1,583,494
差額	124,194	42,691

23. 預金

2018年および2017年12月31日現在の預金は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日		2017年12月31日	
	償却原価	公正価値	償却原価	公正価値
ウォン建て預金：				
要求払預金	96,884	96,884	88,750	88,750
定期預金・当座預金	24,991,770	25,005,060	24,536,856	24,522,865
譲渡性預金証書	52,457	52,481	1,510,344	1,510,198
	25,141,111	25,154,425	26,135,950	26,121,813
外貨建て預金：				
要求払預金	1,634,268	1,634,268	2,164,426	2,164,426
定期預金・当座預金	2,587,657	2,527,790	2,762,094	2,762,127
譲渡性預金証書	4,024,479	3,219,921	2,857,274	2,857,056
	8,246,404	7,381,979	7,783,794	7,783,609
外貨建てオフショア預金：				
要求払預金	561,660	561,660	380,345	380,345
	33,949,175	33,098,064	34,300,089	34,285,767

24. 借入金

(1) 2018年および2017年12月31日現在の借入金は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日			
	最低金利(%)	最高金利(%)	償却原価	公正価値
ウォン建て借入金	-	3.28	6,673,377	6,654,888
外貨建て借入金	0.05	5.45	13,796,993	13,838,257
外貨建てオフショア借入金	1.46	4.32	1,178,016	1,180,969
要求払株式資本	-	-	1,683,381	1,683,381
その他	0.15	5.30	3,119,668	3,180,971
			26,451,435	26,538,466
現在価値割引差金			(71,396)	
繰延借入費用			(500)	
			26,379,539	

	2017年12月31日			
	最低金利(%)	最高金利(%)	償却原価	公正価値
ウォン建て借入金	-	3.28	9,205,358	9,204,510
外貨建て借入金	0.05	5.50	11,971,452	11,997,609
外貨建てオフショア借入金	0.69	4.32	1,353,241	1,355,070
要求払株式資本	-	-	1,679,986	1,679,986
その他	0.01	5.30	4,556,273	4,556,108
			28,766,310	28,793,283
現在価値割引差金			(72,297)	
繰延借入費用			(1,298)	
			28,692,715	

(2) 2018年および2017年12月31日現在の繰延借入費用調整前のウォン建て借入金は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

貸手	区分	年利(%)	2018年 12月31日	2017年 12月31日
韓国銀行	韓国銀行からの借入金	0.50 ~ 0.75	113,825	871,314
韓国企画財政部	政府基金からの借入金(*)	1.48 ~ 1.98	193,790	248,829
中小企業銀行	IT産業振興基金からの借入金	0.10 ~ 1.00	920	3,183
中小企業振興公団	中小企業振興基金からの借入金	0.70 ~ 3.04	87,023	104,161
韓国文化体育観光部	観光振興基金からの借入金	0.02 ~ 2.50	2,665,403	2,563,235
韓国エネルギー管理公団	エネルギー合理的利用基金からの借入金	0.25 ~ 3.10	551,411	648,512
地方政府	地方中小企業振興基金からの借入金	0.00 ~ 3.28	53,420	64,056
その他	石油企業基金からの借入金	0.00 ~ 3.15	3,007,585	4,702,068
			6,673,377	9,205,358

(*)政府基金からの借入は劣後特約付借入金である。

(3) 2018年および2017年12月31日現在の繰延借入費用調整前の外貨建て借入金およびオフショア借入金は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

貸手	区分	年利(%)	2018年 12月31日	2017年 12月31日
国際協力銀行(以下「JBIC」とJBICからの借入金 いう。)		1.73 ~ 2.16	139,187	154,063
みずほ銀行ほか	外国基金からの借入金	3MLibor+0.25 ~ 3MLibor+0.78	1,118,100	1,285,680
企画財政部	外貨建て外国為替平衡基金借入金	3MLibor+0.22 ~ 3MLibor+0.74	910,878	1,809,558
ウズベキスタン共和国中央銀 行ほか	オフショア短期借入金	1.46 ~ 2.57	721,081	1,069,868
HSBCほか	オフショア長期借入金	3MLibor+0.50 ~ 3MLibor+0.62	444,159	214,280
JBIC	JBICからのオフショア借入金	4.27 ~ 4.32	12,776	18,364
その他	外貨建て短期借入金	0.05 ~ 5.45	10,185,337	7,173,705
	外貨建て長期借入金	0.12 ~ 3.21	1,443,491	1,599,175
			14,975,009	13,324,693

25. 債券

(1) 2018年および2017年12月31日現在の債券は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年12月31日			
	最低金利(%)	最高金利(%)	償却原価	公正価値
ウォン建て債券 :				
債券	1.30	6.90	99,390,926	99,964,005
債券発行差金(割引)			(220,847)	
債券発行差金(プレミアム)			114	
公正価値ヘッジ評価調整			(35,014)	
			99,135,179	
外貨建て債券 :				
債券	0.02	6.97	13,908,908	13,712,548
債券発行差金(割引)			(29,947)	
公正価値ヘッジ評価調整			(160,260)	
			13,718,701	
オフショア債券 :				
債券	-	7.73	10,617,785	10,349,626
債券発行差金(割引)			(26,037)	
公正価値ヘッジ評価調整			(270,181)	
			10,321,567	
			123,175,447	124,026,179

	2017年12月31日			
	最低金利(%)	最高金利(%)	償却原価	公正価値
ウォン建て債券 :				
債券	1.29	6.90	97,802,120	97,711,691
債券発行差金(割引)			(259,028)	
債券発行差金(プレミアム)			203	
公正価値ヘッジ評価調整			(227,991)	
			97,315,304	
外貨建て債券 :				
債券	0.16	8.20	12,997,100	12,663,817
債券発行差金(割引)			(34,155)	
公正価値ヘッジ評価調整			(345,603)	
			12,617,342	
オフショア債券 :				
債券	-	7.73	10,628,444	10,331,998
債券発行差金(割引)			(24,660)	
公正価値ヘッジ評価調整			(308,425)	
			10,295,359	
			120,228,005	120,707,506

26. 保険契約準備金

2018年および2017年12月31日現在の保険種類別の保険契約準備金の内訳は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	種類	2018年12月31日	2017年12月31日
保険料積立金	生存保険	5,118,313	4,892,633
	死亡保険	5,583,240	5,146,633
	養老保険	4,597,906	4,613,106
	グループ保険	31,239	32,371
		15,330,698	14,684,743
未経過保険料積立金	生存保険	1	1
	死亡保険	197	221
	グループ保険	1,377	1,870
		1,575	2,092
支払備金	生存保険	105,956	101,816
	死亡保険	295,475	293,714
	養老保険	490,689	406,593
	グループ保険	6,064	6,530
		898,184	808,653
契約者配当準備金	生存保険	34,770	32,758
	死亡保険	3,809	4,220
	養老保険	1,966	2,115
	グループ保険	10	15
		40,555	39,108
超過契約者配当準備金		11,340	20,082
配当付保険損失引当金		7,158	-
保証給付準備金		35,824	32,160
		16,325,334	15,586,838

27. 確定給付負債

(1) 2018年および2017年12月31日現在の確定給付負債の内訳は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年12月31日	2017年12月31日
確定給付債務の現在価値	1,322,447	1,229,449
制度資産の公正価値(*)	(900,151)	(853,367)
正味確定給付負債	422,296	376,082
その他の長期従業員給付に係る負債	24,820	27,010
	447,116	403,092

(*)制度資産は、國民銀行、三星生命保険等に信託している。

(2) 2018年および2017年12月31日に終了した年度の確定給付負債の変動は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年			
	確定給付債務の現在価値	制度資産の公正価値	正味確定給付負債	その他の長期従業員給付に係る負債
期首残高	1,229,449	(853,367)	376,082	27,010
現在勤務費用	140,219	-	140,219	-
支払(受取)利息	36,145	(13,276)	22,869	-
確定給付負債の再測定:				
人口統計学上の仮定	(4,679)	-	(4,679)	-
財務上の仮定	47,940	4,349	52,289	-
制度資産収益	-	5,820	5,820	-
	43,261	10,169	53,430	-
制度からの支払金	(136,507)	70,829	(65,678)	-
制度への拠出金	-	(105,382)	(105,382)	-
その他	9,880	(9,124)	756	(2,190)
期末残高	1,322,447	(900,151)	422,296	24,820

	2017年			
	確定給付債務の現在価値	制度資産の公正価値	正味確定給付負債	その他の長期従業員給付に係る負債
期首残高	1,201,376	(812,823)	388,553	32,044
現在勤務費用	148,343	-	148,343	-
過去勤務費用	14	-	14	-
支払(受取)利息	24,441	(11,368)	13,073	-
確定給付負債の再測定:				
人口統計学上の仮定	650	-	650	-
財務上の仮定	(23,710)	-	(23,710)	-
制度資産収益	-	10,706	10,706	-
	(23,060)	10,706	(12,354)	-
制度からの支払金	(91,462)	27,273	(64,189)	-
その他	(30,203)	(67,155)	(97,358)	(5,034)
期末残高	1,229,449	(853,367)	376,082	27,010

(3)2018年および2017年12月31日現在の制度資産の公正価値の種類別内訳は以下のとおりである。 (単位 : 百万ウォン)

	2018年12月31日		2017年12月31日	
	公表市場価格	非公表市場価格	公表市場価格	非公表市場価格
持分証券	633	-	4,511	-
債務証券	12,176	-	6,229	-
預け金	538,728	348,127	518,904	321,910
その他	487	-	1,813	-
	552,024	348,127	531,457	321,910

(4)2018年および2017年12月31日に終了した年度の損益に認識された確定給付費用は以下のとおりである。 (単位 : 百万ウォン)

	2018年	2017年
現在勤務費用	140,219	148,343
過去勤務費用	-	14
正味支払利息	22,869	13,073
	163,088	161,430

(5)2018年および2017年12月31日現在の使用されている主な保険数理上の仮定は以下のとおりである。

	2018年12月31日	2017年12月31日
割引率(%)	2.20 ~ 2.77	1.70 ~ 3.25
将来昇給率(%)	2.00 ~ 6.23	1.90 ~ 6.50

(6)2018年12月31日現在の主な保険数理上の仮定の変更に伴う確定給付債務の現在価値感応度は以下のとおりである。

	感応度	
	仮定から 1 %の上昇	仮定から 1 %の低下
割引率	9.44%の低下	11.19%の上昇
将来昇給率	10.48%の上昇	9.04%の低下

28.引当金

(1) 2018年および2017年12月31日現在の引当金は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年12月31日	2017年12月31日
支払保証引当金	520,726	420,011
未実行貸出残高に対する引当金	72,037	62,420
金融保証引当金	111,661	136,792
訴訟引当金	589,499	645,313
原状回復債務	1,389	2,073
その他の引当金	861,808	420,657
	2,157,120	1,687,266

(2) 2018年12月31日に終了した年度の支払保証引当金の変動は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年			
	12ヵ月間の予想 信用損失	全期間の予想信用損失		合計
		信用減損 していない	信用減損 している	
期首残高	9,597	213,519	205,761	428,877
12ヵ月間の予想信用損失への振替	71,411	(71,411)	-	-
全期間の予想信用損失への振替:				
信用減損していないエクスポート ジャーハへの振替	(421)	1,171	(750)	-
信用減損しているエクスポート ジャーハへの振替	(12,804)	(23,216)	36,020	-
未実行貸出残高に対する引当金繰 入(戻入)	153,089	(76,840)	(6,480)	69,769
為替換算差額	3,081	10,098	8,836	22,015
その他	65	-	-	65
期末残高	224,018	53,321	243,387	520,726

(3) 2018年12月31日に終了した年度の未実行貸出残高に対する引当金の変動は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年			
	12ヵ月間の予想 信用損失	全期間の予想信用損失		合計
		信用減損 していない	信用減損 している	
期首残高	16,676	55,904	19	72,599
12ヵ月間の予想信用損失への振替	212,697	(212,697)	-	-
全期間の予想信用損失への振替:				
信用減損していないエクスポート ジャーハへの振替	(2,899)	2,899	-	-
信用減損しているエクスポート ジャーハへの振替	-	-	-	-
未実行貸出残高に対する引当金繰 入(戻入)	(204,266)	188,369	(19)	(15,916)
為替換算差額	14,513	777	-	15,290
その他	64	-	-	64
期末残高	36,785	35,252	-	72,037

(4) 2018年12月31日に終了した年度の金融保証引当金の変動は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年			
	12ヶ月間の予想信用損失	全期間の予想信用損失		合計
		信用減損していない	信用減損している	
期首残高	3,236	72,267	73,458	148,961
12ヶ月間の予想信用損失への振替	75	(7)	(68)	-
全期間の予想信用損失への振替:				
信用減損していないエクスポートジャーハへの振替	(443)	493	(50)	-
信用減損しているエクスポートジャーハへの振替	(474)	(3,343)	3,817	-
未実行貸出残高に対する引当金繰入(戻入)	(520)	(49)	(39,256)	(39,825)
為替換算差額	7	2,185	333	2,525
期末残高	1,881	71,546	38,234	111,661

(5) 2018年12月31日に終了した年度の訴訟引当金およびその他の引当金の変動は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年		
	訴訟引当金	原状回復債務	その他の引当金
期首残高	645,313	2,073	859,751
引当金の繰入(戻入)	10,458	(430)	73,687
当期引当金取崩	(123,251)	(217)	(251,285)
為替換算差額	(29)	-	(5)
その他	57,008	(37)	179,660
期末残高	589,499	1,389	861,808

(6) 2017年12月31日に終了した年度の引当金の変動は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2017年						
	支払保証引当金	未実行貸出残高引当金	金融保証引当金	訴訟引当金	原状回復債務	その他の引当金	合計
期首残高	510,090	20,409	125,607	293,161	3,728	632,657	1,585,652
引当金の繰入(戻入)	(10,312)	59,186	83,412	355,894	(615)	14,034	501,599
当期引当金取崩	-	-	-	(26,115)	(1,242)	(141,156)	(168,513)
資産計上された原状回復費	-	-	-	-	466	-	466
為替換算差額	(79,767)	(17,175)	6,526	(4)	-	(10)	(90,430)
その他	-	-	(78,753)	22,377	(264)	(84,868)	(141,508)
期末残高	420,011	62,420	136,792	645,313	2,073	420,657	1,687,266

(7) 支払保証引当金および金融保証引当金

確認された引受および保証、無確認の引受および保証ならびに裏書手形は、財政状態計算書において認識されないが、財政状態計算書から除外された項目として財務書類の注記に記載されている。当グループは、このような財政状態計算書から除外された項目に、当グループの予想信用損失モデルに基づき、信用リスク換算率(以下「CCF」という。)および引当率を適用して引当金を設定する。また、引受および保証に対する予想信用損失引当金として引当金を計上している。

金融保証契約の場合、上記と同様の方法を用いて計算された金額が当初金額から認識された手数料償却額を控除した金額を上回る場合、その差額は金融保証引当金として計上される。

(8) 未実行貸出残高に対する引当金

当グループは、当グループの予想信用損失モデルに基づき、引当率を適用した未実行貸出残高に対する引当金として、CCFを用いて計算した未使用の与信枠の一部に引当金を計上する。

(9)訴訟による予想損失引当金

2018年12月31日現在、当グループは、原告として257件の訴訟また被告として328件の訴訟に関わっている。原告および被告としての請求額の合計は、それぞれ1,691,334百万ウォンおよび1,928,754百万ウォンであった。当グループは、2018年12月31日現在、係属中の訴訟から発生する偶発債務に対して引当金を設定している。また、係属中の訴訟の最終判決次第で追加の損失が発生する可能性がある。

DSMEの株式、社債およびコマーシャル・ペーパー購入した投資家の一部は、虚偽の監査報告書、事業報告書、証券登録、目論見書等によって判断を誤ったとして、DSMEおよび特定の監査法人等に損害賠償を求めて訴訟を提起した。これらの訴訟は、当グループの被告としての訴訟に含まれる。

2018年および2017年12月31日現在、係属中の主な訴訟は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日		
	内容	金額	訴訟の状況
原告：			
韓国貿易保険公社他 1 社	保証保険	136,538	第 1 審は当グループの敗訴。第 2 審の係属中。
韓国信用保証基金	損害賠償請求	60,100	第 1 審は当グループの敗訴。第 2 審の係属中。
京畿都市公社	投資の返還請求	160,293	第 1 審および第 2 審は当グループの一部勝訴。第 3 審の係属中。
KAMCO第 1 次合弁事業証券 債権譲渡化専門会社		8,792	第 1 審の係属中。
プラザ・ラッヤット	請負契約の解除による建設費の請求	244,750	第 1 審の係属中。
被告：			
新韓銀行他 1 社	損害賠償請求	58,474	第 1 審は当グループの一部敗訴。第 2 審の係属中。
防衛事業庁	保証債務請求	56,977	第 1 審の係属中。
東部建設	再生債権者表の無効請求	33,997	第 1 審は当グループの一部勝訴。第 2 審の係属中。
東部建設	請求に対する異議申立て（支援への参加）	19,658	第 1 審の係属中。
KAMCO第 8 次合弁事業証券 販売支払額減損分の返還請求		13,898	第 1 審は当グループの一部敗訴。第 2 審の係属中。
韓国ガス公社	損害賠償請求	308,000	第 1 審の係属中。

	2017年12月31日		
	内容	金額	訴訟の状況
原告：			
韓国貿易保険公社他 1 社	保証保険	136,538	第 1 審の係属中。
韓国信用保証基金	損害賠償請求	60,100	第 1 審は当グループの敗訴。第 2 審の係属中。
韓国貿易保険公社	短期輸出信用保険	34,209	第 1 審は当グループの敗訴。第 2 審の係属中。
現代建設他 2 社	特別契約による決済額の返還請求	27,180	第 1 審は当グループの勝訴。第 2 審の係属中。
京畿都市公社	投資の返還請求	19,100	第 1 審および第 2 審は当グループの一部勝訴。第 3 審の係属中。
慶尚南道河東郡	事前販売代金の返還請求	123,284	第 1 審は当グループの一部勝訴。第 2 審の係属中。
防衛事業庁	債務不履行請求	100,708	第 1 審は当グループの一部勝訴。第 2 審の係属中。
被告：			
ハンファ・ケミカル株式会社	契約履行保証	322,593	破棄差戻し。
新韓銀行他 1 社	損害賠償請求	58,474	第 1 審の係属中。
防衛事業庁	保証債務請求	56,977	第 1 審の係属中。
東部建設	再生債権者表の無効請求	33,997	第 1 審の係属中。
KAMCO第 8 次合弁事業証券 販売支払額減損分の返還請求		13,898	第 1 審は当グループの一部敗訴。第 2 審の係属中。

(10) その他の引当金

当グループは、その他様々な目的のための準備金として、その他の引当金を計上している。

29. その他の負債

2018年および2017年12月31日現在のその他の負債は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日	2017年12月31日
未払金	3,088,043	5,794,177
未払費用	3,016,865	2,570,418
未決済為替借	312,911	238,958
信託勘定からの借入	751,885	1,022,130
前受金	3,885,929	4,377,996
受入保証金	680,849	900,128
支払債務	1,040,178	1,228,370
前受収益	310,414	324,195
源泉税預り金	51,148	51,720
未払外国為替	10,960	77,245
特別勘定負債	645,171	832,518
金融保証負債	54,853	57,705
保険契約者の持分調整	41,884	45,230
その他	315,953	491,031
	14,207,043	18,011,821
現在価値割引差金	(21,396)	(20,513)
	14,185,647	17,991,308

上記のその他の負債に含まれる金融負債の帳簿価額は、2018年および2017年12月31日現在でそれぞれ8,965,058百万ウォンおよび11,930,654百万ウォンであり、その公正価値は2018年および2017年12月31日現在でそれぞれ9,202,084百万ウォンおよび11,927,048百万ウォンであった。

30. 資本

(1) 資本金

当グループは、最大6,000百万株の普通株式の発行を授権されており、2018年および2017年12月31日現在、それぞれ3,621,619,768株および3,587,619,768株を発行済である。また、2018年および2017年12月31日現在の発行済株式の額面総額は、それぞれ18,108,099百万ウォンおよび17,938,099百万ウォンである。当グループの増資により、2018年には株式総数および額面総額が増加した。

(2) 資本剰余金

2018年および2017年12月31日現在の資本剰余金は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日	2017年12月31日
株式払込剰余金	62,309	63,133
減資差益	47,973	47,973
関連会社の資本剰余金に対する持分	122,810	121,146
その他の資本剰余金	580,728	826,122
	813,820	1,058,374

(3) 資本調整

2018年および2017年12月31日現在の資本調整は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日	2017年12月31日
関連会社の資本調整に対する持分	220,605	220,605
その他の資本調整	95,824	103,991
	316,429	324,596

(4) その他の包括利益累計額

()2018年および2017年12月31日現在のその他の包括損益累計額は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日	2017年12月31日
FVOCIで測定される有価証券の純利益（損失）：		
FVOCIで測定される有価証券に係る評価益（損）（税引前）	(237,065)	-
FVOCIで測定される有価証券に係る損失引当金（税引前）	78,128	-
税効果	44,622	-
	(114,315)	-
売却可能金融資産評価益：		
売却可能金融資産評価益（税引前）	-	567,735
税効果	-	(146,794)
	-	420,941
関連会社のその他の包括利益に対する持分：		
関連会社のその他の包括利益に対する持分（税引前）	428,035	607,597
税効果	12,653	15,266
	440,688	622,863
海外事業の為替換算差額：		
海外事業の為替換算差額（税引前）	(395,785)	(521,115)
税効果	107,534	165,639
	(288,251)	(355,476)
キャッシュ・フロー・ヘッジ評価損：		
キャッシュ・フロー・ヘッジ評価損（税引前）	(744)	(5,496)
税効果	305	1,287
	(439)	(4,209)
確定給付負債の再測定：		
確定給付負債の再測定（税引前）	(23,793)	8,894
税効果	5,233	(2,068)
	(18,560)	6,826
信用リスクによる当期損益認識金融負債の公正価値変動：		
信用リスクによる当期損益認識金融負債に係る評価益（損）	4,383	-
税効果	(1,205)	-
	3,178	-
その他		
その他（税引前）	882	1,288
税効果	1,527	2,314
	2,409	3,602
	24,710	694,547

()2018年および2017年12月31日に終了した年度のその他の包括利益累計額の変動は以下のとおりである。 (単位 : 百万ウォン)

	2018年			
	2018年1月1日	増加(減少)	税効果	2018年12月31日
FVOCIで測定される有価証券に係る利益	29,855	(172,922)	28,752	(114,315)
関連会社のその他の包括利益に対する持分	579,838	(119,004)	(20,146)	440,688
海外事業の為替換算差額	(302,941)	72,629	(57,939)	(288,251)
キャッシュ・フロー・ヘッジ評価損	(4,209)	4,752	(982)	(439)
確定給付負債の再測定	6,826	(32,687)	7,301	(18,560)
信用リスクによる当期損益認識金融負債の公正価値変動	9,520	(8,748)	2,406	3,178
その他	3,535	363	(1,489)	2,409
	322,424	(255,617)	(42,097)	24,710

	2017年			
	2017年1月1日	増加(減少)	税効果	2017年12月31日
売却可能金融資産評価益	298,738	166,131	(43,928)	420,941
関連会社のその他の包括利益に対する持分	412,960	128,120	81,783	622,863
海外事業の為替換算差額	(123,258)	(304,797)	72,579	(355,476)
キャッシュ・フロー・ヘッジ評価損	(11,946)	9,928	(2,191)	(4,209)
確定給付負債の再測定	7,263	(345)	(92)	6,826
その他	(1,217)	6,797	(1,978)	3,602
	582,540	5,834	106,173	694,547

(5)利益剰余金

当グループは、韓国産業銀行法に従って、純利益の40%以上を利益準備金として積み立てなければならない。利益準備金は、資本金に組み入れるかまたは累積損失の補填に充てることができる。

韓国産業銀行法に従って、当グループは、準備金を累積損失の補填に充てる。準備金が累積損失の補填に不十分な場合、韓国政府が不足分について責任を負う。

()2018年および2017年12月31日現在の利益剰余金は以下のとおりである。 (単位 : 百万ウォン)

	2018年12月31日	2017年12月31日
利益準備金	173,913	-
任意準備金		
規制上の貸倒引当金(*)	1,372,030	1,308,500
当期末処分利益	8,972,946	8,518,595
	10,518,889	9,827,095

(*)支配会社である当行は、銀行業務監督規則第29条(1)および(2)に従い、かかる金額を個別財務書類の規制上の貸倒引当金に認識した。

()2018年および2017年12月31日に終了した年度の利益準備金の変動は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年	2017年
期首残高	-	3,578,770
利益剰余金からの振替	173,913	-
損失補填	-	(3,578,770)
期末残高	173,913	-

()2018年および2017年12月31日に終了した年度の当期末処分利益の変動は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年	2017年
期首残高	8,518,595	4,384,085
会計方針の変更	274,862	-
当期純利益	529,266	493,412
利益準備金からの振替（への積立）	(173,913)	3,578,770
配当金	(147,092)	-
FVOCIで測定される持分証券に係る評価損益の振替	34,758	-
規制上の貸倒引当金からの振替（への積立）	(58,231)	72,134
その他	(5,299)	(9,806)
期末残高	8,972,946	8,518,595

(6)規制上の貸倒引当金

当グループは、銀行業監督規則第29条(1)および(2)に従い、規制上の貸倒引当金を積み立てなければならない。規制上の貸倒引当金の詳細は以下のとおりである。

()2018年および2017年12月31日現在の規制上の貸倒引当金残高は、以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日	2017年12月31日
期首残高	1,405,853	1,347,622
貸倒引当金繰入（戻入）予定額	(148,180)	58,231
期末残高	1,257,673	1,405,853

()2018年および2017年12月31日に終了した年度の規制上の貸倒引当金強制積立額および規制上の貸倒引当金調整後の純利益は以下のとおりである。（単位：百万ウォン、1株当たり金額を除く。）

	2018年	2017年
当期純利益	705,980	563,372
規制上の貸倒引当金強制積立額	148,180	(58,231)
規制上の貸倒引当金調整後純利益	854,160	505,141
規制上の貸倒引当金調整後1株当たり純利益（ウォン）	237	143

31. 純利息収益

2018年および2017年12月31日に終了した年度の純利息収益は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年	2017年
受取利息：		
預け金	166,265	78,220
FVTPLで測定される有価証券	150,985	-
売買目的金融資産	-	62,602
当期損益認識金融資産	-	15,251
FVOCIで測定される有価証券	594,410	-
売却可能金融資産	-	600,827
償却原価で測定される有価証券	130,878	-
満期保有金融資産	-	151,892
FVTPLで測定される貸出債権	38,161	-
償却原価で測定される貸出債権	5,031,495	-
貸出債権	-	4,845,029
	6,112,194	5,753,821
支払利息：		
当期損益認識金融負債	(79,695)	(68,190)
預金	(525,350)	(486,849)
借入金	(612,115)	(339,885)
債券	(2,813,875)	(2,604,631)
	(4,031,035)	(3,499,555)
	2,081,159	2,254,266

32. 純手数料収益

2018年および2017年12月31日に終了した年度の純手数料収益は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年	2017年
手数料収益：		
貸出手手数料	144,379	152,002
引受・投資顧問手数料	116,611	144,734
仲介・代行委託手数料	6,769	7,340
退職年金信託手数料	30,553	26,105
資産運用手数料	2,870	2,326
その他の手数料	159,386	190,719
	460,568	523,226
手数料費用：		
仲介・代行委託手数料	(11,525)	(12,982)
その他の手数料	(14,042)	(31,570)
	(25,567)	(44,552)
	435,001	478,674

33. 受取配当金

2018年および2017年12月31日に終了した年度の受取配当金は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年	2017年
FVTPLで測定される有価証券	134,410	-
売買目的金融資産	-	7,343
FVOCIで測定される有価証券	140,324	-
売却可能金融資産	-	252,804
	<u>274,734</u>	<u>260,147</u>

34. FVTPLで測定される有価証券に係る純損失

2018年12月31日に終了した年度のFVTPLで測定される有価証券に関連する純損失は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年
FVTPLで測定される有価証券に係る利益：	
償還益	12,490
売却益	115,809
評価益	274,900
	<u>403,199</u>
FVTPLで測定される有価証券に係る損失：	
償還損	(6,120)
売却損	(74,208)
評価損	(330,417)
購入関連費用	(472)
	<u>(411,217)</u>
	<u>(8,018)</u>

35. 売買目的金融資産に係る純損失

2017年12月31日に終了した年度の売買目的金融資産に関連する純損失は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2017年
売買目的金融資産による利益：	
償還益	1
売却益	22,700
評価益	2,781
	<u>25,482</u>
売買目的金融資産による損失：	
償還損	(326)
売却損	(41,446)
評価損	(10,774)
購入関連費用	(247)
	<u>(52,793)</u>
	<u>(27,311)</u>

36.当期損益認識金融商品に係る純利益（損失）

2018年および2017年12月31日に終了した年度の当期損益認識金融商品に関連する純利益（損失）は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年	2017年
当期損益認識金融商品に係る利益：		
償還益	-	2,714
売却益	4	-
評価益	15,443	80,431
	<u>15,447</u>	<u>83,145</u>
当期損益認識金融商品に係る損失：		
償還損	-	(353)
売却損	(10,041)	(8,284)
評価損	(69,633)	(1,056)
	<u>(79,674)</u>	<u>(9,693)</u>
	<u>(64,227)</u>	<u>73,452</u>

37.FVOCIで測定される有価証券に係る純利益

2018年12月31日に終了した年度のFVOCIで測定される有価証券に係る純利益は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年
FVOCIで測定される有価証券に係る利益：	
償還益	154
売却益	97,832
減損損失戻入	8,439
	<u>106,425</u>
FVOCIで測定される有価証券に係る損失：	
償還損	(746)
売却損	(41,303)
減損損失	(23,185)
	<u>(65,234)</u>
	<u>41,191</u>

38.売却可能金融資産に係る純損失

2017年12月31日に終了した年度の売却可能金融資産に係る純損失は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2017年
売却可能金融資産による利益：	
償還益	9,650
売却益	124,958
減損損失戻入	2,297
	<u>136,905</u>
売却可能金融資産による損失：	
償還損	(211)
売却損	(66,545)
減損損失	(225,227)
	<u>(291,983)</u>
	<u>(155,078)</u>

39. 償却原価で測定される有価証券に係る純損失

2018年12月31日に終了した年度の償却原価で測定される有価証券に関連する純損失は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

2018年	
償却原価で測定される有価証券に係る利益：	
償還益	1,160
売却益	122
	1,282
償却原価で測定される有価証券に係る損失：	
売却損	(2)
減損損失	(1,296)
	(1,298)
	(16)

40. 満期保有金融資産に係る純利益

2017年12月31日に終了した年度の満期保有金融資産に係る純利益は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

2017年	
満期保有金融資産に係る利益：	
償還益	235
売却益	36
	271
満期保有金融資産に係る損失：	
売却損	(78)
	193

41. 金融派生商品に係る純利益

2018年および2017年12月31日に終了した年度の金融派生商品に係る純利益は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年	2017年
売買目的金融派生商品に係る純利益：		
売買目的金融派生商品に係る利益：		
金利	2,224,802	2,153,676
通貨	6,556,061	11,230,209
株式	187,382	35,211
コモディティ	743	6,774
組込金融派生商品	638	51,288
金融派生商品調整益	11,091	46,774
	8,980,717	13,523,932
売買目的金融派生商品に係る損失：		
金利	(2,084,586)	(2,156,725)
通貨	(6,483,494)	(10,933,361)
株式	(69,545)	(34,437)
コモディティ	(743)	(6,774)
組込金融派生商品	-	(45,794)
金融派生商品調整損	(12,948)	(11,027)
	(8,651,316)	(13,188,118)
	329,401	335,814
ヘッジ目的金融派生商品に係る純利益（損失）：		
ヘッジ目的金融派生商品に係る利益：		
金利	228,251	28,374
通貨	460,891	1,120,100
金融派生商品調整益	139	5,671
	689,281	1,154,145
ヘッジ目的金融派生商品に係る損失：		
金利	(156,655)	(290,350)
通貨	(805,437)	(763,466)
金融派生商品調整損	(966)	(372)
	(963,058)	(1,054,188)
	(273,777)	99,957
公正価値ヘッジ対象に係る純利益（損失）：		
公正価値ヘッジ対象に係る利益：		
評価益	288,431	618,299
償還益	301,620	171,505
	590,051	789,804
公正価値ヘッジ対象に係る損失：		
評価損	(292,057)	(26,521)
償還損	(334,375)	(140,965)
	(626,432)	(167,486)
	(36,381)	622,318
	19,243	1,058,089

当グループは、キャッシュ・フロー・ヘッジに関連して、2018年および2017年12月31日に終了した年度に非有効部分として、それぞれ109百万ウォンの利益および172百万ウォンの損失を連結包括利益計算書に認識した。

42. 為替取引純利益（損失）

2018年および2017年12月31日終了年度の為替取引純利益（損失）は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年	2017年
為替取引純利益（損失）：		
為替取引益	966,797	1,158,787
為替取引損	(902,143)	(1,098,530)
	64,654	60,257
為替換算純利益（損失）：		
為替換算益	1,853,050	3,753,162
為替換算損	(1,677,531)	(4,568,198)
	175,519	(815,036)
	240,173	(754,779)

43. その他純営業利益

2018年および2017年12月31日に終了した年度のその他営業利益および費用は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年	2017年
その他営業利益：		
保険料収入	2,914,527	3,264,990
関連会社投資売却益	287,082	42,252
貸出債権売却益	46,883	177,001
株式償還要求に係る利益	12,942	16,484
引当金戻入	10,780	54,611
バーゲン・パーチェスに係る利益	-	219
建設事業による収益	10,883,341	11,794,957
債券償還益	13	260
その他	10,471,738	11,205,726
	24,627,306	26,556,500
その他営業費用：		
保険損失	(3,513,491)	(3,929,972)
関連会社投資売却損	(572,269)	(170,270)
貸出債権売却損	(148,029)	(260,012)
株式償還要求にかかる損失	(119,340)	(124,033)
損失引当金繰入	(94,924)	(424,538)
建設事業費用	(9,858,506)	(10,960,589)
債券償還損	(5)	(138)
その他	(9,736,611)	(9,945,145)
	(24,043,175)	(25,814,697)
	584,131	741,803

44. 貸倒引当金繰入(戻入)

2018年および2017年12月31日に終了した年度の貸倒引当金繰入(戻入)は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年	2017年
損失引当金繰入(戻入)	172,686	976,961
その他の製造関連資産に係る引当金繰入(戻入)	(435,385)	339,113
その他の資産に係る引当金繰入(戻入)	(123,650)	(76,476)
預け金に係る引当金繰入(戻入)	45	-
未実行貸出残高引当金繰入(戻入)	(15,916)	59,186
金融保証引当金繰入(戻入)	(39,825)	83,413
支払保証引当金繰入(戻入)	69,769	(10,312)
	<u>(372,276)</u>	<u>1,371,885</u>

45. 一般管理費

2018年および2017年12月31日に終了した年度の一般管理費は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年	2017年
人件費 :		
短期従業員給付	635,092	607,172
確定給付費用	66,611	67,241
確定拠出費用	5,482	3,804
	<u>707,185</u>	<u>678,217</u>
減価償却費および償却費 :		
有形固定資産減価償却費	179,317	44,567
無形固定資産償却費	212,620	216,619
	<u>391,937</u>	<u>261,186</u>
その他 :		
従業員福利厚生費	91,770	86,104
賃借料	67,156	71,960
公租公課	41,298	110,290
広告費	25,066	26,128
その他	385,154	556,384
	<u>610,444</u>	<u>850,866</u>
	<u>1,709,566</u>	<u>1,790,269</u>

46. その他の営業外収益および費用

2018年および2017年12月31日に終了した年度のその他の営業外収益および費用は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年	2017年
その他の営業外収益：		
債務免除に係る利益(*)	10	1,425,562
非金融機関からの受取利息	39,505	32,296
売却目的保有資産に係る利益	58,264	24,771
有形固定資産処分益	5,520	5,189
有形固定資産減損損失戻入益	9,690	69,403
投資不動産にかかる賃借料収入	4,940	4,805
無形固定資産処分益	143	197
無形固定資産減損損失戻入益	67	245
その他	132,806	187,493
	250,945	1,749,961
その他の営業外費用：		
非金融機関に対する支払利息	(132,554)	(91,832)
売却目的保有資産に係る損失	(84,386)	(2,472)
有形固定資産処分損	(2,664)	(2,804)
有形固定資産減損損失	(8,469)	(509,947)
投資不動産減損損失	(21,484)	(1,353)
投資不動産減価償却費	(6,083)	(3,650)
無形固定資産処分損	(43)	(84)
無形固定資産減損損失	(219,499)	(528,275)
寄付金	(13,583)	(6,838)
その他	(52,703)	(97,665)
	(541,468)	(1,244,920)
	(290,523)	505,041

(*)当グループの子会社であるDSMEは、デット・エクイティ・スワップ、金融機関が保有する無担保債券、無担保無記名債券（第4-2回、第5-2回、第6-1回、第6-2回および第7回）およびコマーシャル・ペーパー（CP）の満期の延長および利率の変更を含む債務再編に合意した。かかる債務再編は、債権者金融機関の双方の合意、社債権者集会の決議および修正されたCP契約に基づいて合意された。したがって、当グループは、当グループの子会社であるDSMEのデット・エクイティ・スワップおよび債務再編により、2017年12月31日に終了した年度のその他の営業外収益および費用において1,422,602百万ウォンの債務免除に係る利益を認識した。

47. 法人税費用

(1) 2018年および2017年12月31日に終了した年度の法人税費用は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年	2017年
当期法人税	134,422	454,572
一時差異に係る繰延法人税の変動(*)	390,153	420,263
資本に直接計上された繰延法人税:		
その他の包括利益(親会社株主)	(42,097)	102,243
その他の包括利益(非支配持分)	3,118	5,243
利益剰余金(非支配持分を含む。)	(12,809)	-
法人税費用:	472,787	982,321

(*)2018年1月1日現在の繰延税金負債は、会計方針の変更により2017年12月31日現在のものから193,313百万ウォン減少した。この減少に基づいて、一時差異に係る繰延法人税の変動が算出された。

(2) 2018年および2017年12月31日に終了した年度の税引前利益および法人税費用は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年	2017年
税引前利益	1,178,767	1,545,693
制定税率を用いて算定された法人税	324,163	374,059
調整:		
損金不算入損失および非課税利益	(33,833)	(40,179)
未認識の繰延法人税効果	(476,741)	344,558
過年度の正味調整	29,897	(50,019)
連結調整	(115,750)	63,387
その他	745,051	290,515
	148,624	608,262
法人税費用	472,787	982,321
実効税率	40.11%	63.55%

(3) 2018年および2017年12月31日に終了した年度の資本に直接計上された繰延法人税の変動は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年				
	2018年12月31日		2018年1月1日		
	税引前	税効果	税引前	税効果	税効果の変動
FVOCIで測定される有価証券に係る純利益(損失)	(158,937)	44,622	13,985	15,870	28,752
関連会社のその他の包括利益(損失)に対する持分	428,035	12,653	547,039	32,799	(20,146)
海外事業の為替換算差額	(395,785)	107,534	(468,414)	165,473	(57,939)
キャッシュ・フロー・ヘッジ評価損	(744)	305	(5,496)	1,287	(982)
確定給付負債の再測定	(23,793)	5,233	8,894	(2,068)	7,301
信用リスクによる当期損益認識金融負債の公正価値変動	4,383	(1,205)	13,131	(3,611)	2,406
その他	882	1,527	519	3,016	(1,489)
	(145,959)	170,669	109,658	212,766	(42,097)

	2017年				
	2017年12月31日		2017年1月1日		
	税引前	繰延税金資産 (負債)	税引前	繰延税金資産 (負債)	繰延税金資産 (負債)の増減
売却可能金融資産にかかる利益	567,735	(146,794)	399,336	(100,598)	(46,196)
関連会社のその他の包括利益に対する持分	607,597	15,266	479,477	(66,517)	81,783
海外事業の為替換算差額	(521,115)	165,639	(220,248)	96,990	68,649
キャッシュ・フロー・ヘッジ評価損	(5,496)	1,287	(15,424)	3,478	(2,191)
確定給付負債の再測定	8,894	(2,068)	9,239	(1,976)	(92)
その他	1,288	2,314	(3,241)	2,024	290
	658,903	35,644	649,139	(66,599)	102,243

(4) 2018年および2017年12月31日に終了した年度の一時差異および繰延税金資産(負債)の変動は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

2018年			
2018年1月1日	増加 / 減少	2018年12月31日	繰延税金資産 (負債)
認識繰延税金資産および負債による一時差異:			
金融派生商品	(113,946)	(215,865)	(329,811)
関連会社投資	(6,292,226)	(2,451,653)	(8,743,879)
FVOCIで測定される有価証券	(158,946)	(44,962)	(203,908)
債務証券の減損損失	251,823	(185,890)	65,933
持分証券の減損損失	587,443	(396,286)	191,157
その他	80,859	(758,945)	(678,086)
	(5,644,993)	(4,053,601)	(9,698,594)
			(2,976,145)
未認識繰延税金資産および負債による一時差異:			
関連会社投資	4,271,656	(2,313,659)	1,957,997
繰延法人税による未処理累積欠損:			
未処理累積欠損	625,660	148,633	774,293
	(747,677)	(6,218,627)	(6,966,304)
			(2,788,766)
2017年			
2017年1月1日	増加 / 減少	2017年12月31日	繰延税金資産 (負債)
認識繰延税金資産および負債による一時差異:			
金融派生商品	242,305	(356,251)	(113,946)
関連会社投資	(8,179,959)	1,887,733	(6,292,226)
売却可能金融資産	(192,736)	33,790	(158,946)
債務証券の減損損失	284,615	(32,792)	251,823
持分証券の減損損失	803,178	(215,735)	587,443
その他	1,349,083	(1,268,224)	80,859
	(5,693,514)	48,521	(5,644,993)
			(2,682,921)
未認識繰延税金資産および負債による一時差異:			
関連会社投資	3,441,383	830,273	4,271,656
繰延法人税による未処理累積欠損:			
未処理累積欠損	153,492	472,168	625,660
	(2,098,639)	1,350,962	(747,677)
			(2,591,926)

(5) 繰延税金資産および負債は、関連する当期税金負債および資産を相殺する法的に強制力のある権利が存在し、繰延税金資産および負債が同一の税務当局によって課された法人税に関連し、かつ当期税金負債および資産を純額ベースで決済する意図を有している場合にのみ、相殺される。

48. 1株当たり利益

(1) 基本的1株当たり利益

2018年および2017年12月31日に終了した年度の当グループの基本的1株当たり利益の計算は以下のとおりである。
(単位:ウォンおよび株)

() 基本的1株当たり利益

	2018年	2017年
当期純利益(ウォン)	705,980,417,334	563,372,196,477
非支配持分に帰属する純利益(ウォン)	176,714,165,283	69,959,746,922
当グループの普通株主に帰属する純利益(A)(ウォン)	529,266,252,051	493,412,449,555
社外流通普通株式の加重平均株式数(B)	3,605,597,850	3,543,630,727
基本的1株当たり利益(A/B)(ウォン)	147	139

() 社外流通普通株式の加重平均株式数

	2018年		
	普通株式数	日数	株式累計数
期首社外流通普通株式数 (A)	3,587,619,768	365	1,309,481,215,320
払込資本金の増加(B)	34,000,000	193	6,562,000,000
株式累計数(C = A + B)			1,316,043,215,320
社外流通普通株式の加重 平均株式数(C/365)			3,605,597,850

	2017年		
	普通株式数	日数	株式累計数
期首社外流通普通株式数 (A)	3,508,619,768	365	1,280,646,215,320
払込資本金の増加(B)	50,000,000	222	11,100,000,000
払込資本金の増加(C)	16,000,000	96	1,536,000,000
払込資本金の増加(D)	13,000,000	11	143,000,000
株式累計数 (E = A + B + C + D)			1,293,425,215,320
社外流通普通株式の加重 平均株式数(E/365)			3,543,630,727

(2) 希薄化後1株当たり利益

潜在的希薄化株式がないため、2018年および2017年12月31日に終了した年度の希薄化後および基本的1株当たり利益は等しい。

49. 担保提供資産

2018年および2017年12月31日現在の当グループが担保として差し入れた資産は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日		2017年12月31日	
	担保提供資産	関連する負債	担保提供資産	関連する負債
現金および預け金(*1)	249,652	247,179	97,194	95,524
有価証券(*2)	7,545,914	8,351,152	9,793,642	9,659,978
その他(*3)	6,290,357	3,554,103	6,229,335	3,985,507
	14,085,923	12,152,434	16,120,171	13,741,009

(*1)入札保証金等に対する担保として差し入れられた。

(*2)買戻契約に基づく売却債券、韓国銀行貸出債権および当座借越に対する担保として差し入れられた。

(*3)有形固定資産等は、借入金および新事業に対する担保として差し入れられた。

50. 保証およびコミットメント

2018年および2017年12月31日現在の保証およびコミットメントは以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日	2017年12月31日
確認引受および保証:		
外貨建て引受	645,360	413,812
債券発行に係る保証	2,069,094	1,817,983
貸出債権に係る保証	408,907	664,148
保証状	51,129	37,105
転貸債務に係る保証	17,910	28,272
その他	3,376,346	4,316,920
	6,568,746	7,278,240
無確認引受および保証:		
信用状	1,782,372	1,981,439
その他	757,132	598,746
	2,539,504	2,580,185
コミットメント:		
貸出債権のコミットメント	28,127,786	4,457,877
有価証券購入コミットメント	2,101,154	2,121,277
その他	155,198	160,197
	30,384,138	6,739,351
裏書手形 :		
遡及権付	7,469	3,028
	39,499,857	16,600,804

51. リース

(1) ファイナンス・リース

2018年および2017年12月31日現在の貸し手としての当グループのファイナンス・リース債権の内訳は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日		
	ウォン建てファイナンス・リース債権	外貨建てファイナンス・リース債権	合計
1年以内	374,558	37,359	411,917
1年超5年以内	720,078	57,892	777,970
リース投資未回収総額	1,094,636	95,251	1,189,887
前受金融収益	(120,445)	-	(120,445)
正味リース投資未回収額(*)	974,191	95,251	1,069,442
当期損益に認識された変動リース料	(293)	-	(293)

(*) ファイナンス・リース債権は、連結財政状態計算書の償却原価で測定される貸出債権に含まれている。

	2017年12月31日		
	ウォン建てファイナンス・リース債権	外貨建てファイナンス・リース債権	合計
1年以内	395,292	35,104	430,396
1年超5年以内	691,444	49,822	741,266
リース投資未回収総額	1,086,736	84,926	1,171,662
前受金融収益	(119,432)	(100)	(119,532)
正味リース投資未回収額(*)	967,304	84,826	1,052,130
当期損益に認識された変動リース料	207	-	207

(*) ファイナンス・リース債権は、連結財政状態計算書の貸出債権に含まれている。

(2) オペーレティング・リース

2018年および2017年12月31日現在の解約不能のオペーレティング・リースに基づく将来最低リース料支払額は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日	2017年12月31日
1年以内	6,034	17,365
1年超5年以内	194	7,153
	6,228	24,518
当期損失に認識された変動リース料	(47)	(95)

(3) 解約可能リース

2018年および2017年12月31日現在の解約可能リースは以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日	2017年12月31日
取得原価	4,176	3,009

(4) リース資産に係る前払金

2018年および2017年12月31日現在のリース期間の開始前に当グループが締結した新たなリースに関して支払われた元本金額は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日	2017年12月31日
リース資産に係る前払金	8,526	12,774
貸倒引当金	(54)	(96)
	8,472	12,678

(5) リース保証金

2018年および2017年12月31日現在の当グループが借り手から受領した差入担保金は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日	2017年12月31日
リース保証金	283,383	276,044

52. 取引日損益

2018年および2017年12月31日に終了した年度の繰延取引日損益の変動は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年	2017年
期首残高	5,538	1,155
新規繰延	-	5,796
償却	(389)	(259)
その他（取引終了等）	-	(1,154)
期末残高	5,149	5,538

繰延取引日損益は、公正価値ヒエラルキーのレベル3に分類される金融派生商品から発生したものである。

53. 信託勘定

(1) 2018年および2017年12月31日現在の信託勘定は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日	2017年12月31日
未収信託管理手数料	6,360	9,023
預託金	9,082	13,625
信託勘定からの借入金	702,862	981,648
未払預託金利息	1,190	1,383

(2) 2018年および2017年12月31日に終了した年度の信託勘定取引は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年	2017年
信託勘定手数料	27,198	25,229
預託金にかかる支払利息	300	984
信託勘定からの借入金にかかる支払利息	14,887	12,787

54. 関連当事者取引

(1) 2018年12月31日現在の当グループの関連当事者は以下のとおりである。

区分	会社名
関連会社	韓国電力公社、韓国観光公社、韓国鑑定院、韓国海洋事業公社、GMコリア・カンパニー、現代商船他75社、コリア・インフラストラクチャー・ファンド第2号、トロイカ・リソーシズ・インベストメント・プライベート・エクイティ・ファンド他97ファンド、KIPオーバーシーズ・エクスパンション・プラットフォーム・ファンド他106ファンド
その他	主要管理運営者

(2) 2018年および2017年12月31日現在の関連当事者との重要な勘定の残高は以下のとおりである。 (単位 : 百万ウォン)

	勘定	2018年12月31日	2017年12月31日
関連会社 :			
韓国電力公社	有価証券	29,484	59,643
	貸出債権	151,947	134,792
	貸倒引当金	(2,769)	(27)
	金融派生商品資産	37,760	39,790
	その他の資産	65	122
	預金	36,148	497,312
	借入金	4,355	15,129
	金融派生商品負債	36,277	290
	その他の負債	-	282
	その他の引当金	14	8
東部製鉄	貸出債権	978,743	1,046,630
	貸倒引当金	(454,726)	(229,291)
	預金	10,391	43,035
	その他の負債	261	62
	その他の引当金	47,451	12,183
現代商船	有価証券	363,615	-
	貸出債権	500,156	584,021
	貸倒引当金	(35,423)	(175,062)
	預金	561,979	200,000
	その他の負債	-	144
その他	有価証券	6,139	186
	貸出債権	1,049,129	1,185,523
	貸倒引当金	(769,269)	(746,685)
	その他の資産	152,478	150,011
	預金	704,376	721,013
	その他の負債	-	2,222
	その他の引当金	121,468	123,661

(3) 2018年および2017年12月31日に終了した年度の関連当事者との取引による重要な損益は以下のとおりである。
(単位：百万ウォン)

	勘定	2018年	2017年
関連会社：			
韓国電力公社	受取利息	4,860	4,476
	貸倒引当金戻入	-	14
	手数料収益、その他の収益	13,179	56,944
	支払利息	(4,984)	(2,002)
	貸倒引当金繰入	(2,738)	-
	その他の営業費用	(54,992)	(6,672)
その他	受取利息	78,582	213,068
	手数料収益、その他の収益	50,167	205,906
	支払利息	(10,691)	(8,244)
	貸倒引当金繰入	(227,827)	(108,725)
	その他の営業費用	(74,595)	(23,790)
		(229,039)	330,975

(4) 2018年および2017年12月31日に現在の関連当事者に対する保証およびコミットメントの内訳は以下のとおりである。
(単位：百万ウォン)

	勘定	2018年12月31日	2017年12月31日
関連会社：			
東部製鉄	確認引受および保証	178,752	140,759
	無確認引受および保証	32,411	24,696
その他	確認引受および保証	128,836	176,062
	無確認引受および保証	124,797	90,741
	貸出債権のコミットメント	18,591	8,243
		483,387	440,501

(5) 2018年および2017年12月31日に終了した年度の主要管理運営者に対する報酬の内訳は以下のとおりである。
(単位：百万ウォン)

	2018年	2017年
短期従業員給付	3,568	4,014
退職後給付	204	416
	3,772	4,430

55. その他の事業体への関与の開示

(1)連結している組成された事業体への財務的支援に対するコミットメント

2018年および2017年12月31日現在の連結している組成された事業体に対して当グループが提供した契約上のコミットメントは以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日	2017年12月31日
関連会社：		
U-BEST第四証券化専門会社(*1)	64,000	80,000
K-Five第五証券化専門会社(*1)	-	100,000
K-Five第六証券化専門会社(*1)	40,000	40,000
K-Five第七証券化専門会社(*1)	50,000	-
Sinokor SF第1号(*1)	-	43,400
KDB未来成長ABCP第一株式会社 (*1)	52,100	52,100
KDBC IPインベストメント・ファンド(*2)	3,000	3,000
KDBCフード・インダストリー・インベストメント・ファンド第1号(*2)	1,280	1,280
	210,380	319,780

(*1)当グループは、連結している組成された事業体への貸出債権に係るコミットメントを有している。当該コミットメントに従い、当グループは、子会社が十分な運転資金を有していない場合に、当該子会社に対する貸出債権を保証する。

(*2)KDBキャピタル・コーポレーションは、無限責任会社として、一部のファンドに対して損失補償に係るコミットメントを有している。

(2)非連結の組成された事業体への関与の内容および程度

2018年および2017年12月31日現在の非連結の組成された事業体の内訳は以下のとおりである。

種類	特徴および事業目的	資金調達方法
投資ファンドおよび投資信託(*1)	投資および分配	持分投資およびファンド運用ほか
不動産ファイナンス(*2)	不動産開発およびインフラ投資ほか	持分投資および信用補強ほか
資産担保証券化	原資産の証券化	動産・債権担保融資およびアセット・バック・コマーシャル・ペーパーの発行ほか
船舶および買収ファイナンス	企業または船舶取得のための資金提供	持分投資およびファンド運用ほか

(*1)プライベート・エクイティ・ファンド、投資会社、受益証券ほか。

(*2)特別目的会社、プライベート・ファンド、社会資本ほか。

(3) 関連するリスクの性質

2018年および2017年12月31日現在の非連結の組成された事業体の帳簿価額および当該事業体への関与による損失に対する最大エクスポージャーは以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年12月31日				
	投資ファンド および投資信託	不動産 ファイナンス	船舶および買収 資産担保証券化	その他 ファイナンス	合計
資産:					
有価証券	7,012,791	366,585	30,983	5,000	-
貸出債権	756,468	6,544,250	1,037,851	2,276,171	2,934,997
金融派生商品	-	7,405	268	8,282	408
その他	4,551	14,889	2,531	5,184	10,607
	7,773,810	6,933,129	1,071,633	2,294,637	21,019,221
負債:					
引当金	-	94	40	6	562
金融保証	-	-	52,051	-	692
金融派生商品	-	-	-	169	1,956
その他	923	5	-	-	-
	923	99	52,091	175	3,210
					56,498
与信枠の供与および その他のコミットメント					
	359,082	489,761	1,274,354	2,532	552,049
損失に対する最大エクスポージャー(*)					
	8,132,892	7,422,890	2,345,987	2,297,169	3,498,061
					23,696,999

	2017年12月31日				
	投資ファンド および投資信託	不動産 ファイナンス	船舶および買収 資産担保証券化	その他 ファイナンス	合計
資産:					
有価証券	4,424,689	20,637	51,576	4,660	314,932
貸出債権	813,619	4,352,301	1,489,258	3,983,990	4,423,958
金融派生商品	-	-	-	14,113	13,502
その他	6,817	4,539	5,357	14,397	16,185
	5,245,125	4,377,477	1,546,191	4,017,160	4,768,577
					19,954,530
負債:					
引当金	-	19	623	621	68
金融保証	-	-	19,431	1,401	-
金融派生商品	-	47	10,942	1,200	-
その他	991	48	-	-	-
	991	114	30,996	3,222	68
					35,391
与信枠の供与および その他のコミットメント					
	201,837	311,179	2,024,291	1,101,648	92,638
損失に対する最大エクspoージャー(*)					
	5,446,962	4,688,656	3,570,482	5,118,808	4,861,215
					23,686,123

(*)損失に対する最大エクスポージャーは、関連する資産(有価証券減損損失、貸倒引当金等の調整後)、与信供与およびその他のコミットメントを集約することで計算される。

(4)重要な非支配持分

2018年および2017年12月31日現在の重要な非支配持分の内訳および財務情報の概要は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

- 非支配持分

	2018年12月31日		
	非支配持分比率	非支配持分に係る純利益（損失）	非支配持分に対する配当
大宇建設	48.66%	35,705	1,370,640
大宇造船海洋	44.28%	127,325	3,000,260

	2017年12月31日		
	非支配持分比率	非支配持分に係る純利益（損失）	非支配持分に対する配当
大宇建設	48.66%	69,264	1,459,461
大宇造船海洋	43.99%	(28,584)	2,222,369
			15,007

- 財務情報の概要

	2018年12月31日							
	資産	負債	営業収益	当期純利益	包括利益 合計	営業活動 による キャッシュ・ フロー	投資活動 による キャッシュ・ フロー	財務活動 による キャッシュ・ フロー
大宇建設	8,733,846	6,416,124	10,605,494	298,686	271,952	176,191	(152,822)	167,473
大宇造船海洋	11,918,522	8,078,300	9,644,384	344,722	332,469	725,141	(13,221)	(565,892)

	2017年12月31日							
	資産	負債	営業収益	当期純利益	包括利益 合計	営業活動 による キャッシュ・ フロー	投資活動 による キャッシュ・ フロー	財務活動 による キャッシュ・ フロー
大宇建設	8,776,332	6,498,263	11,766,840	258,937	210,982	337,413	84,899	(721,127)
大宇造船海洋	11,446,753	8,456,091	11,101,818	621,492	527,133	(1,019,899)	22,724	987,889

56. キャッシュ・フロー計算書

(1) 2018年および2017年12月31日現在の連結キャッシュ・フロー計算書の現金および現金同等物は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年12月31日	2017年12月31日
継続事業:		
現金および預け金:		
現金および外貨	559,610	516,380
ウォン建て預け金	4,663,447	4,476,964
外貨建て／オフショア預け金	3,506,971	3,242,142
	<u>8,730,028</u>	<u>8,235,486</u>
控除: 制限付預け金ほか	(3,897,497)	(2,583,506)
加算: 満期が取得日から3ヶ月以内の金融商品		
国公債	218,981	444,643
コールローン	3,081,090	4,087,060
銀行間貸出債権	908,806	151,307
	<u>4,208,877</u>	<u>4,683,010</u>
現金および現金同等物	9,041,408	10,334,990

(2) 2018年および2017年12月31日に終了した年度のキャッシュ・フローに関連のない重要な取引は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年	2017年
償却による貸出債権の減少	238,338	121,480
デット・エクイティ・スワップ等によるFVOCIで測定される有価証券の増加	56,221	-
デット・エクイティ・スワップ等による売却可能金融資産の増加	-	80,879
有価証券の評価によるその他の包括利益累計額の減少	129,956	166,131
FVOCIで測定される有価証券の関連会社投資への振替	2,050	-
売却可能金融資産の関連会社投資への振替	-	6,638
FVTPLで測定される有価証券の関連会社投資への振替	1,700	-
売却可能金融資産の関連会社投資への振替	-	18,318
投資不動産の有形固定資産への振替	7,905	-
有形固定資産の投資不動産への振替	7,524	-
政府からの拠出による売却可能金融資産の増加	-	250,000
売却目的保有資産への振替	75,169	113,796
当グループの子会社のデット・エクイティ・スワップによる非支配持分の増加	9,803	527,621
当グループの子会社のハイブリッド債券への転換による非支配持分の増加	-	1,284,775

57. 金融商品の振替

2018年および2017年12月31日現在の、認識中止に適格ではない買戻契約および貸付有価証券に関連する金融資産および負債の詳細は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

取引の性質	2018年12月31日		2017年12月31日	
	振替資産の 帳簿価額	関連負債の 帳簿価額	振替資産の 帳簿価額	関連負債の 帳簿価額
買戻契約	4,702,089	2,207,434	4,662,825	3,522,261
貸付有価証券	60,409	-	-	-
	<u>4,762,498</u>	<u>2,207,434</u>	<u>4,662,825</u>	<u>3,522,261</u>

58. 金融資産および負債の公正価値

当グループは、金融商品の公正価値を以下の3つのレベルに分類し、開示している。

- レベル1：活発な市場から市場価格が測定される金融商品は公正価値レベル1に分類される。
- レベル2：すべての重要なインプットが観察可能な市場データである場合に、評価技法を用いて測定される金融商品はレベル2に分類される。
- レベル3：1つ以上の重要なインプットが観察可能な市場データに基づかない場合に、評価技法を用いて測定される金融商品はレベル3に分類される。

(1) 公正価値で測定される金融商品の公正価値ヒエラルキー

()2018年および2017年12月31日現在の公正価値で測定される金融商品の公正価値ヒエラルキーは以下のとおりである。(単位：百万ウォン)

	2018年12月31日			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金融資産:				
FVTPLで測定される有価証券	739,563	4,956,048	7,795,104	13,490,715
FVOCIで測定される有価証券	4,497,585	15,448,497	10,331,304	30,277,386
FVTPLで測定される貸出債権	-	-	779,520	779,520
金融派生商品資産	275	3,782,740	142,490	3,925,505
	5,237,423	24,187,285	19,048,418	48,473,126
金融負債:				
当期損益認識金融負債	-	2,164,538	-	2,164,538
金融派生商品負債	364	3,225,498	3,242	3,229,104
	364	5,390,036	3,242	5,393,642

	2017年12月31日			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金融資産:				
売買目的金融資産	605,540	1,299,109	-	1,904,649
当期損益認識金融資産	-	-	120,019	120,019
売却可能金融資産	4,311,470	20,140,294	15,142,162	39,593,926
金融派生商品資産	372	6,224,595	157,612	6,382,579
	4,917,382	27,663,998	15,419,793	48,001,173
金融負債:				
当期損益認識金融負債	-	1,583,713	42,472	1,626,185
金融派生商品負債	1,497	5,808,766	13,728	5,823,991
	1,497	7,392,479	56,200	7,450,176

()2018年および2017年12月31日に終了した年度のレベル3の金融商品の公正価値の変動は以下のとおりである。
(単位:百万ウォン)

	2018年					
	2018年 1月1日	損益	その他の 包括損失	取得 / 発行	売却 / 決済	2018年 12月31日
金融資産:						
FVTPLで測定される有価証券	6,679,027	(118,675)	-	1,938,969	(695,171)	(9,046) 7,795,104
FVOCIで測定される有価証券	9,997,243	(15,837)	(188,679)	669,576	(107,368)	(23,631) 10,331,304
FVTPLで測定される貸出債権	1,132,689	-	-	-	(353,169)	- 779,520
金融派生商品資産	4,489	139,258	-	-	-	(1,257) 142,490
	17,813,448	4,746	(188,679)	2,608,545	(1,155,708)	(33,934) 19,048,418
金融負債:						
金融派生商品負債	8,602	(2,286)	-	-	(3,975)	901 3,242

	2017年					
	2017年 1月1日	損益	その他の 包括損失	取得 / 発行	売却 / 決済	子会社の取得 または処分
						2017年 12月31日
金融資産:						
当期損益認識金融資産	341,303	(516)	-	100,000	(318,231)	- (2,537) 120,019
売却可能金融資産	12,979,229	(95,864)	179,105	2,670,470	(487,140)	(72,907) (30,731) 15,142,162
金融派生商品資産	174,186	(10,902)	-	28,544	(33,771)	- (445) 157,612
	13,494,718	(107,282)	179,105	2,799,014	(839,142)	(72,907) (33,713) 15,419,793
金融負債:						
当期損益認識金融負債	-	42,472	-	-	-	- 42,472
金融派生商品負債	66,976	(16,420)	-	(16,489)	(5,329)	- (15,010) 13,728
	66,976	26,052	-	(16,489)	(5,329)	- (15,010) 56,200

()2018年および2017年12月31日現在の公正価値で測定される金融商品の公正価値ヒエラルキーのレベル2に分類される公正価値測定に用いられる評価技法およびインプットの詳細は以下のとおりである。

	評価技法	インプット
FVTPLで測定される有価証券 および売買目的金融資産:		
持分証券	純資産価値法	原資産価格
債務証券	割引キャッシュ・フロー法	割引率
FVOCIで測定される有価証券 および売却可能金融資産:		
持分証券	純資産価値法	原資産価格
債務証券	割引キャッシュ・フロー法	割引率
金融派生商品資産:		
金利スワップ	割引キャッシュ・フロー法、	割引率、為替レート、
通貨先渡および通貨スワップ	ブラック・ショールズ・モデル、 修正ブラック・モデル、数式モデル	ボラティリティ、 コモディティ指數等
通貨オプション		
コモディティ・オプション		
当期損益認識金融負債:		
債券	割引キャッシュ・フロー法	割引率

()2018年および2017年12月31日現在の公正価値で測定される金融商品の公正価値ヒエラルキーのレベル3に分類される公正価値測定に用いられる観察不能なインプットに関する評価技法および定量的情報の内訳は以下のとおりである。

2018年12月31日			
	評価技法	観察不能なインプット	範囲(%)
FVTPLで測定される有価証券：			
持分証券	割引キャッシュ・フロー法、相対価値法、純資産価値法	割引率 清算価値増加率 不動産処分価格増加率 ボラティリティ	4.03 ~ 18.22 - - 20.54 ~ 40.70
FVOCIで測定される有価証券：			
持分証券	割引キャッシュ・フロー法、相対価値法、純資産価値法	割引率 成長率 清算価値増加率 不動産処分価格増加率 ボラティリティ	3.87 ~ 18.36 - - - 21.51 ~ 38.07
FVTPLで測定される貸出債権：			
転換社債等	二項モデル	ボラティリティ	17.79 ~ 48.97
金融派生商品資産：			
金利スワップ	割引キャッシュ・フロー法	ボラティリティ 相関係数	17.80 ~ 24.20 0.81 ~ 0.92
金利オプション	修正ブラック・モデル	ボラティリティ	17.80 ~ 24.20
株価指数オプション	ブラック・ショールズ・モデル	ボラティリティ	14.70 ~ 26.50
株式オプション	割引キャッシュ・フロー法等	ボラティリティ	24.11 ~ 25.29
株式先渡	割引キャッシュ・フロー法等	ボラティリティ	21.93

2017年12月31日			
	評価技法	観察不能なインプット	範囲(%)
売却可能金融資産：			
持分証券	割引キャッシュ・フロー法、相対価値法、純資産価値法	割引率 成長率 清算価値増加率	3.70 ~ 20.26 - -
不動産処分価格増加率			
賃貸キャッシュ・フロー割引率			
金利スワップ	割引キャッシュ・フロー法	ボラティリティ 相関係数	7.66 ~ 9.31 11.45 ~ 25.79
金利オプション	修正ブラック・モデル	ボラティリティ	19.20 ~ 23.60
株価指数オプション	ブラック・ショールズ・モデル	ボラティリティ	(-)0.42 ~ 0.95
株式オプション	割引キャッシュ・フロー法	ボラティリティ 相関係数	19.20 ~ 23.60 11.00 ~ 21.00
			16.62 ~ 57.31
			(-)0.11 ~ 0.75

(2)公正価値で計上される金融商品の公正価値ヒエラルキー

()当グループの償却原価で測定される金融商品の公正価値測定方針は以下のとおりである。

- 現金および預け金：現金の公正価値は、帳簿価額と等しいとみなされる。所定の満期を有さず即時に現金化される要求預け金の場合、帳簿価額は見積公正価値に近似するとみなされ、そのように仮定される。その他の通常の預け金の場合、公正価値は割引キャッシュ・フロー法を用いて見積もられる。
- 償却原価で測定される貸出債権：償却原価で測定される貸出債権の公正価値は、デフォルト確率を考慮したスプレッド・シートにより調整された市場割引金利を用いた期限前弁済比率を反映した見積将来キャッシュ・フローである。かかる手法の例外には、与信枠付の貸出債権、残存期間が3ヵ月以内の貸出債権および減損貸出金が含まれ、当グループはその帳簿価額を公正価値とみなしている。
- 償却原価で測定される有価証券：償却原価で測定される有価証券の公正価値は、定評のある第三者評価機関によって要請に応じて測定される。
- 預金：預金の公正価値は、割引キャッシュ・フロー法を用いて計算される。ただし、キャッシュ・フローを合理的に見積もることができない預金については、当グループはその帳簿価額を公正価値とみなしている。
- 借入金：ウォン建ての借入金については、公正価値は割引キャッシュ・フロー法を用いて計算される。外貨建ての借入金の公正価値は、定評のある第三者評価機関によって要請に応じて計算される。ただし、契約上の満期が3ヵ月以内のコールマネーを含む借入金については、当グループはその帳簿価額を公正価値とみなしている。
- 債券：ウォン建ての仕組債を除くウォン建ての産業金融債の公正価値は、割引キャッシュ・フロー法を用いて計算される。ウォン建ての仕組産業金融債および外貨建ての産業金融債については、公正価値は、定評のある第三者評価機関によって要請に応じて計算される。
- その他の金融資産および負債：その他の金融資産および負債の公正価値は、割引キャッシュ・フロー法を用いて計算される。ただし、キャッシュ・フローを合理的に見積もることができない場合、当グループは、帳簿価額を公正価値とみなしている。

()2018年および2017年12月31日現在の公正価値で計上される金融商品の公正価値ヒエラルキーは以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年12月31日			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金融資産:				
現金および預け金(*)	4,832,531	3,897,497	-	8,730,028
償却原価で測定される有価証券	1,689,794	3,923,929	-	5,613,723
償却原価で測定される貸出債権(*)	-	3,081,090	144,058,470	147,139,560
その他の金融資産(*)	-	3,547,775	11,857,429	15,405,204
	6,522,325	14,450,291	155,915,899	176,888,515
金融負債:				
預金(*)	-	2,292,812	30,805,252	33,098,064
借入金(*)	-	726,764	25,811,702	26,538,466
債券	-	124,026,179	-	124,026,179
その他の金融負債(*)	-	2,119,990	7,082,094	9,202,084
	-	129,165,745	63,699,048	192,864,793

	2017年12月31日			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金融資産:				
現金および預け金(*)	5,651,980	2,583,506	-	8,235,486
満期保有金融資産	2,525,474	3,227,305	-	5,752,779
貸出債権(*)	-	4,087,061	140,667,901	144,754,962
その他の金融資産(*)	-	6,632,670	12,485,061	19,117,731
	8,177,454	16,530,542	153,152,962	177,860,958
金融負債:				
預金(*)	-	2,633,521	31,652,246	34,285,767
借入金(*)	-	795,973	27,997,310	28,793,283
債券	-	120,707,506	-	120,707,506
その他の金融負債(*)	-	4,726,695	7,200,353	11,927,048
	-	128,863,695	66,849,909	195,713,604

(*)レベル2に分類される金融商品については、帳簿価額は公正価値の合理的な近似値と考えられているため、公正価値で計上されている。

()2018年および2017年12月31日現在の償却原価で測定される金融商品の公正価値ヒエラルキーのレベル2および3に分類される公正価値測定に用いられる評価技法およびインプットの内訳は以下のとおりである。

	評価技法	インプット
レベル2		
金融資産 :		
償却原価で測定される有価証券および満期保有金融資産	割引キャッシュ・フロー法	割引率
金融負債 :		
債券	割引キャッシュ・フロー法	割引率
レベル3		
金融資産 :		
償却原価で測定される貸出債権および貸出債権	割引キャッシュ・フロー法	信用スプレッド、その他のスプレッド、期限前返済率
その他の金融資産	割引キャッシュ・フロー法	その他のスプレッド
金融負債 :		
預金	割引キャッシュ・フロー法	その他のスプレッド、期限前返済率
借入金	割引キャッシュ・フロー法	その他のスプレッド
その他の金融負債	割引キャッシュ・フロー法	その他のスプレッド

59. 金融資産および負債の分類

2018年および2017年12月31日現在の金融資産および負債の分類は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

2018年12月31日									
	現金および 現金同等物	当期損益認識 金融商品	FVTPLでの測定を 指定される 金融商品	FVOCIで測定される 金融商品	償却原価で測定さ れる金融商品	ヘッジ目的 金融派生商品	合計		
金融資産:									
現金および預け金	4,832,531	-	-	-	3,897,497	-	8,730,028		
FVTPLで測定される 有価証券	218,981	13,271,734	-	-	-	-	13,490,715		
FVOCIで測定される 有価証券	-	-	-	30,277,386	-	-	30,277,386		
償却原価で測定され る有価証券	-	-	-	-	5,691,616	-	5,691,616		
FVTPLで測定される 貸出債権	-	779,520	-	-	-	-	779,520		
償却原価で測定され る貸出債権	3,989,896	-	-	-	138,166,598	-	142,156,494		
金融派生商品資産	-	3,167,990	-	-	-	757,515	3,925,505		
その他の金融資産	-	-	-	-	15,490,171	-	15,490,171		
	9,041,408	17,219,244	-	30,277,386	163,245,882	757,515	220,541,435		
金融負債:									
当期損益認識金融負 債	-	-	2,164,538	-	-	-	2,164,538		
預金	-	-	-	-	33,949,175	-	33,949,175		
借入金	-	-	-	-	26,379,539	-	26,379,539		
債券	-	-	-	-	123,175,447	-	123,175,447		
金融派生商品負債	-	2,778,160	-	-	-	450,944	3,229,104		
その他の金融負債	-	-	-	-	8,965,058	-	8,965,058		
	-	2,778,160	2,164,538	-	192,469,219	450,944	197,862,861		
2017年12月31日									
	現金および 現金同等物	売買目的 金融商品	当期損益認識 金融商品	売却可能 金融商品	満期保有 金融商品	貸出債権 および 受取債権	償却原価で算 定される金融 負債	ヘッジ目的金 融派生 商品	合計
金融資産:									
現金および預け金	5,651,980	-	-	-	-	2,583,506	-	-	8,235,486
売買目的金融資産	444,643	1,460,006	-	-	-	-	-	-	1,904,649
当期損益認識金融 資産	-	-	120,019	-	-	-	-	-	120,019
売却可能金融資産	-	-	-	39,593,926	-	-	-	-	39,593,926
満期保有金融資産	-	-	-	-	6,040,641	-	-	-	6,040,641
貸出債権	4,238,367	-	-	-	-	138,985,749	-	-	143,224,116
金融派生商品資産	-	5,658,476	-	-	-	-	-	724,103	6,382,579
その他の金融資産	-	-	-	-	-	19,338,002	-	-	19,338,002
	10,334,990	7,118,482	120,019	39,593,926	6,040,641	160,907,257	-	724,103	224,839,418
金融負債:									
当期損益認識金融 負債	-	-	1,626,185	-	-	-	-	-	1,626,185
預金	-	-	-	-	-	34,300,089	-	34,300,089	
借入金	-	-	-	-	-	28,692,715	-	28,692,715	
債券	-	-	-	-	-	120,228,005	-	120,228,005	
金融派生商品負債	-	5,241,597	-	-	-	-	582,394	5,823,991	
その他の金融負債	-	-	-	-	-	11,930,654	-	11,930,654	
	-	5,241,597	1,626,185	-	-	195,151,463	582,394	202,601,639	

60. 金融資産と負債の相殺

2018年および2017年12月31日現在の相殺、強制可能なマスターネッティング契約または類似の契約の対象である金融商品の内訳は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日					
	財政状態計算書で 相殺されない関連金額					
	財政状態計算書で 相殺される	財政状態計算書に 認識された	表示される	金融商品	受入担保金	純額
金融資産総額	金融負債総額	金融資産純額				
金融派生商品資産(*)	3,925,505	-	3,925,505	2,581,531	38,581	1,305,393
未決済直物為替債権(*)	1,806,540	-	1,806,540	1,806,156	-	384
未決済為替貸	2,911,679	1,170,443	1,741,236	-	-	1,741,236
買戻条件付契約の担保として差し入れられた有価証券	4,702,089	-	4,702,089	2,207,434	-	2,494,655
売戻条件付契約	1,357,596	-	1,357,596	1,357,596	-	-
貸付有価証券	60,409	-	60,409	60,409	-	-
有価証券取引未収金	37	-	37	37	-	-
再保険貸	30,962	-	30,962	30,374	-	588
	14,794,817	1,170,443	13,624,374	8,043,537	38,581	5,542,256

	2018年12月31日					
	財政状態計算書で 相殺されない関連金額					
	財政状態計算書で 相殺される	財政状態計算書に 認識された	表示される	金融商品	受入担保金	純額
金融負債総額	金融資産総額	金融負債純額				
金融派生商品負債(*)	3,229,104	-	3,229,104	2,511,809	7,849	709,446
未決済直物為替債務(*)	1,807,079	-	1,807,079	1,806,156	-	923
未決済為替借	1,483,354	1,170,443	312,911	-	-	312,911
買戻条件付契約	2,207,434	-	2,207,434	2,207,434	-	-
有価証券取引未払金	1,054	-	1,054	1,054	-	-
再保険借	31,053	-	31,053	30,374	-	679
	8,759,078	1,170,443	7,588,635	6,556,827	7,849	1,023,959

2017年12月31日

財政状態計算書で
相殺されない関連金額

	財政状態計算書で 相殺される 財政状態計算書に 認識された 認識された 表示される					
	金融資産総額	金融負債総額	金融資産純額	金融商品	受入担保金	純額
金融派生商品資産(*)	6,382,579	-	6,382,579	3,869,802	271,589	2,241,188
未決済直物為替債権(*)	4,488,196	-	4,488,196	4,485,735	-	2,461
未決済為替貸	3,658,339	1,513,865	2,144,474	-	-	2,144,474
買戻条件付契約の担保として差し入れられた有価証券	4,662,825	-	4,662,825	3,522,261	-	1,140,564
売戻条件付契約	1,586,855	-	1,586,855	1,586,855	-	-
有価証券取引未収金	16,721	-	16,721	16,721	-	-
再保険貸	31,098	-	31,098	18,782	-	12,316
	20,826,613	1,513,865	19,312,748	13,500,156	271,589	5,541,003

2017年12月31日

財政状態計算書で
相殺されない関連金額

	財政状態計算書で 相殺される 財政状態計算書に 認識された 認識された 表示される					
	金融負債総額	金融資産総額	金融負債純額	金融商品	受入担保金	純額
金融派生商品負債(*)	5,823,991	-	5,823,991	3,694,166	-	2,129,825
未決済直物為替債務(*)	4,487,737	-	4,487,737	4,485,735	-	2,002
未決済為替借	1,752,823	1,513,865	238,958	-	-	238,958
買戻条件付契約	3,522,261	-	3,522,261	3,522,261	-	-
有価証券取引未払金	18,254	-	18,254	18,254	-	-
再保険借	32,020	-	32,020	18,782	-	13,238
	15,637,086	1,513,865	14,123,221	11,739,198	-	2,384,023

(*) ISDA金融派生商品契約の対象の金融派生商品については、相手方が破産を申請するかまたは何らかの信用問題を有する場合には、すべての契約は清算され、金融派生商品契約の純額は、清算価値に基づき測定され支払われる。

61. 事業セグメント

(1)当グループには、以下のとおり、7つの報告セグメントがあり、これらは当グループの戦略的事業セグメントである。これらは、各事業が異なる技術および市場戦略を必要としているため、個々に管理されている。以下は、当グループの各報告セグメントに関する一般情報の概要である。

	業種	一般情報
銀行業	コーポレート・ファイナンス インベストメント・ファイナンス	法人顧客へのトレーディング・サービスおよび貸付の提供 キャピタル・ファイナンス、再編等の企業に対するコンサルティング・サービスの提供
	資産運用	個人および法人顧客に対する資産運用サービスの提供
	その他	上記に述べられていないその他の事業セグメント
保険		保険事業を行う子会社 (KDB生命保険)
海外		海外に所在する子会社
その他の子会社		海外子会社および保険事業を行う子会社以外の子会社

(2)2018年および2017年12月31日に終了した年度の外部顧客からの営業利益(損失)および事業セグメント間の営業利益(損失)は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年								
	銀行業								
	コーポレー ト・ファイナ ンス	インベストメ ント・ファイ ナンス	資産運用	その他	保険	海外	その他の 子会社	調整	合計
外部顧客からの営業利益(損失)	1,002,624	(387,553)	42,633	619,944	28,737	29,449	930,247	-	2,266,081
セグメント間取引による営業利益(損失)	36,046	309,935	-	(112,569)	81,719	33,881	84,160	(433,172)	-
	1,038,670	(77,618)	42,633	507,375	110,456	63,330	1,014,407	(433,172)	2,266,081

	2017年								
	銀行業								
	コーポレー ト・ファイナ ンス	インベストメ ント・ファイ ナンス	資産運用	その他	保険	海外	その他の 子会社	調整	合計
外部顧客からの営業利益(損失)	(617,123)	(56,987)	34,930	486,582	257,596	102,542	559,762	-	767,302
セグメント間取引による営業利益(損失)	1,481,713	118,403	-	27,232	(159,628)	18,592	82,217	(1,568,529)	-
	864,590	61,416	34,930	513,814	97,968	121,134	641,979	(1,568,529)	767,302

(3)2018年および2017年12月31日に終了した年度の当グループの報告セグメントのセグメント損益の内訳は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年								
	銀行業								
	コーポレー インベストメ ト・ファイナント・ファイ ンス	ナンス	資産運用	その他	保険	海外	その他の 子会社	調整	合計
純利息収益(費用)	1,515,000	(669,023)	20,715	516,095	464,022	73,701	160,513	136	2,081,159
非利息収益(費用)									
有価証券関連収益(費用)(*)1	85,091	(106,628)	-	27,692	(3,345)	2,851	64,291	(36,795)	33,157
その他の非利息収益(費用)	202,058	1,144,553	32,358	(26,583)	(461,140)	(17,243)	1,434,856	(664,055)	1,644,804
	287,149	1,037,925	32,358	1,109	(464,485)	(14,392)	1,499,147	(700,850)	1,677,961
貸倒引当金繰入等(*)2	(205,849)	(348,368)	-	(365)	120,166	46,572	336,830	267,541	216,527
一般管理費	(557,630)	(98,152)	(10,440)	(9,464)	(9,247)	(42,551)	(982,083)	1	(1,709,566)
営業利益(損失)	1,038,670	(77,618)	42,633	507,375	110,456	63,330	1,014,407	(433,172)	2,266,081

	2017年								
	銀行業								
	コーポレー インベストメ ト・ファイナント・ファイ ンス	ナンス	資産運用	その他	保険	海外	その他の 子会社	調整	合計
純利息収益(費用)	1,584,329	(397,111)	19,451	279,701	436,175	86,386	260,804	(15,469)	2,254,266
非利息収益(費用)									
有価証券関連収益(費用)(*)1	13,068	788,838	-	61,003	42,437	8,365	(12,548)	(1,083,359)	(182,196)
その他の非利息収益(費用)	220,479	902,685	25,406	172,505	(544,927)	66,408	2,195,744	(769,022)	2,269,278
	233,547	1,691,523	25,406	233,508	(502,490)	74,773	2,183,196	(1,852,381)	2,087,082
貸倒引当金繰入等(*)2	(406,467)	(1,132,006)	-	4,165	174,288	10,679	(733,757)	299,321	(1,783,777)
一般管理費	(546,819)	(100,990)	(9,927)	(3,560)	(10,005)	(50,704)	(1,068,264)	-	(1,790,269)
営業利益(損失)	864,590	61,416	34,930	513,814	97,968	121,134	641,979	(1,568,529)	767,302

(*)1)有価証券関連収益は、FVTPLで測定される有価証券(2017年12月31日に終了した年度では売買目的金融商品)、FVOCIで測定される有価証券(2017年12月31日に終了した年度では売却可能金融資産)および償却原価で測定される有価証券(2017年12月31日に終了した年度では満期保有金融資産)に係る純利益(損失)からなる。

(*)2)貸倒引当金繰入等は、貸倒引当金繰入、金融派生商品信用リスク引当金繰入、貸出債権売却益(損)および引当金繰入(戻入)からなる。

(4)2018年および2017年12月31日に終了した年度の地域別収益情報ならびに2018年および2017年12月31日現在の地域別非流動資産情報は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	収益(*)1		非流動資産(*)2	
	2018年	2017年	2018年12月31日	2017年12月31日
国内	44,441,959	52,183,877	35,192,841	35,770,155
海外	1,177,596	1,023,517	18,384	16,325
	45,619,555	53,207,394	35,211,225	35,786,480

(*)1)収益は、受取利息、手数料収益、受取配当金、有価証券関連収益、為替取引益、金融派生商品に係る利益、その他の営業利益および貸倒引当金戻入益からなる。

(*)2)非流動資産は、関連会社投資、有形固定資産、投資不動産および無形固定資産からなる。

62. リスク管理

(1)はじめに

()目的および原則

当グループのリスク管理の目的は、財務上の健全性を維持し、当グループの事業の性質に関連する様々なリスクを効率的に管理することである。当グループは適宜効率的にリスクを管理するために方針を定め、遵守している。当該方針に従い、当グループのリスクを以下のように管理している。

- 総合的かつ独立的に管理する。
- 適宜認識し、正確に評価して効率的に管理する。
- リスクと収益との調和がとれるように維持する。
- 特定のセグメントに集中しないよう適切に分散させる。
- リスク許容度と基本方針を樹立し、管理することで過度にリスクにさらされることを避ける。

()リスク管理戦略およびプロセス

当グループのリスク管理業務は、リスクを見積り監視する「測定段階」と、リスク管理プロセスにおいて収集された情報を統合し、リスク管理戦略に用いる「インテグレーション段階」の2段階に分類される。リスク管理は、当グループの経営の主な構成要素として認識されており、従来の適応的かつ限定的な役割からより主導的かつ総合的な形態への変化を模索している。

また、当グループはリスク管理において進歩的なコンセンサスを確立するために、異なる部門間での一貫したコミュニケーションを重視している。

()リスク管理ガバナンス

リスク管理委員会

当グループのリスク管理委員会（以下「委員会」という。）は、委員長（社外理事）、当行CEOを含めたその他5名の委員で構成されている。当該委員会の機能は、リスク管理における方針の設定、当グループの自己資本の適切性の評価、リスク管理に関する重要な問題に関する議論、かかる問題に関する暫定的決定を示すことである。

当行CEOおよびリスク管理部部長

当行CEOは、リスク管理方針に従い、効率性を維持するためにリスク管理および内部統制を管理および監督している。リスク管理部部長は、当グループのリスク管理組織全体の監督、理事会および当グループの経営者へのリスク関連情報の提供を担当している。

リスク管理方針委員会およびリスク管理実務委員会

当グループのリスク管理方針委員会は、すべての事業部門の部門長で構成され、リスク管理委員会が定める範囲内の内部資本の部門別の分配制限および産業別エクスポージャー限度の設定を含む当グループのポートフォリオに関する重要事項を決定する役割を果たしている。

当グループのリスク管理実務委員会は、主な事業部門のうち企画部門の各部門長で構成される。リスク管理実務委員会は、個人向け貸出の審査および承認指針を決定し、リスク管理委員会の主な決定事項を事前に検討している。

()リスク管理委員会の機能

リスク管理委員会は、リスク管理関連のすべての問題の包括的審査および理事会での決議の審議を行っている。2017年12月31日に終了した年度におけるリスク管理委員会の主な活動は、以下のとおりである。

- 主な決定
 - ・ 2018年のリスク管理計画
 - ・ 2018年の国別のエクスポージャー限度額の設定および管理
 - ・ 2018年の緊急時資金調達計画
 - ・ 2018年のベトナムに関するエクスポージャー限度額の調整

- ・国別のエクスポートオーナーの管理基準の変更
- ・IFRS第9号に基づく損失引当金を計算するためのリスク要素の見積基準の変更

-主な検討

- ・定款による2018年のリスク管理の修正

-主な報告

- ・2018年の信用ポートフォリオの管理計画
- ・2017年下半期および2018年上半期の総合的な危機分析
- ・2017年の内部資本配分の結果・2017年の内部資本の適正性評価の結果
- ・四半期ごとの与信委員会の決議
- ・信用格付システム、デフォルト確率および内部目的のリスク要素の適合性検証の結果
- ・2018年の内部資本配分計画
- ・信用ポートフォリオの管理計画の変更
- ・リスク管理委員会の委員長が不在の場合の臨時代理人の任命
- ・2018年の年間の企業信用格付の結果
- ・自己資本比率の緊急時対応計画

()リスク管理システムの改善

リスク管理、財務の健全性および自己資本の適正性の継続的向上に向け、当グループは以下の取り組みを行っている。

-バーゼルによる継続的改善

- ・2008年に韓国金融監督院（以下「FSS」という。）が設定したガイドラインに沿った、より効率的な自己資本適正管理を行うための内部資本適正評価システムの強化。
- ・低デフォルト・ポートフォリオ（以下「LDP」という。）の与信評価システムの強化。
- ・信用リスクのパラメーターおよび測定の理論を含むリスクの測定基準の精緻化。
- ・流動性カバレッジ比率（LCR）および安定調達比率（NSFR）を適時計算するためのシステムの構築。
- ・企業信用格付システムの再開発および適用（2017年10月26日に金融監督院により承認済。）
- ・2019年に国内で導入されるバーゼルの銀行勘定の金利リスクを計算するためのシステムの構築（2018年9月）。

-リスク管理インフラのグローバルIBレベルへの拡大

- ・当行の事業リスクを反映し、経営上の意思決定をサポートするためのリスク調整後収益性指標(RAPM)システムの開発および2010年以降の支店レベルでの業績評価の採用。
- ・規格外の複合金融派生商品に関連するリスク管理の強化および当行のフロント・オフィスが開発した金融派生商品価格決定モデルの検証。
- ・2017年3月のIFRS第9号に基づく貸倒引当金を計算するためのIFRS第9号に基づく会計システムの構築およびそれ以降、2018年1月のIFRS第9号強制適用に向けてのIFRS第9号に基づく会計システムと現行のIAS第39号に基づく会計システムの並行適用

()リスク管理報告および測定システム

当グループは、事業領域、資産およびリスクの特性に応じたすべての重要なリスクを客観的かつ合理的に測定し管理するように継続的に努めている。報告と測定に關し、当グループが開発したアプリケーション・システムは以下のとおりである。

アプリケーション・システム	手法	完了日	主要機能
---------------	----	-----	------

企業信用格付システム	ロジットモデル	2004年6月 2008年3月 2010年3月 2012年3月 2017年10月	企業信用格付の算出 K-IFRSに基づく企業信用格付システムの構築 企業信用格付システムの再構築
信用リスク測定シス テム	信用リスクと信用 測定基準	2003年7月 2007年11月	エクスポージャーの集約、エクスポージャー限 度の管理および信用VaRの算出
市場リスク管理シス テム	リスク監視	2002年6月	ポジションの集約、エクスポージャー限度の管 理および市場VaRの算出
	RSモデル	2012年9月	自己資本比率の算出（標準的手法）
	Murex M/0	2013年4月	VaR算出時のリスク監視の補完
金利/流動性リスク管理 システム	OFSA	2006年2月	金利改定によって生じるギャップ、デュレー ション・ギャップ、VaRおよびEaRの算出
	Fermat	2014年3月	システムの改善、バーゼル の流動性規制に対 応するシステムの構築
オペレーショナル・リ スク管理システム	標準的手法	2006年5月	プロセスの管理ならびに統制自己評価、主要リ スク指標、オペレーショナルVaRの算出
	AMA	2009年5月	AMAの試行
BIS自己資本比率算出シ ステム	Fermat RaY	2006年9月 2013年12月	自己資本および信用リスク・アセットの計算
貸倒引当金算出シス テム	IAS第39号	2011年1月	発生損失モデル
	IFRS第9号	2017年3月	予想信用損失モデル（2018年実施）

()バーゼルへの対応

韓国金融当局は2008年1月以降、バーゼル を導入しており、標準的手法と基礎的内部格付手法を採用している。

バーゼル のロードマップ実施にしたがい、当グループは2008年7月に信用リスクに対して基礎的内部格付手法を使用するための承認をFSSより取得し、2008年6月下旬より当該手法を適用している。当グループは市場リスクおよびオペレーショナル・リスクにおいて標準的手法を適用している。

当グループは、2013年12月1日に公表されたバーゼル 規則の適用に先駆け、「バーゼル 基準リスク管理システム」を完成した。2013年末以降、BIS自己資本比率はバーゼル 規則に従って測定されている。

当グループは、金融当局の要求を受けて、金利リスク、流動性リスク、信用バイアス・リスクおよび風評リスクならびに第1の柱の対象となるリスク（信用リスク、市場リスクおよびオペレーショナル・リスク）を認識している。当グループは2015年より、銀行のリスク管理レベルでの包括的評価に基づいた追加所要資本を含む第2の柱の規制に対応している。当グループは2015年末より、バーゼルへの準拠に関する金融事業の公表について、統一された基準を適用している。

また、当グループは銀行のファンド投資に係る資本賦課（2017年に発効）およびカウンターパーティ信用リスク・エクスポージャーの計測に係る標準的手法（SA-CCR、2019年に発効予定）等の改訂基準を作成中である。

()内部資本適正評価プロセス

内部資本適正評価プロセスは、当グループが重要なリスクの情報を収集し、内部資本の計算を行い、利用可能な資本と内部資本を比較し、その内部資本の適正性を評価するプロセスと定義されている。

-内部資本適正評価

内部資本適正評価を行うため、当グループは全ての重要なリスクならびに資本の質および内容を考慮した利用可能資本を評価することで全体の内部資本の計算を行い、その後、それらの全体の内部資本と利用可能資本の情報を比較することで内部資本の適正性を評価している。また、当グループは、危機的状況における潜在的な弱点を評価するために少なくとも半年ごとに定期的なストレステストを行っており、その結果を内部資本の適正性の評価に使用している。当グループは、マクロ経済状況を「通常 - 悪化 - 悲観的 - 深刻」の4段階としており、段階ごとの資本の適正性の確認等の対応策の策定を行っている。

-内部資本管理における目標設定

当グループは、リスク管理委員会の承認を通じて、利用可能資本の制約の範囲内における内部資本（統合リスク）を管理することにより、内部資本適正の維持のために内部資本制限を年間ベースで設定し管理している。

前年度の内部資本、当年度の国内外の環境の変化の分析ならびに事業の方向性および規模は、統合された内部資本のスケールを算出するために、内部資本管理の目標設定に反映されている。また、国際決済銀行（以下「BIS」という。）自己資本比率およびリスク選好度は、内部資本管理の目標設定において考慮されている。

- 内部資本の割当

当グループのすべての内部資本は、リスク管理委員会の審議および理事会の承認後、許容可能なリスク量および事業スケールに応じて、各セグメントおよび部門にそれぞれ配分されている。配分された内部資本は、定期的に監視され、様々な管理手法によって管理されている。配分された内部資本の監視および管理の結果は、リスク管理委員会に報告される。当グループの事業計画またはリスク管理戦略に重要な変更が発生した場合、当グループは内部資本の配分を弹性的に調整する。

- 内部資本の構成要素

内部資本は、当グループのすべての重要なリスクを含んでおり、定量化可能なリスクおよび定量化不能なリスクにより構成されている。定量化可能なリスクは、信用リスク、市場リスク、金利リスク、オペレーション・リスク、信用集中リスクおよび外貨決済リスクからなる。定量化可能なリスクは、客観的な数値を用いて合理的方法を採用することで定量的に測定している。定量化不能なリスクは、戦略リスク、風評リスクおよび資産の証券化における残存リスク等で構成されている。定量化不能なリスクは、データまたは適切な測定方法がないため、定量的に測定することができないリスクである。

(2) 信用リスク

() 概念

信用リスクは、相手方の債務履行拒否または債務不履行から生じる潜在的損失と定義される。より一般には、信用リスクは、適切に回収されない関連債券または代物弁済による損失の可能性を参照するために用いられる。

() 信用リスク管理方法

信用リスク管理の概要

当グループは、営業活動において信用リスクを最も重要なリスク領域として捉え、信用リスクへのエクスポージャーを注意深く監視している。当グループは、信用リスクをポートフォリオ・レベルと個別与信レベルの双方で管理している。ポートフォリオ・レベルでは、当グループは与信集中を軽減し、リスク水準を考慮に入れつつ利益を最大化するような方法でポートフォリオの再構築を行っている。特定セクターへの与信集中を避けるため、当グループは顧客、グループおよび業種別に与信限度を管理している。当グループはまた年に二度、業種別与信評価を行い、各業種毎のエクスポージャー管理指針を再設定している。

個別与信レベルでは、リレーションシップ・マネージャー（以下「RM」という。）、審査担当者（クレジット・オフィサー（以下「CO」という。））および信用審査委員会がそれぞれ借り手の信用リスクを管理している。

融資後管理および支払不能債務者管理

当グループは、新たな不良債権が発生するのを防ぎ、安定的な債権回収を行えるように、融資開始から債権回収が終了するまで一貫して借り手の信用格付を監視し、借り手の状況を定期的かつ頻繁に審査している。

加えて、支払不能に陥る可能性の高い借り手を特定するために早期警告システムを導入している。当該早期警告システムは借り手の財務情報、財務取引情報、公開情報および市場情報を提供する。それらの情報の利用により、RMとCOは借り手の信用格付の変更を監視および管理している。

早期警告システムの下、支払不能に陥る可能性の高い借り手は早期警戒先もしくは要注意先に分類される。当グループは借り手の特性を考慮して、借り手に対して具体的かつ実務的な安定化計画を提示している。また、固定に分類される借り手は、支払不能な借り手として分類され、当グループにより集中管理される。当グループは適宜、法的手続、処分または企業再編措置を取る。

資産の健全性の分類と貸倒引当金

資産の健全性の分類は、信用リスクの分析および評価により行われる。かかる分類は、資産運用の安定化を向上させるよう、適切な引当金を設定し、不良債権の更なる発生を防ぎ、現存の不良債権の正常化を促進するために用いられている。

当グループは、銀行業監督規則に基づき、借入人の返済実績だけでなく将来の債務返済能力も反映する資産健全性分類基準（FLC）に従って、資産の健全性の分類に係る基準およびガイドラインを定めている。

当該基準に従い、当グループの資産の健全性は「正常」、「要注意」、「固定」、「回収疑問」または「推定損失」に分類されており、各区分毎に引当率を区別している。

2018年12月31日現在の貸出債権の信用格付別の内訳は以下のとおりである（単位：百万ウォン）。

<事業法人向け>

2018年12月31日				
帳簿価額	12ヵ月間の 予想信用損失	全期間の予想信用損失		
		信用減損していない 貸出債権	信用減損している 貸出債権	
AAA～BBB1	108,686,323	106,581,514	2,087,024	17,785
BBB2～CCC	29,903,840	20,194,996	9,558,249	150,595
CC以下	3,656,335	89	1,340,420	2,315,826
	142,246,498	126,776,599	12,985,693	2,484,206

<非事業法人向け>

2018年12月31日				
帳簿価額	12ヵ月間の 予想信用損失	全期間の予想信用損失		
		信用減損していない 貸出債権	信用減損している 貸出債権	
等級1～等級6	1,673,476	1,609,425	62,783	1,268
等級7～等級8	1,053,090	1,035,778	16,603	709
等級9～等級10	7,136	202	2,161	4,773
	2,733,702	2,645,405	81,547	6,750

2018年12月31日現在の支払保証（金融保証を含む。）および未実行貸出残高の信用格付別の内訳は以下のとおりである（単位：百万ウォン）。

<事業法人向け>

エクspoージャー	12ヵ月間の 予想信用損失	全期間の予想信用損失	
		信用減損していない 貸出債権	信用減損している 貸出債権
未実行貸出残高：			
AAA～BBB1	24,683,364	24,481,108	202,256
BBB2～CCC	3,285,773	1,301,270	1,984,503
CC以下	199,900	88,527	110,388
	28,169,037	25,870,905	985

エクspoージャー	12ヵ月間の 予想信用損失	全期間の予想信用損失	
		信用減損していない 貸出債権	信用減損している 貸出債権
支払保証（金融保証を含む。）：			
AAA～BBB1	5,950,586	5,915,072	35,436
BBB2～CCC	2,110,565	1,747,200	363,365
CC以下	1,054,569	344,111	213,861
	9,115,720	8,006,383	496,597
			496,675

<非事業法人向け>

エクspoージャー	12ヵ月間の 予想信用損失	全期間の予想信用損失	
		信用減損していない 貸出債権	信用減損している 貸出債権
未実行貸出残高：			
等級1～等級6	113,913	111,678	2,235
等級7～等級8	31	-	31
等級9～等級10	3	3	-
	113,947	111,681	2,266

2017年12月31日現在の貸出債権の内訳は以下のとおりである（単位：百万ウォン）。

	2017年12月31日
延滞も減損もしていないもの	140,126,306
延滞しているが減損していないもの	98,607
減損	6,223,975
	146,448,888
貸倒引当金	(3,006,128)
現在価値割引差金	(215,857)
繰延貸出組成費用および手数料	(2,787)
純額	143,224,116
貸出総額に対する貸倒引当金比率	2.05%

2017年12月31日現在の延滞も減損もしていない貸出債権は以下のとおりである（単位：百万ウォン）。

2017年12月31日							
	ウォン建て貸出債権			その他貸出債権			
	運転資金 貸付	設備開発 資金貸付	その他	外貨建て 貸出債権	私募社債	その他	合計
AAA ~ B-	43,754,524	48,998,878	4,944,916	23,649,450	2,132,220	12,009,054	135,489,042
CCC	1,925,945	119,860	1,785	1,369,865	122,498	149,679	3,689,632
CC	378,016	164,281	-	200,848	-	204,487	947,632
C	-	-	-	-	-	-	-
D	-	-	-	-	-	-	-
	46,058,485	49,283,019	4,946,701	25,220,163	2,254,718	12,363,220	140,126,306

2017年12月31日現在の延滞しているが減損していない貸出債権は以下のとおりである（単位：百万ウォン）。

2017年12月31日							
	ウォン建て貸出債権			その他貸出債権			
	運転資金 貸付	設備開発 資金貸付	その他	外貨建て 貸出債権	私募社債	その他	合計
30日未満	12,918	22,267	10,230	19,172	1,000	22,322	87,909
30日～60日未満	62	1,242	1,250	-	-	1,082	3,636
60日～90日未満	511	5,849	56	-	-	646	7,062
	13,491	29,358	11,536	19,172	1,000	24,050	98,607

2017年12月31日現在の減損貸出債権は以下のとおりである（単位：百万ウォン）。

2017年12月31日							
	ウォン建て貸出債権			その他貸出債権			
	運転資金 貸付	設備開発 資金貸付	その他	外貨建て 貸出債権	私募社債	その他	合計
個別評価	2,129,377	2,147,827	1,868	562,122	790,686	352,567	5,984,447
集合的評価	85,596	51,270	8,045	63,404	17,477	13,736	239,528
	2,214,973	2,199,097	9,913	625,526	808,163	366,303	6,223,975

()信用リスク測定方法

バーゼル に従い、当グループは測定の複雑性、測定因子、推定方法等を鑑みて信用リスクの測定方法を選定している。測定方法は標準的手法と内部格付手法に分けられる。

標準的手法(以下「SA」という。)

標準的手法では、外部信用格付機関(以下「ECAI」という。)によって評価された信用格付に基づいたリスク・ウェイトを使用している。信用格付別リスク・ウェイトは以下のとおりである。

信用格付	事業法人	国	銀行
AAA ~ AA-	20.00%	0.00%	20.00%
A+ ~ A-	50.00%	20.00%	50.00%
BBB+ ~ BBB-	100.00%	50.00%	100.00%
BB+ ~ BB-	100.00%	100.00%	100.00%
B+ ~ B-	150.00%	100.00%	100.00%
B-未満	150.00%	150.00%	150.00%
無格付	100.00%	100.00%	100.00%

経済協力開発機構(OECD)、S&P、ムーディーズおよびフィッチは海外ECAIに指定されており、またコリア・インベスター・サービス・カンパニー・リミテッド、NICEインベスター・サービス・カンパニー・リミテッドおよびコリア・レーティングス・カンパニー・リミテッドは国内ECAIに指定されている。

当グループは類似の貸出および同一の借り手の無担保優先貸付に基づいて信用格付を適用している。借り手のリスク・ウェイトが無格付のリスク・ウェイト(100%)より高い場合、高い方のリスク・ウェイトが適用される。借り手が1つ以上の格付を持つ場合、最も低い2つのウェイトのうち高い方のウェイト(セカンド・ベスト基準)が適用される。

内部格付手法(以下「IRB」という。)

銀行が内部格付手法を用いるためには、FSSの承認を受け、FSSが事前に定めた要件を満たす必要がある。

2008年1月にバーゼル が国内で適用されたことに関連して、2008年7月、FSSは、当グループが基礎的内部格付手法を使用することを承認した。当グループは、2008年6月下旬より、かかる手法を用いて信用リスク・アセットを計算している。

信用リスク・アセットの測定方法

当グループは2018年12月31日現在、基礎的内部格付手法を用いて企業向けエクスポージャーおよび資産証券化向けエクスポージャーに係る信用リスク・アセットを計算している。

標準的手法は現在、特定金融会社、非居住者およびノンバンク金融機関に適用され、将来、内部格付手法に置き換えられる予定である。

標準的手法は、国、公的機関および金融機関に対するエクスポージャーに恒久的に適用される。また、FSSとの事前協議に基づき、標準的手法が海外子会社および当行の支店に適用される。

<承認済み測定方法>

測定方法		エクspoージャー
標準的手法	恒久的SA	- 国、公的機関および銀行
	SA	- 海外子会社および支店、その他の資産、個人、居住用不動産、商業用不動産、延滞債権(個人向け貸出に限定される。)
基礎的内部格付手法	- 事業法人、中小企業、資産証券化および株式	
段階的な内部格付手法の適用	- 特別貸出、非居住者、ノンバンク金融機関	

信用リスクの軽減効果は適格担保および保証を考慮する関連政策を反映している。当グループは自己資本比率を使い信用リスク・アセットを計算している。

金融派生商品の信用リスク・アセットを計算する際、当グループはエクspoージャーを計算するために、相殺する法的に強制力をもつ権利に基づき、取引の相殺効果を考慮する。

2018年および2017年12月31日現在の資産タイプ別の信用リスク軽減後のエクスポートは以下のとおりである。
(単位：百万ウォン)。

	2018年12月31日		
	エクスポート	信用リスク軽減	信用リスク軽減後 エクスポート
政府向け	13,230,661	-	13,230,661
銀行向け	19,505,950	-	19,505,950
事業法人向け	131,020,852	(265,704)	130,755,148
株式	32,967,228	-	32,967,228
間接投資	10,478,914	(2,548,734)	7,930,180
資産証券化	2,551,803	-	2,551,803
店頭金融派生商品	9,938,599	(4,341,666)	5,596,933
リテール資産	672,748	(25,407)	647,341
その他	45,038,289	(129,125)	44,909,164
	265,405,044	(7,310,636)	258,094,408

	2017年12月31日		
	エクスポート	信用リスク軽減	信用リスク軽減後 エクスポート
政府向け	15,492,552	-	15,492,552
銀行向け	19,519,149	-	19,519,149
事業法人向け	129,607,364	(298,540)	129,308,824
株式	29,785,368	-	29,785,368
間接投資	7,672,509	(1,645,991)	6,026,518
資産証券化	4,366,731	-	4,366,731
店頭金融派生商品	11,620,076	(5,036,913)	6,583,163
リテール資産	1,525,960	(26,260)	1,499,700
その他	46,602,601	(460,376)	46,142,225
	266,192,310	(7,468,080)	258,724,230

信用格付モデル

信用格付の結果は、債務証券または貸出債権の元利金が契約上の弁済計画に従いつつ弁済される債務弁済能力の評価を通じて等級として表示されている。

当グループは、債務者の信用格付を当グループの内部信用格付モデルを用いてAAA～Dの14等級に分類している。同一の等級における信用力の差を区別するために、当グループは14等級を補助するものとして20段階を使用している。

当グループの定期的な信用格付プロセスは年に一度実行され、債務者の信用状態が変わった場合、信用格付は信用格付の適切性を維持するため必要に応じて頻繁に調整される。

信用格付の結果は、融資手続の区別、融資限度額、融資金利、融資後の融資管理標準プロセス、信用リスク測定および貸倒引当金評価のような様々な分野に適用される。

信用格付プロセス管理体制

当グループは、抑制と均衡の原則に従って、信用格付システムが適切に機能するよう信用格付プロセス管理体制を確立している。

・信用格付の独立評価：当行の事業セグメント(RM) および信用格付評価セグメント(信用格付担当者)は独立して機能している。

・信用格付システムの独立管理：信用格付モデルの開発を含む信用格付システムの管理は、当行のリスク管理部門によって独立して遂行されている。

・信用格付システムの独立検証：信用格付システムはファイナンシャル・プランニング部門のリスク検証チームにより独立して検証されている。

・信用格付プロセスの内部監査：信用格付プロセスは当行内部の監査部門により監査されている。

・理事会および当行経営者の役割：信用格付プロセスに関連する主要な問題は理事会により承認され、当行の経営者により定期的に監視されている。

当グループは融資を取り扱う際、信用分析に基づき債務返済能力の見直しを行う。結果次第で貸出金の保全は必要に応じて調整され、信用リスクによる金利保全のような方法が用いられる。

当グループは、当初取得時に担保価値、保証履行能力および保証の法的有効性を評価する。当グループは、差し入れられた担保および保証が合理的に維持されるように定期的に再審査している。

保証に関しては、当グループは貸出取扱基準に基づき書面による関連保証書を徴求し、当該保証人の信用格付は信用格付付与方法に適合するとき独立して計算される。

2018年12月31日現在、担保およびその他の信用補完による減損金融資産の信用リスクの軽減の程度を定量化したものは以下のとおりである（単位：百万ウォン）。

2018年12月31日	
FVTPLで測定される有価証券	2,310
FVOCIで測定される有価証券	70,845
償却原価で測定される貸出債権	2,156,459
その他の資産	175,075

()信用エクスポート

2018年および2017年12月31日現在の信用エクスポートの地理別情報は以下のとおりである（単位：百万ウォン）。

	2018年12月31日									
	韓国	香港	アイル蘭 ド	ウズベキスタン	ブラジル	ハンガリー	英国	米国	その他	合計
預け金(韓国銀行に対する預け金を除く。)	3,203,211	5,857	43	10,390	86	57,516	64,253	374,891	677,334	4,393,581
FVTPLで測定される有価証券:										
債券(国債を除く。)		30,000	-	-	-	-	-	-	-	30,000
FVOCIで測定される有価証券:										
債券(国債を除く。)	11,233,011	58,289	16,585	-	-	124,606	797,230	654,888	863,091	13,747,700
償却原価で測定される有価証券:										
債券(国債を除く。)	2,643,586	-	-	-	3,695	-	-	-	-	2,647,281
貸出債権	132,246,986	22,341	6,358	71,891	57,436	198,211	1,018,257	842,797	6,061,253	140,525,530
金融派生商品資産	718,383	-	-	-	-	-	5,405	646	3,296	727,730
その他の金融資産	8,800,005	227	346	1,374	486	5,906	69,225	22,048	127,924	9,027,541
	158,875,182	86,714	23,332	83,655	61,703	386,239	1,954,370	1,895,270	7,732,898	171,099,363
保証	8,959,277	-	-	20,265	6,469	15,999	-	81,371	24,869	9,108,250
コミットメント	29,260,804	-	-	7,811	-	32,099	268,393	105,588	709,443	30,384,138
	38,220,081	-	-	28,076	6,469	48,098	268,393	186,959	734,312	39,492,388
	197,095,263	86,714	23,332	111,731	68,172	434,337	2,222,763	2,082,229	8,467,210	210,591,751

	2017年12月31日									
	韓国	香港	アイル蘭 ド	ウズベキスタン	ブラジル	ハンガリー	英国	米国	その他	合計
預け金(韓国銀行に対する預け金を除く。)	3,894,261	44,135	117	18,241	2	104,032	105,686	266,275	915,280	5,348,029
当期損益認識金融資産:										
債券(国債を除く。)		118,970	-	-	-	-	-	-	-	118,970
売却可能金融資産:										
債券(国債を除く。)	12,181,230	34,984	-	-	-	100,014	688,195	608,602	708,512	14,321,537
満期保有金融資産:										
債券(国債を除く。)	3,183,155	-	-	-	1,164	-	-	-	10,726	3,195,045
貸出債権	136,168,144	30,654	22,476	48,018	154,313	183,920	829,683	746,788	5,335,402	143,519,398
金融派生商品資産	706,678	-	-	-	-	-	4,912	452	3,244	715,286
その他の金融資産	12,412,428	472	109	816	719	6,684	22,707	17,556	66,750	12,528,241
	168,664,866	110,245	22,702	67,075	156,198	394,650	1,651,183	1,639,673	7,039,914	179,746,506
保証	11,016,765	72	-	27,599	-	14,451	-	130,885	136,130	11,325,902
コミットメント	5,954,942	-	-	5,298	10,351	30,863	59,319	73,412	555,934	6,690,119
	16,971,707	72	-	32,897	10,351	45,314	59,319	204,297	692,064	18,016,021
	185,636,573	110,317	22,702	99,972	166,549	439,964	1,710,502	1,843,970	7,731,978	197,762,527

2018年および2017年12月31日現在の信用エクスポートの業種別情報は以下のとおりである（単位：百万ウォン）。

	2018年12月31日			
	製造	サービス	その他	合計
預け金(韓国銀行に対する預け金を除く。)	22,994	924,653	3,445,934	4,393,581
FVTPLで測定される有価証券：				
債券(国債を除く。)	30,000	-	-	30,000
FVOCIで測定される有価証券：				
債券(国債を除く。)	2,495,596	8,485,826	2,766,278	13,747,700
償却原価で測定される有価証券：				
債券(国債を除く。)	14,020	2,495,707	137,554	2,647,281
貸出債権	61,220,273	65,641,879	13,663,378	140,525,530
金融派生商品資産	-	723,519	4,211	727,730
その他の金融資産	158,070	208,064	8,661,407	9,027,541
	63,940,953	78,479,648	28,678,762	171,099,363
保証	5,935,165	1,738,323	1,434,762	9,108,250
コミットメント	300,837	4,870,278	25,213,023	30,384,138
	6,236,002	6,608,601	26,647,785	39,492,388
	70,176,955	85,088,249	55,326,547	210,591,751

	2017年12月31日			
	製造	サービス	その他	合計
預け金(韓国銀行に対する預け金を除く。)	24,352	4,056,180	1,267,497	5,348,029
当期損益認識金融資産：				
債券(国債を除く。)	-	118,970	-	118,970
売却可能金融資産：				
債券(国債を除く。)	2,894,922	9,101,868	2,324,747	14,321,537
満期保有金融資産：				
債券(国債を除く。)	23,321	2,741,035	430,689	3,195,045
貸出債権	63,928,166	65,399,208	14,192,024	143,519,398
金融派生商品資産	-	712,432	2,854	715,286
その他の金融資産	185,384	197,867	12,144,990	12,528,241
	67,056,145	82,327,560	30,362,801	179,746,506
保証	8,934,178	1,835,233	556,491	11,325,902
コミットメント	239,035	5,943,254	507,830	6,690,119
	9,173,213	7,778,487	1,064,321	18,016,021
	76,229,358	90,106,047	31,427,122	197,762,527

2018年12月31日現在の信用格付別の債務証券の信用エクスポージャーは以下のとおりである（単位：百万ウォン）。

<事業法人>

	2018年12月31日		
	帳簿価額	12ヵ月間の予想信用損失	全期間の予想信用損失
		信用減損していない債務証券	信用減損している債務証券
AAA	16,329,277	16,329,277	-
AA	4,369,974	4,369,974	-
A1	2,567,717	2,567,717	-
A2	1,266,929	1,266,929	-
BBB1	497,331	436,676	60,655
BBB2	11,731	11,667	64
BB1	-	-	-
BB2	5,682	5,682	-
C	260	260	-
D	-	-	-
	25,048,901	24,988,182	60,719

<非事業法人>

	2018年12月31日		
	帳簿価額	12ヵ月間の予想信用損失	全期間の予想信用損失
		信用減損していない債務証券	信用減損している債務証券
等級1～等級6	245,709	245,689	- 20
等級7～等級8	-	-	-
等級9～等級10	-	-	-
	245,709	245,689	- 20

2017年12月31日現在の信用格付別の預け金および債務証券の信用エクスポージャーは以下のとおりである（単位：百万ウォン）。

	2018年12月31日			
	預け金	当期損益認識金融資産	売却可能金融資産	満期保有金融資産
				合計
AAA～AA-	1,181,554	99,067	4,806,912	3,090,689 9,178,222
A+～A-	1,744,818	-	4,141,821	52,565 5,939,204
BBB+～BB-	874,734	-	4,023,413	11,395 4,909,542
BB-未満	23,049	-	83,089	495 106,633
無格付	1,523,874	19,903	1,266,302	39,901 2,849,980
	5,348,029	118,970	14,321,537	3,195,045 22,983,581

(3)資本管理活動

()資本の適正性

FSSは、2008年7月に当行の基礎的内部格付手法の使用を承認した。2008年6月末以来、当グループは信用リスク・アセットの計算に同様の手法を使用している。自己資本比率および自己資本は国際決済銀行の基準に従い、開示目的で計算されている。自己資本比率と自己資本は連結ベースで計算されている。2013年12月1日付のバーゼルの実施に基づく銀行法に従って、規制資本は以下の2つの区分に分類されている。

Tier1資本（普通株式等Tier1資本+その他Tier1資本）

・普通株式等Tier1資本

当グループの清算において最も劣後する請求権に相当し、発生する一切の損失において第一のかつ最も大きな割合を占め、清算以外では元本が償還されることはない規制資本（資本金、資本剰余金、利益剰余金、子会社に対する適格非支配持分およびその他の包括利益累計額を含む。）は、普通株式等Tier1資本として、普通株式分類基準を満たす。

・その他Tier1資本

劣後する資本性証券の発行に関連する資本金および資本剰余金は、非累積条件付配当または利息を有し、満期またはステップアップ条件を有さない。

Tier2資本（補完的Tier2資本）

補完的自己資本要件を満たす規制資本は、5年以上の期間を有する劣後債ならびに外部の規制基準および内部基準に従った貸倒引当金を含む。

2018年および2017年12月31日現在のバーゼル 基準に従ったBIS自己資本比率および資本は以下のとおりである。

BIS自己資本比率

	(単位：百万ウォン)	
	2018年12月31日	2017年12月31日
BIS自己資本(A)：		
Tier1資本		
普通株式等Tier1資本	29,522,899	29,412,410
その他Tier1資本	-	4,327
	29,522,899	29,416,737
Tier2資本	4,909,582	4,638,109
	34,432,481	34,054,846
リスク・アセット(B)：		
信用リスク・アセット	226,000,042	216,003,011
市場リスク・アセット	2,005,094	2,413,057
オペレーションル・リスク・アセット	4,621,678	4,801,430
	232,626,814	223,217,498
BIS自己資本比率(A/B)：	14.80%	15.26%
Tier1資本比率	12.69%	13.18%
普通株式等Tier1資本比率	12.69%	13.18%
その他Tier1資本比率	-	-
Tier2資本比率	2.11%	2.08%

BIS自己資本

	(単位：百万ウォン)	
	2018年12月31日	2017年12月31日
Tier1資本 (A=C+D)：		
普通株式等Tier1資本(C)		
資本金	18,108,099	17,938,099
資本剰余金	1,496,704	1,548,609
利益剰余金	9,796,197	9,023,996
非支配持分	-	2,639
その他の包括利益累計額	335,744	1,048,942
普通株式控除	(213,845)	(149,875)
	29,522,899	29,412,410
その他Tier1資本(D)		
非支配持分	-	4,327
	29,522,899	29,416,737
Tier2資本 (B)：		
貸倒引当金等	977,343	447,445
適格資本性証券	2,900,000	2,900,000
非適格資本性証券	1,032,239	1,290,298
非支配持分	-	366
	4,909,582	4,638,109
自己資本(A+B)	34,432,481	34,054,846

(4) 市場リスク

() 概念

市場リスクは金利、外国為替相場、株式および金融派生商品の価格の変動によって取引ポジションに発生する潜在的な損失の可能性として定義されている。取引ポジションは、金利、株価および外国為替相場等のリスクにさらされている。非取引ポジションは、主に金利リスクにさらされている。したがって、当グループは、市場リスクを取引ポジションによるリスクにさらされているものと非取引ポジションによるリスクにさらされているものに分類している。

() 取引ポジションの市場リスク

取引ポジションから生じる市場リスクの管理方法

取引ポジションには、短期的な利益獲得を目的として取引される有価証券、為替ポジションおよび金融派生商品が含まれる。

市場リスクはVaR限度額と損失限度額を用いて管理されている。VaR限度額は当グループ全体の視点に立って計算され、その計算されたVaR限度額は各部門と各タイプ（株価、金利、外国為替相場およびオプション）に配分される。トレーディング部門はロスカットおよび投資限度の条件を設定・運営している。

標準的手法およびVaRの内部モデルを用いて当グループのVaRは日々測定され、その測定されたVaRはリスク監視および限度額管理に用いられる。VaRの見積もりにおいて、ヒストリカル・シミュレーションとその他2つの補足的手法（分散・共分散法および、モンテカルロ法）が使われる。ストレステストおよびバックテストを通じて、VaRの見積額は毎日検証されている。

市場リスクの予測において、標準的手法と内部モデルが用いられている。標準的手法は市場リスクから所要資本を計算するために用いられ、内部モデルは内部においてリスク管理のために用いられる。

2007年7月以降、当グループは過去250日の時系列データを基礎に、99%の信頼区間によるヒストリカル・シミュレーション法を用いて一日VaRを算出している。その算出されたVaRは毎日モニターされている。

当グループは、年間事業計画およびリスク選好度等に基づき市場リスク総限度額を設定し、各部門のVaR限度額を毎日モニターしている。

市場リスクの所要資本

2018年および2017年12月31日現在の当グループの市場リスクの所要資本は以下のとおりである（単位：百万ウォン）。

	2018年12月31日	2017年12月31日
金利	70,509	59,546
株価	511	50,139
外国為替相場	27,588	22,469
オプション	61,800	60,891
	160,408	193,045

() 非取引ポジションの市場リスク

非取引ポジションから生じる市場リスクの管理方法

非取引ポジションにおいて生じる最も重大な市場リスクは、金利リスクである。金利リスクは当グループの財政状態において不利な金利変動によって発生する可能性がある損失と定義されており、金利VaRおよび金利EaRによって測定されている。

金利VaRは金利の不利な変動によって純資産価値が減少し得る最大額である。金利EaRは1年間の不利な金利の変動によって発生し得る純利息収益の最大減少額である。

当グループの金利VaRおよび金利EaRは、FERMATの最終的金利シナリオ・シミュレーションを通じて測定され、リスク管理委員会に月次で報告されている。金利VaRおよび金利EaRの経営目標値は該当年度の初めに承認される。また、連結ベースの金利VaRと金利EaRは当行とその子会社によって採用する手法との一貫性を維持するために、標準的手法を用いて算出されている。

非取引ポジションのVaR / EaR

2018年および2017年12月31日現在の当グループの非取引ポジションの金利VaRおよび金利EaRは以下のとおりである
(単位:百万ウォン)。

2018年12月31日		
金利変動	金利VaR	金利EaR
2.00%	787,105	31,654

2017年12月31日		
金利変動	金利VaR	金利EaR
2.00%	928,317	14,858

()為替変動リスク

2018年および2017年12月31日現在の重要なエクスポートヤーをもつ通貨別の残高は以下のとおりである（単位：百ウォン）。

	2018年12月31日					
	米ドル	ユーロ	日本円	ポンド	その他	合計
金融資産：						
現金および預け金	3,494,906	38,071	44,348	9,491	429,058	4,015,874
FVTPLで測定される有価証券	1,161,345	26,074	45	-	64,626	1,252,090
FVOCIで測定される有価証券	5,610,921	373,045	167,882	-	522,324	6,674,172
償却原価で測定される有価証券	1,215,418	200,395	-	-	3,704	1,419,517
貸出債権	33,808,437	1,596,623	1,035,489	305,458	839,528	37,585,535
金融派生商品資産	753,872	37,778	3,214	7,175	16,011	818,050
その他の金融資産	6,151,557	34,980	44,918	59,631	102,455	6,393,541
	52,196,456	2,306,966	1,295,896	381,755	1,977,706	58,158,779
金融負債：						
当期損益認識金融負債	259,286	-	-	-	-	259,286
預金	7,838,633	187,058	334,374	769	447,230	8,808,064
借入金	15,828,143	328,060	855,914	16,202	154,028	17,182,347
債券	16,594,128	1,448,094	650,818	369,533	4,977,695	24,040,268
金融派生商品負債	882,719	11,167	1,653	2,706	5,949	904,194
その他の金融負債	2,641,501	93,732	17,071	13,867	199,853	2,966,024
	44,044,410	2,068,111	1,859,830	403,077	5,784,755	54,160,183
正味財政状態	8,152,046	238,855	(563,934)	(21,322)	(3,807,049)	3,998,596

	2017年12月31日					
	米ドル	ユーロ	日本円	ポンド	その他	合計
金融資産：						
現金および預け金	3,058,619	50,024	24,145	7,990	567,633	3,708,411
売買目的金融資産	387,062	37,013	-	-	15,534	439,609
当期損益認識金融資産	19,902	-	-	-	-	19,902
売却可能金融資産	5,982,219	492	130,433	-	328,407	6,441,551
満期保有金融資産	1,358,811	-	-	-	1,164	1,359,975
貸出債権	32,382,201	1,476,959	1,101,157	167,344	673,683	35,801,344
金融派生商品資産	849,932	13,200	3,939	2,103	7,940	877,114
その他の金融資産	4,894,874	221,986	86,214	26,184	342,679	5,571,937
	48,933,620	1,799,674	1,345,888	203,621	1,937,040	54,219,843
金融負債：						
当期損益認識金融負債	191,618	-	-	-	-	191,618
預金	7,413,734	153,802	266,509	1,196	328,898	8,164,139
借入金	13,106,953	247,732	742,993	-	233,904	14,331,582
債券	14,861,728	1,624,425	367,484	805,053	5,254,011	22,912,701
金融派生商品負債	794,943	12,254	2,690	2,459	3,952	816,298
その他の金融負債	3,781,426	392,410	55,512	24,648	309,487	4,563,483
	40,150,402	2,430,623	1,435,188	833,356	6,130,252	50,979,821
正味財政状態	8,783,218	(630,949)	(89,300)	(629,735)	(4,193,212)	3,240,022

(5) 流動性リスク管理

() 概念

流動性リスクは、満期のミスマッチまたは予期しない資金の流出により一時的な資金不足が発生したことによる潜在的損失の可能性として定義されている。調達金利の上昇、通常価格以下の資産売却または有利な投資機会の逸失時において流動性リスクは上昇する。

() 流動性リスク管理法

当グループは、流動性リスクを以下のように管理している。

流動性リスクの許容限度

- ・流動性リスクの許容限度は、流動性カバレッジ比率（LCR）、外貨建て流動性比率および残存する満期ギャップを設定している。
- ・流動性リスクの許容限度の管理基準は、FSSの指針に従い独自の厳しい設定比率を用いて設定するものとする。

<測定方法>

- 流動性カバレッジ比率：(適格流動性資産/翌30暦日間の純現金流出額合計)X100
- 外貨建て流動性比率：(期間中に満期を迎える流動資産/期間中に満期を迎える流動負債)X100
- 残存する満期ギャップ：(期間中に満期を迎える流動資産-期間中に満期を迎える流動負債)/資産合計X100

早期警報指標

流動リスクの悪化傾向を早期に特定し、これに対処するため、当グループは「外国為替安定債券CDSプレミアム」等の17の指標を設定し、流動性リスク許容限度補足措置を設け、月次、週次および、日次のトレンドを測定している。

ストレステスト分析および危機管理計画

- ・当グループは流動性リスクの影響を評価し、内在する欠陥を特定する。予期しない重大な流動性危機が生じることを前提に、当グループは、当グループ特有の危機、市場リスクおよび複合的緊急事態に基づいて四半期ごとにリスク状況分析を行い、当グループの支払能力検討のためリスク管理委員会に報告している。
- ・当グループは、流動性リスクを管理するため、リスク状況ごとに詳細な危機管理計画を策定した。

()金融商品の残存する契約上の満期の分析

2018年および2017年12月31日現在の非派生金融商品における残存する契約上の満期分析は以下のとおりである（単位：百万ウォン）。

	2018年12月31日						
	1カ月未満		3 - 12カ月未満		5年以上		合計
	1 - 3カ月未満	3 - 12カ月未満	1 - 5年未満	5年以上			
金融資産:							
現金および預け金	6,715,941	1,075,464	615,085	637,790	37,310	9,081,590	
FVTPLで測定される有価証券	12,676,621	30,619	144,942	710,526	3,074,615	16,637,323	
FVOCIで測定される有価証券	381,493	1,541,504	3,693,057	8,730,489	17,689,808	32,036,351	
償却原価で測定される有価証券	21,244	17,501	831,608	1,601,516	3,261,228	5,733,097	
貸出債権	12,101,184	14,081,152	50,340,642	59,585,142	19,257,581	155,365,701	
その他の金融資産	4,671,178	99,438	4,119,185	2,910,635	663,156	12,463,592	
	36,567,661	16,845,678	59,744,519	74,176,098	43,983,698	231,317,654	
金融負債:							
当期損益認識金融負債	74,835	388,921	736,432	695,138	638,192	2,533,518	
預金	15,324,056	4,084,567	10,725,367	3,891,960	574,917	34,600,867	
借入金	3,195,872	5,708,510	10,015,060	4,502,165	1,398,608	24,820,215	
債券	6,167,890	10,607,805	42,152,411	59,738,109	11,801,338	130,467,553	
その他の金融負債	3,455,036	2,023,166	3,196,401	2,241,613	335,538	11,251,754	
	28,217,689	22,812,969	66,825,671	71,068,985	14,748,593	203,673,907	
2017年12月31日							
	1カ月未満	1 - 3カ月未満	3 - 12カ月未満	1 - 5年未満	5年以上	合計	
金融資産:							
現金および預け金	6,684,343	756,636	874,659	339,257	13,878	8,668,773	
売買目的金融資産	1,550,583	51,110	79,459	167,034	85,408	1,933,594	
当期損益認識金融資産	1,049	-	29,940	59,520	29,510	120,019	
売却可能金融資産	1,152,661	1,579,571	7,155,465	10,911,997	20,757,262	41,556,956	
満期保有金融資産	52,578	15,032	319,074	868,029	4,785,751	6,040,464	
貸出債権	13,003,298	14,867,956	51,077,689	59,075,297	18,299,853	156,324,093	
その他の金融資産	7,763,081	14,174	4,462,567	2,994,700	752,503	15,987,025	
	30,207,593	17,284,479	63,998,853	74,415,834	44,724,165	230,630,924	
金融負債:							
当期損益認識金融負債	69,284	263,040	587,957	416,340	662,446	1,999,067	
預金	15,056,529	6,492,575	10,164,575	3,294,983	597,931	35,606,593	
借入金	3,888,181	4,764,313	10,434,621	5,698,849	1,503,127	26,289,091	
債券	6,474,218	11,045,197	45,069,217	47,883,013	16,858,859	127,330,504	
その他の金融負債	6,267,394	1,841,621	3,707,730	2,316,489	518,819	14,652,053	
	31,755,606	24,406,746	69,964,100	59,609,674	20,141,182	205,877,308	

2018年および2017年12月31日現在の金融派生商品における残存する契約上の満期分析は以下のとおりである（単位：百万ウォン）。

差金決済金融派生商品

	2018年12月31日				
	1ヵ月未満	1 - 3ヵ月未満	3 - 12ヵ月未満	1 - 5年未満	5年以上
売買目的金融派生商品：					
通貨	19	267	768	-	-
金利	13,519	27,707	(67,904)	285,976	235,630
株式	14	-	-	-	-
					14
ヘッジ目的金融派生商品：					
金利	11,764	(4,700)	209,299	1,259,508	2,288,782
	25,316	23,274	142,163	1,545,484	2,524,412
					4,260,649

	2017年12月31日				
	1ヵ月未満	1 - 3ヵ月未満	3 - 12ヵ月未満	1 - 5年未満	5年以上
売買目的金融派生商品：					
通貨	(889)	529	(153,316)	-	-
金利	(3,242)	(2,160)	(123,336)	(111,304)	(40,428)
株式	134	-	-	-	-
					134
ヘッジ目的金融派生商品：					
金利	20,569	19,412	134,694	1,127,275	2,480,383
	16,572	17,781	(141,958)	1,015,971	2,439,955
					3,348,321

グロス決済金融派生商品

	2018年12月31日					
	1ヶ月未満	1 - 3ヶ月未満	3 - 12ヶ月未満	1 - 5年未満	5年以上	合計
売買目的金融派生商品:						
通貨						
インフロー	44,391,921	33,891,350	58,815,290	57,202,816	5,725,749	200,027,126
アウトフロー	44,408,875	33,833,123	58,659,690	57,186,864	5,792,977	199,881,529
ヘッジ目的金融派生商品:						
通貨						
インフロー	46,574	252,017	6,113,586	15,160,421	1,352,371	22,924,969
アウトフロー	57,180	263,943	6,133,158	15,110,967	1,352,215	22,917,463
インフロー合計	44,438,495	34,143,367	64,928,876	72,363,237	7,078,120	222,952,095
アウトフロー合計	44,466,055	34,097,066	64,792,848	72,297,831	7,145,192	222,798,992

	2017年12月31日					
	1ヶ月未満	1 - 3ヶ月未満	3 - 12ヶ月未満	1 - 5年未満	5年以上	合計
売買目的金融派生商品:						
通貨						
インフロー	39,330,141	35,677,096	67,286,988	51,321,999	5,411,727	199,027,951
アウトフロー	39,437,703	35,890,367	67,746,614	51,188,768	5,491,575	199,755,027
ヘッジ目的金融派生商品:						
通貨						
インフロー	53,365	349,999	11,941,649	8,588,118	1,464,554	22,397,685
アウトフロー	34,608	359,082	11,987,081	8,453,956	1,439,125	22,273,852
インフロー合計	39,383,506	36,027,095	79,228,637	59,910,117	6,876,281	221,425,636
アウトフロー合計	39,472,311	36,249,449	79,733,695	59,642,724	6,930,700	222,028,879

2018年および2017年12月31日現在の保証およびコミットメントにおける残存する契約上の満期分析は以下のとおりである(単位:百万ウォン)。

	2018年12月31日					
	1ヶ月未満	1 - 3ヶ月未満	3 - 12ヶ月未満	1 - 5年未満	5年以上	合計
保証	1,008,589	1,120,164	3,387,235	2,523,334	1,068,928	9,108,250
コミットメント	115,917	190,689	533,197	2,396,257	27,148,078	30,384,138
	1,124,506	1,310,853	3,920,432	4,919,591	28,217,006	39,492,388

	2017年12月31日					
	1ヶ月未満	1 - 3ヶ月未満	3 - 12ヶ月未満	1 - 5年未満	5年以上	合計
保証	1,480,681	1,229,717	2,891,225	2,696,205	1,563,625	9,861,453
コミットメント	289,639	134,852	1,595,006	2,244,278	2,475,576	6,739,351
	1,770,320	1,364,569	4,486,231	4,940,483	4,039,201	16,600,804

63.K-IFRS第1109号およびK-IFRS第1115号の適用

K-IFRS第1109号の適用による連結財政状態計算書の修正

2018年1月1日(K-IFRS第1109号の初度適用日)現在の当グループのK-IFRS第1039号およびK-IFRS第1109号に従つ金融資産の分類および帳簿価額は以下のとおりである(単位:百万ウォン)。

測定区分		帳簿価額		
2017年12月31日 (K-IFRS第1039号)	2018年1月1日 (K-IFRS第1109号)	K-IFRS第1039号	振替	再測定(*1) K-IFRS第1109号
現金および預け金				
現金および預け金	現金および預け金	8,235,486	(123,570)	- 8,111,916
FVTPLで測定される有価証券		-	123,570	- 123,570
		8,235,486	-	- 8,235,486
当期損益認識金融資産				
売買目的有価証券 (債務証券)	FVTPLで測定される有価証券	1,279,429	-	- 1,279,429
売買目的有価証券 (持分証券)		625,220	-	- 625,220
		1,904,649	-	- 1,904,649
当期損益認識金融資産				
当期損益認識金融資産	FVTPLで測定される有価証券	120,019	(120,019)	- -
	FVTPLで測定される有価証券	-	120,019	- 120,019
		120,019	-	- 120,019
売却可能金融資産				
売却可能金融資産 (債務証券)	FVOCIで測定される有価証券	23,908,725	96,022	(121,095) 23,883,652
	償却原価で測定される貸出債権	-	25,073	(75) 24,998
売却可能金融資産 (持分証券)	FVTPLで測定される有価証券	-	4,907,364	311,078 5,218,442
	FVOCIで測定される有価証券	15,685,201	(5,202,635)	- 10,482,566
	FVTPLで測定される貸出債権	-	174,176	- 174,176
		39,593,926	-	189,908 39,783,834
満期保有金融資産				
満期保有金融資産	償却原価で測定される有価証券	6,040,641	(2,254,393)	(1,626) 3,784,622
	FVTPLで測定される有価証券	-	1,404,653	(302,233) 1,102,420
	FVOCIで測定される有価証券	-	849,740	(123,300) 726,440
		6,040,641	-	(427,159) 5,613,482
関連会社投資(*2)	関連会社投資	28,054,557	-	1,573 28,056,130
貸出債権				
貸出債権	償却原価で測定される貸出債権	143,224,116	(494,758)	(251,586) 142,477,772
	FVTPLで測定される貸出債権	-	494,758	318,906 813,664
		143,224,116	-	67,320 143,291,436
金融派生商品資産				
売買目的金融派生商品資産	売買目的金融派生商品資産	5,658,476	(145,715)	- 5,512,761
	FVTPLで測定される貸出債権	-	145,715	- 145,715
ヘッジ目的金融派生商品資産	ヘッジ目的金融派生商品資産	724,103	-	- 724,103
		6,382,579	-	- 6,382,579
その他の金融資産	その他の金融資産	16,477,589	-	(5,759) 16,471,830
		250,033,562	-	(174,117) 249,859,445

(*1)K-IFRS第1109号の適用により再測定された貸倒引当金の変動が含まれている。

(*2)K-IFRS第1109号の適用による持分法適用関連会社の純資産の変動が含まれている。

2018年1月1日(K-IFRS第1109号の初度適用日)において、当グループは一部の金融資産(2018年1月1日現在の償却原価で測定される金融資産を除く。)を以下のとおり償却原価で測定されるものに分類した。

測定区分			
振替後 (K-IFRS第1109号)	振替前 (K-IFRS第1039号)	公正価値	振り替えられなかった場合の認識可能な評価損益
償却原価で測定される 貸出債権(私募社債)	売却可能金融資産(私募社債)	25,073	73

K-IFRS第1039号に従った期末現在の引当金のK-IFRS第1109号に従った期首現在の引当金への調整は以下のとおりである(単位:百万ウォン)。

測定区分		引当金			
2017年12月31日 (K-IFRS第1039号)	2018年1月1日 (K-IFRS第1109号)	K-IFRS第1039号	振替	再測定	K-IFRS第1109号
貸出債権および受取債権					
預け金	預け金	-	-	-	-
貸出債権	償却原価で測定される貸出債権	2,793,838	-	251,586	3,045,424
	FVTPLで測定される貸出債権	212,290	(212,290)	-	-
その他の金融資産	その他の金融資産	2,860,413	-	4,629	2,865,042
売却可能金融資産					
債務証券	FVOCIで測定される有価証券(*)	-	-	121,095	121,095
満期保有金融資産					
債務証券	償却原価で測定される有価証券	-	-	1,626	1,626
保証およびコミットメント					
支払保証(金融保証契約等)	支払保証(金融保証契約等)	556,803	-	21,035	577,838
未実行貸出残高	未実行貸出残高	62,420	-	10,179	72,599
		6,485,764	(212,290)	410,150	6,683,624

(*)FVOCIで測定される有価証券の貸倒引当金は、その他の包括利益に認識された。

2018年1月1日（K-IFRS第1109号およびK-IFRS第1115号の初度適用日）における利益剰余金への影響は以下のとおりである（単位：百万ウォン）。

説明	適用による影響額
2017年12月31日（K-IFRS第1109号およびK-IFRS第1115号の適用前）現在の利益剰余金	9,827,095
FVOCIで測定される持分証券に係る減損損失戻入	477,360
売却可能金融資産の当期損益認識金融資産への振替に関するその他の包括利益累計額の振替	136,194
売却可能金融資産から当期損益認識金融資産への振替後の再測定	311,078
外貨建持分証券の換算	(18,156)
海外事業の為替換算差額の変動による影響	(52,536)
満期保有金融資産から当期損益認識金融資産への振替後の再測定	(302,233)
FVTPLで測定される貸出債権に分類された私募転換社債等の調整による影響	102,113
当期損益認識金融負債の自己信用リスクによる評価損の調整による影響	(9,520)
償却原価で測定される貸出債権の予想信用損失の測定	(251,586)
その他の金融資産の予想信用損失の測定	(4,629)
FVOCIで測定される債務証券の予想信用損失の測定	(121,095)
償却原価で測定される有価証券の予想信用損失の測定	(1,626)
支払保証および未実行貸出残高に対する引当金の変動による影響	(31,214)
関連会社のその他の包括利益（損失）に対する持分の変動による影響	44,598
K-IFRS第1115号の適用による影響（*）	(182,991)
非支配持分等の変動による影響	66,211
税効果	117,903
その他	(5,009)
2018年1月1日（K-IFRS第1109号およびK-IFRS第1115号の適用後）現在の利益剰余金	10,101,957

（*）大宇造船海洋および大宇建設などの当グループの子会社によるK-IFRS第1115号の適用による当グループの利益剰余金の変動による影響である。この影響は、K-IFRS第1115号に準拠した子会社の収益認識方針の変更（例えば、1) 契約獲得による増分コストの測定基準の変更、2) 契約の重要な金融要素に係る調整、3) 事前販売の工事における収益認識の変更など）により生じたものである。

2018年1月1日（K-IFRS第1109号の初度適用日）における、その他の包括利益に係る影響は以下のとおりである。

説明	適用による影響額
2017年12月31日（K-IFRS第1109号の適用前）現在のその他の包括利益	694,547
FVOCIで測定される持分証券に係る減損損失戻入	(477,360)
売却可能金融資産の当期損益認識金融資産への振替	(136,194)
外貨建持分証券の換算	18,156
海外事業の為替換算差額の変動による影響	52,536
当期損益認識金融負債の自己信用リスクによる評価損の調整による影響	9,520
FVOCIで測定される債務証券の予想信用損失の測定	121,095
その他	40,124
2018年1月1日（K-IFRS第1109号の適用後）現在のその他の包括利益	322,424

64. 後発事象

() 現代重工業とのDSMEの売却契約

当行の子会社である大宇造船海洋（以下「DSME」という。）への戦略的投資を誘致するために、当行は、2019年1月31日に了解覚書に署名し、2019年3月8日に現代重工業（以下「HHI」という。）とDSMEにおける持分を売却するための正式な契約（以下「本契約」という。）を締結した。本契約に従い、HHIは投資事業等を除く造船事業、特殊船舶事業、産業プラント・エンジニアリング事業およびエンジン機械事業を新設会社に分割し、分割後の既存会社は「独占禁止法および公正取引法」に定義されている持株会社に譲渡される。当行はDSMEの持分を現物出資としてHHIに提供する予定である。その見返りとして、当行は、HHIの新規発行普通株式および償還可能転換優先株式を取得する予定である。HHIとDSMEの双方の権利の提供が実行され、HHIはDSMEに対して金融支援の責任を負うことになる。

本契約の成立のために、政府機関の承認プロセス（企業結合に係る国内外における承認等）のような複数の必要条件が満たされなければならない。

[次へ](#)

2. 個別財務書類

独立監査人の監査報告書

韓国産業銀行
理事会および株主 御中

私どもは、韓国産業銀行（以下「当行」という。）の、2018年および2017年12月31日現在の個別財政状態計算書、同日に終了した年度の個別包括利益計算書、個別持分変動計算書および個別キャッシュ・フロー計算書ならびに重要な会計方針の要約からなる財務書類に対する注記により構成される添付の個別財務書類を監査しました。

私どもの意見では、添付の個別財務書類は、韓国採択国際会計基準（以下「韓国IFRS」という。）に準拠して、2018年および2017年12月31日現在の当行の個別財政状態ならびに同日に終了した年度の個別財務実績およびその個別キャッシュ・フローを、すべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

意見の基礎

私どもは、韓国の監査基準に準拠して監査を行いました。かかる基準に基づく私どもの責任は、本報告書の「連結財務書類の監査に対する監査人の責任」に詳述されています。私どもは、韓国における個別財務書類に対する私どもの監査に関する倫理規定に従って当行から独立しており、またかかる倫理規定に従い、私どものその他の倫理的責任を果たしています。私どもは、私どもの意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと考えています。

その他の事項

監査基準およびその適用は、国によって異なります。韓国において、かかる財務書類の監査に使用された手続きおよび慣行は、その他の国で一般に認められ適用されるものとは異なる可能性があります。

本財務書類に対する経営者および統治責任者の責任

経営者は、韓国IFRSに準拠した本個別財務書類の作成および適正な表示ならびに不正または誤謬による重大な虚偽の記載がない個別財務書類の作成を可能とするために必要であると経営者が判断する内部統制に責任を負います。

本個別財務書類の作成に当たって、経営者は、継続企業として存続する当行の能力を評価し、経営者が当行の清算または営業の停止を意図している場合を除き、継続企業の前提に関する事項を適宜開示し、継続企業の会計基準を使用することに責任を負います。

統治責任者は、当行の財務報告手続きの監督に責任を負います。

本財務書類の監査に対する監査人の責任

私どもの目的は、不正または誤謬によるか否かを問わず、本個別財務書類全体に重要な虚偽記載ないかどうかについて合理的な保証を得ること、および私どもの意見を含む監査報告書を発行することです。合理的な保証は高水準の保証ですが、韓国の監査基準に準拠して行われた監査が、重要な虚偽記載が存在する場合にそれを必ず発見することを保証するものではありません。虚偽記載は、不正または誤謬から発生する可能性があり、個別にまたは集合的に本個別財務書類に基づいてなされる利用者の経済的意思決定に影響を及ぼすと合理的に予想できる場合に重要とみなされます。

韓国の監査基準に準拠した監査の一環として、私どもは、監査の全過程において専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持しています。また、私どもは以下も行っています。

- 不正または誤謬によるか否かを問わず、本個別財務書類の重要な虚偽記載のリスクを識別および評価し、かかるリスクに対応する監査手続きを策定および実行し、私どもの意見の基礎となるために十分かつ適切な監査証拠を入手すること。不正は、共謀、偽造、意図的な脱漏、不実表示または内部統制の抑制を伴うことがあるため、不正による重要な虚偽記載を発見できないリスクは、誤謬による重要な虚偽記載を発見できないリスクよりも高くなります。
- 状況に応じて適切な監査手続きを策定するために、（ただし、事業体の内部統制の有効性についての意見を表明するためではなく、）監査に関連する内部統制を理解すること。
- 使用される会計方針の適切性ならびに経営陣により行われた会計上の見積りおよび関連する開示の合理性を評価すること。
- 経営陣による継続企業の会計基準の使用の適切性、および入手した監査証拠に基づき、継続企業として存続する当行の能力に重大な疑義を生じさせる可能性のある事象または状況に関して重要な不確実性が存在するかどうか

について結論を下すこと。重要な不確実性が存在すると結論づけた場合、私どもは、本財務書類における関連する開示について、私どもの監査報告書において注意を促す必要があり、かかる開示が不十分な場合には私どもの意見を修正する必要があります。私どもの結論は、監査報告書の日付までに入手した監査証拠に基づいています。ただし、将来の事象または状況により、当行が継続企業として存続しなくなる可能性があります。

- ・ 本個別財務書類（開示書類を含む。）の全体的な表示、構造および内容ならびに本個別財務書類が基礎となる取引および事象を適正に表示しているかどうかを評価すること。

私どもは、とりわけ計画した監査の範囲および時期ならびに重要な監査所見（監査の過程で発見した内部統制の著しい不備を含む。）に関して、統治責任者と話し合います。

三徳会計法人

韓国ソウル特別市

2019年3月28日

本監査報告書は、監査報告書の日付である2019年3月28日現在で有効です。監査報告書の日付から本報告書が読まれるまでの期間に発生する可能性がある一定の後発事象または状況は、添付の個別財務書類およびその注記に重大な影響を及ぼす可能性があります。従って、本監査報告書の読者は、上記監査報告書がかかる後発事象または状況（もしあれば）の影響を反映して訂正されなければならない可能性があることを理解しなければなりません。

韓国産業銀行
個別財政状態計算書
2018年および2017年12月31日現在

(単位：百万ウォン)

	注記	2018年12月31日(*)	2017年12月31日(*)
資産			
現金および預け金	4,51,52,55	7,175,229	6,608,642
損益を通じて公正価値で測定される有価証券	5,51,52,55	8,509,187	-
売買目的金融資産	6,51,52,55	-	926,737
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される有価証券	7,45,51,52,55	22,805,676	-
売却可能金融資産	8,45,51,52,55	-	32,062,921
償却原価で測定される有価証券	9,45,51,52,55	1,695,927	-
満期保有金融資産	10,51,52,55	-	12,313
損益を通じて公正価値で測定される貸出債権	11,51,52,55	778,884	-
償却原価で測定される貸出債権	12,51,52,55	134,245,132	-
貸出債権	13,51,52,55	-	136,279,322
金融派生商品資産	14,51,52,53,55	3,875,908	6,249,609
子会社および関連会社投資	15,54	25,430,930	22,749,389
有形固定資産（純額）	16,54	698,602	592,884
投資不動産（純額）	17,54	71,119	78,391
無形固定資産（純額）	18,54	173,886	90,502
当期税金資産		4,813	4,383
売却目的資産	20	-	58,473
その他の資産	19,51,52,55	4,309,467	7,465,441
資産合計		209,774,760	213,179,007
負債			
当期損益認識金融負債	21,51,52,55	2,164,538	1,583,713
預金	22,51,52,55	32,445,775	33,058,179
借入金	23,51,52,55	19,809,741	20,971,629
債券	24,51,52,55	119,286,001	117,818,982
金融派生商品負債	14,51,52,53,55	3,232,628	5,907,803
確定給付負債	25	62,151	45,647
引当金	26	1,388,718	1,363,951
繰延税金負債	43	1,088,171	973,497
当期税金負債		46,953	337,978
その他の負債	27,51,52,55	5,264,857	8,501,497
負債合計		184,789,533	190,562,876
資本			
資本金	1,28	18,108,099	17,938,099
資本剰余金	28	2,497,177	2,498,001
その他の包括利益累計額	28	(32,698)	436,749
利益剰余金	28	4,412,649	1,743,282
(規制上の貸倒引当金：2018年および2017年12月31日現在、それぞれ1,372,030百万ウォンおよび1,308,500百万ウォン)			
(規制上の貸倒引当金強制繰入（戻入）金額：2018年および2017年12月31日現在、それぞれ(144,330)百万ウォンおよび63,530百万ウォン)			
(規制上の貸倒引当金繰入（戻入）予定金額：2018年および2017年12月31日現在、それぞれ(144,330)百万ウォンおよび63,530百万ウォン)			
資本合計		24,985,227	22,616,131
負債および資本合計		209,774,760	213,179,007

(*)2018年12月31日現在の個別財政状態計算書は、韓国IFRS第1109号に準拠して作成されているが、2017年12月31日
現在の比較個別財政状態計算書は、韓国IFRS第1109号を適用して遡及修正再表示されなかった。

添付の個別財務書類に対する注記を参照されたい。

韓国産業銀行
個別包括利益計算書
2018年および2017年12月31日に終了した年度
(単位：百万ウォン。1株当たり金額を除く。)

	注記	2018年(*)	2017年(*)
受取利息	29	5,145,852	4,873,273
支払利息	29	(3,763,066)	(3,386,902)
純利息収益	54	1,382,786	1,486,371
純手数料収益	30	337,389	403,578
受取配当金	31	730,434	850,811
損益を通じて公正価値で測定される有価証券に係る純損失	32	(5,872)	-
売買目的金融資産に係る純損失	33	-	(22,117)
当期損益認識金融負債に係る純利益（損失）	34	(43,767)	80,360
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される有価証券に係る純利益	35	12,026	-
売却可能金融資産に係る純利益	36	-	885,026
金融派生商品に係る純利益	37	177,604	619,562
為替取引純利益（損失）	38	127,284	(321,777)
その他営業費用（純額）	39	(58,593)	(355,331)
非利息収益（純額）		1,276,505	2,140,112
貸倒引当金繰入	40	472,548	1,490,437
一般管理費	41,54	675,684	661,296
営業利益	54	1,511,059	1,474,750
子会社および関連会社投資減損損失戻入（繰入）	15	1,340,951	(773,910)
その他営業外収益	42	60,826	18,038
その他営業外費用	42	(21,932)	(36,286)
営業外利益（費用）（純額）		1,379,845	(792,158)
税引前利益		2,890,904	682,592
法人税費用	43	381,059	247,810
当期純利益	28	2,509,845	434,782
(規制上の貸倒引当金調整後当期純利益：2018年および2017年12月31日終了年度：それぞれ2,645,913百万ウォンおよび371,252百万ウォン			
当期中のその他の包括損益（税引後）	28	(129,111)	(776,716)
後に損益に振り替えられるかまたはその可能性のある項目：			
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される有価証券に係る純損失		(103,311)	-
売却可能金融資産評価損（純額）		-	(689,806)
海外事業の為替換算差額		36,403	(91,636)
キャッシュ・フロー・ヘッジ評価益		3,139	7,990
		(63,769)	(773,452)
後に損益に振り替えられない項目：			
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される有価証券に係る純損失		(54,612)	-
信用リスクによる当期損益認識金融負債の公正価値変動		(6,342)	-
確定給付負債の再測定		(4,388)	(3,264)
		(65,342)	(3,264)

当期包括利益（損失）合計	2,380,734	(341,934)
---------------------	-----------	-----------

1 株当たり利益

基本的および希薄化後 1 株当たり利益（ウォン）	44	696	123
--------------------------	----	-----	-----

(*)2018年12月31日に終了した年度の個別包括利益計算書は、韓国IFRS第1109号に準拠して作成されているが、2017年12月31日に終了した年度の比較個別財政状態計算書は、韓国IFRS第1109号を適用して遡及修正再表示されなかった。

添付の個別財務書類に対する注記を参照されたい。

韓国産業銀行
個別持分変動計算書
2018年および2017年12月31日に終了した年度

(単位 : 百万ウォン)

	資本金	資本剰余金	その他の 包括利益 累計額	利益 剰余金	資本合計
2017年1月1日現在	17,543,099	2,499,947	1,213,465	1,308,500	22,565,011
当期純利益	-	-	-	434,782	434,782
売却可能金融資産評価損	-	-	(689,806)	-	(689,806)
海外事業の為替換算差額	-	-	(91,636)	-	(91,636)
キャッシュ・フロー・ヘッジ評価益	-	-	7,990	-	7,990
確定給付負債の再測定	-	-	(3,264)	-	(3,264)
当期包括利益合計	-	-	(776,716)	434,782	(341,934)
払込資本金の増加	395,000	(1,946)	-	-	393,054
所有者との取引	395,000	(1,946)	-	-	393,054
2017年12月31日現在(*)	17,938,099	2,498,001	436,749	1,743,282	22,616,131
2018年1月1日現在	17,938,099	2,498,001	436,749	1,743,282	22,616,131
会計方針の変更（注記2）	-	-	(324,629)	290,907	(33,722)
2018年1月1日修正再表示後残高	17,938,099	2,498,001	112,120	2,034,189	22,582,409
当期純利益	-	-	-	2,509,845	2,509,845
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される有価証券に係る純利益（損失）	-	-	(173,630)	15,707	(157,923)
海外事業の為替換算差額	-	-	36,403	-	36,403
キャッシュ・フロー・ヘッジ評価益	-	-	3,139	-	3,139
信用リスクによる当期損益認識金融負債の公正価値変動	-	-	(6,342)	-	(6,342)
確定給付負債の再測定	-	-	(4,388)	-	(4,388)
当期包括利益合計	-	-	(144,818)	2,525,552	2,380,734
配当金	-	-	-	(147,092)	(147,092)
払込資本金の増加	170,000	(824)	-	-	169,176
所有者との取引	170,000	(824)	-	(147,092)	22,084
2018年12月31日現在(*)	18,108,099	2,497,177	(32,698)	4,412,649	24,985,227

(*)2018年12月31日に終了した年度の個別持分変動計算書は、韓国IFRS第1109号に準拠して作成されているが、2017年12月31日に終了した年度の比較個別持分変動計算書は、韓国IFRS第1109号を適用して遡及的に修正再表示されなかった。

添付の個別財務書類に対する注記を参照されたい。

韓国産業銀行
個別キャッシュ・フロー計算書
2018年および2017年12月31日に終了した年度

(単位：百万ウォン)

	注記	2018年(*)	2017年(*)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
当期純利益		2,509,845	434,782
調整項目：			
法人税費用	43	381,059	247,810
受取利息	29	(5,145,852)	(4,873,273)
支払利息	29	3,763,066	3,386,902
受取配当金	31	(730,434)	(850,811)
損益を通じて公正価値で測定される有価証券の評価損	32	32,139	-
損益を通じて公正価値で測定される有価証券の処分益		(40,025)	-
売買目的金融資産評価損	33	-	1,262
当期損益認識金融負債評価損（益）	34	43,767	(77,678)
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される有価証券に係る処分益	35	(5,380)	-
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される有価証券に係る損失引当金の戻入	35	(6,646)	-
損益を通じて公正価値で測定される貸出債権に係る評価益	39	(32,457)	-
売却可能金融資産処分益	36	-	(1,069,778)
売却可能金融資産減損損失	36	-	184,751
金融派生商品評価益		(99,487)	(158,758)
公正価値ヘッジ対象に係る純損失（利益）	37	36,062	(626,860)
為替換算損（益）	38	(114,855)	332,015
子会社および関連会社投資の処分損（益）	39	(256,639)	9,512
子会社および関連会社投資減損損失（戻入）		(1,340,951)	773,910
貸倒引当金繰入	40	377,405	1,212,184
その他の資産に係る引当金繰入	40	22,686	35,497
支払保証引当金繰入（戻入）	26	121,728	(117,793)
未実行貸出残高引当金繰入（戻入）	26	(10,438)	267,690
金融保証引当金繰入（戻入）	26	(38,833)	92,859
訴訟引当金繰入（戻入）	26	(11)	(1,053)
その他の引当金繰入	26	-	6,700
確定給付費用	25	40,515	38,745
有形固定資産減価償却費	16	32,939	29,318
売却目的保有資産処分益	42	(52,344)	(9,195)
有形固定資産処分損（益）	42	726	(485)
無形固定資産処分損	42	-	16
投資不動産減価償却費	17	2,011	2,019
無形固定資産償却費	18	17,999	20,674
債券償還損（益）		(8)	47
		(3,002,258)	(1,143,773)
営業資産・負債の変動			
預け金		(1,286,439)	(540,316)
損益を通じて公正価値で測定される有価証券		(2,474,785)	-
売買目的金融資産		-	1,287,522
損益を通じて公正価値で測定される貸出債権		386,261	-
償却原価で測定される貸出債権		48,974	-
貸出債権		-	364,004
金融派生商品		(336,008)	(257,267)
その他の資産		3,055,245	(1,271,121)
当期損益認識金融負債		-	(231,686)
預金		(616,964)	(4,590,771)
確定給付負債		(30,064)	(40,035)
その他の負債		(3,839,223)	1,571,483
		(5,093,003)	(3,708,187)

法人税支払	(482,267)	(36,531)
受取利息	5,091,330	4,652,416
支払利息	(3,096,862)	(3,600,564)
受取配当金	731,948	852,150
営業活動による正味キャッシュ・フロー	(3,341,267)	(2,549,707)

投資活動によるキャッシュ・フロー

損益を通じて公正価値で測定される有価証券の純増加	(1,368,215)	-
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される有価証券の処分	7 14,574,207	-
その他の包括利益を通じて公正価値で測定される有価証券の取得	7 (9,560,772)	-
売却可能金融資産の処分	8 - 18,738,795	
売却可能金融資産の取得	8 -(14,244,489)	
償却原価で測定される有価証券の償還	9 12,236	-
償却原価で測定される有価証券の取得	9 (1,694,688)	-
満期保有金融資産の償還	10 - 2,080	
有形固定資産の処分	16 352	933
有形固定資産の取得	16 (132,418)	(39,335)
投資不動産の取得	17 (1,908)	-
無形固定資産の処分	18 - 58	
無形固定資産の取得	18 (101,355)	(52,596)
子会社および関連会社投資の処分	1,099,577	593,604
子会社および関連会社投資の取得	(2,187,278)	(1,415,135)
売却目的保有非流動資産の処分	110,817	35,123
投資活動による正味キャッシュ・フロー	750,555	3,619,038

財務活動によるキャッシュ・フロー

当期損益認識金融負債の増加	528,310	-
借入金手取金	33,355,729	33,126,111
借入金の返済	(34,535,527)	(35,701,335)
債券発行手取金	109,476,097	98,720,241
債券償還	(108,125,823)	(97,410,868)
配当金	(147,092)	-
払込資本金の増加	169,176	143,054
財務活動による正味キャッシュ・フロー	720,870	(1,122,797)

現金および現金同等物に対する為替変動による影響

現金および現金同等物の純増	(1,736,878)	(504,636)
期首現金および現金同等物	8,586,213	9,090,849
期末現金および現金同等物	49 6,849,335	8,586,213

(*)2018年12月31日に終了した年度の個別キャッシュ・フロー計算書は、韓国IFRS第1109号に準拠して作成されているが、2017年12月31日に終了した年度の比較個別キャッシュ・フロー計算書は、韓国IFRS第1109号を適用して遡及的に修正再表示されなかった。

添付の個別財務書類に対する注記を参照されたい。

韓国産業銀行

個別財務書類に対する注記

2018年および2017年12月31日現在

1. 報告主体

韓国産業銀行（以下「当行」という。）は、重要産業プロジェクトに対する融資を行い、管理するため、韓国産業銀行法に基づいて1954年4月1日に設立された。

当行は、韓国産業銀行法およびその他の適用法令に基づく銀行業務ならびに金融投資サービスおよび資本市場法に基づく信託業務に従事している。

従前に最終親会社であった韓国政策金融公社（以下「KoFC」という。）および従前に直接親会社であったKDBフィナンシャル・グループ・インク（以下「KDBFG」という。）は、2009年10月28日に当行の複数の部門のスピンオフにより設立された。2014年12月31日付で、KoFCおよびKDBFGは当行に合併された。2018年12月31日現在、当行の資本金は18,108,099百万ウォンであり、発行済株式は3,621,619,768株である。当行株式はすべて韓国政府が所有している。

当行の本店所在地は、韓国ソウル特別市永登浦区（汝矣島洞）銀行路14であり、2018年12月31日現在のその業務ネットワークは次のとおりである。

	国内		海外			合計
	本店	支店	支店	子会社	駐在員事務所	
KDB	1	74	9	5	8	97

2. 作成の基準

(1) 会計基準の適用

当該個別財務書類は、株式会社の外部監査に関する法律に規定される韓国採択国際会計基準（以下「K-IFRS」という。）に従って作成されている。

(2) 会計方針の変更および開示

(i) 適用された新たなまたは改訂された基準

当行は、2018年1月1日から以下の改訂および制定された基準を新たに適用した。各新基準または改訂の性質および影響は以下に記載されている。

K-IFRS第1109号「金融商品」

K-IFRS第1109号「金融商品」は、K-IFRS第1039号「金融商品：認識および測定」の既存のガイダンスに代わるものである。K-IFRS第1109号は、金融商品の会計処理に関するプロジェクトの3つの点（分類および測定、減損ならびにヘッジ会計）をすべてまとめたものである。また、K-IFRS第1107号「開示」は、K-IFRS第1109号に従って改訂された。

当行の会計方針は変更され、財務書類に認識される金額は、2018年1月1日にK-IFRS第1109号を適用したことにより修正された。経過規定に従い、2017年12月31に終了した年度の財務書類は修正再表示されていない。

当該基準の主な特徴には、金融資産の管理に係る事業モデル、金融資産の契約上のキャッシュ・フロー特性に基づく金融資産の分類および測定、予想信用損失に基づく金融商品の減損モデル、ヘッジ会計の要件を満たすヘッジ対象、ヘッジ手段の増加またはヘッジの有効性の評価方法の変更が含まれている。

金融資産の分類および測定

K-IFRS第1109号は、以下のとおり、金融資産の保有者の事業モデルおよび金融商品の契約上のキャッシュ・フロー特性に基づいて、当初認識後に金融資産を償却原価、その他の包括利益を通じた公正価値（以下「FVOCI」という。）または損益を通じた公正価値（以下「FVTPL」という。）で分類および測定することを求めている。混合契約に含まれる主契約が金融資産である場合、組込デリバティブは主契約から分離されず、混合契約全体がK-IFRS第1109号の要件にしたがって分類される。

事業モデル	契約上のキャッシュ・フロー特性	
	元利金のみで構成	その他
契約上のキャッシュ・フローの回収が目的	償却原価で測定(*1)	
契約上のキャッシュ・フローの回収および金融資産の売却が目的	FVOCIで測定(*1)	FVTPLで測定(*2)
売却等が目的	FVTPLで測定	

(*1)金融資産は、会計上のミスマッチを除去または削減するために、FVTPLで測定されるものとして取消不能の形で指定することができる。

(*2)売買目的で保有されていない持分金融商品への投資は、FVOCIで測定されるものとして取消不能の形で指定することができる。

金融負債の分類および測定

K-IFRS第1109号は、FVTPLで測定されるものとして指定された金融負債の公正価値の変動額のうち信用リスクの変動に起因するものは、その他の包括利益に表示され、かかる変動額は損益に再分類してはならないことを規定している。かかる要件が損益における会計上のミスマッチを生み出すかまたは拡大する場合、信用リスクの変動による影響を含むかかる負債におけるすべての損益を損益計算書に表示しなければならない。

減損：金融資産および契約資産

K-IFRS第1109号においては、償却原価またはFVOCIで測定される債務証券、リース債権、契約資産、貸出債権のコミットメントおよび金融保証契約の減損は、予想信用損失（以下「ECL」という。）減損モデルに基づいて認識される。

K-IFRS第1109号は、当初認識以降の信用リスクの変動に基づく3段階の減損モデルについて説明している。損失引当金は、K-IFRS第1039号の発生損失モデルよりも早期に信用損失を認識できる12ヶ月のECLまたは全期間のECLに基づき測定される。

分類		損失引当金
ステージ 1	当初認識以降、信用リスクに著しい増加がみられない資産	12ヶ月のECL：報告日後12ヶ月以内に発生する可能性がある債務不履行事象に起因する予想信用損失
ステージ 2	当初認識以降、信用リスクに著しい増加がみられる資産	全期間のECL：金融商品の残存期間にわたって発生する可能性のあるすべての債務不履行事象に起因する予想信用損失
ステージ 3	信用減損資産	

K-IFRS第1109号においては、当初認識以降の全期間のECLの累積変動は、組成された信用減損金融資産に対する損失引当金として認識されている。

ヘッジ会計

K-IFRS第1109号では、K-IFRS第1039号に規定されたヘッジ会計の仕組み（公正価値ヘッジ、キャッシュ・フロー・ヘッジおよび海外事業に対する純投資ヘッジ）を維持しているが、過度に複雑で厳格なK-IFRS第1039号の要件と異なり、K-IFRS第1109号はより実務的かつ原則主義で、寛容であり、事業体のリスク管理活動を重視している。また、K-IFRS第1109号は、より広範なヘッジ対象およびヘッジ手段を認めている。K-IFRS第1039号では、ヘッジ有効性テストにより、相殺の程度が80-125%の範囲である場合にのみヘッジの有効性が高いと評価される。K-IFRS第1109号においては、かかる要件は緩和されている。

K-IFRS第1109号の適用による個別財政状態計算書の修正

2018年1月1日(K-IFRS第1109号の初度適用日)現在の当行のK-IFRS第1039号およびK-IFRS第1109号に従った金融資産の分類および帳簿価額は以下のとおりである(単位 : 百万ウォン)。

測定区分		帳簿価額		
2017年12月31日 (K-IFRS第1039号)	2018年1月1日 (K-IFRS第1109号)	K-IFRS第1039号	振替	再測定(*)
現金および預け金	現金および預け金	6,608,642	-	- 6,608,642
当期損益認識金融資産 :				
売買目的金融資産 (債務証券)	FVTPLで測定される有価証券	911,203	-	- 911,203
売買目的金融資産 (持分証券)		15,534	-	- 15,534
		926,737	-	- 926,737
売却可能金融資産 :				
売却可能金融資産 (債務証券)	FVOCIで測定される有価証券	17,609,058	(25,073)	- 17,583,985
	償却原価で測定される貸出債権	-	25,073	(75) 24,998
売却可能金融資産 (持分証券)	FVTPLで測定される有価証券	-	3,966,146	(9,882) 3,956,264
	FVOCIで測定される有価証券	14,453,863	(4,216,878)	(55) 10,236,930
	FVTPLで測定される貸出債権	-	250,732	- 250,732
		32,062,921	-	(10,012) 32,052,909
満期保有金融資産	償却原価で測定される有価証券	12,313	-	(1) 12,312
貸出債権	償却原価で測定される貸出債権	136,279,322	(492,460)	(246,091) 135,540,771
	FVTPLで測定される貸出債権	-	630,810	251,146 881,956
		136,279,322	138,350	5,055 136,422,727
金融派生商品資産 :				
売買目的金融派生商品資産	売買目的金融派生商品資産	5,628,135	(138,350)	- 5,489,785
ヘッジ目的金融派生商品資産	ヘッジ目的金融派生商品資産	621,474	-	- 621,474
		6,249,609	(138,350)	- 6,111,259
その他の金融資産	その他の金融資産	7,378,355	-	(4,709) 7,373,646
		189,517,899	-	(9,667) 189,508,232

(*)K-IFRS第1109号の適用により再測定された貸倒引当金の変動が含まれている。

2018年1月1日(K-IFRS第1109号の初度適用日)において、13,131百万ウォンの当期損益認識金融負債の自己信用リスクによる評価損がその他の包括利益に振り替えられた。

2018年1月1日(K-IFRS第1109号の初度適用日)において、当行は一部の金融資産(2018年1月1日現在の償却原価で測定される金融資産を除く。)を以下のとおり償却原価で測定されるものに分類した。

測定区分		公正価値	振り替えられなかった場合の認識可能な評価損益
振替後 (K-IFRS第1109号)	振替前 (K-IFRS第1039号)		
償却原価で測定される 貸出債権(私募社債)	売却可能金融資産(私募社債)	25,073	73

K-IFRS第1039号に従った期末現在の引当金のK-IFRS第1109号に従った期首現在の引当金への調整は以下のとおりである（単位：百万ウォン）。

測定区分		引当金			
2017年12月31日 (K-IFRS第1039号)	2018年1月1日 (K-IFRS第1109号)	K-IFRS第1039号	振替	再測定	K-IFRS第1109号
貸出債権および受取債権					
預け金	預け金	-	-	-	-
貸出債権	償却原価で測定される貸出債権	3,303,232	-	246,091	3,549,323
	FVTPLで測定される貸出債権	212,221	(212,221)	-	-
その他の金融資産	その他の金融資産	236,203	-	4,709	240,912
売却可能金融資産					
債務証券	FVOCIで測定される有価証券(*)	-	-	119,331	119,331
満期保有金融資産					
債務証券	償却原価で測定される有価証券	-	-	1	1
保証およびコミットメント					
支払保証（金融保証契約等）	支払保証（金融保証契約等）	773,543	-	17,956	791,499
未実行貸出残高	未実行貸出残高	445,946	-	18,886	464,832
		4,971,145	(212,221)	406,974	5,165,898

(*)FVOCIで測定される有価証券の貸倒引当金は、その他の包括利益に認識された。

2018年1月1日（K-IFRS第1109号の初度適用日）における利益剰余金への影響は以下のとおりである（単位：百万ウォン）。

説明	適用による影響額
2017年12月31日（K-IFRS第1109号の適用前）現在の利益剰余金	1,743,282
FVOCIで測定される持分証券に係る減損損失戻入	477,360
売却可能金融資産の当期損益認識金融資産への振替に関連するその他の包括利益累計額の振替	(23,535)
売却可能金融資産から当期損益認識金融資産への振替後の再測定	(9,882)
外貨建持分証券の換算	(425)
海外事業の為替換算差額の変動による影響	(48)
FVTPLで測定される貸出債権に分類された私募転換社債等の調整による影響	251,146
当期損益認識金融負債の自己信用リスクによる評価損の調整による影響	(9,520)
償却原価で測定される貸出債権の予想信用損失の測定	(246,091)
その他の金融資産の予想信用損失の測定	(4,709)
FVOCIで測定される債務証券の予想信用損失の測定	(119,331)
償却原価で測定される有価証券の予想信用損失の測定	(1)
支払保証および未実行貸出残高に対する引当金の変動による影響	(36,842)
税効果	12,785
2018年1月1日（K-IFRS第1109号の適用後）現在の利益剰余金	2,034,189

2018年1月1日（K-IFRS第1109号の初度適用日）における、その他の包括利益に係る影響は以下のとおりである。

説明	適用による影響額
2017年12月31日（K-IFRS第1109号の適用前）現在のその他の包括利益	436,749
FVOCIで測定される持分証券に係る減損損失戻入	(477,360)
売却可能金融資産の当期損益認識金融資産への振替	23,535
当期損益認識金融負債の自己信用リスクによる評価損の調整による影響	9,520
FVOCIで測定される債務証券の予想信用損失の測定	119,331
外貨建持分証券の換算	(55)
海外事業の為替換算差額の変動による影響	48
その他	352
2018年1月1日（K-IFRS第1109号の適用後）現在のその他の包括利益	112,120

K-IFRS第1115号「顧客との契約から生じる収益」

K-IFRS第1115号「顧客との契約から生じる収益」は、K-IFRS第1011号「工事契約」、K-IFRS第1018号「収益」、K-IFRS第2113号「カスタマー・ロイヤルティ・プログラム」、K-IFRS第2115号「不動産の建設に関する契約」、K-IFRS第2118号「顧客からの資産の移転」およびK-IFRS第2031号「収益 - 宣伝サービスを伴うパートナー取引」の現行のガイドラインに代わるものである。K-IFRS第1115号は、事業体が、約束した財またはサービスの顧客への移転を表すように、かかる財またはサービスと引き換えに事業体が受け取ると見込まれる対価を反映した金額で収益を認識しなければならないということをコア原則としている。また、K-IFRS第1115号は、収益認識および測定に対して、コア原則に従った5つのステップを導入している。K-IFRS第1115号の適用は当行の財務書類に重要な影響を及ぼしていない。

K-IFRS第1028号「関連会社およびジョイント・ベンチャーに対する投資」

関連会社またはジョイント・ベンチャーに対する投資が、ベンチャー・キャピタル企業、ミューチュアル・ファンド等の事業体に保有されているか、またはかかる事業体を通じて間接的に保有されている場合、事業体は、かかる投資を損益を通じて公正価値で測定することを選択できる。かかる改訂は、事業体が、関連会社またはジョイント・ベンチャーの当初認識時に関連会社またはジョイント・ベンチャーごとにかかる選択を行うことを明確化している。K-IFRS第1028号の適用は当行の財務書類に重要な影響を及ぼしていない。

K-IFRS第1102号「株式に基づく報酬」

K-IFRS第1102号の改訂は、現金決済型から持分決済型への取引の分類変更となる株式に基づく報酬の条件変更に関する会計処理方法および現金決済型の株式に基づく報酬の公正価値の測定に使用される評価方法を明確化している。K-IFRS第1102号の適用は当行の財務書類に重要な影響を及ぼしていない。

解釈指針第2122号「外貨建取引と前渡・前受対価」の適用

かかる基準「外貨建取引と前渡・前受対価」によると、関連する資産、費用または収益（またはその一部）の当初認識時に使用する為替レートの決定について、取引日とは、事業体が前渡または前受対価から生じる非貨幣性資産または非貨幣性負債を当初認識した日である。前払または前受対価が複数ある場合は、事業体はそれぞれの前払または前受対価ごとに取引日を決定しなければならない。解釈指針第2122号の適用は当行の財務書類に重要な影響を及ぼしていない。

(i)公表されたが発効していない新基準および解釈

以下の新基準、解釈および現行基準の改訂は、公表されているが2018年1月1日より後に開始する会計年度に発効しておらず、当行が早期適用していないものである。当行は現在、かかる基準、解釈および改訂の適用による財務書類への潜在的な影響を分析しているところである。

K-IFRS第1116号「リース」

K-IFRS第1116号「リース」は、K-IFRS第1017号「リース」、解釈指針第2104号「契約にリースが含まれているか否かの判断」、解釈指針第2015号「オペレーティング・リース - インセンティブ」および解釈指針第2027号「リースの法形式を伴う取引の実質の評価」に代わるものである。当行は、この基準を2019年1月1日以降開始する会計年度に適用する予定である。

契約開始時において、当行は契約がリースであるか、またはリースを含んでいるかどうかを評価しなければならない。また、初度適用日において、当行は契約が当該基準に従ったリースであるか、またはリースを含んでいるかも評価しなければならない。ただし、当行は、初度適用日より前に締結した契約に適用することができる実務上の便法を適用することで、すべての契約を再評価する必要はない。

リースであるか、またはリースを含む契約については、当行は、契約における各リースの構成要素を契約の非リース構成要素から分離したリースとして会計処理しなければならない。借り手は、原資産を使用する権利およびリース料を支払う義務を示す使用権資産およびリース負債をそれぞれ認識しなければならない。ただし、短期リースおよび少額資産のリースの場合、免除規定が適用される。また、借り手は実務上の便法として、原資産の種類ごとに非リース構成要素とリース構成要素を区別しないことを選択でき、各リース構成要素と関連する非リース構成要素を一つのリース構成要素として会計処理することができる。

貸し手の会計の観点から、K-IFRS第1116号はK-IFRS第1017号と比べて重要な変更はない。

(a) 借り手の会計処理

借り手は、そのリースに対して、当該基準を(a)K-IFRS第1008号「会計方針、会計上の見積りの変更および誤謬」を適用して表示された過去の各報告期間に遡及的に適用（完全遡及適用）するか、または(b)K-IFRS第1116号の適用開始による累積的影響を初度適用日に認識するかのいずれかにより適用しなければならない。

当行は、K-IFRS第1116号を遡及適用し、当該基準の適用開始の累積的影響を（利益剰余金または適切な場合には、資本の構成要素に）認識する。したがって、当行は比較目的で財務書類を修正再表示する予定はない。

当行は、K-IFRS第1116号の適用による潜在的な財務上の影響を把握するために影響評価を実施した。かかる評価は、2019年の財務書類への影響を把握するため、2019年1月1日現在の入手可能な情報に基づいて行われた。

オペレーティング・リースに関連して当行が支払うと予想される最低リース料支払総額（現在価値割引前）は40,257百万ウォンである。支払額が借手の追加借入利子率で割り引かれる場合、最低リース料支払総額は37,144百万ウォンである。リースであるかまたはリースを含むすべて（または一部）の契約について、当行は各リース構成要素および関連する非リース構成要素を单一のリース構成要素として会計処理する実務上の便法を適用する予定である。

影響評価に基づき、当行は、2019年1月1日現在の使用権資産およびリース負債がそれぞれ46,496百万ウォンおよび37,132百万ウォン増加すると予想している。財務上の影響に関する評価の結果は、当行が将来入手する可能性がある追加の情報により変動する可能性がある。

(b) 貸し手の会計処理

貸手としてのリース会計について、当行の観点から、当行はK-IFRS第1116号を適用する財務諸表への影響は重要ではないと予想している。

K-IFRS第1109号「金融商品」の改訂

K-IFRS第1109号「金融商品」に対して行われた狭い範囲の改訂により、事業体は負の補償を伴う特定の期限前償還可能な金融資産を償却原価で測定することが可能となっている。償却原価で測定される金融負債の条件変更が認識の中止を生じさせない場合、条件変更による損益は純損益に認識されなければならない。当該改訂は、2019年1月1日以降開始する会計年度に適用され、早期適用が認められている。

K-IFRS第1019号「従業員給付」の改訂

当該改訂により、事業体は制度改訂、縮小または清算後の残りの報告期間について、当期勤務費用および利息純額を変更日以降の最新の保険数理上の仮定に基づいて計算しなければならない。また、当該改訂は、資産の上限の影響によりその剰余金が過去に認識されなかった場合でも、剰余金の減少を純損益に認識しなければならないことも規定している。当該改訂は、2019年1月1日以降開始する報告期間中に生じる制度改訂、縮小および清算に対して有効であり、早期適用が認められている。

K-IFRS第1028号「関連会社およびジョイント・ベンチャーに対する投資」の改訂

当該改訂は、事業体が持分法が適用されない関連会社またはジョイント・ベンチャーにおける金融商品にK-IFRS第1109号を適用しなければならないことを明確化している。これには、実質的に関連会社またはジョイント・ベンチャーに対する事業体の純投資の一部を形成する長期持分が含まれている。当該改訂は、事業体が持分法が適用されない関連会社またはジョイント・ベンチャーの他の持分にK-IFRS第1109号を適用しなければならないことを明確化している。また、事業体はまず、実質的に関連会社またはジョイント・ベンチャーに対する事業体の純投資の一部を形成する他の長期持分にK-IFRS第1109号の減損規定を適用しなければならない。当該改訂は、2019年1月1日以降開始する会計年度に遡及的に適用開始され、早期適用が認められている。K-IFRS第1109号の経過規定により、比較情報が修正再表示される必要はなく、当該改訂の遡及的な適用開始による累積的影響は、適用開始日現在の利益剰余金（または、適宜、その他の資本の構成要素）の期首残高に認識されなければならない。

K-IFRS第2123号「法人所得稅務処理に関する不確実性」の適用

当該解釈指針は、税務上の取扱いについて不確実性がある場合の繰延および当期税金資産ならびに繰延および当期税金負債の認識および測定方法を説明しており、これにはそれぞれの不確実な税務上の取扱いを個別または一緒に検討するかの判断方法に関する指針が含まれている。また、当該解釈指針は、判断または見積もりの見直しが必要な状況の例も示している。当該解釈指針は、2019年1月1日以降開始する会計年度に適用され、早期適用が認められている。また、事業体は比較財務書類を遡及的に修正再表示するか、または当該解釈指針の適用による累積的影響を適用開始日現在の期首残高の調整として認識することができる。

K-IFRS年次改善2015-2017年サイクル

K-IFRS第1103号「企業結合」の改訂は、共同支配の取決めの当事者がジョイント・オペレーションである事業の支配を獲得し、かつ取得日の直前にかかるジョイント・オペレーションに関連する資産に対する権利および負債に対する義務を有する場合に、当該取引は段階的に達成された企業結合であることを明確化している。また、K-IFRS第1111号「共同契約」、K-IFRS第1012号「法人所得税」およびK-IFRS第1023号「借入コスト」の改訂が公表されている。

(3) 測定の基準

当該個別財務書類は、財政状態計算書の下記の重要な項目を除いて、取得原価基準で作成されている。

- 公正価値で測定された金融派生商品
- 当期損益認識金融商品
- 公正価値で測定された売却可能金融商品
- ヘッジされたリスクによる公正価値の変動が損益計算書に計上される公正価値ヘッジ金融商品
- 確定給付債務の現在価値から制度資産の公正価値を控除した合計の純額として認識される確定給付制度にかかる負債

(4) 機能通貨および表示通貨

当該個別財務書類は、当行の機能通貨であり、当行が事業を行う主たる経済環境の通貨であるウォン建てで表示されている。

(5) 見積りおよび判断の使用

K-IFRSに準拠した財務書類の作成にあたり、経営陣は、会計方針の適用ならびに資産、負債、収益および費用の報告された金額に影響を及ぼす判断、見積りおよび仮定を行うことが求められる。報告日現在の経営陣の最善の判断に基づいた見積りおよび仮定が実際の環境と異なる場合、経営陣による業績の見積りは実際の業績と異なることがある。

見積りおよび仮定は継続的に評価され、会計上の見積りの変更は、かかる変更があった期のみに影響を及ぼす場合は、それを変更が生じた期の損益に含めることにより、将来にわたって認識される。

以下は、報告期間末現在の将来における見積りの不確実性のその他の主な要因に関する主要な仮定である。これは、次期会計年度の資産および負債の帳簿価額に重要な調整をもたらす重大なリスクを有している。

(i) 金融商品の公正価値

売買目的金融商品、当期損益認識金融商品、売却可能金融資産および金融派生商品は、公正価値で認識され、測定される。金融商品市場が活発でない場合は、公正価値は評価技法を使用するかまたは独立した第三者評価機関のいずれかにより決定される。評価技法には、取引の知識がある自発的な当事者の直近の第三者間取引、入手可能な場合には、実質的に同一の他の金融商品の直近の公正価値の参照、割引キャッシュ・フロー分析およびオプション評価モデルの使用が含まれる。

市場で活発に取引されていない金融商品および市場価格の透明性が低い金融商品は、公正価値の客観性が低く、流動性、集中、市場要因の不確実性ならびに価格決定における仮定およびその他のリスクに関する広範な判断が求められる。

金融商品の公正価値を決定するために、一般に認められた市場評価モデルから、様々な種類の仮定および変数を組み込んだ内部で開発された評価モデルまで多様な評価技法が用いられる。

()貸倒引当金(貸倒引当金、支払保証引当金および未実行貸出残高)

当行は減損テストを行い、償却原価で測定される金融資産、その他の包括利益を通じて公正価値で測定される債務証券に係る損失引当金を認識しており、また支払保証および未実行貸出残高に係る引当金を認識している。貸倒引当金の正確性は、個別に評価された貸倒引当金に対する借入人の予想キャッシュ・フローの見積りならびに貸出金、支払保証および未実行貸出残高のグループに対する集合的に評価された引当金に関して使用された仮定および手法に依拠している。

()繰延税金

繰延税金資産および負債は、報告日に制定または実質的に制定されている税率(および税法)に基づいて、資産が実現する期または負債が決済される期に適用されると見込まれる税率で測定される。繰延税金資産は、繰延税金資産の全部または一部を利用できる十分な課税所得が生じるであろう範囲で認識される。将来における実際の法人税は、認識された繰延税金資産および負債と一致しない可能性がある。

()確定給付債務

当行は、確定給付制度を運用している。確定給付債務は、報告日現在の保険数理評価により毎年計算される。保険数理評価を行うために、割引率に関する仮定、将来昇給率等を見積もらなければならない。確定給付制度には、その長期的性質により、重要な見積りの不確実性が含まれる。

(6) 個別財務書類の承認日

当該個別財務書類は、2019年3月28日の理事会により発行を許可されており、2019年3月29日の株主総会において承認取得のために提出される予定である。

3. 重要な会計方針

当行が、その個別財務書類の作成に適用した重要な会計方針は、以下に記載されている。以下の会計方針は、本個別財務書類において表示されるすべての期間について一貫して適用されている。

(1) 子会社および関連会社投資

添付の財務書類は、K-IFRS第1027号「個別財務諸表」に基づく個別財務書類であり、子会社および関連会社投資は取得原価で会計処理されており、投資先により報告された業績および純資産に基づいていない。子会社および関連会社から受領した配当金は、配当金を受領する権利の確定時に収益として認識される。

(2) 共通支配下にある事業体間での企業結合

共通支配下での企業結合により取得された資産および負債は、最終親会社の連結財務書類において従前に認識された帳簿価額で認識される。引き渡された対価と取得された純資産の帳簿価額との差額は、資本剰余金の一部として認識される。

(3) 事業セグメント

当行は、セグメント間の資源の配分に関して意思決定を行い、また業績評価のために最高経営意思決定者が定期的に検討する内部報告に基づきセグメントを区分する。最高経営意思決定者に報告されるセグメントの情報は、セグメントに直接帰属する項目および合理的な基準で配分可能な項目を含んでいる。非配分項目は、主に(当行本社等の)全社資産、本社費用ならびに法人税資産および負債からなる。当行は、最高経営責任者を最高経営意思決定者として認識している。

(4) 外国為替

(i)外貨建て取引

外貨建て取引は、取引日の為替レートで当行の機能通貨に換算される。報告日現在の外貨建て貨幣性資産および負債は、かかる日の為替レートで機能通貨に換算される。貨幣性項目の為替差損益は、期首現在の機能通貨による償却原価(期中の実効金利および支払を調整後)と報告期間末現在の為替レートで換算された外貨による償却原価との差額である。公正価値で測定される外貨建て非貨幣性資産および負債は、公正価値が決定された日の為替レートで機能通貨に換算される。

換算により生じる為替差額は、その他の包括利益に認識される売却可能持分金融商品、海外事業への純投資のヘッジまたは適格なキャッシュ・フロー・ヘッジとして指定された金融負債の換算により生じる差額を除き、損益に認識される。外貨建ての取得原価で測定される非貨幣性項目は、取引日現在の為替レートを用いて換算される。

() 海外事業

当行の表示通貨が海外事業の機能通貨と異なる場合、海外事業の財務書類は以下の方法を用いて表示通貨に換算される。

海外事業の機能通貨が超インフレ状態にない限り、海外事業の資産および負債は、報告期間末現在の為替レートの終値で換算される。包括利益計算書に含まれる収益および費用は、取引日現在の為替レートで換算される。換算から生じる為替差額はその他の包括利益として認識され、海外事業の処分は、処分損益の認識時点で損益に振り替えられる。

海外事業の取得により生じるのれんおよびかかる取得により生じる資産および負債の帳簿価額の公正価値調整額は、海外事業の資産および負債として会計処理される。従って、それらは海外事業の機能通貨で表示され、海外事業の他の資産および負債とともに決算日の為替レートで換算される。

海外事業が処分される場合、その他の包括利益とは別途認識された海外事業に関する換算差額の累計額は、処分損益の認識時点で資本から損益に振り替えられる。

() 海外事業への純投資にかかる為替換算

予測可能な将来に決済される計画も可能性もない海外事業からの未収金または海外事業への未払金となる貨幣性項目は、海外事業への純投資の一部とみなされる。そのため、為替換算差額は、財務書類のその他の包括利益または損失に認識され、関連する純投資の処分時に損益に振り替えられる。

(5) 金融商品の認識および測定

(i) 当初認識

当行は、当行が金融商品の契約条項の当事者となったときに、財政状態計算書において金融資産または金融負債を認識している。通常の方法による金融資産の売買は、取引日基準を用いて認識および認識中止される。

当行は、金融資産を管理する当行の事業モデルおよび金融資産の契約上のキャッシュフローの特性に基づき、金融資産を損益を通じて公正価値で測定される金融資産、その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産、または償却原価で測定される金融資産に分類している。当行は、金融負債を損益を通じて公正価値で測定される金融負債、または償却原価で測定される金融負債に分類している。

当初認識時に、損益を通じて公正価値で測定されない金融資産または金融負債の場合、金融資産または金融負債は、金融資産または金融負債の取得または発行に直接起因する取引コストを加減した公正価値で測定される。

() その後の測定

当初認識後、金融商品は当初認識時の分類に基づき償却原価または公正価値で測定される。

償却原価

償却原価は、金融資産または金融負債が当初認識時に測定された金額から元本返済額を控除し、かかる当初認識額と満期金額との差額の実効金利法による償却累計額を加減し、金融資産については損失引当金を調整した金額である。

公正価値

当行が主に金融商品の測定に使用する公正価値は、入手可能な場合には活発な市場で取引される金融商品の市場価格またはディーラーの提示価格に基づく公表価格であり、これらが公正価値の最善の証拠である。金融商品は、市場価格が取引所、ディーラー、ブローカー、同業他社、価格サービス業者または規制当局から容易にかつ定期的に入手可能であり、それらの価格が実際にかつ定期的に発生する第三者間市場取引を表す場合に、活発な市場で取引されるとみなされる。

金融商品の市場が活発でない場合、公正価値は、評価技法または独立した第三者評価機関のいずれかにより決定される。評価技法には、取引の知識がある自発的な当事者間の直近の第三者間市場取引の使用、入手可能な場合には、実質的に同一である他の金融商品の現在の公正価値の参照、割引キャッシュ・フロー分析およびオプション価格設定モデルが含まれている。

当行は、市場参加者によって一般的に使用され、当行が市場で観察可能なインプットに基づくオプション、金利スワップおよび通貨スワップなどの一般的な店頭デリバティブの公正価値を決定するためにカスタマイズされた評価モデルを使用している。より複雑な金融商品については、当行は通常、業界で一般的に使用される評価手法および評価技法に基づく内部開発モデル、または評価モデルに対するインプットの全部または一部が市場で観察可能でないために一定の仮定に基づく公正価値の見積りが必要となる場合に、独立した外部評価機関によって測定された値を公正価値として使用している。

評価技法が、市場参加者が価格の設定にあたり考慮するであろうすべての要因を反映していない場合、公正価値はかかる要因を反映するように調整される。かかる要因には、カウンターパーティー信用リスク、ビッド・アスク・スプレッド、流動性リスク等が含まれている。

選択された評価技法は、市場のインプットを最大限に活用し、事業体固有のインプットへの依存を最小限に抑えるものである。これには、市場参加者が価格の設定にあたり考慮するであろうすべての要因が組み込まれており、金融商品の価格設定に適用される経済的方法と一致している。当行は、定期的に評価技法を調整し、同一の金融商品の観察可能な現在の市場取引の価格を使用するか、または他の関連する観察可能な市場データに基づいて、その有効性をテストしている。

()認識の中止

認識の中止は、過去に認識された金融資産または金融負債を財政状態計算書から除去することである。当行は、次の場合にのみ金融資産または金融負債の認識を中止する。

金融資産の認識の中止

金融資産は、金融資産からのキャッシュ・フローに対する契約上の権利が消滅した場合、金融資産が譲渡され、その金融資産の所有に伴う概ねすべてのリスクおよび経済価値が移転された場合、または金融資産の所有に伴う概ねすべてのリスクおよび経済価値を移転も保持もせず、当行が支配を保持しない場合、その認識が中止される。当行が金融資産の所有に伴う概ねすべてのリスクおよび経済価値を移転も処分もしない場合、当行は金融資産に対する継続的関与を有している範囲において、金融資産を継続して認識する。

当行が金融資産のキャッシュ・フローを受け取る契約上の権利を譲渡するが、金融資産の所有に伴う概ねすべてのリスクおよび経済価値を保持している場合、当行は譲渡資産全体の認識を継続し、受け取った対価について金融負債を認識する。

金融負債の認識の中止

金融負債は、契約に規定された債務が免責、取消または失効した場合に、財政状態計算書からその認識が中止される。

()相殺

金融資産および金融負債は、認識された金額を相殺する法的に強制力のある権利が存在し、かつ純額ベースで決済するか、または資産の実現と負債の決済を同時に進行する意思がある場合に相殺され、財政状態計算書に純額が計上される。

(6) 現金および現金同等物

現金および現金同等物は、手許現金と要求払預金および当初満期が3ヶ月以内の流動性の高いその他の短期投資を含む、公正価値の変動のリスクが少ない、取得日から3ヶ月以内に当初満期が到来するもので構成されている。

(7) 非派生金融商品資産

()当期損益認識金融資産

売買目的に分類されるか、またはその他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産もしくは償却原価で測定される金融資産に分類されない非派生金融商品資産は、当期損益認識金融資産に分類される。

当行は、かかる指定が資産もしくは負債の測定または異なる基準による資産もしくは負債に係る損益の認識から生じるであろう測定または認識の不整合（「会計上のミスマッチ」とも呼ばれる。）を除去または大幅に削減させる場合、当初認識時に一定の金融資産を当期損益認識金融資産として指定することができる。

当初認識後、当期損益認識金融資産は公正価値で測定され、公正価値の変動により生じる損益は損益に認識される。また、当期損益認識金融資産からの受取利息および受取配当金は、包括利益計算書に認識される。

() その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産

当行は、金融資産が以下の条件を満たす場合、それらをその他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産として分類している。1) 契約上のキャッシュ・フローの回収と金融資産の売却の両方によって目的が達成される事業モデルであり、元本および元本残高に対する利息の支払いのみである債務証券、または2) 売買目的で保有されておらず、短期的な価格変動またはディーラーのマージンから利益を生み出すことを目的としており、その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産として指定されている持分証券。

当初認識後、その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産は公正価値で測定される。公正価値の変動による損益（実効金利法で償却される受取配当金および受取利息ならびに受取利息および支払利息として損益に直接認識される貨幣性項目に生じる換算差額を除く。）は、資本のその他の包括利益に認識される。

その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産の処分にあたり、累積損益は報告期間の損益に認識される。ただし、その他の包括利益を通じて公正価値で測定される持分証券の累積損益は、処分時に損益にリサイクルされない。

その他の包括利益を通じて公正価値で測定される外貨建て金融資産は、決算日レートで換算される。償却原価の変動により生じる換算差額は損益に認識され、その他の変動は資本に認識される。

() 償却原価で測定される金融資産

契約上のキャッシュ・フローを回収するために資産を保有することを目的とする事業モデルにおいて保有されており、元本および元本残高に対する利息の支払いのみである金融資産は、償却原価で測定される金融資産に分類される。償却原価で測定される金融資産は、当初認識後は実効金利法を用いて償却原価で測定され、受取利息は実効金利法を用いて認識される。

(8) 金融資産の予想信用損失

当行は報告期末時点で、償却原価およびその他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産（損益を通じて公正価値で測定される金融資産を除く。）について、予想信用損失を測定し、損失引当金を認識している。

予想信用損失（以下「ECL」という。）は、貨幣の時間的価値、過去、現在および将来の状況の予想ならびに過度の労力をかけずに利用可能な情報を反映した一定の範囲で生じうる結果による加重平均金額である。

当行は、K-IFRSに従って、以下の3つの測定技法を使用している。

- 一般的なアプローチ：下記の2つのアプローチが適用されない金融資産およびオフバランスシートの未使用の与信枠に対するもの。
- 単純化したアプローチ：受取債権、契約資産およびリース債権に対するもの。
- 信用減損アプローチ：購入または組成された信用減損金融資産に対するもの。

一般的なアプローチの適用は、信用リスクの増大の重要度に応じて異なる。報告日現在において、金融商品の信用リスクが当初認識から著しく増加していない場合、事業体はかかる金融商品の損失引当金を12ヶ月の予想信用損失に等しい金額で測定しなければならない。かかる金融商品の信用リスクが当初認識後に著しく増加した場合は、事業体は各報告日における全期間の予想信用損失に等しい金額で金融商品の損失引当金を測定しなければならない。

当行は、1) 重大な金融要素を有しない売上債権および契約資産、または2) 単純化したアプローチの適用に合わせて当行の会計方針が決定された場合の売上債権、契約資産およびリース債権に対して単純化したアプローチを適用している。当該アプローチでは、金融資産の当初認識から全期間の予想損失を認識することが求められている。信用減損アプローチのものでは、当行は、購入または組成された信用減損金融資産の損失引当金として、当初認識以降の全期間の予想信用損失の変動累計額のみを認識しなければならない。

以下の網羅的でない情報のリストは、信用リスクの変動の評価にあたり関連性のある可能性がある。

- 開始時以降の信用リスクの変動の結果としての信用リスクの内部価格指標の著しい変動。
- 金融商品が報告日時点で新たに組成または発行された場合に、著しく異なるであろう既存の金融商品の率または条件のその他の変動。
- 金融商品の外部信用格付けにおける実際のまたは予想される著しい変化。
- 内部的に信用リスクを評価するために使用された、借り手の実際のまたは予想される内部信用格付けの引下げまたは行動スコアリングの低下。
- 借り手の営業成績における実際のまたは予想される著しい変化。
- 期日経過情報

()将来予測的な情報

当行は、当初認識後に信用リスクが著しく増大したかどうかを判断し、予想信用損失を測定するにあたり将来予測的な情報を使用する。

当行は、リスク要素が景気循環と一定の相関関係があると仮定し、将来予測的な情報をマクロ経済変数とともに測定インプットに反映させることにより予想信用損失を計算している。

予想信用損失の計算に使用される将来予測的な情報は、経営計画のシナリオ、ストレステストに使用される最悪のシナリオ、第三者予測などを含む様々な要因を総合的に考慮して導出される。

()償却原価で測定される金融資産の予想信用損失の測定

償却原価で測定される金融資産の損失額は、資産の帳簿価額と金融資産の当初の実効金利で割り引いた見積将来キャッシュ・フローの現在価値との差額として測定される。当行は、個別に重要な金融資産の予想される将来キャッシュ・フローを見積もっている（減損の個別的評価）。

個別に重要ではない金融資産については、当行は、貸出債権を同様の信用リスク特性を有するグループに分類することにより予想信用損失を一括して見積もっている（減損の集合的評価）。

減損の個別的評価

減損損失の個別的評価は、見積将来キャッシュ・フローの現在価値について経営陣の最善の見積りを使用して計算されている。当行は、借り手の営業キャッシュ・フローおよび保有担保の正味実現可能価額を含むすべての入手可能な情報を使用している。

減損の集合的評価

損失引当金の集合的評価には、将来予測的な情報を加えた過去の損失実績が含まれる。かかるプロセスには、担保、商品および借り手の種類、信用格付け、ポートフォリオの規模および回収期間などの要素が組み込まれ、回収方法の種類によって資産グループのデフォルト確率およびデフォルト時損失率が適用される。また、予想信用損失モデルには、損失実績および将来予測的な情報に基づいてインプットを決定するための一定の仮定が含まれている。これらのモデルおよび仮定は、見積損失額と実際の損失実績との間の差を小さくするために定期的に見直される。

償却原価で測定される金融資産の予想信用損失は損失引当金として認識され、金融資産が回収不能であると判断された場合、帳簿価額および損失引当金が減少する。過去に償却された金融資産が回収された場合、損失引当金は増加し、その差額が当期損益に認識される。

()その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産の予想信用損失の測定

その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産の予想信用損失の測定方法は、その他の包括利益として認識される損失引当金の変動を除き、償却原価で測定される金融資産の測定方法と同様である。その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産の売却または返済のためにその他の包括利益に認識された金額は純損益に振り替えられる。

(9)ヘッジ会計を含む金融派生商品

金融派生商品は、契約締結時の公正価値で当初認識され、その後、公正価値で再評価される。金融派生商品の公正価値の変動による損益の認識は以下のとおりである。

()ヘッジ会計

金融派生商品はヘッジ会計適用の有無により異なる会計処理がなされ、売買目的金融派生商品とヘッジ目的金融派生商品に分類されている。ヘッジ目的の金融派生商品取引においては、2種類の異なるヘッジ会計、すなわち公正価値ヘッジおよびキャッシュ・フロー・ヘッジが適用される。公正価値ヘッジは、認識されている資産、負債、未認識の確定約定、またはかかる資産、負債もしくは確定約定の識別された一部分の公正価値の変動に対するエクスポージャーのうち、特定のリスクに帰属し損益に影響を及ぼす可能性のあるヘッジである。キャッシュ・フロー・ヘッジは、()認識されている資産または負債に関連する特定のリスク（変動利付債に係る将来の金利支払の全部または一部等）または実現可能性の高い予定取引に起因し、()損益に影響を及ぼす可能性のあるキャッシュ・フローの変動に対するエクスポージャーのヘッジである。

ヘッジ関係開始時に、当行はヘッジ対象およびヘッジ手段との関係（リスクの性質、ヘッジ目的およびヘッジ戦略を含む。）およびヘッジ関係の有効性評価に用いられる方法を正式に文書化する。

公正価値ヘッジ

指定された適格な公正価値ヘッジについては、ヘッジ目的金融派生商品の公正価値の変動は包括利益計算書の損益に認識される。一方、ヘッジされたリスクに帰属するヘッジ対象の公正価値の変動は、ヘッジ対象の帳簿価額の一部として計上されるとともに、包括利益計算書の損益においても認識される。ヘッジがヘッジ会計の適用基準をもはや満たさない場合、ヘッジ関係は解消される。償却原価で計上されたヘッジ対象については、解消時のヘッジ対象の帳簿価額と額面価格の差額は実効金利を用いてその満期まで償却される。

キャッシュ・フロー・ヘッジ

指定された適格なキャッシュ・フロー・ヘッジについては、ヘッジ手段に係る損益の有効部分が資本に当初直接認識される。ヘッジ手段に係る損益のうち非有効部分は直ちに包括利益計算書に認識される。ヘッジされたキャッシュ・フローが包括利益計算書の損益に影響を与える場合、ヘッジ手段に係る損益は包括利益計算書の損益の対応する収益または費用として計上される。ヘッジがもはやヘッジ会計の適用基準を満たさない場合は、その時点で資本に計上されている累積損益は資本に留まり、ヘッジ対象である予定取引が最終的に包括利益計算書に認識されるときに損益として認識される。予定取引がもはや発生しないと予想される場合は、資本に計上された累積損益は直ちに包括利益計算書の損益に振り替えられる。

売買目的金融派生商品

売買目的金融派生商品取引については、金融派生商品の公正価値の変動は純利益に認識される。

(10) 取引日損益の認識

市場で観察不可能な評価変数を使用して測定される公正価値レベルのヒエラルキーにおいてレベル3として分類された金融商品については、当初認識時の公正価値と取引価格の差額（取引日損益と等しい。）は、定額法を用いて存続期間にわたって償却される。

(11) 有形固定資産

当行の有形固定資産は取得原価から減価償却累計額および減損損失累計額を控除した帳簿価額で認識される。取得原価には、資産の取得に直接関連する費用が含まれる。

その後の費用は、有形固定資産の帳簿価額に認識されるか、または当該資産に関連する将来の経済的便益が当行に流入する可能性が高く、当該資産の取得原価が信頼性をもって測定できる場合に、適宜、別個の資産として認識される。取替部分の帳簿価額は認識が中止される。さらに、すべてのその他の修繕維持費は発生時に損益に認識される。

土地は減価償却されない。その他の資産の減価償却費は、以下の推定耐用年数にわたり、残存価値から取得費用を控除して定額法により計算される。

種類	耐用年数（年）
建物	20～50
構築物	10～40
賃借物件改良	4
動産	4

有形固定資産は、その帳簿価額が回収可能額を超過するとき減損が生じる。当行は各報告日現在でその資産の残存価値と経済的耐用年数を評価し、必要な場合にはその耐用年数を調整する。資産の処分損益（資産の正味処分代金と帳簿価額との差額として算出）は、包括利益計算書の営業外収益（費用）として認識される。

(12) 投資不動産

当行は、賃借料収入または資本増価の利益を目的として保有する不動産を投資不動産として分類する。投資不動産は、取引コストを含めて原価で当初測定される。当初認識後は、取得原価モデルが適用される。当初認識後、投資不動産の項目は、原価から減価償却累計額および減損損失累計額を控除して計上される。

投資不動産は、これらが処分されたか、または永久に使用されなくなり、その処分により将来の経済的便益が期待できないときに認識中止となる。当該資産の正味処分代金と帳簿価額の差額は、認識が中止された期の包括利益計算書において認識される。該当する投資不動産の使用目的が変更された場合に、投資不動産から他の勘定への振替が行われる。

投資不動産の減価償却費は、以下のとおりその推定耐用年数にわたって定額法により計算される。

種類	耐用年数(年)
建物	20~50
構築物	10~40

(13)無形固定資産

無形固定資産は、その取得原価が信頼性をもって測定でき、当該資産からの将来の経済的便益が当行に流入する可能性が高い場合に限り、認識される。無形固定資産が個別に取得された場合は取得原価で当初認識され、その後は、原価から償却累計額および減損損失累計額を控除した額が帳簿価額として認識される。

耐用年数が有限の無形固定資産は経済的耐用年数(4~30年)にわたって、定額法を用いて償却される。各報告期間末に、当行は、減損を示す証拠の有無について無形固定資産の見直しを行い、かかる証拠が存在する場合、当行は回収可能額を見積もり、それに従って損失を認識する。

耐用年数が確定できない無形固定資産は償却されないが、毎年減損テストが行われる。さらに、当行は、かかる資産の耐用年数が確定できないとみなすことが適当であるかどうかを判断するため、かかる無形固定資産を見直す。当行がかかる資産の耐用年数が確定できないと区分するには不適格であると結論づける場合、将来に向けてかかる資産を有限とみなすよう措置が講じられる。

(14)非金融資産の減損

当行は、各報告期間末に、資産に減損の証拠がないかのテストを行い、回収可能額を見積ることで減損の有無を検討している。資産の回収可能額は、取得費用を控除した公正価値またはその使用価値のいずれか高い金額となる。

戻入が行われないのれんの減損損失を除き、回収可能額の算定に用いられた見積りに変更がある場合は、減損損失が戻し入れられる。戻入は、当該資産の帳簿価額がその回収可能額を超過しない、また過年度に当該資産について減損損失が認識されなかった場合に決定される帳簿価額(減価償却費控除後)を超えないよう制限されている。

(15)売却目的保有資産

継続的使用よりも主に売却を通じて回収されると見込まれる非流動資産または資産および負債からなる処分グループは、売却目的保有に分類される。売却目的保有に分類されるためには、当該資産(または処分グループ)が、現状において直ちに売却でき、その売却の可能性が非常に高くなければならない。売却目的保有に分類される資産または処分グループは、帳簿価額または売却費用控除後の公正価値のいずれか低い金額で測定される。

当行は、当初またはその後の資産(または処分グループ)の売却費用控除後の公正価値までの評価減について、減損損失を認識する。売却費用控除後の公正価値のその後の増加については、以前認識した減損損失累計額を限度に評価益を認識する。

売却目的保有に分類される非流動資産または売却目的保有に分類される処分グループの一部は、減価償却(または償却)されない。

(16)非派生金融商品負債

当行は、金融負債の契約上の取り決めの内容およびその定義に従って、非派生金融商品負債を当期損益認識金融負債またはその他の金融負債に分類している。当行は、当行がかかる金融負債の契約条項の当事者となる場合、財政状態計算書において金融負債を認識する。

()当期損益認識金融負債

当期損益認識金融負債は、売買目的金融負債および当初認識時に当期損益認識金融負債に指定された金融負債を含む。金融負債および金融派生商品は、近い将来に買い戻す目的で取得される場合は売買目的金融商品に分類される。金融負債は、当該負債からの損益が、損益として認識される方がより目的に即していると示される場合、当初認識時に当期損益認識金融負債として分類される。その後の測定において、当期損益認識金融負債は公正価値指定され、関連する未認識の損益は損益として認識される。また、金融負債の信用リスクの変動に起因するかかる負債の公正価値の変動額については、当行はかかる変動を他の包括利益に表示し、かかるその他の包括利益をその後に損益にリサイクルしない。

() 償却原価で測定される金融負債

償却原価で測定される金融負債は、公正価値（取引コスト控除後）で当初認識され、その後は償却原価で計上される。手取金（取引コスト控除後）と償還価格の差額は、実効金利を用いてかかる負債の存続期間にわたって包括利益計算書に認識される。

貸付ファシリティの設定に係る支払手数料は、ファシリティの一部または全部が借入実行される可能性が高い場合には貸付の取引コストとして認識される。ただし、ファシリティの一部または全部の借入が実行されると結論づけるための十分な証拠がない場合に、当該手数料は流動性役務に係る前払費用として資産計上され、それが関連するファシリティ期間にわたって償却される。

(17) 従業員給付

() 短期従業員給付

短期従業員給付は、従業員が関連する役務を提供する期の報告期間末後12ヶ月以内にすべて決済される予定である従業員給付である。従業員が、ある会計期間中に当行に役務を提供する場合に、当行はかかる役務と引き換えに支払うと見込まれる短期従業員給付の割り引かない金額を認識する。

() 退職給付：確定拠出制度

確定拠出制度は、当行が固定の拠出金を別個の基金に支払う年金制度である。確定給付制度は、従業員が退職時に受け取るであろう年金給付額を定義しており、その給付額は通常、勤続年数および報酬等の一つ以上の要因に依拠している。

当行は、確定拠出制度にかかる一定の金額または金銭の一定の割合を支払後、予測可能な将来の負債に対して義務を負わない。当該年金制度が早期退職を認める場合、支払額は従業員給付として認識される。既に支払った拠出額が、報告期間末前の役務に対する拠出額を超える場合、当行はその前払金が将来の支払の控除または現金の払戻しをもたらす範囲で、かかる超過額を資産として認識する。

() 退職給付：確定給付制度

確定給付制度に関する当行の正味債務は、従業員が当期および過年度において稼得した将来の給付額を推定し、かかる金額を割り引き、一切の制度資産の公正価値を控除して計算される。確定給付債務は、有資格の保険数理士により予測単位積立方式を用いて毎年計算される。確定給付債務の現在価値は、給付が支給される通貨建てで、関連年金債務の期間と類似の満期を有する優良会社社債の利回りを用いて見積将来キャッシュ・アウトフローを割り引いて決定される。

保険数理上の損益、制度資産収益（利息を除く。）および資産の上限の効果（もしあれば。利息を除く。）からなる正味確定給付負債（資産）の再測定は、直ちにその他の包括利益に認識される。

(18) 引当金

引当金は、当行が過去の事象により現在の法的または推定的債務を有しており、経済的便益をもつ資源の流出が債務の決済に必要となる可能性が高く、かつ債務金額が信頼性をもって見積もることができる場合に認識される。

(19) 金融保証契約

金融保証契約は、支払期限に特定の債務者が支払を怠ったことにより債権者が被った損失を、債務証券の当初または変更後の契約条項に従って補償するために保証発行者（当行）に対して特定の支払を義務付ける契約である。金融保証は、保証が付与された日の公正価値で財務書類において当初認識され、保証期間にわたって償却される。当初認識後、かかる保証に基づく当行の負債は、以下のうちいずれか高い金額で測定される。

- K-IFRS第1109号「金融商品」に従って算定された金額
- 当初認識額からK-IFRS第1115号「顧客との契約から生じる収益」に従って認識された償却累計額を適宜控除した金額

(20) 売戻および買戻条件付有価証券

売戻しを目的とした契約に基づき購入された有価証券はその他の貸出債権および受取債権として計上され、かかる有価証券からの関連利息は受取利息として計上される。買戻しを目的とした契約に基づき売却された有価証券はその他の借入金として計上され、かかる有価証券からの関連利息は支払利息として計上される。

(21)受取利息および支払利息

受取利息および支払利息は、実効金利法を用いて損益に認識される。実効金利法では、金融商品の償却原価を測定し、関連期間中に受取利息または支払利息を配分する。

実効金利の計算に際して、当行は金融商品のすべての契約条件（将来の貸倒損失を除く。）を考慮して将来キャッシュ・フローを見積もる。計算には、支払ったかまたは受領した一切の手数料またはポイント、取引コストおよびすべての関連割増金または割引額も反映される。金融商品のキャッシュ・フローおよび予想期間を信頼性をもって見積もることができない場合、実効金利は、契約期間にわたり契約上のキャッシュ・フローにより計算される。

金融資産または類似の資産のグループにおいて減損損失が認識されると、その後の受取利息は、減損損失を測定する目的で将来キャッシュ・フローを割り引くために使用した金利で認識される。

(22)手数料収益

手数料収益および費用は、関連規則に従って、以下のように分類されている。

()金融商品からの手数料

金融資産または負債の実効金利の不可分である手数料収益および費用は、実効金利の測定に含まれる。手数料収益および費用には、借入人の財政状態、保証、担保、その他の取決めの評価および関連する評価ならびに事業取引に関連する手数料、文書作成および記録等の業務に対する報酬ならびに金融負債の発行の際に発生した手数料が含まれる。ただし、金融商品が当期損益認識金融商品に分類される場合、手数料は当初認識時に収益として認識される。

()役務からの手数料

資産運用手数料、委託手数料および保証サービス料など、一定期間中に提供する役務と引き換えに請求される手数料収益は、関連する役務の提供時に認識される。貸出債権のコミットメントが、借入実行されることが予想されず、K-IFRS第1109号「金融商品」が当該コミットメントに適用されない場合、関連する貸出債権のコミットメント手数料は収益として、コミットメントの期間にわたって時間に比例して認識される。

()重要な取引からの手数料

株式およびその他の有価証券の売買、第三者のための交渉および仲介活動（例えば事業譲渡および買収）等の重要な取引からの手数料は、取引の完了時に認識される。

(23)受取配当金

受取配当金は、当行の支払を受け取る権利が確定されたとき認識される。

(24)法人税費用

法人税費用は、当期法人税および繰延法人税からなる。当期法人税および繰延法人税は、その他の包括利益に認識されるかもしくは資本に直接認識される取引もしくは事象または企業結合から発生する税金を除いて、損益に認識される。

当行は、子会社および関連会社に対する投資に関連して生じるすべての将来加算一時差異について、当行がその一時差異を解消する時期をコントロールでき、一時差異が予測可能な将来に解消しない可能性が高い範囲を除いて、繰延税金負債を認識する。当行は、関連会社投資により生じるすべての将来減算一時差異について、その一時差異が予測可能な将来に解消され、一時差異を利用できる課税所得が獲得される可能性が高い範囲で、繰延税金資産を認識する。

繰延税金資産および負債は、報告期間末までに制定または実質的に制定されている税率（および税法）に基づいて、資産が実現する期または負債が決済される期に適用されると見込まれる税率で測定される。

繰延税金資産および負債の測定は、報告期間末に当行が資産および負債の帳簿価額の回収または決済を行うと見込んでいる方法から生じるであろう税務上の影響を反映する。

繰延税金資産の帳簿価額は各報告期間末に見直され、繰延税金資産の一部または全部の便益を利用できる十分な課税所得が獲得される可能性が高くなかった範囲で減額される。

繰延税金資産および繰延税金負債は、当行が関連する当期税金資産および負債を相殺する法的強制力のある権利を有し、かかる資産および負債が同一の税務当局によって課された法人税に関連しており、純額ベースで決済することを意図している場合にのみ相殺される。

(25)信託勘定の会計処理

当行は、財務報告のために、金融投資サービスおよび資本市場法に従って信託資産を識別可能資産から区分している。さらに、当行は、信託資産の申請、運用および処分から信託報酬を受領し、かかる報酬を信託勘定収益に配分している。

また、不特定の元利金保証信託からの報酬が元利金額に満たない場合、当行は、信託報酬および特別準備金による損失補填後も、信託勘定の損失残高を補填し、かかる金額を信託勘定損失に配分する。

(26)規制上の貸倒引当金

貸倒引当金の合計額が銀行業務監督規則第29条(1)が規定する金額を下回る場合、当行は、各報告期間末現在でその差額を規制上の貸倒引当金として計上する。

既存の規制上の貸倒引当金が報告日現在の積立所要額残高を上回る場合、その剩余额は戻し入れることができる。さらに、未処理損失がある場合、損失処理後、規制上の貸倒引当金を積み立てる。

(27)1株当たり利益

当行は、個別包括利益計算書に希薄化後および基本的1株当たり利益を表示している。基本的1株当たり利益は、当行の株主に帰属する当期純利益を報告期間中の発行済普通株式の加重平均株式数で除して計算される。希薄化後1株当たり利益は、当行の普通株主に帰属する純利益および発行済普通株式の加重平均株式数を、すべての潜在的普通株式による希薄化効果を考慮して調整することにより計算される。

(28)誤謬の訂正

過年度の誤謬は、誤謬による特定期間にかかる影響または累積的な影響を判断することが実務上不可能である範囲を除いて、かかる誤謬の発見後に最初に承認された財務書類において、遡及的修正再表示によって訂正しなければならない。

4. 現金および預け金

(1) 2018年および2017年12月31日現在の現金および預け金は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年12月31日	2017年12月31日
現金	59,835	62,862
ウォン建て預け金:		
韓国銀行預け金	3,375,325	2,136,005
その他銀行預金	127,203	1,501,419
	3,502,528	3,637,424
外貨建て／オフショア預け金	3,612,866	2,908,356
	7,175,229	6,608,642

(2) 2018年および2017年12月31日現在の使途制限されている預け金は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年12月31日	2017年12月31日
預金準備金	2,070,742	1,248,969
通貨安定勘定預け金	1,460,000	1,100,000
その他	186,875	182,446
	3,717,617	2,531,415

5. FVTPLで測定される有価証券

(1) 2018年12月31日現在の当期損益認識金融資産における有価証券の内訳は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年12月31日	公正価値 (帳簿価額)
	額面金額	取得原価
ウォン建て有価証券 :		
株式	-	503,426
持分投資	-	304,584
受益証券	-	4,319,278
国公債	557,000	561,819
金融債	1,820,000	1,808,285
その他	500,000	500,000
	2,877,000	7,997,392
外貨建て／オフショア有価証券 :		
株式	-	569
持分投資	-	23,769
受益証券	-	452,002
債務証券	97,007	97,787
	97,007	574,127
貸付有価証券 :		
債務証券	60,000	60,455
	3,034,007	8,631,974
		8,509,187

(2) 2018年12月31日現在の当期損益認識金融資産における売却制限付持分証券は以下のとおりである。(単位:百ウォンおよび株)

会社名	2018年12月31日		
	株式数	帳簿価額	制限期間
ナショナル・ハピネス・ファンド・カンパニー・リミテッド	34,066	68,757	定めなし

6. 売買目的金融資産

(1) 2017年12月31日現在の売買目的金融資産は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

2017年12月31日

ウォン建て売買目的金融資産:

債務証券:	
国公債	532,899
外貨建て／オフショア売買目的金融資産:	
持分証券	15,534
債務証券	378,304
	393,838
	926,737

(2) 2017年12月31日現在の売買目的金融資産における債務証券の内訳は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

2017年12月31日

	額面金額	取得原価	公正価値 (帳簿価額)
ウォン建て国公債	539,000	532,856	532,899
外貨建て債務証券	379,283	379,734	378,304
	918,283	912,590	911,203

7. FVOCIで測定される有価証券

(1) 2018年12月31日現在のFVOCIで測定される有価証券の内訳は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

2018年12月31日

	額面金額	取得原価	公正価値 (帳簿価額)
ウォン建て有価証券 :			
株式および持分投資	-	9,922,460	10,157,093
国公債	668,000	686,342	672,055
金融債	1,532,000	1,530,624	1,531,580
社債	6,317,929	6,317,848	6,295,050
その他	507,315	504,049	367,664
	9,025,244	18,961,323	19,023,442
外貨建て／オフショア有価証券 :			
持分証券	-	2,429	1,229
債務証券	3,852,605	4,786,306	3,781,005
	3,852,605	4,788,735	3,782,234
	12,877,849	23,750,058	22,805,676

債務証券からの転換による取得により保有されている持分証券、現物投資ならびにベンチャーおよび中小企業への投資は、FVOCIで測定されるものとして指定されている。2018年12月31日に終了した年度の持分証券の売却に係る実現税引前利益は21,665百万ウォンであり、これは利益剰余金に直接認識された。

(2) 2018年12月31日に終了した年度のFVOCIで測定される有価証券の変動は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

2018年

期首残高	27,820,915
取得	9,560,772
処分	(14,584,271)
償却による変動	(18,231)
公正価値変動	(198,340)
振替	2,050
為替換算差額	165,494
その他(*)	57,287
期末残高	22,805,676

(*)2018年12月31日に終了した年度について、「その他」は、債務者再生破産法に基づく再生計画に従って取得したSTX重工業株式会社、STXエンジン株式会社、ウヤンHCカンパニー・リミテッドおよびナムグアン土建株式会社の株式、転換社債の転換権の行使により取得したエコマイスター・カンパニー・リミテッド、アリバイオ・カンパニー・リミテッド等の株式ならびに会社再編促進法に基づく金融機関債権者委員会のデット・エクイティ・スワップに関する決定に従って取得したDIBカンパニー・リミテッドの株式を含むFVOCIで測定される有価証券の増加を表している。

(3)2018年12月31日現在のFVOCIで測定される有価証券における売却制限付持分証券は以下のとおりである。(単位:百万ウォンおよび株)

会社名	2018年12月31日		
	株式数	帳簿価額	制限期間
UAMCOリミテッド	85,050	118,130	定めなし
大韓電線株式会社(*)1	15,926,991	16,166	定めなし
株式会社EMテック	81,621	1,396	2019年2月7日まで
韓進重工業株式会社	1,208,588	2,000	2019年12月31日まで
ピョンサン・カンパニー・リミテッド	222,222	-	2019年12月31日まで
HMRカンパニー・リミテッド	35,972	-	2019年12月31日まで
クレア・イン・カンパニー・リミテッド	14,383	46	2021年12月31日まで
クムホ・タイヤ・カンパニー・リミテッド	21,339,320	113,312	2023年7月6日まで
			(*2)
	38,914,147	251,050	

(*)2018年12月31日に終了した年度に主要株主等で構成される委員会の決定に従い、一部の株式を売却した。

(*2)2021年7月6日以降、株式の50%を毎年売却することができる。

(4)2018年12月31日に終了した年度のFVOCIで測定される有価証券に関連する損失引当金の変動は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年			
	12ヶ月間の予想信用損失	全期間の予想信用損失		
		信用減損していない	信用減損している	合計
期首残高	4,395	7,926	107,010	119,331
12ヶ月間の予想信用損失への振替	40	(40)	-	-
全期間の予想信用損失への振替:				
信用減損していない債務証券への振替	(2,111)	2,111	-	-
信用減損している債務証券への振替	-	-	-	-
損失引当金繰入(戻入)	2,021	(7,825)	(842)	(6,646)
償却	-	-	(4,848)	(4,848)
売却	(971)	(5)	-	(976)
デット・エクイティ・スワップ	-	-	(30,950)	(30,950)
為替換算差額	105	2	476	583
期末残高	3,479	2,169	70,846	76,494

8. 売却可能金融資産

(1) 2017年12月31日現在の売却可能金融資産は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

2017年12月31日

ウォン建て売却可能金融資産:

持分証券	
株式および持分投資	10,959,862
受益証券	2,937,542
その他	250,731
	14,148,135

債務証券:

国公債	1,795,216
金融債	4,639,828
社債	7,762,985
	14,198,029
	28,346,164

外貨建て／オフショア売却可能金融資産:

持分証券	305,728
債務証券	3,411,029
	3,716,757
	32,062,921

活発な市場で取引価格がなく、その公正価値が信頼性をもって測定できない持分証券は、2017年12月31日現在で、8,855,069百万ウォンの取得原価で計上されている。

(2) 2017年12月31日に終了した年度の売却可能金融資産の変動は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

2017年

期首残高	36,680,130
取得	14,494,489
処分	(17,666,359)
償却による変動	(31,712)
公正価値変動	(879,960)
減損損失	(186,928)
減損損失戻入	2,177
振替	6,623
為替換算差額	(434,682)
その他(*1)	79,143
期末残高	32,062,921

(*1)2017年12月31日に終了した年度について、「その他」は、債務者再生破産法に基づく再生計画に従って取得したSTX重工業株式会社の株式、会社再編促進法に基づく金融機関債権者委員会のデット・エクイティ・スワップに関する決定に従って取得したチヌン・インターナショナル・インクの株式および転換社債の転換権の行使により取得したフェニックス・マテリアルズ・カンパニー・リミテッド等の株式を含む売却可能持分証券の増加を表している。

(3) 2017年12月31日現在の売却可能金融資産における売却制限が付された持分証券は、以下のとおりである。（単位：百万ウォンおよび株）

会社名	2017年12月31日		
	株式数	帳簿価額	制限期間
クムホ・タイヤ・カンパニー・リミテッド	21,339,320	94,426	定めなし
ナショナル・ハピネス・ファンド・カンパニー・リミテッド	34,066	56,710	定めなし
大韓電線株式会社(*1)	16,476,369	18,536	定めなし
アジン・ピー・アンド・ピー・カンパニー・リミテッド	516,270	5,321	定めなし
ジェヨン・ソルテック・カンパニー・リミテッド	1,962,000	3,532	2018年5月18日まで
チヌン・インターナショナル・インク(*2)	11,118,952	21,293	2018年12月31日まで
韓進重工業株式会社	1,208,588	4,000	2018年12月31日まで
クレア・イン・カンパニー・リミテッド	14,383	46	2021年12月21日まで
	52,669,948	203,864	

(*1)2017年12月31日に終了した年度の主要株主等で構成される委員会の決定に従い、一部の株式は売却された。

(*2)2017年12月31日に終了した年度の売却制限の解除およびデット・エクイティ・スワップに関する決定後、株式数が変動した。

(4) 2017年12月31日現在の売却可能金融資産における債務証券の内訳は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2017年12月31日		
	額面金額	取得原価	公正価値 (帳簿価額)
ウォン建て国公債	1,790,000	1,838,455	1,795,216
ウォン建て金融債	4,648,000	4,644,729	4,639,828
ウォン建て社債	7,932,157	7,932,488	7,762,985
外貨建て／オフショア債務証券	3,401,971	4,440,330	3,411,029
	17,772,128	18,856,002	17,609,058

9. 償却原価で測定される有価証券

(1) 2018年12月31日現在の償却原価で測定される有価証券は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日	
	償却原価	公正価値
ウォン建て有価証券：		
国公債	494,518	494,518
金融債	1,201,409	1,201,409
	1,695,927	1,695,927

(2) 2018年12月31日に終了した年度の売却可能金融資産の変動は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年
期首残高	12,312
取得	1,694,688
償還	(12,236)
償却による変動	1,127
減損損失戻入	1
為替換算差額	35
期末残高	1,695,927

10. 満期保有金融資産

(1) 2017年12月31日現在の満期保有金融資産は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2017年12月31日	
	償却原価	公正価値
ウォン建て満期保有金融資産：		
国公債	1,588	2,348
外貨建て満期保有金融資産：		
社債	10,725	10,725
	12,313	13,073

(2) 2017年12月31日に終了した年度の満期保有金融資産の変動は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2017年
期首残高	15,867
取得	-
償還	(2,080)
償却による変動	(97)
為替換算差額	(1,377)
期末残高	12,313

11. FVTPLで測定される貸出債権

(1) 2018年12月31日現在のFVTPLで測定される貸出債権は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日	
	償却原価	公正価値
ウォン建て貸出債権：		
設備開発資金貸付	1,639	1,620
私募社債	794,682	777,264
	796,321	778,884

(2) 2018年12月31日に終了した年度のFVTPLで測定される貸出債権に関連する利益（損失）は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年
FVTPLで測定される貸出債権に係る取引益（損）	
取引益	17,507
取引損	(29,456)
	(11,949)
FVTPLで測定される貸出債権に係る評価益（損）	
評価益	80,597
評価損	(48,140)
	32,457
	20,508

12. 償却原価で測定される貸出債権

(1) 2018年12月31日現在の償却原価で測定される貸出債権および貸倒引当金は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年12月31日	
	償却原価	公正価値
ウォン建て貸出債権:		
運転資金貸付	50,493,477	48,967,004
設備開発資金貸付	46,668,325	46,543,611
個人向け貸付	648,026	661,355
銀行間貸付	2,376,183	2,194,341
	100,186,011	98,366,311
外貨建て貸出債権:		
貸出債権	13,396,054	13,840,164
銀行間貸付	2,379,965	2,380,172
対外借入による貸付	139,187	142,882
オフショア貸付	11,570,036	12,042,473
	27,485,242	28,405,691
その他貸出債権:		
外貨建て買入手形	1,336,852	1,323,601
引受・保証前渡金	103,499	7,595
私募社債	717,852	434,455
その他	7,946,159	7,927,061
	10,104,362	9,692,712
	137,775,615	136,464,714
控除:		
貸倒引当金	(3,539,074)	
現在価値割引差金	(6,723)	
繰延貸出組成手数料	15,314	
	134,245,132	

(2) 2018年12月31日に終了した年度の貸倒引当金の変動は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年			
	12ヶ月間の予想 信用損失	全期間の予想信用損失		
		信用減損 していない	信用減損 している	合計
期首残高	226,114	1,292,255	2,030,954	3,549,323
12ヶ月間の予想信用損失への振替	5,085	(5,085)	-	-
全期間の予想信用損失への振替:				
信用減損していない貸出債権への振替	(68,053)	535,451	(467,398)	-
信用減損している貸出債権への振替	(110,021)	(91,151)	201,172	-
貸倒引当金繰入	114,415	11,864	251,126	377,405
償却	-	-	(235,303)	(235,303)
回収	-	-	72,895	72,895
売却	(215)	-	(114,954)	(115,169)
デット・エクイティ・スワップ	-	-	(120,236)	(120,236)
為替換算差額	1,658	26,091	11,657	39,406
その他	320	(12,803)	(16,764)	(29,247)
期末残高	169,303	1,756,622	1,613,149	3,539,074

(3) 2018年12月31日に終了した年度の償却原価で測定される貸出債権に関連する利益(損失)は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年
貸倒引当金繰入	(377,405)
貸出債権処分損	(103,589)
	(480,994)

(4) 2018年12月31日に終了した年度の正味繰延貸出組成費用および手数料の変動は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年
期首残高	5,230
新規繰延	22,658
償却	(12,574)
期末残高	15,314

13. 貸出債権および貸倒引当金

(1) 2017年12月31日現在の貸出債権および貸倒引当金は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2017年12月31日	
	償却原価	公正価値
ウォン建て貸出債権:		
運転資金貸付	48,073,015	46,991,365
設備開発資金貸付	49,032,004	48,628,943
個人向け貸付	1,484,374	1,497,412
銀行間貸付	2,173,687	1,963,261
	100,763,080	99,080,981
外貨建て貸出債権:		
貸出債権	13,011,258	13,485,711
銀行間貸付	1,694,398	1,696,023
海外金融機関からの借入による貸付	154,063	158,332
オフショア貸付	10,962,265	11,368,199
	25,821,984	26,708,265
その他貸出債権:		
外貨建て買入手形	2,253,141	2,191,273
引受・保証前渡金	112,108	31,968
私募社債	1,937,308	1,483,255
その他	9,117,599	9,025,687
	13,420,156	12,732,183
	140,005,220	138,521,429
控除:		
貸倒引当金	(3,515,453)	
現在価値割引差金	(215,809)	
繰延貸出組成手数料	5,364	
	136,279,322	

(2) 2017年12月31日に終了した年度の貸倒引当金の変動は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2017年						
	ウォン建て貸出債権			その他貸出債権			合計
運転資金 貸付	設備開発 資金貸付	その他	外貨建て 貸出債権	私募社債	その他		
期首残高	1,159,738	519,942	6,742	730,848	524,215	371,919	3,313,404
貸倒引当金繰入	797,689	349,378	(739)	(130,201)	38,082	157,975	1,212,184
償却	(49,090)	(45,234)	(1,771)	(19,926)	-	(862)	(116,883)
回収	3,110	-	-	7,225	17	-	10,352
売却	(94,787)	(52,788)	-	(7,688)	(2,128)	(14,442)	(171,833)
デット・エクイティ・ スワップ	(154,094)	(181,136)	-	(9,091)	(2,591)	(142,024)	(488,936)
為替換算差額	-	-	-	(60,073)	(23)	(38,422)	(98,518)
その他	(67,680)	8,810	-	(12,657)	(62,934)	(9,856)	(144,317)
期末残高	1,594,886	598,972	4,232	498,437	494,638	324,288	3,515,453

(3) 2017年12月31日に終了した年度の貸出債権に関連する損失は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2017年
貸倒引当金繰入	(1,212,184)
貸出債権処分損	(85,453)
	(1,297,637)

(4) 2017年12月31日に終了した年度の正味繰延貸出組成費用および手数料の変動は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2017年
期首残高	2,231
新規繰延	19,939
償却	(16,806)
期末残高	5,364

14. 金融派生商品

当行の金融派生商品は、取引の性質に応じて売買目的金融派生商品およびヘッジ目的の金融派生商品からなる。当行は、主に原資産および負債の公正価値の変動ならびに将来キャッシュ・フローの変動に関連するリスクのヘッジのためにヘッジ目的金融派生商品取引を締結する。

当行は、原資産の将来価値を見越した裁定取引として先物、先渡、スワップおよびオプション等の売買目的金融派生商品取引を締結している。売買目的金融派生商品取引には、当行顧客との契約およびその清算にかかるポジションが含まれる。

金利変動によるウォン建てファンドの公正価値およびキャッシュ・フローの変動リスクをヘッジする目的で、当行は、主に金利スワップまたは通貨スワップを用いている。主な相手方は、海外金融機関および地方銀行である。また、金利および為替変動による外貨建て債券の公正価値の変動リスクをヘッジするため、当行は、主に金利スワップまたは通貨スワップを用いている。

(1) 2018年および2017年12月31日現在の金融派生商品取引の想定元本残高および金融派生商品の帳簿価額は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

2018年12月31日				
	想定元本額		帳簿価額	
	購入	売却	資産	負債
売買目的金融派生商品:				
金利				
先物	-	689,556	-	-
スワップ	225,288,933	225,286,744	1,023,803	770,507
オプション	3,522,037	9,170,743	78,355	143,062
	228,810,970	235,147,043	1,102,158	913,569
通貨				
先物	16,772	-	-	-
先渡	62,436,615	54,638,533	719,837	726,742
スワップ	45,150,654	49,795,131	1,244,551	1,157,205
オプション	185,957	80,891	771	1,643
	107,789,998	104,514,555	1,965,159	1,885,590
株式				
先物	1,515	-	-	-
先渡	-	500,000	128,063	-
オプション	182,777	335,551	11,590	763
	184,292	835,551	139,653	763
引当金およびその他調整	-	-	(13,515)	(483)
	336,785,260	340,497,149	3,193,455	2,799,439
ヘッジ目的金融派生商品:				
金利(*)				
スワップ	24,015,803	24,015,803	608,887	160,612
通貨				
スワップ	7,065,363	7,339,952	73,769	277,798
引当金およびその他調整	-	-	(203)	(5,221)
	31,081,166	31,355,755	682,453	433,189
	367,866,426	371,852,904	3,875,908	3,232,628

(*)キャッシュ・フロー・ヘッジ会計が適用される金融派生商品契約がキャッシュ・フローの変動リスクに晒される予想最長期間は、2020年9月11日までである。

2017年12月31日

	想定元本額		帳簿価額	
	購入	売却	資産	負債
売買目的金融派生商品:				
金利	263,106,943	269,454,550	1,094,066	1,048,654
通貨	95,220,871	94,686,514	4,401,846	4,371,560
株式	706,531	1,777,606	491	2,436
コモディティ	1,232	1,232	375	375
組込金融派生商品	657,821	250,000	138,350	-
引当金およびその他調整	-	-	(6,993)	(542)
	359,693,398	366,169,902	5,628,135	5,422,483
ヘッジ目的金融派生商品:				
金利	17,225,203	17,225,203	503,659	209,708
通貨	6,606,163	6,819,227	118,012	281,193
引当金およびその他調整	-	-	(197)	(5,581)
	23,831,366	24,044,430	621,474	485,320
	383,524,764	390,214,332	6,249,609	5,907,803

(2) 2018年12月31日現在のヘッジ目的金融派生商品の満期別の想定元本は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日				
	1ヶ月未満	1 - 3ヶ月未満	3 - 12ヶ月未満	1 - 5年未満	5年以上
金利:					
想定元本残高	151,977	1,151,615	1,899,050	11,752,405	9,060,756
通貨:					
想定元本残高	-	53,711	1,777,382	4,821,900	412,370
					7,065,363

(3) 2018年12月31日現在のリスクタイプ別のヘッジ目的金融派生商品残高の内訳は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日				
	想定元本額		残高		2018年の 公正価値変動
	購入	売却	資産	負債	
キャッシュ・フロー・ヘッジ会計:					
金利リスク					
スワップ	1,250,000	1,250,000	65	3,831	4,392
公正価値ヘッジ会計:					
金利リスク					
スワップ	22,765,803	22,765,803	608,822	156,781	78,830
為替リスク					
スワップ	7,065,363	7,339,952	73,769	277,798	(240,893)
	29,831,166	30,105,755	682,591	434,579	(162,063)
	31,081,166	31,355,755	682,656	438,410	(157,671)

(4) 2018年12月31日現在のリスクタイプ別のヘッジ対象残高の内訳は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

2018年12月31日					
帳簿価額		ヘッジ対象の価値変動		キャッシュ・フロー・ヘッジ	
資産	負債	資産	負債	2018年の公正価値変動	準備金
キャッシュ・フロー・ヘッジ会計:					
金利リスク					
債券	-	1,250,000	-	-	(2,579)
公正価値ヘッジ会計 :					
金利リスク					
FVOCIで測定される有価証券	1,430,733	-	(6,070)	-	(1,682)
債券	-	22,750,065	-	(238,234)	(74,840)
その他の負債 (預金等)	-	105,611	-	(6,199)	4,386
	1,430,733	22,855,676	(6,070)	(244,433)	(72,136)
為替リスク					
債券	-	7,184,750	-	(227,240)	236,445
	1,430,733	30,040,426	(6,070)	(471,673)	164,309
	1,430,733	31,290,426	(6,070)	(471,673)	164,309
					(2,579)

(5) 2018年12月31日に終了した年度の金融派生商品からの損益に認識されているヘッジの有効性の内訳は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

2018年	
金利リスク	6,694
為替リスク	(4,448)
	2,246

(6) 2018年12月31日に終了した年度のキャッシュ・フロー・ヘッジ会計の適用により包括利益計算書に影響を及ぼした金額の概要は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年		
	その他の包括利益に認識されたヘッジ手段の価値の変動	損益に認識されたヘッジの有効性(*1)	損益に振り替えられた金額(*1)
金利リスク	4,283	109	47

(*1)ヘッジ目的金融派生商品に関連する損益が認識された。

15. 子会社および関連会社投資

(1) 2018年および2017年12月31日現在の子会社および関連会社投資は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年12月31日	2017年12月31日
子会社:		
産銀亜州金融有限公司	214,807	214,807
KDBバンク・ヨーロッパ・リミテッド	151,952	151,952
産銀アイルランド・リミテッド	62,389	62,389
産銀ウズベキスタン・リミテッド	47,937	47,937
バンコKDBブラジルS.A.	43,642	35,848
大宇造船海洋(以下「DSME」という。)(*) ¹	2,029,845	15,124
大韓造船(*) ²	-	-
KDBキャピタル・コーポレーション	597,290	597,290
韓国BTL基金第1号	181,840	194,101
韓国鉄道基金第1号	101,667	152,692
韓国教育基金	59,843	63,947
韓国インフラストラクチャー・インベストメント・アセット・マネジメント・カンパニー・リミテッド	16,843	16,843
韓国インフラ構造基金(*) ³	6,663	8,422
産銀バリュー・プライベート・エクイティ・ファンド第6号(*) ⁴	385,017	599,982
KDBコンサス・バリュー・プライベート・エクイティ・ファンド(*) ⁵	411,154	110,823
KDBシグマ・プライベート・エクイティ・ファンド第2号	129,330	129,330
産銀バリュー・プライベート・エクイティ・ファンド第7号	50,680	85,566
KDB-IAP OBORプライベート・エクイティ・ファンド	34,140	34,140
NVESTOR2016プライベート・エクイティ・ファンド	24,280	24,280
KDBアジア・プライベート・エクイティ・ファンド	22,571	14,784
KDBスマール・ミディアム・メザニン・プライベート・エクイティ・ファンド	12,140	-
その他	2,357	3,382
	4,586,387	2,563,639
関連会社:		
韓国電力公社	16,921,067	16,921,067
韓国船舶海洋	500,000	452,500
韓国観光公社	337,286	337,286
韓国インフラ構造基金第2号	220,850	221,468
韓国海洋事業公社	134,307	-
韓国海上保証保険	-	134,856
韓国鑑定院	58,492	58,492
マルチ・アセット・エレクトロニック・パワー・プライベート・エクイティ・ファンド	40,358	42,997
新盆唐線株式会社(*) ⁶	8,821	18,065
トロイカ・リソーシズ・インベストメント・プライベート・エクイティ・ファンド(*) ⁷	8,850	9,035
現代商船(*) ⁸	78,835	78,835
GMコリア・カンパニー(*) ⁹	450,585	-
その他(*) ¹⁰	2,085,092	1,911,149
	20,844,543	20,185,750
	25,430,930	22,749,389

(*)¹当行はDSMEにおける持分を売却することを決定し、2019年3月に現代重工業と売却契約を締結した。当該契約に基づき、公正価値から処分費用を控除したものとして回収可能価額を測定することにより、当行は2018年12月31日に終了した年度に2,014,720百万ウォンの減損損失戻入額を認識した。一方で、契約の成立のために、複数の必要条件が満たされなければならないといった不確実性は、注記56において参照することができる。当行は、追加工事に関する契約価格の増加の可能性が減少したことおよび海外プラントの契約コストが予想外に増加したことによるDSMEの財政難を減損の客観的証拠とみなして、2017年12月31日に終了した年度に、90,509百万ウォンの減損損失を認識した。

(*)²当行は、期待キャッシュ・フローの減少による保有資産の使用価値の減少を減損の客観的証拠とみなして、2017年12月31日に終了した年度に1,522百万ウォンの減損損失を認識した。

(*3)当行は、保有資産の公正価値の減少による純資産価値の減少を減損の客観的証拠とみなして、2018年および2017年12月31日に終了した年度に、それぞれ32百万ウォンおよび1,977百万ウォンの減損損失を認識した。

(*4)当行は、大宇建設からの期待キャッシュ・フローの減少による資金生成単位の使用価値の減少を減損の客観的証拠とみなして、2018年および2017年12月31日に終了した年度に、それぞれ250,793百万ウォンおよび517,040百万ウォンの減損損失を認識した。

(*5) 2018年12月31日に終了した年度において、当行は、既存の株主に付与されるKDB生命保険の新株予約権無償割当に参加することにより、300,331百万ウォンを追加投資した。当行は、投資收益率の低下、契約継続率の低下および保険数理上の仮定のその他変更による、KDB生命保険の使用価値の減少を減損の客観的証拠とみなして、2017年12月31日に終了した年度に、103,101百万ウォン減損損失を認識した。

(*6)当行は、鉄道開通の遅延による資金フローの影響および営業利益の未回収預け金を減損の客観的証拠とみなして、2018年および2017年12月31日に終了した年度に、それぞれ9,245百万ウォンおよび6,998百万ウォンの減損損失を認識した。

(*7)当行は、期待キャッシュ・フローの減少による保有資産の使用価値の減少を減損の客観的証拠とみなして、2018年および2017年12月31日に終了した年度に、それぞれ185百万ウォンおよび4,155百万ウォンの減損損失を認識した。

(*8)当行は、2017年12月31日に終了した年度に、株主割当増資により78,809百万ウォンの現代商船の15,761,836株の議決権を追加取得した。

(*9)GMコリア・カンパニーにおける経営正常化の合意に従い、当行は23,813,762株の優先株式を取得した。また、当行は、期待キャッシュ・フローの減少による資金生成単位の使用価値の減少を減損の客観的証拠とみなして、2018年12月31日に終了した年度に358,440百万ウォンの減損損失を認識した。

(*10)当行は、KoFC STICグロース・チャンプ2010-2プライベート・エクイティ・ファンド他25社について、2018年12月31日に終了した年度に55,074百万ウォンの減損損失を認識した。当行は、KoFC未来アセット・グロース・チャンプ2010-4プライベート・エクイティ・ファンド他18社について、2017年12月31日に終了した年度に48,608百万ウォンの減損損失を認識した。

(2)2018年および2017年12月31日現在の市場性のある子会社および関連会社投資の市場価格は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	市場価格		帳簿価額	
	2018年12月31日	2017年12月31日	2018年12月31日	2017年12月31日
韓国電力公社	6,991,887	8,058,625	16,921,067	16,921,067
大宇造船海洋	2,040,060	830,361	2,029,845	15,124
現代商船	152,231	206,820	78,835	78,835
東部製鉄	68,880	69,229	19	13

(3) 2018年および2017年12月31日現在の子会社および関連会社投資の主要な財務情報および持分比率は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

2018年12月31日										
	会計年度末	業種	資産	負債	資本	営業収益	純利益(損失)	包括利益(損失)合計	持分比率(%)	
子会社:										
産銀亞州金融有限公司	香港	12月	金融	1,956,143	1,615,419	340,724	84,594	19,153	30,281	100.00
KDBバンク・ヨーロッパ・リミテッド	ハンガリー	12月	金融	917,265	835,739	81,526	85,749	2,478	(398)	100.00
産銀アイルランド・リアルランミテッド	ド	12月	金融	460,344	373,580	86,764	26,832	7,245	7,190	100.00
産銀ウズベキスタン・ウズベキスリミテッド	タン	12月	金融	633,731	568,471	65,260	26,901	8,993	10,400	86.32
バンコKDBブラジルS.A.	ブラジル	12月	金融	328,486	256,040	72,446	149,042	11,764	2,641	100.00
大宇造船海洋	韓国	12月	製造	11,918,522	8,078,300	3,840,222	9,644,384	344,722	332,469	55.72
新韓重工業(*1)	韓国	12月	製造	331,754	290,565	41,189	252,022	13,592	12,284	89.22
サムウ重工業(*1)	韓国	12月	製造	271,540	238,267	33,273	116,797	107	89	100.00
大韓造船(*1)	韓国	12月	製造	620,478	736,212	(115,734)	521,071	(52,747)	(54,366)	70.04
KDBキャピタル・コーポレーション	韓国	12月	専門信用融資	5,594,986	4,694,534	900,452	480,479	121,616	121,110	99.92
韓国BTL基金第1号(*2)	韓国	半期毎	金融投資	439,795	301	439,494	17,279	15,913	15,913	41.67
韓国鉄道基金第1号(*2)	韓国	半期毎	金融投資	203,497	9	203,488	5,635	5,081	5,081	50.00
韓国教育基金(*2)	韓国	半期毎	金融投資	120,183	7	120,176	4,938	4,614	4,614	50.00
韓国インフラストラクチャー・インベストメント・アセット・マネジメント・カンパニー・リミテッド	韓国	12月	資産運用	47,347	8,617	38,730	31,468	17,705	17,655	84.16
韓国インフラ構造基金	韓国	12月	金融投資	7,655	6	7,649	671	580	580	85.00
産銀バリュー・プライベート・エクイティ・ファンド第6号	韓国	12月	金融投資	9,358,161	7,578,192	1,779,969	10,733,868	(99,183)	(111,750)	99.84
KDBコンサス・バリュー・プライベート・エクイティ・ファンド	韓国	12月	金融投資	18,700,778	17,896,897	803,881	3,909,771	51,684	171,878	68.20
KDBシグマ・プライベート・エクイティ・ファンド第2号	韓国	12月	金融投資	220,445	543	219,902	994	(1,215)	(1,958)	60.00
産銀バリュー・プライベート・エクイティ・ファンド第7号(*3)	韓国	12月	金融投資	96,390	3,226	93,164	40,487	12,973	18,127	50.00
KDB-IAP OBORプライベート・エクイティ・ファンド(*3)	韓国	12月	金融投資	146,697	49,982	96,715	-	6,870	10,885	33.52
Nbestor2016プライベート・エクイティ・ファンド	韓国	12月	金融投資	70,452	25,252	45,200	29,149	8,711	8,711	80.00
KDBアジア・プライベート・エクイティ・ファンド(*3)	韓国	12月	金融投資	42,549	200	42,349	-	(4,643)	616	50.00
KDBスマール・ミディアム・メザニン・プライベート・エクイティ・ファンド	韓国	12月	金融投資	17,968	1,278	16,690	7	(1,520)	(1,520)	66.67
KoFC-KBICフロンティア・チャンプ2010-5プライベート・エクイティ・ファンド(*3)	韓国	12月	金融投資	469	3	466	1,460	1,453	1,453	50.00
コンポーネンツ・アンド・マテリアルズ・エム・アンド・エー・プライベート・エクイティ・ファンド	韓国	12月	金融投資	1,136	1,812	(676)	4	(26)	(26)	83.33

KDB ベンチャード・エム・アンド・エー・プライベート・エクイティ・ファンド	韓国	12月	金融投資	120	7,910	(7,790)	-	-	-	57.56
KDBC IPインベストメント・ファンド第2号(*3)	韓国	12月	金融投資	10,096	3,085	7,011	1,143	712	712	33.33
KoFC-KDBC パイオニア・チャンプ2010-4ベンチャー・インベストメント・ファンド(*3)	韓国	12月	金融投資	6,050	2	6,048	1,432	(394)	(394)	50.00
関連会社：										
韓国電力公社	韓国	12月	発電	185,249,061	114,156,299	71,092,762	60,627,610	(1,314,567)	(1,426,477)	32.90
韓国船舶海洋	韓国	12月	輸送機リー	ス	1,062,673	9,060	1,053,614	24,840	199,796	189,062
韓国觀光公社	韓国	12月	文化觀光業	1,428,674	370,333	1,058,341	738,061	9,053	5,690	43.58
韓国インフラ構造基金第2号	韓国	12月	金融投資	850,334	32,069	818,265	61,021	54,008	54,008	26.67
韓国海洋事業公社(*8)	韓国	12月	金融投資	2,715,960	344,344	2,371,616	30,663	(195,474)	(200,715)	4.62
韓国鑑定院	韓国	12月	鑑定	257,206	47,221	209,985	151,023	8,598	7,561	30.60
GMコリア・カンパニー(*4)	韓国	12月	製造	6,128,492	3,862,366	2,266,126	9,341,988	(833,987)	(828,248)	17.02
現代商船(*5)	韓国	12月	外国貨物運送	4,121,440	3,081,769	1,039,671	5,222,124	(790,739)	(807,995)	13.05
マルチ・アセット・エレクトロニック・パワー・プライベート・エクイティ・ファンド	韓国	12月	金融投資	79,224	743	78,481	5,686	5,468	5,468	50.00
新盆唐線株式会社(*6)	韓国	12月	その他	725,065	976,609	(251,544)	87,340	(33,762)	(33,762)	10.98
トロイカ・リソーシズ・インベストメント・プライベート・エクイティ・ファンド(*7)	韓国	12月	金融投資	21,201	6,228	14,973	65	(2,482)	(2,482)	54.94

2017年12月31日

	会計 年度末	業種	資産	負債	資本	営業収益	純利益 (損失)	包括利益 (損失)合計	持分比率 (%)
子会社 :									
産銀亞州金融有限公司	香港	12月	金融	1,481,387	1,171,441	309,946	76,587	22,762	(16,026)
KDBバンク・ヨーロッパ・リミテッド	ハンガリー	12月	金融	873,868	793,699	80,169	46,576	6,096	6,917
産銀アイルランド・リアイルランミテッド	ド	12月	金融	399,436	320,670	78,766	21,616	7,606	(1,212)
産銀ウズベキスタン・ウズベキスリミテッド	タン	12月	金融	745,374	677,237	68,137	90,386	60,790	(42,187)
バンコKDB ブラジル S.A.	ブラジル	12月	金融	363,222	293,418	69,804	140,860	10,046	1,048
大宇造船海洋	韓国	12月	製造	11,446,753	8,456,091	2,990,662	11,101,818	621,492	527,133
新韓重工業(*1)	韓国	12月	製造	315,526	286,621	28,905	46,853	3,165	2,378
サムウ重工業(*1)	韓国	12月	製造	281,704	248,520	33,184	38,824	(3,361)	(3,457)
大韓造船(*1)	韓国	12月	製造	543,676	602,057	(58,381)	438,857	(6,352)	(6,352)
KDBキャピタル・コーポレーション	韓国	12月	専門信用融資	5,078,188	4,281,709	796,479	429,661	115,107	93,859
韓国BTL基金第1号(*2)	韓国	半期毎	金融投資	469,776		321	469,455	18,526	17,072
韓国鉄道基金第1号(*2)	韓国	半期毎	金融投資	309,417		12	309,405	13,879	13,040
韓国教育基金(*2)	韓国	半期毎	金融投資	128,391		7	128,384	5,011	4,668
韓国インフラストラクチャー・インベストメント・アセット・マネジメント・カンパニー・リミテッド	韓国	12月	資産運用	38,805	6,729	32,076	25,456	13,418	13,480
韓国インフラ構造基金	韓国	12月	金融投資	9,775		6	9,769	865	751
産銀バリュー・プライベート・エクイティ・ファンド第6号	韓国	12月	金融投資	9,797,318	7,732,081	2,065,237	12,068,750	(458,586)	(483,214)
KDBコンサス・バリュー・プライベート・エクイティ・ファンド	韓国	12月	金融投資	17,331,649	17,089,983	241,666	4,515,023	49,595	(14,937)
KDBシグマ・プライベート・エクイティ・ファンド第2号	韓国	12月	金融投資	222,435		574	221,861	2	4,595
産銀バリュー・プライベート・エクイティ・ファンド第7号(*3)	韓国	12月	金融投資	214,051	62,087	151,964	15,766	10,027	(3,105)
KoFC-KBICフロンティア・チャンプ2010-5プライベート・エクイティ・ファンド(*3)	韓国	12月	金融投資	15,017		3	15,014	2,131	(294)
KTB韓国・オーストラリア・グローバル・コオペレーション・プライベート・エクイティ・ファンド	韓国	12月	金融投資	1,286		5	1,281	2	1,861
KDBアジア・プライベート・エクイティ・ファンド(*3)	韓国	12月	金融投資	26,353		195	26,158	-	(2,619)
コンポーネンツ・アンド・マテリアルズ・エム・アンド・エー・プライベート・エクイティ・ファンド	韓国	12月	金融投資	1,162	1,812	(650)	4	(2,251)	4,712
KDBベンチャード・エム・アンド・エー・プライベート・エクイティ・ファンド	韓国	12月	金融投資	120	7,910	(7,790)	-	-	-
KDB-IAP OBORプライベート・エクイティ・ファンド(*3)	韓国	12月	金融投資	140,592	47,894	92,698	-	(1,598)	(8,062)

Nvestor2016 プライベート・エクイティ・ファンド	韓国	12月	金融投資	62,384	25,886	36,498	13,717	96	96	80.00
KDBC IPインベストメント・ファンド第2号(*3)	韓国	12月	金融投資	9,398	3,000	6,398	2,167	2,162	1,776	33.33
KoFC-KDBC パイオニア・チャンプ2010-4ベンチャー・インベストメント・ファンド(*3)	韓国	12月	金融投資	11,621	179	11,442	3,410	3,227	1,571	50.00
関連会社：										
韓国電力公社	韓国	12月	発電	181,788,915	108,824,274	72,964,641	59,814,862	1,298,720	1,230,194	32.90
韓国船舶海洋	韓国	12月	輸送機リース	765,050	5,122	759,928	39,671	(155,690)	(144,956)	50.00
韓国観光公社	韓国	12月	文化観光業	1,402,083	359,898	1,042,185	732,967	20,934	17,383	43.58
韓国インフラ構造基金第2号	韓国	12月	金融投資	829,503	9,885	819,618	29,627	43,704	43,704	26.67
GMコリア・カンパニー(*4)	韓国	12月	製造	6,008,278	7,626,156	(1,617,878)	10,913,237	(1,626,576)	(1,629,680)	17.02
現代商船(*5)	韓国	12月	外国貨物運送	3,602,418	2,705,498	896,920	5,028,016	(1,218,503)	(1,325,963)	13.13
韓国鑑定院	韓国	12月	鑑定	248,358	42,180	206,178	142,738	8,662	6,818	30.60
韓国海上保証保険	韓国	12月	金融	331,270	19,051	312,219	14,135	(1,920)	(1,859)	41.88
マルチ・アセット・エレクトロニック・パワー・プライベート・エクイティ・ファンド	韓国	12月	金融投資	84,417	805	83,612	847	5,833	5,833	50.00
新盆唐線株式会社(*6)	韓国	12月	その他	755,225	973,007	(217,782)	83,125	(55,814)	(55,814)	10.98
トロイカ・リソーシズ・インベストメント・プライベート・エクイティ・ファンド(*7)	韓国	12月	金融投資	30,895	4,106	26,789	3,406	3,834	3,834	54.94

(*1)当行は、2017年12月31日終了年度の行政手続の開始により、かかる投資先に対して支配を有しているため、大宇造船海洋の子会社であった同投資先を直接連結対象としている。

(*2)かかる投資先は、当行から資金調達を受け、KDBインフラストラクチャー・インベストメント・アセット・マネジメント・カンパニー・リミテッドにより運営されている。かかる投資先は、当行が保有する議決権の割合は50%未満であるが、当行が、かかる投資先の変動リターンに晒されており、同投資先に対するパワーを通じて、これらのリターンに影響を及ぼす能力を有するため、連結対象に含まれていた。

(*3)かかる投資先に対する当行の持分比率は50%未満であるが、当行は同投資先への関与から生じる変動リターンに晒されているか、または変動リターンに対する権利を有しており、同投資先に対するパワーを通じて、これらのリターンに影響を及ぼす能力を有しているため、当行は同投資先を支配している。

(*4)GMコリア・カンパニーに対する当行の持分比率は20%未満であるが、当行が理事会役員の任命権行使することにより同社に重要な影響を及ぼしているとみなされるため、持分法が適用される。

(*5)現代商船に対する当行の持分比率は20%未満であるが、当行は現代商船の主要債権者銀行として重要な影響力を有しているとみなされている。

(*6)当行の子会社が保有する株式を考慮すれば、持分比率は20%を上回っている。そのため、当行は、かかる関連会社に対して重要な影響力を行使している。

(*7)トロイカ・リソーシズ・インベストメント・プライベート・エクイティ・ファンドに対する当行の持分比率は50%を上回っているが、共同管理会社である当行は、関連活動を単独で指示する権限を有していない。

(*8)韓国海洋事業公社に対する当行の持分比率は20%未満であるが、当行は同関連会社に対して重要な影響を及ぼしているとみなしている。

16. 有形固定資産

2018年および2017年12月31日に終了した年度の有形固定資産の変動は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年				
	2018年 1月1日	取得/ 減価償却	処分	振替	為替換算 差額
					2018年 12月31日
取得原価:					
土地	250,461	557	(82)	61,973	16
建物および構築物	388,423	7,697	(276)	2,683	40
賃借物件改良	39,870	4,270	(3,141)	-	(107)
車両	927	-	(108)	-	12
備品	51,773	2,515	(1,695)	-	87
建設仮勘定	79,032	85,607	-	(56,052)	-
その他	141,822	31,772	(1,195)	-	79
	952,308	132,418	(6,497)	8,604	127
					1,086,960
減価償却累計額:					
建物および構築物(*)	165,607	11,474	(84)	1,435	35
賃借物件改良	31,684	4,023	(3,030)	-	(176)
車両	860	35	(97)	-	11
備品(*)	42,920	2,785	(1,017)	-	59
その他	112,969	14,622	(1,191)	-	50
	354,040	32,939	(5,419)	1,435	(21)
					382,974
減損損失累計額:					
土地	3,023	-	-	-	3,023
建物および構築物	2,361	-	-	-	2,361
	5,384	-	-	-	5,384
	592,884	99,479	(1,078)	7,169	148
					698,602

(*)かかる金額には、政府補助金が含まれている。

	2017年				
	2017年 1月1日	取得/ 減価償却	処分	振替	為替換算 差額
					2017年 12月31日
取得原価:					
土地	249,180	51	(121)	1,372	(21)
建物および構築物	381,918	4,374	(468)	2,653	(54)
賃借物件改良	39,307	2,194	(1,076)	-	(555)
車両	1,395	-	(403)	-	(65)
備品	50,851	1,613	(405)	52	(338)
建設仮勘定	63,042	17,899	-	(1,909)	-
その他	128,991	13,204	(137)	-	(236)
	914,684	39,335	(2,610)	2,168	(1,269)
					952,308
減価償却累計額:					
建物および構築物(*)	154,438	11,016	(160)	361	(48)
賃借物件改良	28,982	4,145	(1,076)	-	(367)
車両	1,244	79	(403)	-	(60)
備品(*)	40,589	2,981	(388)	-	(262)
その他	102,141	11,097	(135)	-	(134)
	327,394	29,318	(2,162)	361	(871)
					354,040
減損損失累計額:					
土地	3,023	-	-	-	3,023
建物および構築物	2,361	-	-	-	2,361
	5,384	-	-	-	5,384
	581,906	10,017	(448)	1,807	(398)
					592,884

(*)かかる金額には、政府補助金が含まれている。

17. 投資不動産

2018年および2017年12月31日に終了した年度の投資不動産の変動は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年			
	2018年 1月1日	取得/ 減価償却	振替	2018年 12月31日
取得原価:				
土地	58,843	-	(5,921)	52,922
建物および構築物	42,577	1,908	(2,683)	41,802
	101,420	1,908	(8,604)	94,724
減価償却累計額:				
建物および構築物	20,054	2,011	(1,435)	20,630
減損損失累計額:				
土地	1,197	-	-	1,197
建物および構築物	1,778	-	-	1,778
	2,975	-	-	2,975
	78,391	(103)	(7,169)	71,119

	2017年			
	2017年 1月1日	取得/ 減価償却	振替	2017年 12月31日
取得原価:				
土地	60,215	-	(1,372)	58,843
建物および構築物	43,373	-	(796)	42,577
	103,588	-	(2,168)	101,420
減価償却累計額:				
建物および構築物	18,396	2,019	(361)	20,054
減損損失累計額:				
土地	1,197	-	-	1,197
建物および構築物	1,778	-	-	1,778
	2,975	-	-	2,975
	82,217	(2,019)	(1,807)	78,391

2018年および2017年12月31日現在の独立第三者評価機関の評価基準に基づき算定された当行の投資不動産の公正価値は、それぞれ77,890百万ウォンおよび85,375百万ウォンである。さらに、投資不動産の公正価値は、注記51に記載の公正価値ヒエラルキーに従ってレベル3に分類されている。

18. 無形固定資産

2018年および2017年12月31日に終了した年度の無形固定資産の変動は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年					
	2018年 1月1日	取得	処分	償却	為替換算 差額	2018年 12月31日
開発費	67,920	95,746	-	(13,066)	-	150,600
備品使用権	626	-	-	(55)	22	593
その他保証金	11,431	-	-	-	4	11,435
その他	10,525	5,609	-	(4,878)	2	11,258
	90,502	101,355	-	(17,999)	28	173,886

	2017年					
	2017年 1月1日	取得	処分	償却	為替換算 差額	2017年 12月31日
開発費	36,338	46,708	-	(15,126)	-	67,920
備品使用権	791	-	(72)	(57)	(36)	626
その他保証金	11,442	-	(2)	-	(9)	11,431
その他	10,184	5,888	-	(5,491)	(56)	10,525
	58,755	52,596	(74)	(20,674)	(101)	90,502

19. その他の資産

2018年および2017年12月31日現在のその他の資産は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日	2017年12月31日
未収金	2,092,331	4,837,465
未決済為替貸	1,741,236	2,144,474
未収収益	433,207	453,712
保証金	147,528	152,917
金融保証資産	22,638	23,371
前払費用	3,461	3,253
前払金	16,029	12,244
その他	97,862	76,759
	4,554,292	7,704,195
貸倒引当金	(242,113)	(236,203)
現在値割引差金	(2,712)	(2,551)
	4,309,467	7,465,441

上記その他の資産に含まれる金融資産の帳簿価額は、2018年および2017年12月31日現在でそれぞれ4,200,101百万ウォンおよび7,378,355百万ウォンであった。また、その公正価値は、2018年および2017年12月31日現在でそれぞれ4,203,448百万ウォンおよび7,382,912百万ウォンであった。

20. 売却目的保有資産

STXエンジンおよびSTXコーポレーションの主要債権者銀行である当行は、金融機関債権者委員会が採択した決議に従い、STXエンジンおよびSTXコーポレーションの株式を売却することを決定した。2017年において、金融機関債権者委員会は、STXエンジンおよびSTXコーポレーションの優先交渉相手方として、それぞれUAMCOリミテッドおよびAFCコリア・リミテッドを選定した。STXエンジンおよびSTXコーポレーションにおける当行の株式の売却は2018年に完了している。

2018年および2017年12月31日現在の売却目的保有資産は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日	2017年12月31日
売却目的保有資産：		
子会社および関連会社投資	-	58,473

21. 当期損益認識金融負債

(1) 2018年および2017年12月31日現在の当期損益認識金融負債は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日	2017年12月31日
債券	2,164,538	1,583,713

ヘッジ会計が適用される仕組み債券の公正価値の変動は損益に認識されるが、ヘッジ会計が適用されない仕組み債券は償却原価で測定される。そのため、ヘッジ会計が適用されない仕組み債券は、会計上の損益の測定におけるミスマッチを除去するために、当期損益認識金融負債に指定されている。

(2) 2018年および2017年12月31日現在の当期損益認識金融負債の帳簿価額と契約上のキャッシュ・フロー額との差額は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日	2017年12月31日
帳簿価額	2,164,538	1,583,713
契約上のキャッシュ・フロー額	2,040,344	1,511,996
差額	124,194	71,717

22. 預金

2018年および2017年12月31日現在の預金は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日		2017年12月31日	
	償却原価	公正価値	償却原価	公正価値
ウォン建て預金：				
要求払預金	103,253	103,253	92,588	92,588
定期預金・当座預金	25,150,481	25,162,058	24,736,965	24,722,973
譲渡性預金証書	52,457	52,481	1,510,343	1,510,197
	25,306,191	25,317,792	26,339,896	26,325,758
外貨建て預金：				
要求払預金	1,227,972	1,227,972	1,396,322	1,396,322
定期預金・当座預金	2,125,103	2,125,079	2,553,348	2,552,337
譲渡性預金証書	3,224,849	3,219,921	2,388,267	2,388,049
	6,577,924	6,572,972	6,337,937	6,336,708
外貨建てオフショア預金：				
要求払預金	561,660	561,660	380,346	380,346
	32,445,775	32,452,424	33,058,179	33,042,812

23. 借入金

(1) 2018年および2017年12月31日現在の借入金は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日			
	最低金利(%)	最高金利(%)	償却原価	公正価値
ウォン建て借入金	-	3.28	3,988,353	3,989,389
外貨建て借入金	-	5.50	11,493,651	11,535,443
外貨建てオフショア借入金	1.46	4.32	1,332,718	1,335,672
その他	0.15	5.30	2,995,519	2,995,500
			19,810,241	19,856,004
繰延借入費用			(500)	
			19,809,741	

	2017年12月31日			
	最低金利(%)	最高金利(%)	償却原価	公正価値
ウォン建て借入金	-	3.28	4,789,607	4,788,758
外貨建て借入金	0.05	5.50	10,573,215	10,624,837
外貨建てオフショア借入金	0.69	4.32	1,302,512	1,304,341
その他	0.01	5.30	4,307,593	4,307,428
			20,972,927	21,025,364
繰延借入費用			(1,298)	
			20,971,629	

(2) 2018年および2017年12月31日現在の繰延借入費用にかかる損益調整前のウォン建て借入金は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

貸手	区分	年利(%)	2018年 12月31日	2017年 12月31日
韓国企画財政部	政府基金からの借入金(*1)	1.48~1.98	193,790	248,829
中小企業銀行	IT産業振興基金からの借入金	0.10~1.00	920	3,183
中小企業振興公団	中小企業振興基金からの借入金	0.70~3.04	87,023	104,161
韓国文化体育観光部	観光振興基金からの借入金	0.02~2.50	2,665,403	2,563,235
韓国エネルギー管理公団	エネルギー合理的利用基金からの借入金	0.25~3.10	551,411	648,512
地方政府	地方中小企業振興基金からの借入金	0.00~3.28	53,420	64,056
韓国銀行	韓国銀行からの借入金	0.50~0.75	113,825	871,314
その他	石油企業基金等からの借入金	0.00~3.15	322,561	286,317
			3,988,353	4,789,607

(*1)政府基金からの借入は劣後特約付借入金である。

(3) 2018年および2017年12月31日現在の繰延借入費用にかかる損益調整前の外貨建て借入金およびオフショア借入金は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

貸手	区分	年利(%)	2018年 12月31日	2017年 12月31日
国際協力銀行(以下「JBIC」とJBICからの借入金いう。)		1.73~2.16	139,187	154,063
みずほ銀行ほか	外国基金からの借入金	3MLibor+0.25~ 3MLibor+0.78	1,118,100	1,285,680
企画財政部	外貨建て外国為替平衡基金借入金	3MLibor+0.22~ 3MLibor+0.74	910,878	1,809,558
ウズベキスタン共和国中央銀 行ほか	オフショア短期借入金	1.46~2.57	875,783	1,069,868
HSBCほか	オフショア長期借入金	3MLibor+0.50~ 3MLibor+0.62	444,159	214,280
JBIC	JBICからのオフショア借入金	4.27~4.32	12,776	18,364
その他	外貨建て短期借入金	0.05~5.45	7,881,995	5,724,739
	外貨建て長期借入金	0.12~3.21	1,443,491	1,599,175
			12,826,369	11,875,727

24. 債券

(1) 2018年および2017年12月31日現在の債券は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年12月31日			
	最低金利(%)	最高金利(%)	償却原価	公正価値
ウォン建て債券 :				
債券	1.30	6.90	95,431,251	96,161,132
債券発行差金(割引)			(53,254)	
債券発行差金(プレミアム)			114	
公正価値ヘッジ評価調整			(35,014)	
			95,343,097	
外貨建て債券 :				
債券	0.02	6.97	13,811,420	13,615,184
債券発行差金(割引)			(29,804)	
公正価値ヘッジ評価調整			(160,279)	
			13,621,337	
オフショア債券 :				
債券	-	7.73	10,617,785	10,349,626
債券発行差金(割引)			(26,037)	
公正価値ヘッジ評価調整			(270,181)	
			10,321,567	
			119,286,001	120,125,942
2017年12月31日				
	最低金利(%)	最高金利(%)	償却原価	公正価値
ウォン建て債券 :				
債券	1.29	6.90	95,245,150	95,361,894
債券発行差金(割引)			(47,122)	
債券発行差金(プレミアム)			203	
公正価値ヘッジ評価調整			(227,991)	
			94,970,240	
外貨建て債券 :				
債券	0.16	8.20	12,932,807	12,599,884
債券発行差金(割引)			(33,802)	
公正価値ヘッジ評価調整			(345,622)	
			12,553,383	
オフショア債券 :				
債券	-	7.73	10,628,444	10,331,998
債券発行差金(割引)			(24,660)	
公正価値ヘッジ評価調整			(308,425)	
			10,295,359	
			117,818,982	118,293,776

25.確定給付負債

当行は、従業員報酬給付および勤務期間に基づき確定給付退職年金制度を実施している。制度資産は、國民銀行、三星生命保険等に信託している。

(1)2018年および2017年12月31日現在の確定給付負債の詳細は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日	2017年12月31日
確定給付債務の現在価値	377,361	343,887
制度資産の公正価値	(315,210)	(298,240)
	62,151	45,647

(2)2018年および2017年12月31日に終了した年度の確定給付負債の変動は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年		
	確定給付債務の現在価値	制度資産の公正価値	確定給付負債
期首残高	343,887	(298,240)	45,647
現在勤務費用	39,440	-	39,440
支払（受取）利息	10,604	(9,529)	1,075
確定給付負債の再測定：			
人口統計学上の仮定	-	-	-
財務上の仮定	8,460	5,255	13,715
実績による修正	(7,662)	-	(7,662)
	798	5,255	6,053
制度からの支払金	(17,368)	17,315	(53)
制度への拠出金	-	(30,011)	(30,011)
期末残高	377,361	(315,210)	62,151

	2017年		
	確定給付債務の現在価値	制度資産の公正価値	確定給付負債
期首残高	308,839	(265,122)	43,717
現在勤務費用	37,649	-	37,649
支払（受取）利息	8,771	(7,675)	1,096
確定給付負債の再測定：			
人口統計学上の仮定	53	-	53
財務上の仮定	(2,348)	3,764	1,416
実績による修正	1,885	-	1,885
	(410)	3,764	3,354
制度からの支払金	(10,828)	10,793	(35)
制度への拠出金	-	(40,000)	(40,000)
その他	(134)	-	(134)
期末残高	343,887	(298,240)	45,647

(3)2018年および2017年12月31日現在の制度資産の公正価値の種類別内訳は以下のとおりである。 (単位 : 百万ウォン)

	2018年12月31日		2017年12月31日	
	上場市場価格	非上場市場価格	上場市場価格	非上場市場価格
預け金	-	315,210	-	298,240

(4)2018年および2017年12月31日に終了した年度に損益に認識された確定給付費用は以下のとおりである。 (単位 : 百万ウォン)

	2018年	2017年
現在勤務費用	39,440	37,649
正味支払(受取)利息	1,075	1,096
	40,515	38,745

(5)2018年および2017年12月31日現在の使用されている主な保険数理上の仮定は以下のとおりである。

	2018年12月31日	2017年12月31日
割引率(%)	2.77	3.25
将来昇給率(%)	6.23	6.50

(6)2018年12月31日現在の主な保険数理上の仮定の変動に伴う確定給付債務の現在価値感応度は以下のとおりである。

	感応度	
	仮定から 1 % の上昇	仮定から 1 % の低下
割引率	9.44%の低下	11.19%の上昇
将来昇給率	10.48%の上昇	9.04%の低下

(7)2018年および2017年12月31日現在の確定給付負債の加重予想期間は11.35年および11.14年である。次の年次報告期間の制度に対する予想拠出額は、2018年および2017年12月31日現在では65,355百万ウォンおよび25,718百万ウォンである。

26.引当金

(1) 2018年および2017年12月31日に終了した年度の引当金の変動は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年	2017年
支払保証引当金	469,684	445,946
未実行貸出残高に対する引当金	111,181	135,321
金融保証引当金	787,765	638,222
訴訟引当金	12,302	135,497
その他の引当金	7,786	8,965
	1,388,718	1,363,951

(2) 2018年12月31日に終了した年度の未実行貸出残高に対する引当金の変動は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年			
	全期間の予想信用損失			合計
12ヶ月間の予想 信用損失	信用減損 していない	信用減損 している		
期首残高	17,718	447,095	19	464,832
12ヶ月間の予想信用損失への振替	212,697	(212,697)	-	-
全期間の予想信用損失への振替:				
信用減損していないエクスポート ジャーハへの振替	(2,899)	2,899	-	-
未実行貸出残高に対する引当金繰 入(戻入)	46,748	(57,167)	(19)	(10,438)
為替換算差額	14,514	776	-	15,290
期末残高	288,778	180,906	-	469,684

(3) 2018年12月31日に終了した年度の金融保証引当金の変動は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年			
	全期間の予想信用損失			合計
12ヶ月間の予想 信用損失	信用減損 していない	信用減損 している		
期首残高	1,763	72,267	73,458	147,488
12ヶ月間の予想信用損失への振替	76	(7)	(69)	-
全期間の予想信用損失への振替:				
信用減損していないエクスポート ジャーハへの振替	(443)	493	(50)	-
信用減損しているエクスポート ジャーハへの振替	(474)	(3,343)	3,817	-
未実行貸出残高に対する引当金繰 入(戻入)	472	(49)	(39,256)	(38,833)
為替換算差額	6	2,185	335	2,526
期末残高	1,400	71,546	38,235	111,181

(4) 2018年12月31日に終了した年度の支払保証引当金の変動は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年			
	全期間の予想信用損失			合計
12ヶ月間の予想 信用損失	信用減損 していない	信用減損 している		
期首残高	9,512	426,421	208,078	644,011
12ヶ月間の予想信用損失への振替	71,411	(71,411)	-	-
全期間の予想信用損失への振替:				
信用減損していないエクスポート ジャーハへの振替	(421)	1,171	(750)	-
信用減損しているエクスポート ジャーハへの振替	(12,804)	(23,216)	36,020	-
未実行貸出残高に対する引当金繰 入(戻入)	222,157	(95,542)	(4,887)	121,728
為替換算差額	3,091	10,098	8,837	22,026

期末残高	292,946	247,521	247,298	787,765
------	---------	---------	---------	---------

(5)2018年12月31日に終了した年度の訴訟引当金およびその他の引当金の変動は以下のとおりである。 (単位 : 百万ウォン)

	2018年	
	訴訟引当金	その他の引当金
期首残高	135,497	8,965
引当金の戻入	(11)	-
当期引当金取崩	(123,184)	(1,179)
期末残高	12,302	7,786

(6)2017年12月31日に終了した年度の引当金の変動は以下のとおりである。 (単位 : 百万ウォン)

	2017年				
	支払保証 引当金	未実行貸出 残高引当金	金融保証 引当金	訴訟引当金	その他の 引当金
期首残高	835,766	195,431	35,935	129,342	4,776
引当金の繰入(戻入)	(117,793)	267,690	92,859	(1,053)	6,700
引当金取崩	-	-	-	(15,276)	(2,511)
為替換算差額	(79,751)	(17,175)	6,527	-	-
その他	-	-	-	22,484	-
期末残高	638,222	445,946	135,321	135,497	8,965
					1,363,951

(7)支払保証引当金および金融保証引当金

確認された引受および保証、無確認の引受および保証ならびに裏書手形は、財政状態計算書において認識されないが、財政状態計算書から除外された項目として財務書類の注記に記載されている。当行は、このような財政状態計算書から除外された項目に、当グループの予想信用損失モデルに基づき、信用リスク換算率(以下「CCF」という。)および引当率を適用して引当金を設定する。また、引受および保証に対する損失引当金として予想信用引当金を計上している。

金融保証契約の場合、上記と同様の方法を用いて計算された金額が当初金額から認識された手数料償却額を控除した金額を上回る場合、その差額は金融保証引当金として計上される。

(8)未実行貸出残高に対する引当金

当行は、当行の予想信用損失モデルに基づき、引当率を適用した未実行貸出残高に対する引当金として、CCFを用いて計算した未使用の与信枠の一部に引当金を計上する。

(9)訴訟による予想損失引当金

2018年12月31日現在、当行は、原告として25件の訴訟また被告として35件の訴訟に関わっている。原告および被告としての請求額の合計は、それぞれ252,375百万ウォンおよび228,604百万ウォンであった。当行は、2018年12月31日現在、係属中の訴訟から発生する偶発債務に対して引当金を設定している。また、係属中の訴訟の判決次第で追加の損失が発生する可能性がある。

2018年および2017年12月31日現在、係属中の主な訴訟は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

2018年12月31日			
	内容	金額	訴訟の状況
原告：			
韓国貿易保険公社他 1 社	保証保険	136,538	第 1 審は当行の敗訴。第 2 審の係属中。
韓国信用保証基金	損害賠償請求	60,100	第 1 審は当行の敗訴。第 2 審の係属中。
京畿都市公社	投資の返還請求	19,100	第 1 審および第 2 審は当行の一部勝訴。第 3 審の係属中。
KAMCO第 1 次合弁事業証券 債権譲渡化専門会社		8,792	第 1 審の係属中。
被告：			
新韓銀行他 1 社	損害賠償請求	58,474	第 1 審の係属中。
防衛事業庁	保証債務請求	56,977	第 1 審は当行の敗訴。第 2 審の係属中。
東部建設	再生債権者表の無効請求	33,997	第 1 審は当行の一部勝訴。第 2 審の係属中。
東部建設	請求に対する異議申立て（支援への参加）	19,658	第 1 審の係属中。
KAMCO第 8 次合弁事業証券 販売支払額減損分の返還請求化専門会社		13,898	第 1 審は当グループの一部敗訴。第 2 審の係属中。

2017年12月31日			
	内容	金額	訴訟の状況
原告：			
韓国貿易保険公社等	保証保険	136,538	第 1 審の係属中。
韓国信用保証基金	損害賠償請求	60,100	第 1 審は当行の敗訴。第 2 審の係属中。
韓国貿易保険公社	短期輸出信用保険	34,209	第 1 審は当行の敗訴。第 2 審の係属中。
現代建設他 2 社	特別契約による決済額の返還請求	27,180	第 1 審は当行の勝訴。第 2 審の係属中。
京畿都市公社	投資の返還請求	19,100	第 1 審および第 2 審は当行の一部勝訴。第 3 審の係属中。
被告：			
ハンファ・ケミカル株式 会社	契約履行保証	322,593	破棄差戻し。
新韓銀行他 1 社	損害賠償請求	58,474	第 1 審の係属中。
防衛事業庁	保証債務請求	56,977	第 1 審の係属中。
東部建設	再生債権者表の無効請求	33,997	第 1 審の係属中。
KAMCO第 8 次合弁事業証券 化専門会社	販売支払額減損分の返還請求	13,898	第 1 審は当行の一部敗訴。第 2 審の係属中。

(10) その他の引当金

当行は、その他様々な目的のための準備金として、その他の引当金を計上している。

27. その他の負債

2018年および2017年12月31日現在のその他の負債は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日	2017年12月31日
未払金	1,857,585	4,580,635
未払費用	1,930,986	1,729,336
前受収益	41,298	37,919
源泉税預り金	30,918	26,735
受入保証金	213,286	393,869
未払外国為替	10,969	77,289
未決済為替借	312,911	238,958
信託勘定からの借入金	792,364	1,062,609
金融保証負債	28,628	28,969
その他	46,263	325,444
	5,265,208	8,501,763
現在価値割引差金	(351)	(266)
	5,264,857	8,501,497

その他の負債に含まれる金融負債の帳簿価額は、2018年および2017年12月31日現在でそれぞれ5,139,270百万ウォンおよび8,133,810百万ウォンであり、その公正価値は2018年および2017年12月31日現在でそれぞれ5,139,289百万ウォンおよび8,133,787百万ウォンであった。

28. 資本

(1) 資本金

当行は、最大6,000百万株の普通株式の発行を授権されており、2018年および2017年12月31日現在、それぞれ3,621,619,768株および3,587,619,768株を発行済である。また、2018年および2017年12月31日現在の発行済株式の額面総額は、それぞれ18,108,099百万ウォンおよび17,938,099百万ウォンである。

(2) 資本剰余金

2018年および2017年12月31日現在の資本剰余金は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日	2017年12月31日
株式払込剰余金	62,309	63,133
減資差益(*1)	44,373	44,373
その他の資本剰余金(*2)	2,390,495	2,390,495
	2,497,177	2,498,001

(*1)当行は、1998年および2000年に5,134,227百万ウォンの累積損失の補填に充てるため、資本金を5,178,600百万ウォン減少させた。減資の結果、累積損失額を超過した44,373百万ウォンの剰余金が資本剰余金に計上された。

(*2)発行済株式の額と当行のKDBフィナンシャル・グループ・インクおよび韓国政策金融公社との合併により取得された純資産の帳簿価額との差額は、その他の資本剰余金に認識される。

(3) その他の包括利益累計額

() 2018年および2017年12月31日現在のその他の包括損益累計額は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年12月31日	2017年12月31日
FVOCIで測定される有価証券の純利益 (損失) :		
FVOCIで測定される有価証券に係る評価益(損)(税引前)	(93,687)	-
FVOCIで測定される有価証券に係る損失引当金(税引前)	76,494	-
税効果	4,728	-
	(12,465)	-
売却可能金融資産評価益 :		
売却可能金融資産評価益(税引前)	-	683,258
税効果	-	(187,896)
	-	495,362
海外事業の為替換算差額 :		
海外事業の為替換算差額(税引前)	(33,017)	(69,467)
税効果	-	-
	(33,017)	(69,467)
キャッシュ・フロー・ヘッジ評価 損 :		
キャッシュ・フロー・ヘッジ評価 損 (税引前)	(2,579)	(6,910)
税効果	709	1,900
	(1,870)	(5,010)
確定給付負債の再測定 :		
確定給付負債の再測定(税引前)	15,828	21,881
税効果	(4,352)	(6,017)
	11,476	15,864
信用リスクによる当期損益認識金融 負債の公正価値変動 :		
信用リスクによる当期損益認識金融 負債に係る評価益(損)	4,384	-
税効果	(1,206)	-
	3,178	-
	(32,698)	436,749

()2018年および2017年12月31日に終了した年度のその他の包括利益累計額の変動は以下のとおりである。 (単位 : 百万ウォン)

	2018年			
	2018年1月1日	増加(減少)	税効果	2018年12月31日
FVOCIで測定される有価証券に係る利益	161,165	(239,495)	65,865	(12,465)
海外事業の為替換算差額	(69,420)	36,403	-	(33,017)
キャッシュ・フロー・ヘッジ評価損	(5,009)	4,330	(1,191)	(1,870)
確定給付負債の再測定	15,864	(6,053)	1,665	11,476
信用リスクによる当期損益認識金融負債の評価益	9,520	(8,747)	2,405	3,178
	112,120	(213,562)	68,744	(32,698)

	2017年			
	2017年1月1日	増加(減少)	税効果	2017年12月31日
売却可能金融資産評価益	1,185,168	(880,288)	190,482	495,362
海外事業の為替換算差額	22,169	(91,636)	-	(69,467)
キャッシュ・フロー・ヘッジ評価損	(13,000)	10,240	(2,250)	(5,010)
確定給付負債の再測定	19,128	(3,354)	90	15,864
	1,213,465	(965,038)	188,322	436,749

(4) 利益剰余金

当行は、韓国産業銀行法に従って、純利益の40%以上を利益準備金として積み立てなければならない。利益準備金は、資本金に組み入れるかまたは累積損失の補填に充てることができる。

韓国産業銀行法に従って、当行は、準備金を累積損失の補填に充てる。準備金が累積損失の補填に不十分な場合、韓国政府が不足分について責任を負う。

()2018年および2017年12月31日現在の利益剰余金は以下のとおりである。(単位 : 百万ウォン)

	2018年12月31日	2017年12月31日
利益準備金	173,913	-
任意準備金		
規制上の貸倒引当金	1,372,030	1,308,500
当期末処分利益	2,866,706	434,782
	4,412,649	1,743,282

()2018年および2017年12月31日に終了した年度の利益準備金の変動は以下のとおりである。(単位 : 百万ウォン)

	2018年	2017年
期首残高	-	3,578,770
利益剰余金からの振替	173,913	-
累積損失の補填	-	(3,578,770)
期末残高	173,913	-

()2018年および2017年12月31日に終了した年度の当期末処分利益(未処理損失)の変動は以下のとおりである。
(単位:百万ウォン)

	2018年	2017年
期首残高	434,782	(3,641,098)
会計方針の変更	290,907	-
利益準備金からの(への)振替	(173,913)	3,578,770
規制上の貸倒引当金からの(への)振替	(63,530)	62,328
配当金	(147,092)	-
FVOCIで測定される持分証券に係る評価損益の振替	15,707	-
当期純利益	2,509,845	434,782
期末残高	2,866,706	434,782

()2018年および2017年12月31日に終了した年度の利益処分計算書は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年	2017年
.当期末処分利益 :		
前期繰越未処分利益	50,247	-
会計方針の変更	290,907	-
FVOCIで測定される持分証券に係る処分益	15,707	-
当期純利益	2,509,845	434,782
	2,866,706	434,782
.利益処分 :		
利益準備金への積立	1,003,938	173,913
規制上の貸倒引当金への積立(からの振替)	(144,330)	63,530
配当金(1株当たり40ウォン)	144,865	147,092
	1,004,473	384,535
.次期繰越未処分利益	1,862,233	50,247

(5) 規制上の貸倒引当金

当行は、銀行業監督規則第29条(1)および(2)に従い、規制上の貸倒引当金を積み立てなければならない。規制上の貸倒引当金の詳細は以下のとおりである。

()2018年および2017年12月31日現在の規制上の貸倒引当金残高は、以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年12月31日	2017年12月31日
期首残高	1,372,030	1,308,500
貸倒引当金繰入(戻入)予定額		
会計方針の変更	(8,262)	-
貸倒引当金繰入(戻入)予定額	(136,068)	63,530
	(144,330)	63,530
期末残高	1,227,700	1,372,030

()2018年および2017年12月31日に終了した年度の規制上の貸倒引当金強制戻入額および規制上の貸倒引当金調整後の純利益は以下のとおりである。(単位:百万ウォン、1株当たり金額を除く。)

	2018年	2017年
当期純利益	2,509,845	434,782
規制上の貸倒引当金強制戻入(積立)額	136,068	(63,530)
規制上の貸倒引当金調整後純利益	2,645,913	371,252
規制上の貸倒引当金調整後1株当たり純利益(ウォン)	734	105

29. 純利息収益

2018年および2017年12月31日に終了した年度の純利息収益は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年	2017年
受取利息：		
預け金	93,883	49,480
FVTPLで測定される有価証券	51,702	-
売買目的金融資産	-	46,363
FVOCIで測定される有価証券	390,754	-
売却可能金融資産	-	407,669
償却原価で測定される有価証券	21,569	-
満期保有金融資産	-	316
FVTPLで測定される貸出債権	37,497	-
償却原価で測定される貸出債権	4,550,447	-
貸出債権	-	4,369,445
	5,145,852	4,873,273
支払利息：		
当期損益認識金融負債	(79,695)	(68,190)
預金	(517,250)	(484,254)
借入金	(426,776)	(295,026)
債券	(2,739,345)	(2,539,432)
	(3,763,066)	(3,386,902)
	1,382,786	1,486,371

2018年および2017年12月31日に終了した年度の償却原価で測定される貸出債権に関連する減損資産からの受取利息は、それぞれ49,878百万ウォンおよび156,909百万ウォンであった。貸出債権を除く金融資産に関連する減損資産からの受取利息はなかった。

30. 純手数料収益

2018年および2017年12月31日に終了した年度の純手数料収益は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年	2017年
手数料収益：		
貸出手手数料	144,321	171,199
引受・投資顧問手数料	116,611	152,045
仲介・代行委託手数料	6,542	7,097
退職年金信託手数料	30,553	23,585
資産運用手数料	2,870	1,835
その他の手数料	65,974	78,928
	366,871	434,689
手数料費用：		
仲介・代行委託手数料	(10,822)	(11,561)
その他の手数料	(18,660)	(19,550)
	(29,482)	(31,111)
	337,389	403,578

31. 受取配当金

2018年および2017年12月31日に終了した年度の受取配当金は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年	2017年
FVTPLで測定される有価証券	140,858	-
売買目的金融資産	-	178
FVOCIで測定される有価証券	127,468	-
売却可能金融資産	-	219,383
子会社および関連会社投資	462,108	631,250
	<u>730,434</u>	<u>850,811</u>

32. FVTPLで測定される有価証券に係る純損失

2018年12月31日に終了した年度のFVTPLで測定される有価証券に関連する純損失は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年
FVTPLで測定される有価証券に係る利益：	
売却益	82,711
評価益	<u>196,582</u>
	<u>279,293</u>
FVTPLで測定される有価証券に係る損失：	
売却損	(56,324)
評価損	(228,721)
購入関連費用	(120)
	<u>(285,165)</u>
	<u>(5,872)</u>

33. 売買目的金融資産に係る純損失

2017年12月31日に終了した年度の売買目的金融資産に関連する純損失は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2017年
売買目的金融資産による利益：	
売却益	14,661
評価益	<u>1,355</u>
	<u>16,016</u>
売買目的金融資産による損失：	
売却損	(35,269)
評価損	(2,617)
購入関連費用	(247)
	<u>(38,133)</u>
	<u>(22,117)</u>

34. 当期損益認識金融負債に係る純利益（損失）

2018年および2017年12月31日に終了した年度の当期損益認識金融負債に関連する純利益（損失）は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年	2017年
当期損益認識金融負債に係る利益：		
償還益	-	2,714
評価益	12,260	77,819
	<u>12,260</u>	<u>80,533</u>
当期損益認識金融負債に係る損失：		
償還損	-	(32)
評価損	(56,027)	(141)
	<u>(56,027)</u>	<u>(173)</u>
	<u>(43,767)</u>	<u>80,360</u>

35. FVOCIで測定される有価証券に係る純利益

2018年12月31日に終了した年度のFVOCIで測定される有価証券に係る純利益は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

2018年	
FVOCIで測定される有価証券に係る利益：	
売却益	31,432
減損損失戻入	8,923
	40,355
FVOCIで測定される有価証券に係る損失：	
売却損	(26,052)
減損損失	(2,277)
	(28,329)
	12,026

36. 売却可能金融資産に係る純利益

2017年12月31日に終了した年度の売却可能金融資産に係る純利益は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

2017年	
売却可能金融資産による利益：	
売却益	1,113,122
減損損失戻入	2,177
	1,115,299
売却可能金融資産による損失：	
売却損	(43,345)
減損損失	(186,928)
	(230,273)
	885,026

37. 金融派生商品に係る純利益

2018年および2017年12月31日に終了した年度の金融派生商品に係る純利益は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年	2017年
売買目的金融派生商品に係る純利益（損失）：		
売買目的金融派生商品に係る利益：		
金利	2,223,623	2,148,591
通貨	6,729,067	11,223,678
株式	176,965	24,266
コモディティ	743	6,774
組込金融派生商品	638	45,331
金融派生商品調整益	2,001	46,095
	9,133,037	13,494,735
売買目的金融派生商品に係る損失：		
金利	(2,089,177)	(2,148,288)
通貨	(6,485,150)	(11,496,872)
株式	(36,357)	(20,706)
コモディティ	(743)	(6,774)
組込金融派生商品	-	(43,786)
金融派生商品調整損	(12,522)	(11,055)
	(8,623,949)	(13,727,481)
	509,088	(232,746)
ヘッジ目的金融派生商品に係る純利益（損失）：		
ヘッジ目的金融派生商品に係る利益：		
金利	212,958	17,690
通貨	272,044	691,998
金融派生商品調整益	140	5,671
	485,142	715,359
ヘッジ目的金融派生商品に係る損失：		
金利	(139,828)	(281,367)
通貨	(640,231)	(208,363)
金融派生商品調整損	(505)	(181)
	(780,564)	(489,911)
	(295,422)	225,448
公正価値ヘッジ対象に係る純利益（損失）：		
公正価値ヘッジ対象に係る利益：		
評価益	286,811	618,061
償還益	301,620	171,505
	588,431	789,566
公正価値ヘッジ対象に係る損失：		
評価損	(290,118)	(21,741)
償還損	(334,375)	(140,965)
	(624,493)	(162,706)
	(36,062)	626,860
	177,604	619,562

当行は、キャッシュ・フロー・ヘッジに関連して、2018年および2017年12月31日に終了した年度に、非有効部分として、それぞれ109百万ウォンの利益および172百万ウォンの損失を包括利益計算書に認識した。

38. 為替取引による純利益（損失）

2018年および2017年12月31日に終了した年度の為替取引純利益（損失）は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年	2017年
為替取引純利益（損失）：		
為替取引益	503,558	665,194
為替取引損	(491,129)	(654,956)
	12,429	10,238
為替換算純利益（損失）：		
為替換算益	1,525,047	3,309,624
為替換算損	(1,410,192)	(3,641,639)
	114,855	(332,015)
	127,284	(321,777)

39. その他純営業費用

2018年および2017年12月31日に終了した年度のその他営業利益および費用は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年	2017年
その他営業利益：		
貸出債権売却益	44,406	174,537
FVTPLで測定される貸出債権に係る処分益	17,507	-
FVTPLで測定される貸出債権に係る評価益	80,597	-
子会社および関連会社投資処分益	273,110	3,492
引当金戻入	11	1,053
その他	13,653	5,374
	429,284	184,456
その他営業費用：		
貸出債権売却損	(147,995)	(259,990)
FVTPLで測定される貸出債権に係る処分損	(29,456)	-
FVTPLで測定される貸出債権に係る評価損	(48,140)	-
子会社および関連会社投資処分損	(16,471)	(13,004)
その他の損失引当金繰入	-	(6,700)
保険費用	(46,533)	(50,616)
信用保証基金拠出	(139,914)	(139,219)
教育税	(31,085)	(33,534)
外国証券拠出	(6,095)	(8,269)
その他	(22,188)	(28,455)
	(487,877)	(539,787)
	(58,593)	(355,331)

40. 貸倒引当金繰入

2018年および2017年12月31日に終了した年度の貸倒引当金繰入は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年	2017年
損失引当金繰入	377,405	1,212,184
その他の資産に係る引当金繰入	22,686	35,497
未実行貸出残高引当金繰入（戻入）	(10,438)	267,690
金融保証引当金繰入（戻入）	(38,833)	92,859
支払保証引当金繰入（戻入）	121,728	(117,793)
	472,548	1,490,437

41.一般管理費

2018年および2017年12月31日に終了した年度の一般管理費は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年	2017年
人件費：		
短期従業員給付	349,299	346,679
確定給付費用	40,515	38,745
確定拠出費用	4,609	3,510
	<u>394,423</u>	<u>388,934</u>
減価償却費および償却費：		
有形固定資産減価償却費	32,939	29,318
無形固定資産償却費	17,999	20,674
	<u>50,938</u>	<u>49,992</u>
その他：		
従業員福利厚生費	29,390	28,922
賃借料	29,276	28,896
公租公課	25,436	25,430
広告費	17,344	17,092
電子データ処理費用	58,567	58,757
手数料	23,848	23,335
その他	46,462	39,938
	<u>230,323</u>	<u>222,370</u>
	<u>675,684</u>	<u>661,296</u>

42.その他の営業外収益および費用

2018年および2017年12月31日に終了した年度のその他の営業外収益および費用は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年	2017年
その他の営業外収益：		
売却目的保有非流動資産処分益	54,943	9,297
有形固定資産処分益	88	536
投資不動産にかかる賃借料収入	1,443	1,418
その他	4,352	6,787
	<u>60,826</u>	<u>18,038</u>
その他の営業外費用：		
売却目的保有非流動資産処分損	(2,599)	(102)
有形固定資産処分損	(814)	(51)
無形固定資産処分損	-	(16)
投資不動産減価償却費	(2,011)	(2,019)
寄付金	(12,147)	(6,238)
その他	(4,361)	(27,860)
	<u>(21,932)</u>	<u>(36,286)</u>
	<u>38,894</u>	<u>(18,248)</u>

43. 法人税費用

(1) 2018年および2017年12月31日に終了した年度の法人税費用は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年	2017年
当期法人税(*)	203,599	377,992
一時差異にかかる繰延法人税の変動	114,674	(318,504)
資本に直接計上された繰延法人税		
その他の包括利益	68,744	188,322
利益剰余金	(5,958)	-
法人税費用	<u>381,059</u>	<u>247,810</u>

(*)確定申告による当期法人税の変動が含まれている。

(2) 2018年および2017年12月31日に終了した年度の税引前利益および法人税費用は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年	2017年
税引前利益	2,890,904	682,592
制定税率を用いて算定された法人税	794,999	164,725
調整:		
損金不算入損失および非課税利益	(19,682)	(48,035)
未認識の繰延法人税効果	(434,076)	75,123
過年度の正味調整	26,319	(25,699)
その他	13,499	81,696
	<u>(413,940)</u>	<u>83,085</u>
法人税費用	381,059	247,810
実効税率	13.18%	36.30%

(3) 2018年および2017年12月31日に終了した年度の一時差異および繰延税金資産(負債)の変動は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年				
	2018年1月1日 (*)	減少	増加	2018年12月31日	繰延税金資産 (負債)
金融派生商品	24,078	24,241	(331,160)	(331,323)	(91,114)
子会社および関連会社投資	(6,292,226)	36,673	(1,340,951)	(7,669,850)	(2,367,842)
公正価値ヘッジ対象に係る評価益	(791,376)	(791,376)	(429,827)	(429,827)	(118,202)
ヘッジ対象負債の為替換算差損	515,299	515,299	264,036	264,036	72,610
債務証券の減損損失	64,768	(1,165)	-	65,933	18,132
持分証券の減損損失	113,846	65,233	13,285	61,898	17,022
確定給付債務	313,403	17,315	50,816	346,904	95,399
制度資産	(298,240)	(17,315)	(22,928)	(303,853)	(83,560)
売買目的金融資産	(67,245)	(6,433)	121,743	60,931	16,756
売却可能金融資産	(158,946)	(1,712)	-	(157,234)	(2,804)
償却	3,805,312	931,033	105,086	2,979,365	575,484
引当金繰入	753,208	1,259,909	1,290,700	783,999	215,600
不動産減損損失	6,976	173	-	6,803	1,871
貸出組成手数料	(6,527)	(6,527)	(15,814)	(15,814)	(4,349)
貸出債権売却益	(31,409)	15,356	(6,046)	(52,811)	(14,523)
その他	2,391,156	1,201,492	1,202,193	2,391,857	581,349
	342,077	3,242,196	901,133	(1,998,986)	(1,088,171)
未認識繰延税金資産および負債による一時差異:					
子会社および関連会社投資	3,572,906	1,614,909	-	1,957,997	-
	3,914,983	4,857,105	901,133	(40,989)	(1,088,171)

(*)2018年1月1日現在の一時差異は、前年度の財務書類発行後に追加で行った税調整額を反映している。

	2017年				
	2017年1月1日 (*)	減少	増加	2017年12月31日	繰延税金資産 (負債)
金融派生商品	232,582	232,582	(113,946)	(113,946)	(31,335)
子会社および関連会社投資	(7,080,102)	(13,893)	773,983	(6,292,226)	(2,440,218)
公正価値ヘッジ対象に係る評価益	(451,203)	(451,203)	(791,376)	(791,376)	(217,628)
ヘッジ対象負債の為替換算差損	407,027	407,027	515,299	515,299	141,707
債務証券の減損損失	284,895	33,072	-	251,823	69,251
持分証券の減損損失	661,040	176,835	88,213	572,418	153,508
確定給付債務	278,329	10,792	45,866	313,403	86,186
制度資産	(264,474)	(10,792)	(44,558)	(298,240)	(82,016)
売買目的金融資産	(81,178)	(20,364)	(6,432)	(67,246)	(18,493)
売却可能金融資産	(160,554)	(1,608)	-	(158,946)	(3,275)
償却	3,383,852	2,358	423,745	3,805,239	820,691
引当金繰入	732,474	1,239,175	1,235,235	728,534	200,347
不動産減損損失	7,149	173	-	6,976	1,918
貸出組成手数料	(4,770)	(4,770)	(6,661)	(6,661)	(1,832)
貸出債権売却益	(39,861)	(14,917)	(6,466)	(31,410)	(8,638)
その他	22,104	(493,907)	1,080,491	1,596,502	356,329
	(2,072,690)	1,090,560	3,193,393	30,143	(973,497)
未認識繰延税金資産および負債による一時差異:					
子会社および関連会社投資	3,419,215	-	153,691	3,572,906	-
	1,346,525	1,090,560	3,347,084	3,603,049	(973,497)

(*)2017年1月1日現在の一時差異は、前年度の財務書類発行後に追加で行った税調整額を反映している。

(4) 2018年および2017年12月31日に終了した年度の資本に直接計上された法人税費用の変動は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年				
	2018年12月31日		2018年1月1日		
	税引後金額	税効果	税引後金額	税効果	税効果の変動
FVOCIで測定される有価証券に係る純利益(損失)	(12,465)	4,728	161,165	(61,137)	65,865
海外事業の為替換算差額	(33,017)	-	(69,420)	-	-
キャッシュ・フロー・ヘッジに係る評価損	(1,870)	709	(5,009)	1,900	(1,191)
確定給付負債の再測定	11,476	(4,352)	15,864	(6,017)	1,665
信用リスクによる当期損益認識金融負債の公正価値変動	3,178	(1,206)	9,520	(3,611)	2,405
	(32,698)	(121)	112,120	(68,865)	68,744

利益剰余金に直接認識された5,958百万ウォンの法人税便益は、FVOCIで測定される持分証券の処分による21,665百万ウォンの実現利益の税効果である。

	2017年				
	2017年12月31日		2017年1月1日		
	税引後金額	税効果	税引後金額	税効果	税効果の変動
売却可能金融資産評価益	495,362	(187,896)	1,185,168	(378,378)	190,482
海外事業の為替換算差額	(69,467)	-	22,169	-	-
キャッシュ・フロー・ヘッジに係る評価損	(5,010)	1,900	(13,000)	4,150	(2,250)
確定給付負債の再測定	15,864	(6,017)	19,128	(6,107)	90
	436,749	(192,013)	1,213,465	(380,335)	188,322

44. 1 株当たり利益

(1) 基本的 1 株当たり利益

2018年および2017年12月31日に終了した年度の当行の基本的 1 株当たり利益の計算は以下のとおりである。（単位：ウォンおよび株）

() 基本的 1 株当たり損失

	2018年	2017年
当行の普通株主に帰属する純利益(A)（ウォン）	2,509,845,232,262	434,781,932,134
社外流通普通株式の加重平均株式数(B)	3,605,597,850	3,543,630,727
基本的 1 株当たり利益(A / B)（ウォン）	696	123

() 社外流通普通株式の加重平均株式数

	2018年		
	普通株式数	日数	株式累計数
期首社外流通普通株式数 (A)	3,587,619,768	365	1,309,481,215,320
払込資本金の増加(B)	34,000,000	193	6,562,000,000
株式累計数(C = A + B)			1,316,043,215,320
社外流通普通株式の加重平均株式数(C / 365)			3,605,597,850

	2017年		
	普通株式数	日数	株式累計数
期首社外流通普通株式数(A)	3,508,619,768	365	1,280,646,215,320
払込資本金の増加(B)	50,000,000	222	11,100,000,000
払込資本金の増加(C)	16,000,000	96	1,536,000,000
払込資本金の増加(D)	13,000,000	11	143,000,000
株式累計数 (E = A + B + C + D)			1,293,425,215,320
社外流通普通株式の加重平均株式数(E / 365)			3,543,630,727

(2) 希薄化後 1 株当たり利益（損失）

潜在的希薄化株式がないため、2018年および2017年12月31日に終了した年度の希薄化後および基本的 1 株当たり利益は等しい。

45. 担保提供資産

2018年および2017年12月31日現在の当行が担保として差し入れた資産は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日		2017年12月31日	
	担保提供資産	関連する負債	担保提供資産	関連する負債
FVOCIで測定される有価証券(*)	6,012,532	2,211,955	-	-
償却原価で測定される有価証券(*)	1,093,314	113,825	-	-
売却可能金融資産(*)	-	-	8,472,566	4,339,565
	7,105,846	2,325,780	8,472,566	4,339,565

(*)買戻契約に基づく売却債券および借入金に対する担保として差し入れられた。

46. 保証およびコミットメント

2018年および2017年12月31日現在の保証およびコミットメントは以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日	2017年12月31日
確認引受および保証:		
外貨建て引受	631,298	399,219
債券発行に係る保証	2,069,094	1,817,983
貸出債権に係る保証	408,907	664,148
保証状	54,522	37,105
転貸債務に係る保証	17,910	28,272
その他	4,666,096	4,856,801
	7,847,827	7,803,528
無確認引受および保証:		
信用状	1,890,514	2,080,609
その他	1,584,031	1,397,251
	3,474,545	3,477,860
コミットメント:		
貸出債権のコミットメント	27,777,491	4,176,745
その他	2,175,793	2,180,792
	29,953,284	6,357,537
裏書手形:		
遡及権付	7,469	3,028
	41,283,125	17,641,953

47. 信託勘定

(1) 2018年および2017年12月31日現在の信託勘定は以下のとおりである。 (単位 : 百万ウォン)

	2018年12月31日	2017年12月31日
未収信託管理手数料	9,452	25,581
預託金	9,082	13,625
信託勘定からの借入金	741,805	1,008,213
未払預託金利息	1,190	1,383

(2) 2018年および2017年12月31日に終了した年度の信託勘定取引は以下のとおりである。 (単位 : 百万ウォン)

	2018年	2017年
信託委託手数料	28,404	21,458
預託金にかかる支払利息	300	984
信託勘定からの借入金にかかる支払利息	15,952	14,026

(3) 2018年および2017年12月31日現在の元金保証金銭信託および元利益保証金銭信託の帳簿価額は以下のとおりである。 (単位 : 百万ウォン)

	2018年12月31日	2017年12月31日
元金保証金銭信託	268,373	272,499
元利益保証金銭信託	243,873	252,811
	512,246	525,310
金銭・不動産信託の元本	462,156	462,999
未払金銭信託利益	36,180	34,724
その他の負債および特別準備金	13,910	27,587

48. 関連当事者取引

(1) 2018年12月31日現在の当行の関連当事者は以下のとおりである。

区分	会社名
子会社	KDBキャピタル・コーポレーション 大宇造船海洋 KDBインフラストラクチャー・インベストメント・アセット・マネジメント・カンパニー・リミテッド 産銀亞州金融有限公司 産銀アイルランド・リミテッド KDBバンク・ヨーロッパ・リミテッド バンコKDBブラジルS.A. 産銀ウズベキスタン・リミテッド 韓国インフラ構造基金他6ファンド 産銀バリュー・プライベート・エクイティ・ファンド第6号 産銀バリュー・プライベート・エクイティ・ファンド第7号 KDBベンチャー・エム・アンド・エー・プライベート・エクイティ・ファンド KDBコンサス・バリュー・プライベート・エクイティ・ファンド コンポーネンツ・アンド・マテリアルズ・エム・アンド・エー・プライベート・エクイティ・ファンド他6ファンド KDBCIPインベストメント・ファンド第2号 KoFC-KDBCパイオニア・チャンプ2010-4ベンチャー・インベストメント・ファンド KDB元金保証信託勘定 KDB元利金保証信託勘定 Ubest第四証券化専門会社他7社 KIAMCOロード・インベストメント・プライベート・ファンド・スペシャル・アセット・トラスト第2号他32受益証券 韓国電力公社 韓国觀光公社 韓国海洋事業公社 韓国鑑定院 GMコリア・カンパニー 現代商船 東部製鉄他74社 韓国インフラ構造基金第2号 トロイカ・リソーシズ・インベストメント・プライベート・エクイティ・ファンド他96ファンド KoFC-KVICジョブ・クリエーション・ファンド第2号他106ファンド その他 主要管理運営者

(2) 2018年および2017年12月31日現在の関連当事者との重要な勘定の残高は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	勘定	2018年12月31日	2017年12月31日
子会社:			
KDBキャピタル・コーポレーション	貸出債権	5,878	108,030
	貸倒引当金	(1)	(30)
	金融派生商品資産	1,044	1,183
	その他の資産	8	49
	預金	57	71
	金融派生商品負債	1,924	3,689
	その他の負債	511	529
KDBインフラストラクチャー・インベストメント・アセット・マネジメント・カンパニー・リミテッド	預金	34,639	28,344
	借入金	-	1
	その他の負債	1	-
産銀アイルランド・リミテッド	貸出債権	368,099	314,908
	貸倒引当金	(37)	(112)
	金融派生商品資産	1,688	1,868
	その他の資産	714	446
	借入金	1,677	-
	金融派生商品負債	1,789	1,094
KDBバンク・ヨーロッパ・リミテッド	現金および預け金	373,965	430,567
	貸出債権	23,979	10,714
	貸倒引当金	(6)	(12)
	金融派生商品資産	1,611	1,583
	その他の資産	566	528
	金融派生商品負債	259	21
バンコKDBブラジルS.A.	現金および預け金	72,677	107,140
	貸出債権	111,810	107,140
	貸倒引当金	(29)	(120)
	その他の資産	82	148
	その他の資産に係る引当金	(1)	(1)
産銀亞州金融有限公司	現金および預け金	268,344	192,852
	貸出債権	234,801	54,641
	貸倒引当金	(18)	(6)
	金融派生商品資産	15	287
	その他の資産	820	310
	預金	2	2
	金融派生商品負債	547	47
産銀バリュー・プライベート・エクイティ・ファンド第6号	貸出債権	1,261,496	1,291,074
	貸倒引当金	(2,305)	(3,628)
	金融派生商品資産	520	15,573
	その他の資産	22,026	48,748
	その他の資産に係る引当金	(27)	(51)
	預金	64,196	64,725
	借入金	4,521	5,762
	金融派生商品負債	2,000	1,597
	その他の負債	111	26,998
	その他の引当金	399	331
KDBコンサス・バリュー・プライベート・エクイティ・ファンド	有価証券	129,812	70,155
	金融派生商品資産	1,979	-
	その他の資産	483	810
	預金	9	36

	金融派生商品負債	3,513	60,617
	その他の負債	1,160	1,552
大宇造船海洋	貸出債権	1,499,157	1,766,654
	貸倒引当金	(359,448)	(591,476)
	金融派生商品資産	38,978	9,296
	その他の資産	3,100	2,974
	預金	660,082	644,998
	金融派生商品負債	15,044	134,612
	その他の負債	3,544	2,947
	その他の引当金	584,663	598,086
その他	貸出債権	1,191,767	775,025
	貸倒引当金	(572,487)	(153,892)
	金融派生商品資産	3,472	4,349
	その他の資産	18,310	8,328
	その他の資産に係る引当金	(10,629)	(343)
	預金	37,457	21,083
	借入金	38,943	-
	金融派生商品負債	1,983	-
	その他の負債	418	578
	その他の引当金	80,771	3,524
関連会社：			
韓国電力公社	有価証券	29,484	59,643
	貸出債権	151,947	134,792
	貸倒引当金	(2,769)	(27)
	金融派生商品資産	37,760	39,790
	その他の資産	65	122
	預金	36,148	497,312
	借入金	4,355	15,129
	金融派生商品負債	36,277	290
	その他の負債	-	282
	その他の引当金	14	8
東部製鉄	貸出債権	978,743	1,046,630
	貸倒引当金	(454,726)	(229,291)
	預金	10,391	43,035
	その他の負債	261	62
	その他の引当金	47,451	12,183
現代商船	有価証券	363,615	-
	貸出債権	500,156	584,021
	貸倒引当金	(35,423)	(175,062)
	預金	561,979	200,000
	その他の負債	-	144
その他	有価証券	6,139	186
	貸出債権	1,049,129	1,185,523
	貸倒引当金	(769,269)	(746,685)
	その他の資産	152,478	150,011
	預金	704,376	721,013
	その他の負債	-	2,222
	その他の引当金	121,468	123,661

(3)2018年および2017年12月31日に終了した年度の関連当事者との重要な損益は以下のとおりである。(単位：百万ウォン)

	勘定	2018年	2017年
子会社：			
KDB キャピタル・コーポレーション	受取利息	834	1,299
	受取配当金	44,109	35,225
	手数料収益、その他の収益	5,502	4,456
	貸倒引当金繰入	-	(109)
	その他の営業費用	(2,261)	(12,445)

KDB インフラストラクチャー・インベストメント・アセット・マネジメント・カンパニー・リミテッド	受取配当金	9,258	6,716
	手数料収益、その他の収益	55	50
	支払利息	(440)	(17)
産銀アイルランド・リミテッド	受取利息	5,337	4,079
	貸倒引当金戻入	-	23
	手数料収益、その他の収益	1,835	114
	貸倒引当金繰入	(5)	(31)
	その他の営業費用	(1,258)	(1,276)
KDBバンク・ヨーロッパ・リミテッド	受取利息	8,025	6,177
	手数料収益、その他の収益	1,574	2,874
	貸倒引当金繰入	(1)	-
	その他の営業費用	(786)	(68)
バンコKDBブラジルS.A.	受取利息	4,040	2,880
	貸倒引当金戻入	-	123
	貸倒引当金繰入	(11)	(61)
	その他の営業費用	(58)	(14)
産銀亞州金融有限公司	受取利息	6,579	3,963
	貸倒引当金戻入	-	61
	手数料収益、その他の収益	746	1,487
	貸倒引当金繰入	(8)	(56)
	その他の営業費用	(2,774)	(1,646)
産銀バリュー・プライベート・エクイティ・ファンド第6号	受取利息	49,717	50,907
	手数料収益、その他の収益	3,469	51,669
	支払利息	(317)	(463)
	その他の営業費用	(9,214)	(23,700)
KDBコンサス・バリュー・プライベート・エクイティ・ファンド	受取利息	3,636	3,315
	手数料収益、その他の収益	66,091	13,769
	その他の営業費用	(4,423)	(198,367)
大宇造船海洋	受取利息	35,048	67,860
	貸倒引当金戻入	233,754	-
	手数料収益、その他の収益	165,111	17,323
	支払利息	(7,588)	(5,124)
	貸倒引当金繰入	-	(25,489)
	その他の営業費用	9,073	(523,125)
その他	受取利息	59,111	27,877
	受取配当金	33,061	78,966
	貸倒引当金戻入	-	21,512
	手数料収益、その他の収益	22,989	29,750
	支払利息	(503)	(96)
	貸倒引当金繰入	(402,315)	(310,776)
	その他の営業費用	(89,022)	(33,108)
関連会社：			
韓国電力公社	受取利息	4,860	4,476
	受取配当金	166,876	418,246
	貸倒引当金戻入	-	14
	手数料収益、その他の収益	13,179	56,944
	支払利息	(4,984)	(2,002)
	貸倒引当金繰入	(2,738)	-
	その他の営業費用	(54,992)	(6,672)
その他	受取利息	78,582	213,068
	受取配当金	171,696	102,545
	手数料収益、その他の収益	50,167	48,895

支払利息	(10,691)	(8,244)
貸倒引当金繰入	(227,827)	(72,839)
その他の営業費用	(74,595)	133,221
	357,503	184,156

(4) 2018年および2017年12月31日現在の関連当事者に対する保証およびコミットメントの内訳は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	勘定	2018年12月31日	2017年12月31日
子会社:			
産銀バリュー・プライベート・エクイティ・ファンド			
第6号	確認引受および保証	120,333	125,154
大宇造船海洋	確認引受および保証	2,112,081	2,098,718
	無確認引受および保証	602,205	799,035
その他	確認引受および保証	251,401	-
	貸出債権コミットメント	206,100	315,500
関連会社:			
東部製鉄			
確認引受および保証	178,752	140,759	
	無確認引受および保証	32,411	24,696
その他			
確認引受および保証	128,836	176,062	
	無確認引受および保証	124,797	90,741
	貸出債権コミットメント	18,591	8,243
		3,775,507	3,778,908

(5) 2018年および2017年12月31日に終了した年度の主要管理運営者に対する報酬の内訳は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年	2017年
短期従業員給付	1,072	1,030
退職後給付	2	40
	1,074	1,070

(6) 2018年12月31日現在、関連当事者に対して担保として差し入れた資産および関連当事者から担保として差し入れられた資産はなかった。2017年12月31日現在の関連当事者から担保として差し入れられた資産の内訳は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2017年12月31日	
	帳簿価額	担保額
外貨建て有価証券	51,709	50,570 産銀アイルランド・リミテッド

49. キャッシュ・フロー計算書

(1) 2018年および2017年12月31日現在のキャッシュ・フロー計算書の現金および現金同等物は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年12月31日	2017年12月31日
現金および預け金 :		
現金および外貨	59,835	62,862
ウォン建て預け金	3,502,528	3,637,424
外貨建て / オフショア預け金	3,612,866	2,908,356
	7,175,229	6,608,642
控除: 制限付預け金ほか	(4,591,570)	(3,305,131)
加算: 満期が取得日から3ヶ月以内の金融商品		
国公債	218,981	444,643
コールローン	3,137,889	4,126,167
銀行間貸出債権	908,806	711,892
	4,265,676	5,282,702
	6,849,335	8,586,213

(2) 2018年および2017年12月31日に終了した年度のキャッシュ・フローに関連のない重要な取引は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年	2017年
償却による貸出債権の減少	235,303	116,883
デット・エクイティ・スワップ等によるFVOCIで測定される有価証券の増加	57,287	-
デット・エクイティ・スワップによる売却可能金融資産の増加	-	79,143
政府からの拠出による売却可能金融資産の増加	-	250,000
有価証券の評価によるその他の包括利益累計額の減少	(239,495)	(880,288)
有価証券の評価による繰延税金効果	65,865	190,482
売却可能金融資産の子会社および関連会社投資への振替	-	15
子会社および関連会社投資の売却可能金融資産への振替	-	6,638
子会社および関連会社投資の売却目的保有資産への振替	-	58,473
子会社および関連会社投資のFVOCIで測定される有価証券への振替	2,050	-
子会社および関連会社投資のFVTPLで測定される有価証券への振替	1,700	-
投資不動産から有形固定資産への振替	7,169	1,807

50. 金融商品の振替

2018年および2017年12月31日現在の、認識中止には適格ではない買戻契約、貸付有価証券、売却および貸付債務証券に関連する金融資産および負債の詳細は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

取引の性質	2018年12月31日		2017年12月31日	
	振替資産の帳簿価額	関連負債の帳簿価額	振替資産の帳簿価額	関連負債の帳簿価額
買戻契約	4,702,089	2,211,955	4,612,255	3,516,978
貸付有価証券	60,409	-	-	-
	4,762,498	2,211,955	4,612,255	3,516,978

51. 金融資産および負債の公正価値

当行は、金融商品の公正価値を以下の3つのレベルに分類し、開示している。

- レベル1：活発な市場から市場価格が測定される金融商品は公正価値レベル1に分類される。
- レベル2：すべての重要なインプットが観察可能な市場データである場合に、評価技法を用いて測定される金融商品はレベル2に分類される。
- レベル3：1つ以上の重要なインプットが観察可能な市場データに基づかない場合に、評価技法を用いて測定される金融商品はレベル3に分類される。

(1) 公正価値で測定される金融商品の公正価値ヒエラルキー

()2018年および2017年12月31日現在の公正価値で測定される金融商品の公正価値ヒエラルキーは以下のとおりである。(単位：百万ウォン)

	2018年12月31日			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金融資産:				
FVTPLで測定される有価証券	631,983	2,840,076	5,037,128	8,509,187
FVOCIで測定される有価証券	1,006,091	11,607,635	10,191,950	22,805,676
FVTPLで測定される貸出債権	-	-	778,884	778,884
金融派生商品資産	275	3,736,256	139,377	3,875,908
	1,638,349	18,183,967	16,147,339	35,969,655
金融負債:				
当期損益認識金融負債	-	2,164,538	-	2,164,538
金融派生商品負債	364	3,232,198	66	3,232,628
	364	5,396,736	66	5,397,166

	2017年12月31日			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金融資産:				
売買目的金融資産	545,597	381,140	-	926,737
売却可能金融資産	2,172,210	15,813,842	14,076,869	32,062,921
金融派生商品資産	372	6,110,887	138,350	6,249,609
	2,718,179	22,305,869	14,215,219	39,239,267
金融負債:				
当期損益認識金融負債	-	1,583,713	-	1,583,713
金融派生商品負債	1,497	5,902,375	3,931	5,907,803
	1,497	7,486,088	3,931	7,491,516

()2018年および2017年12月31日に終了した年度のレベル3の金融商品の公正価値の変動は以下のとおりである。(単位：百万ウォン)

	2018年					
	金融資産			金融負債		
	FVTPLで測定される有価証券	FVOCIで測定される有価証券	FVTPLで測定される貸出債権	金融派生商品資産	合計	金融派生商品負債
2018年1月1日	3,956,264	9,859,935	1,132,688	-	14,948,887	3,931
損益	(27,395)	-	32,458	139,258	144,321	(3,865)
その他の包括利益	-	(183,337)	-	-	(183,337)	-
取得／発行	1,365,564	569,102	31,078	-	1,965,744	-
売却／決済	(257,305)	(36,790)	(417,340)	-	(711,435)	-
振替	-	(16,960)	-	119	(16,841)	-
2018年12月31日	5,037,128	10,191,950	778,884	139,377	16,147,339	66

2017年				
	金融資産	合計	金融負債	
	売却可能金融資産	金融派生商品資産		金融派生商品負債
2017年1月1日	11,969,493	146,513	12,116,006	14,690
損益	(29,957)	(6,020)	(35,977)	3,931
その他の包括利益	187,895	-	187,895	-
取得／発行	2,229,908	17,139	2,247,047	-
売却／決済	(259,992)	(19,282)	(279,274)	-
振替(*)	(20,478)	-	(20,478)	(14,690)
2017年12月31日	14,076,869	138,350	14,215,219	3,931

(*)重要なインプットが観察可能な市場データである場合に、レベル3の金融商品は他のレベルに振り替えられる。

()2018年および2017年12月31日に終了した年度の繰延取引日損益の変動は以下のとおりである。

	2018年	2017年
期首残高	5,538	1,155
新規繰延	-	5,796
償却	(389)	(259)
その他（他のレベルへの振替等）	-	(1,154)
期末残高	5,149	5,538

繰延取引日損益は、公正価値ヒエラルキーのレベル3の金融派生商品から生じたものである。

()2018年および2017年12月31日現在の公正価値で測定される金融商品の公正価値ヒエラルキーのレベル2に分類される公正価値測定に用いられる評価技法およびインプットの詳細は以下のとおりである。

	評価技法	インプット
<u>FVTPLで測定される有価証券および売買目的金融資産：</u>		
持分証券	純資産価値法	原資産価格
債務証券	割引キャッシュ・フロー法	割引率
<u>FVOCIで測定される有価証券および売却可能金融資産：</u>		
持分証券	純資産価値法	原資産価格
債務証券	割引キャッシュ・フロー法	割引率
<u>金融派生商品資産：</u>		
金利スワップ	割引キャッシュ・フロー法、	割引率、為替レート、
通貨先渡および通貨スワップ	ブラック・ショールズ・モデル、	ボラティリティ、
通貨オプション	修正ブラック・モデル、数式モデル	コモディティ指数等
コモディティ・オプション		
<u>当期損益認識金融負債：</u>		
債券	割引キャッシュ・フロー法	割引率

()2018年および2017年12月31日現在の公正価値で測定される金融商品の公正価値ヒエラルキーのレベル3に分類される公正価値測定に用いられる観察不能なインプットに関する評価技法および定量的情報の内訳は以下のとおりである。

2018年12月31日			
	評価技法	観察不能なインプット	範囲(%)
FVTPLで測定される有価証券			
持分証券	割引キャッシュ・フロー法、相対価値法、純資産価値法	割引率 清算価値増加率 不動産処分価格増加率 ボラティリティ	4.03 ~ 18.22 - - 20.54 ~ 40.70
FVOCIで測定される有価証券			
持分証券	割引キャッシュ・フロー法、相対価値法、純資産価値法	割引率 成長率 ボラティリティ	3.87 ~ 18.36 - 21.51 ~ 38.07
FVTPLで測定される貸出債権			
金融派生商品資産	二項モデル	ボラティリティ	17.79 ~ 48.97
金利スワップ	割引キャッシュ・フロー法	ボラティリティ 相関係数	17.80 ~ 24.20 0.81 ~ 0.92
金利オプション	修正ブラック・モデル	ボラティリティ	17.80 ~ 24.20
株価指数オプション	ブラック・ショールズ・モデル	ボラティリティ	14.70 ~ 26.50
株式オプション	割引キャッシュ・フロー法等	ボラティリティ	24.11 ~ 25.29
株式先渡	割引キャッシュ・フロー法等	ボラティリティ	21.93

2017年12月31日			
	評価技法	観察不能なインプット	範囲(%)
売却可能金融資産			
持分証券	割引キャッシュ・フロー法、相対価値法、純資産価値法	割引率 成長率 清算価値の増加率 不動産処分価格増加率 賃貸キャッシュ・フロー 割引率 ボラティリティ	3.70 ~ 20.26 - - - 7.66 ~ 9.31 11.45 ~ 25.79
金融派生商品資産			
金利スワップ	割引キャッシュ・フロー法	ボラティリティ 相関係数	19.20 ~ 23.60 (-)0.42 ~ 0.95
金利オプション	修正ブラック・モデル	ボラティリティ	19.20 ~ 23.60
株価指数オプション	ブラック・ショールズ・モデル	ボラティリティ	11.00 ~ 21.00
株式オプション	定差法	ボラティリティ 相関係数	16.62 ~ 57.31 (-)0.11 ~ 0.75

()2018年および2017年12月31日現在の公正価値で測定される金融商品の公正価値ヒエラルキーのレベル3に分類される金融商品の観察不能なインプットの変動の感応度分析は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年12月31日			
	当期純利益(損失)		その他の包括利益(損失)	
	プラスの変動	マイナスの変動	プラスの変動	マイナスの変動
FVTPLで測定される有価証券(*1)	10,253	(8,937)	-	-
FVOCIで測定される有価証券(*1)	-	-	1,696,241	(362,295)
FVTPLで測定される貸出債権	15,364	(13,617)	-	-
金融派生商品(*2)	10,781	(48,074)	-	-
	36,398	(70,628)	1,696,241	(362,295)

	2017年12月31日			
	当期純利益(損失)		その他の包括利益(損失)	
	プラスの変動	マイナスの変動	プラスの変動	マイナスの変動
売却可能金融資産(*1)	-	-	928,359	(301,212)
金融派生商品(*2)	24,296	(97,113)	-	-
	24,296	(97,113)	928,359	(301,212)

(*)持分証券の影響額は、重要な観察不能なインプットである割引率および成長率(0~1%)または清算価値増加率(-1~1%)の相関係数を増減させることで計算する。受益証券の影響額は、不動産からなる場合に限り、賃貸キャッシュ・フローの割引率(-1~1%)および不動産処分価格の増加率(-1~1%)の相関係数を増減させることで計算する。それ以外の場合には、実務上の理由により受益証券の影響額の測定は困難である。また、2018年および2017年にレベル3に分類された金融商品については、実務上の理由で観察不能な変数の変動により感応度を計算することは不可能であるため、それぞれ13,004,416百万ウォンおよび12,179,412百万ウォンは、感応度に関する開示から除外される。

(*)金融派生商品の影響額は、重要な観察不能なインプットである相関係数およびボラティリティ(-10~10%)を増減させることで計算する。

(2) 償却原価で測定される金融商品の公正価値ヒエラルキー

()当行の償却原価で測定される金融商品の公正価値測定方針は以下のとおりである。

- 現金および預け金：現金の公正価値は、帳簿価額と等しいとみなされる。所定の満期を有さず即時に現金化される要求預け金の場合、帳簿価額は見積公正価値に近似するとみなされ、そのように仮定される。その他の通常の預け金の場合、公正価値は割引キャッシュ・フロー法を用いて見積もられる。
- 償却原価で測定される有価証券：償却原価で測定される有価証券の公正価値は、定評のある第三者評価機関によって要請に応じて測定される。
- 償却原価で測定される貸出債権：償却原価で測定される貸出債権の公正価値は、デフォルト確率を考慮したスプレッド・シートにより調整された市場割引金利を用いた期限前弁済比率を反映した見積将来キャッシュ・フローである。かかる手法の例外には、与信枠付の貸出債権、残存期間が3ヵ月以内の貸出債権および減損貸出金が含まれ、当行はその帳簿価額を公正価値とみなしている。
- 預金：預金の公正価値は、割引キャッシュ・フロー法を用いて計算される。ただし、キャッシュ・フローを合理的に見積もることができない預金については、当行はその帳簿価額を公正価値とみなしている。
- 借入金：ウォン建ての借入金については、公正価値は割引キャッシュ・フロー法を用いて計算される。外貨建ての借入金の公正価値は、定評のある第三者評価機関によって要請に応じて計算される。ただし、契約上の満期が3ヵ月以内のコールマネーを含む借入金については、当行はその帳簿価額を公正価値とみなしている。
- 債券：ウォン建ての仕組債を除くウォン建ての産業金融債の公正価値は、割引キャッシュ・フロー法を用いて計算される。ウォン建ての仕組産業金融債および外貨建ての産業金融債については、公正価値は、定評のある第三者評価機関によって要請に応じて計算される。
- その他の金融資産および負債：その他の金融資産および負債の公正価値は、割引キャッシュ・フロー法を用いて計算される。ただし、キャッシュ・フローを合理的に見積もることができない場合、当行は、帳簿価額を公正価値とみなしている。

()2018年および2017年12月31日現在の償却原価で測定される金融商品の公正価値ヒエラルキーは以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年12月31日			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金融資産:				
現金および預け金(*)	2,583,659	4,591,570	-	7,175,229
満期保有金融資産	494,518	1,201,409	-	1,695,927
償却原価で測定される貸出債権(*)	-	4,046,695	132,418,019	136,464,714
その他の金融資産(*)	-	3,547,645	655,803	4,203,448
	3,078,177	13,387,319	133,073,822	149,539,318

	2018年12月31日			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金融負債:				
預金(*)		1,892,885	30,559,539	32,452,424
借入金(*)	-	783,563	19,072,441	19,856,004
債券	-	120,125,942	-	120,125,942
その他の金融負債(*)	-	2,119,990	3,019,299	5,139,289
	-	124,922,380	52,651,279	177,573,659

	2017年12月31日			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金融資産:				
現金および預け金(*)	3,303,511	3,305,131	-	6,608,642
満期保有金融資産	2,348	10,725	-	13,073
貸出債権(*)	-	4,126,167	134,395,262	138,521,429
その他の金融資産(*)	-	6,632,670	750,242	7,382,912
	3,305,859	14,074,693	135,145,504	152,526,056
金融負債:				
預金(*)	-	1,869,256	31,173,556	33,042,812
借入金(*)	-	790,080	20,235,284	21,025,364
債券	-	118,293,776	-	118,293,776
その他の金融負債(*)	-	4,726,539	3,407,248	8,133,787
	-	125,679,651	54,816,088	180,495,739

(*)1) レベル2に分類される金融商品については、帳簿価額は公正価値の合理的な近似値と考えられているため、公正価値で計上される。

()2018年および2017年12月31日現在の公正価値で償却原価で測定される金融商品の公正価値ヒエラルキーのレベル2および3に分類される公正価値測定に用いられる評価技法およびインプットの内訳は以下のとおりである。

	2018年12月31日	
	評価技法	インプット
レベル2		
金融資産：		
償却原価で測定される有価証券	割引キャッシュ・フロー法	割引率
金融負債：		
債券	割引キャッシュ・フロー法	割引率
レベル3		
金融資産：		
償却原価で測定される貸出債権	割引キャッシュ・フロー法	信用スプレッド、その他のスプレッド、期限前返済率
その他の金融資産	割引キャッシュ・フロー法	その他のスプレッド
金融負債：		
預金	割引キャッシュ・フロー法	その他のスプレッド、期限前返済率
借入金	割引キャッシュ・フロー法	その他のスプレッド
その他の金融負債	割引キャッシュ・フロー法	その他のスプレッド

	2017年12月31日	
	評価技法	インプット
レベル2		
金融資産：		
満期保有金融資産	割引キャッシュ・フロー法	割引率
金融負債：		
債券	割引キャッシュ・フロー法	割引率
レベル3		
金融資産：		
貸出債権	割引キャッシュ・フロー法	信用スプレッド、その他のスプレッド、期限前返済率
その他の金融資産	割引キャッシュ・フロー法	その他のスプレッド
金融負債：		
預金	割引キャッシュ・フロー法	その他のスプレッド、期限前返済率
借入金	割引キャッシュ・フロー法	その他のスプレッド
その他の金融負債	割引キャッシュ・フロー法	その他のスプレッド

52. 金融資産および負債の分類

2018年および2017年12月31日現在の金融資産および負債の分類は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年12月31日						
	現金および現金同等物	当期損益認識金融商品	FVTPLでの測定を指定される金融商品	FVOCIで測定される金融商品	FVOCIでの測定を指定され償却原価で算定される金融商品	ヘッジ目的の金融派生商品	合計
金融資産:							
現金および預け金	2,583,659	-	-	-	-	4,591,570	-
FVTPLで測定される有価証券	218,981	8,290,206	-	-	-	-	8,509,187
FVOCIで測定される有価証券	-	-	-	12,647,354	10,158,322	-	22,805,676
償却原価で測定される有価証券	-	-	-	-	-	1,695,927	-
FVTPLで測定される貸出債権	-	778,884	-	-	-	-	778,884
償却原価で測定される貸出債権	4,046,695	-	-	-	-	130,198,437	-
金融派生商品資産	-	3,193,455	-	-	-	-	682,453
その他の金融資産	-	-	-	-	-	4,200,101	-
	6,849,335	12,262,545	-	12,647,354	10,158,322	140,686,035	682,453
							183,286,044
金融負債:							
当期損益認識金融負債	-	-	2,164,538	-	-	-	2,164,538
預金	-	-	-	-	-	32,445,775	-
借入金	-	-	-	-	-	19,809,741	-
債券	-	-	-	-	-	119,286,001	-
金融派生商品負債	-	2,799,439	-	-	-	-	433,189
その他の金融負債	-	-	-	-	-	5,139,270	-
	-	2,799,439	2,164,538	-	-	176,680,787	433,189
							182,077,953

	2017年12月31日								
	現金および現金同等物	売買目的金融商品	当期損益認識金融商品	売却可能金融商品	満期保有金融商品	貸出債権および受取債権	償却原価で算定される金融負債	ヘッジ目的の金融派生商品	合計
金融資産:									
現金および預け金	3,303,511	-	-	-	-	3,305,131	-	-	6,608,642
売買目的金融資産	444,643	482,094	-	-	-	-	-	-	926,737
売却可能金融資産	-	-	-	32,062,921	-	-	-	-	32,062,921
満期保有金融資産	-	-	-	-	12,313	-	-	-	12,313
貸出債権	4,838,059	-	-	-	-	131,441,263	-	-	136,279,322
金融派生商品資産	-	5,628,135	-	-	-	-	-	621,474	6,249,609
その他の金融資産	-	-	-	-	-	7,378,355	-	-	7,378,355
	8,586,213	6,110,229	-	32,062,921	12,313	142,124,749	-	621,474	189,517,899
金融負債:									
当期損益認識金融負債	-	-	1,583,713	-	-	-	-	-	1,583,713
預金	-	-	-	-	-	33,058,179	-	33,058,179	
借入金	-	-	-	-	-	20,971,629	-	20,971,629	
債券	-	-	-	-	-	117,818,982	-	117,818,982	
金融派生商品負債	-	5,422,483	-	-	-	-	485,320	-	5,907,803
その他の金融負債	-	-	-	-	-	8,133,810	-	8,133,810	
	-	5,422,483	1,583,713	-	-	179,982,600	485,320	187,474,116	

53. 金融資産と負債の相殺

2018年および2017年12月31日現在の相殺、強制可能なマスターネッティング契約または類似の契約の対象である金融商品の内訳は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

	2018年12月31日					
	財政状態計算書で相殺され ない関連金額					
	財政状態計算書で 相殺される 財政状態計算書に 認識された 認識された 表示される					
認識された 金融資産総額	金融負債総額	金融資産純額	金融商品	受入担保金	純額	
金融派生商品資産(*)	3,875,908	-	3,875,908	2,572,600	38,581	1,264,727
未決済直物為替債権(*)	1,806,409	-	1,806,409	1,806,156	-	253
未決済為替貸	2,911,679	1,170,443	1,741,236	-	-	1,741,236
買戻条件付契約の担保として差し入 れられた有価証券	4,702,089	-	4,702,089	2,211,955	-	2,490,134
売戻条件付契約	1,300,000	-	1,300,000	1,300,000	-	-
貸付有価証券	60,409	-	60,409	60,409	-	-
有価証券取引未収金	37	-	37	37	-	-
	14,656,531	1,170,443	13,486,088	7,951,157	38,581	5,496,350

	2018年12月31日					
	財政状態計算書で相殺され ない関連金額					
	財政状態計算書で 相殺される 財政状態計算書に 認識された 認識された 表示される					
認識された 金融負債総額	金融資産総額	金融負債純額	金融商品	受入担保金	純額	
金融派生商品負債(*)	3,232,628	-	3,232,628	2,502,877	7,849	721,902
未決済直物為替債務(*)	1,807,079	-	1,807,079	1,806,156	-	923
未決済為替借	1,483,354	1,170,443	312,911	-	-	312,911
買戻条件付契約	2,211,955	-	2,211,955	2,211,955	-	-
有価証券取引未払金	1,054	-	1,054	1,054	-	-
	8,736,070	1,170,443	7,565,627	6,522,042	7,849	1,035,736

	2017年12月31日					
	財政状態計算書で相殺され ない関連金額					
	財政状態計算書で 相殺される 財政状態計算書に 認識された 認識された 表示される					
認識された 金融資産総額	金融負債総額	金融資産純額	金融商品	受入担保金	純額	
金融派生商品資産(*)	6,249,609	-	6,249,609	3,869,101	271,589	2,108,919
未決済直物為替債権(*)	4,488,196	-	4,488,196	4,485,735	-	2,461
未決済為替貸	3,658,339	1,513,865	2,144,474	-	-	2,144,474
買戻条件付契約の担保として差し入 れられた有価証券	4,612,255	-	4,612,255	3,516,978	-	1,095,277
売戻条件付契約	1,448,727	-	1,448,727	1,448,727	-	-
有価証券取引未収金	16,721	-	16,721	16,721	-	-
	20,473,847	1,513,865	18,959,982	13,337,262	271,589	5,351,131

2017年12月31日

財政状態計算書で相殺されない関連金額					
認識された 金融負債総額	財政状態計算書で 相殺される		財政状態計算書に 表示される		
	認識された 金融資産総額	表示される 金融負債純額	金融商品	受入担保金	純額
金融派生商品負債(*)	5,907,803	-	5,907,803	3,693,464	-
未決済直物為替債務(*)	4,487,581	-	4,487,581	4,485,735	-
未決済為替借	1,752,823	1,513,865	238,958	-	238,958
買戻条件付契約	3,516,978	-	3,516,978	3,516,978	-
有価証券取引未払金	18,254	-	18,254	18,254	-
	15,683,439	1,513,865	14,169,574	11,714,431	-
					2,455,143

(*) ISDA金融派生商品契約の対象の金融派生商品については、相手方が破産を申請するかまたは何らかの信用問題を有する場合には、すべての契約は清算され、金融派生商品契約の純額は、清算価値に基づき測定され支払われる。

54. 事業セグメント

(1) 当行には、以下のとおり、4つの報告セグメントがあり、これらは当行の戦略的事業セグメントである。これらは、各事業が異なる技術および市場戦略を必要としているため、個々に管理されている。以下は、当行の各報告セグメントに関する一般情報の概要である。

業種	一般情報
コーポレート・ファイナンス	法人顧客への貿易金融および貸付の提供
インベストメント・ファイナンス	キャピタル・ファイナンス、再編等の企業に対するコンサルティング・サービスの提供
資産運用	個人および法人顧客に対する資産運用サービスの提供
その他	上記に述べられていないその他の事業セグメント

(2) 2018年および2017年12月31日終了年度の外部顧客からの営業利益（損失）および事業セグメント間の営業利益（損失）は以下のとおりである。（単位：百万ウォン）

2018年					
	コーポレート・インベストメント・ファイナンス	資産運用	その他	合計	
外部顧客からの営業利益 (損失)	985,690	(137,207)	42,633	619,943	1,511,059
セグメント間売上による営業利益（損失）	52,980	59,589	-	(112,569)	-
	1,038,670	(77,618)	42,633	507,374	1,511,059

2017年					
	コーポレート・インベストメント・ファイナンス	資産運用	その他	合計	
外部顧客からの営業利益 (損失)	874,426	78,812	34,930	486,582	1,474,750
セグメント間売上による営業利益（損失）	(9,836)	(17,396)	-	27,232	-
	864,590	61,416	34,930	513,814	1,474,750

(3) 2018年および2017年12月31日に終了した年度の当行の報告セグメントのセグメント損益の内訳は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	2018年				
	コーポレート・ファイナンス	インベストメント・ファイナンス	資産運用	その他	合計
純利息収益	1,515,000	(669,023)	20,715	516,094	1,382,786
非利息収益					
有価証券関連収益(*1)	85,091	(106,628)	-	27,692	6,155
その他の非利息収益	202,058	1,144,553	32,358	(26,585)	1,352,384
	287,149	1,037,925	32,358	1,107	1,358,539
貸倒引当金繰入等(*2)	(205,849)	(348,368)	-	(365)	(554,582)
一般管理費	(557,630)	(98,152)	(10,440)	(9,462)	(675,684)
営業利益	1,038,670	(77,618)	42,633	507,374	1,511,059

	2017年				
	コーポレート・ファイナンス	インベストメント・ファイナンス	資産運用	その他	合計
純利息収益	1,584,329	(397,111)	19,451	279,702	1,486,371
非利息収益					
有価証券関連収益(*1)	13,068	788,838	-	61,003	862,909
その他の非利息収益	220,479	902,685	25,406	172,505	1,321,075
	233,547	1,691,523	25,406	233,508	2,183,984
貸倒引当金繰入等(*2)	(406,467)	(1,132,006)	-	4,164	(1,534,309)
一般管理費	(546,819)	(100,990)	(9,927)	(3,560)	(661,296)
営業利益	864,590	61,416	34,930	513,814	1,474,750

(*1)有価証券関連収益は、FVTPLで測定される有価証券(2017年12月31日に終了した年度では売買目的金融商品)、FVOCIで測定される有価証券(2017年12月31日に終了した年度では売却可能金融資産)および償却原価で測定される有価証券(2017年12月31日に終了した年度では満期保有金融資産)に係る純利益(損失)からなる。

(*2)貸倒引当金繰入等は、貸倒引当金繰入、金融派生商品信用リスク引当金繰入、貸出債権売却益(損)および引当金繰入(戻入)からなる。

(4) 2018年および2017年12月31日に終了した年度の当行の事業セグメントに関する地域別収益情報ならびに2018年および2017年12月31日現在の地域別非流動資産情報は以下のとおりである。(単位:百万ウォン)

	収益(*1)		非流動資産(*2)	
	2018年	2017年	2018年12月31日	2017年12月31日
国内	18,125,443	24,860,929	26,369,930	23,505,974
海外	816,723	650,840	4,608	5,192
	18,942,167	25,511,769	26,374,537	23,511,166

(*1)収益は、受取利息、手数料収益、受取配当金、有価証券関連収益、為替取引益、金融派生商品に係る利益、その他の営業利益および貸倒引当金戻入益からなる。

(*2)非流動資産は、子会社および関連会社投資、有形固定資産、投資不動産および無形固定資産からなる。

55. リスク管理

(1)はじめに

()目的および原則

当行のリスク管理の目的は、財務上の健全性を維持し、当行の事業の性質に関連する様々なリスクを効率的に管理することである。当行は適宜効率的にリスクを管理するために方針を定め、遵守している。当該方針に従い、当行のリスクを以下のように管理している。

- 総合的かつ独立的に管理する。
- 適宜認識し、正確に評価して効率的に管理する。
- リスクと収益との調和がとれるように維持する。
- 特定のセグメントに集中しないよう適切に分散させる。
- リスク許容度と基本方針を樹立し、管理することで過度にリスクにさらされることを避ける。

()リスク管理戦略およびプロセス

当行のリスク管理業務は、リスクを見積り監視する「測定段階」と、リスク管理プロセスにおいて収集された情報を統合し、リスク管理戦略に用いる「インテグレーション段階」の2段階に分類される。リスク管理は、当行の経営の主な構成要素として認識されており、従来の適応的かつ限定的な役割からより主導的かつ総合的な形態への変化を模索している。

また、当行はリスク管理において進歩的なコンセンサスを確立するために、異なる部門間での一貫したコミュニケーションを重視している。

()リスク管理ガバナンス

リスク管理委員会

当行のリスク管理委員会（以下「委員会」という。）は、委員長（社外理事）、その他5名の委員で構成されている。当該委員会の機能は、リスク管理における方針の設定、当行の自己資本の適切性の評価、リスク管理に関する重要な問題に関する議論、かかる問題に関する暫定的決定を示すことである。

当行CEOおよびリスク管理部部長

当行CEOは、リスク管理方針に従い、効率性を維持するためにリスク管理および内部統制を管理および監督している。リスク管理部部長は、当行のリスク管理組織全体の監督、理事会および当行の経営者へのリスク関連情報の提供を担当している。

リスク管理方針委員会およびリスク管理実務委員会

当行のリスク管理方針委員会は、すべての事業部門の部門長で構成され、リスク管理委員会が定める範囲内での内部資本の部門別の分配制限および産業別エクスポージャー限度の設定を含む当行のポートフォリオに関連する重要事項を決定する役割を果たしている。

当行のリスク管理実務委員会は、主な事業部門のうち企画部門の各部門長で構成される。リスク管理実務委員会は、リスク管理委員会の主な決定事項を事前に検討している。

()リスク管理委員会の機能

リスク管理委員会は、リスク管理関連のすべての問題の包括的審査および理事会での決議の審議を行っている。2017年12月31日に終了した年度におけるリスク管理委員会の主な活動は、以下のとおりである。

- 主な決定
 - ・ 2018年のリスク管理計画
 - ・ 2018年の国別のエクスポージャー限度額の設定および管理
 - ・ 2018年の緊急時資金調達計画
 - ・ 2018年のベトナムに関するエクスポージャー限度額の調整

- ・国別のエクスポートオーナーの管理基準の変更
- ・IFRS第9号に基づく損失引当金を計算するためのリスク要素の見積基準の変更

-主な検討

- ・定款による2018年のリスク管理の修正

-主な報告

- ・2018年の信用ポートフォリオの管理計画
- ・2017年下半期および2018年上半期の総合的な危機分析
- ・2017年の内部資本配分の結果・2017年の内部資本の適正性評価の結果
- ・四半期ごとの与信委員会の決議
- ・信用格付システム、デフォルト確率および内部目的のリスク要素の適合性検証の結果
- ・2018年の内部資本配分計画
- ・信用ポートフォリオの管理計画の変更
- ・リスク管理委員会の委員長が不在の場合の臨時代理人の任命
- ・2018年の年間の企業信用格付の結果
- ・自己資本比率の緊急時対応計画

()リスク管理システムの改善

リスク管理、財務の健全性および自己資本の適正性の継続的向上に向け、当行は以下の取り組みを行っている。

-バーゼルによる継続的改善

- ・2008年に韓国金融監督院（以下「FSS」という。）が設定したガイドラインに沿った、より効率的な自己資本適正管理を行うための内部資本適正評価システムの強化。
- ・低デフォルト・ポートフォリオ（以下「LDP」という。）の与信評価システムの強化。
- ・信用リスクのパラメーターおよび測定の理論を含むリスクの測定基準の精緻化。
- ・流動性カバレッジ比率（LCR）および安定調達比率（NSFR）を適時計算するためのアプリケーション・システムの開発。
- ・企業信用格付システムの再構築（2017年10月26日に金融監督院により承認済。）
- ・2019年に国内で導入されるバーゼルの銀行勘定の金利リスクを計算するためのシステムの構築（2018年9月）。

-リスク管理インフラの拡大

- ・当行の事業リスクを反映し、経営上の意思決定をサポートするためのリスク調整後収益性指標(RAPM)システムの開発および2010年以降の支店レベルでの業績評価の採用。
- ・規格外の複合金融派生商品に関連するリスク管理の強化および当行のフロント・オフィスが開発した金融派生商品価格決定モデルの検証。
- ・2017年3月のIFRS第9号に基づく貸倒引当金を計算するためのIFRS第9号に基づく会計システムの構築、以降、2018年1月のIFRS第9号に基づく会計システムの適用

()リスク管理報告および測定システム

当行は、事業領域、資産およびリスクの特性に応じたすべての重要なリスクを客観的かつ合理的に測定し管理するよう継続的に努めている。報告と測定に関し、当行が開発したアプリケーション・システムは以下のとおりである。

アプリケーション・システム	手法	完了日	主要機能
企業信用格付システム	ロジットモデル	2004年6月	企業信用格付の算出
		2008年3月	
		2010年3月	
		2012年3月	K-IFRSに基づく企業信用格付システムの構築
		2017年10月	企業信用格付システムの再構築
信用リスク測定システム	信用リスクと信用測定基準	2003年7月	エクスポートヤーの集約、エクスポートヤー限度の管理および信用VaRの算出
		2007年11月	
市場リスク管理システム	リスク監視 RSモデル Murex M/0	2002年6月	ポジションの集約、エクスポートヤー限度の管理および市場VaRの算出
		2012年9月	標準的手法による自己資本比率の算出
		2013年4月	VaR算出時のリスク監視の補完
金利/流動性リスク管理システム	OFSA Fermat	2006年2月	金利改定によって生じるギャップ、デュレーション・ギャップ、VaRおよびEaRの算出
		2014年3月	バーゼルに従った流動性リスクに対するシステムのアップデート
オペレーショナル・リスク管理システム	標準的手法 AMA	2006年5月	プロセスの管理ならびに統制自己評価、主要リスク指標、オペレーショナルVaRの算出
		2009年5月	AMAの試行
BIS自己資本比率算出システム	Fermat RaY	2006年9月	自己資本および信用リスク・アセットの計算
		2013年12月	
貸倒引当金算出システム	IAS第39号 IFRS第9号	2011年1月	発生損失モデル
		2017年3月	予想信用損失モデル(2018年実施)

()バーゼルへの対応

韓国金融当局は2008年1月以降、バーゼルを導入している。信用リスクの計算には標準的手法と基礎的内部格付手法が適用されている。

バーゼルのロードマップ実施にしたがい、当行は2008年7月に信用リスクに対して基礎的内部格付手法を使用するための承認をFSSより取得し、2008年6月下旬より当該手法を適用している。当行は市場リスクおよびオペレーショナル・リスクにおいて標準的手法を適用している。

当行は、2013年12月1日に公表されたバーゼル規則の適用に先駆け、「バーゼル基準リスク管理システム」を完成した。2013年末以降、BIS自己資本比率はバーゼル規則に従って測定されている。

当行は、金融当局の要求を受けて、金利リスク、流動性リスク、信用バイアス・リスクおよび風評リスクならびに第1の柱の対象となるリスク(信用リスク、市場リスクおよびオペレーショナル・リスク)を認識している。当行は2015年より、リスク管理レベルでの包括的評価に基づいた追加所要資本を含む第2の柱の規制に積極的に対応している。また、当行は2015年末より、バーゼルへの準拠に関する金融事業の公表について、統一された基準を適用している。

また、当行は銀行のファンド投資に係る資本賦課(2017年に発効)およびカウンターパーティ信用リスク・エクスポートヤーの計測に係る標準的手法(SA-CCR、2019年に発効予定)等の改訂基準に対応中である。

()内部資本適正評価プロセス

内部資本適正評価プロセスは、当行が重要なリスクの情報を収集し、内部資本の計算を行い、利用可能な資本と内部資本を比較し、その内部資本の適正性を評価するプロセスと定義されている。

- 内部資本適正評価

内部資本適正評価を行うため、当行は全ての重要なリスクならびに資本の質および内容を考慮した利用可能資本を評価することで全体の内部資本の計算を行い、その後、それらの全体の内部資本と利用可能資本の情報を比較することで内部資本の適正性を評価している。

また、当行は、危機的状況における潜在的な弱点を評価するために少なくとも半年ごとに定期的なストレステストを行っており、その結果を内部資本の適正性の評価に使用している。当行は、マクロ経済状況を「通常 - 悪化 - 悲観的 - 深刻」の4段階としており、段階ごとの資本の適正性の確認等の対応策の策定を行っている。

- 内部資本管理における目標設定

当行は、リスク管理委員会の承認を通じて、利用可能資本の制約の範囲内における内部資本（統合リスク）を管理することにより、内部資本適正の維持のために内部資本制限を年間ベースで設定し管理している。

前年度の内部資本、当年度の国内外の環境の変化の分析ならびに事業の方向性および規模は、統合された内部資本のスケールを算出するために、内部資本管理の目標設定に反映されている。また、国際決済銀行（以下「BIS」という。）自己資本比率およびリスク選好度は、内部資本管理の目標設定において考慮されている。

- 内部資本の割当

当行のリスク管理委員会はすべての内部資本の承認を行い、リスク管理方針委員会は許容可能なリスク量および事業スケールを考慮して、各セグメントおよび部門に資本を配分している。配分された内部資本は、定期的に監視され、様々な管理手法によって管理されている。配分された内部資本の監視および管理の結果は、リスク管理委員会に報告される。当行の事業計画またはリスク管理戦略に重要な変更が発生した場合、当行は内部資本の配分を彈性的に調整する。

- 内部資本の構成要素

内部資本は、当行のすべての重要なリスクを含んでおり、定量化可能なリスクおよび定量化不能なリスクにより構成されている。定量化可能なリスクは、信用リスク、市場リスク、金利リスク、オペレーションナル・リスク、信用集中リスクおよび外貨決済リスクからなる。定量化可能なリスクは、客観的な数値を用いて合理的な方法を採用することで定量的に測定している。定量化不能なリスクは、戦略リスク、風評リスクおよび資産の証券化における残存リスク等で構成されている。定量化不能なリスクは、データまたは適切な測定方法がないため、定量的に測定することができないリスクである。

(2) 信用リスク

() 概念

信用リスクは、相手方の債務履行拒否または債務不履行から生じる潜在的損失と定義される。より一般には、信用リスクは、適切に回収されない関連債券または代物弁済による損失の可能性を参照するために用いられる。

() 信用リスク管理方法

信用リスク管理の概要

当行は、営業活動において信用リスクを最も重要なリスク領域として捉え、信用リスクへのエクスポージャーを注意深く監視している。当行は、信用リスクをポートフォリオ・レベルと個別与信レベルの双方で管理している。ポートフォリオ・レベルでは、当行は与信集中を軽減し、リスク水準を考慮に入れつつ利益を最大化するような方法でポートフォリオの再構築を行っている。特定セクターへの与信集中を避けるため、当行は顧客、グループおよび業種別に与信限度を管理している。当行はまた年に二度、業種別与信評価を行い、各業種毎のエクスポージャー管理指針を再設定している。

個別与信レベルでは、リレーションシップ・マネージャー（以下「RM」という。）、審査担当者（クレジット・オフィサー（以下「CO」という。））および信用審査委員会がそれぞれ借り手の信用リスクを管理している。

融資後管理および支払不能債務者管理

当行は、新たな不良債権が発生するのを防ぎ、安定的な債権回収を行えるように、融資開始から債権回収が終了するまで一貫して借り手の信用格付を監視し、借り手の状況を定期的かつ頻繁に審査している。

加えて、支払不能に陥る可能性の高い借り手を特定するために早期警告システムを導入している。当該早期警告システムは借り手の財務情報、財務取引情報、公開情報および市場情報を提供する。それらの情報の利用により、RMとCOは借り手の信用格付の変更を監視および管理している。

早期警告システムの下、支払不能に陥る可能性の高い借り手は早期警戒先もしくは要注意先に分類される。当行は借り手の特性を考慮して、借り手に対して具体的かつ実務的な安定化計画を提示している。また、固定に分類される借り手は、支払不能な借り手として分類され、当行により集中管理される。当行は適宜、法的手続、処分または企業再編措置を取る。

資産の健全性の分類と貸倒引当金

資産の健全性の分類は、信用リスクの分析および評価により行われる。かかる分類は、資産運用の安定化を向上させるよう、適切な引当金を設定し、不良債権の更なる発生を防ぎ、現存の不良債権の正常化を促進するために用いられている。

当行は、銀行業監督規則に基づき、借入人の返済実績だけでなく将来の債務返済能力も反映する将来予測基準に従って、資産の健全性の分類に係る基準およびガイドラインを定めている。

当該基準に従い、当行の資産の健全性は「正常」、「要注意」、「固定」、「回収疑問」または「推定損失」に分類されており、各区分毎に引当率を区別している。

2018年12月31日現在の貸出債権の信用格付別の内訳は以下のとおりである（単位：百万ウォン）。

<事業法人向け>

帳簿価額	12ヶ月間の 予想信用損失	全期間の予想信用損失	
		信用減損していない	信用減損している
AAA～BBB1	103,949,845	101,908,193	2,041,652
BBB2～CCC	29,087,682	18,078,425	10,903,401
CC以下	4,090,062	-	1,802,024
	137,127,589	119,986,618	14,747,077
			2,393,894

<個人向け>

帳簿価額	12ヶ月間の 予想信用損失	全期間の予想信用損失	
		信用減損していない	信用減損している
等級1～等級6	634,659	599,333	35,030
等級7～等級8	11,975	-	11,947
等級9～等級10	1,392	-	-
	648,026	599,333	46,977
			1,716

2018年12月31日現在の支払保証（金融保証を含む。）および未実行貸出残高の信用格付別の内訳は以下のとおりである（単位：百万ウォン）。

<事業法人向け>

	2018年12月31日			
	全期間の予想信用損失			
	エクスポートジャー	12ヶ月間の 予想信用損失	信用減損していない	信用減損している
未実行貸出残高：				
AAA～BBB1	24,367,025	24,164,769	202,256	-
BBB2～CCC	3,279,084	1,294,582	1,984,502	-
CC以下	199,897	88,524	110,388	985
	27,846,006	25,547,875	2,297,146	985
支払保証（金融保証を含む。）：				
AAA～BBB1	4,841,683	4,806,169	35,436	78
BBB2～CCC	4,914,971	2,346,844	2,568,127	-
CC以下	1,573,186	585,025	482,805	505,356
	11,329,840	7,738,038	3,086,368	505,434

<個人向け>

	2018年12月31日			
	全期間の予想信用損失			
	エクスポートジャー	12ヶ月間の 予想信用損失	信用減損していない	信用減損している
未実行貸出残高：				
等級1～等級6	86,652	84,417	2,235	-
等級7～等級8	31	-	31	-
等級9～等級10	-	-	-	-
	86,683	84,417	2,266	-

2017年12月31日現在の貸出債権の内訳は以下のとおりである（単位：百万ウォン）。

	2017年12月31日
延滞も減損もしていないもの	134,017,850
延滞しているが減損していないもの	79,422
減損	5,907,948
	140,005,220
貸倒引当金	(3,515,453)
現在価値割引差金	(215,809)
繰延貸出組成費用および手数料	5,364
純額	136,279,322
貸出総額に対する貸倒引当金比率	2.51%

2017年12月31日現在の延滞も減損もしていない貸出債権は以下のとおりである（単位：百万ウォン）。

2017年12月31日							
	ウォン建て貸出債権			その他貸出債権			
	運転資金 貸付	設備開発 資金貸付	その他	外貨建て 貸出債権	私募社債	その他	合計
AAA ~ B-	43,629,209	46,555,052	3,647,881	23,814,695	1,059,912	10,763,637	129,470,386
CCC	1,902,339	114,993	-	1,369,865	70,398	142,237	3,599,832
CC	378,016	164,281	-	200,848	-	204,487	947,632
C	-	-	-	-	-	-	-
D	-	-	-	-	-	-	-
	45,909,564	46,834,326	3,647,881	25,385,408	1,130,310	11,110,361	134,017,850

2017年12月31日現在の延滞しているが減損していない貸出債権は以下のとおりである（単位：百万ウォン）。

2017年12月31日							
	ウォン建て貸出債権			その他貸出債権			
	運転資金 貸付	設備開発 資金貸付	その他	外貨建て 貸出債権	私募社債	その他	合計
30日未満	12,918	18,450	7,278	19,172	1,000	12,291	71,109
30日～60日未満	62	825	944	-	-	111	1,942
60日～90日未満	511	5,848	12	-	-	-	6,371
	13,491	25,123	8,234	19,172	1,000	12,402	79,422

2017年12月31日現在の減損貸出債権は以下のとおりである（単位：百万ウォン）。

2017年12月31日							
	ウォン建て貸出債権			その他貸出債権			
	運転資金 貸付	設備開発 資金貸付	その他	外貨建て 貸出債権	私募社債	その他	合計
減損貸出債権：							
個別評価	2,064,364	2,127,552	-	364,599	790,687	350,544	5,697,746
集合的評価	85,596	45,003	1,946	52,805	15,311	9,541	210,202
	2,149,960	2,172,555	1,946	417,404	805,998	360,085	5,907,948

()信用リスク測定方法

バーゼルに従い、当行は測定の複雑性、測定因子、推定方法等を鑑みて信用リスクの測定方法を選定している。測定方法は標準的手法と内部格付手法に分けられる。

標準的手法(以下「SA」という。)

標準的手法では、外部信用格付機関(以下「ECAI」という。)によって評価された信用格付に基づいたリスク・ウェイトを使用している。信用格付別リスク・ウェイトは以下のとおりである。

信用格付	事業法人	国	銀行
AAA～AA-	20.00%	0.00%	20.00%
A+～A-	50.00%	20.00%	50.00%
BBB+～BBB-	100.00%	50.00%	100.00%
BB+～BB-	100.00%	100.00%	100.00%
B+～B-	150.00%	100.00%	100.00%
B-未満	150.00%	150.00%	150.00%
無格付	100.00%	100.00%	100.00%

経済協力開発機構(OECD)、S&P、ムーディーズおよびフィッチは海外ECAIに指定されており、またコリア・インベスターズ・サービス・カンパニー・リミテッド、NICEインベスター・サービス・カンパニー・リミテッドおよびコリア・レーティングス・カンパニー・リミテッドは国内ECAIに指定されている。

当行は類似の貸出および同一の借り手の無担保優先貸付に基づいて信用格付を適用している。借り手のリスク・ウェイトが無格付のリスク・ウェイト(100%)より高い場合、高い方のリスク・ウェイトが適用される。借り手が1つ以上の格付を持つ場合、最も低い2つのウェイトのうち高い方のウェイト(セカンド・ベスト基準)が適用される。

内部格付手法(以下「IRB」という。)

銀行が内部格付手法を用いるためには、FSSの承認を受け、FSSが事前に定めた要件を満たす必要がある。

2008年1月にバーゼルが国内で適用されたことに関連して、2008年7月、FSSは、当行が基礎的内部格付手法を使用することを承認した。当行は、2008年6月下旬より、かかる手法を用いて信用リスク・アセットを計算している。

信用リスク・アセットの測定方法

当行は2018年12月31日現在、基礎的内部格付手法を用いて企業向けエクスポージャーおよび資産証券化向けエクスポージャーに係る信用リスク・アセットを計算している。

標準的手法は、国、公的機関および金融機関に対するエクスポージャーに恒久的に適用される。また、FSSとの事前協議に基づき、標準的手法が海外子会社および当行の支店に適用される。

標準的手法は現在、特定金融会社、非居住者およびノンバンク金融機関に適用され、将来、内部格付手法に置き換えられる予定である。

<承認済み測定方法>

	測定方法	エクspoージャー
標準的手法	恒久的SA	-国、公的機関および銀行
	SA	-海外子会社および支店ならびにその他の資産
基礎的内部格付手法		-事業法人、中小企業、資産証券化および株式
段階的な内部格付手法の適用		-特別貸出、非居住者、ノンバンク金融機関

信用リスクの軽減効果は適格担保および保証を考慮する関連政策を反映している。当行は自己資本比率を使い信用リスク・アセットを計算している。

金融派生商品の信用リスク・アセットを計算する際、当行はエクspoージャーを計算するために、相殺する法的に強制力をもつ権利に基づき、取引の相殺効果を考慮する。

2018年および2017年12月31日現在の資産タイプ別の信用リスク軽減後のエクspoージャーは以下のとおりである。(単位：百万ウォン)。

2018年12月31日

	エクスポート	信用リスク軽減	信用リスク軽減後 エクスポート
政府向け	13,230,661	-	13,230,661
銀行向け	19,505,950	-	19,505,950
事業法人向け	131,020,852	(265,704)	130,755,148
株式	32,967,228	-	32,967,228
間接投資	10,478,914	(2,548,734)	7,930,180
資産証券化	2,551,803	-	2,551,803
店頭金融派生商品	9,938,599	(4,341,666)	5,596,933
リテール資産	672,748	(25,407)	647,341
その他	45,038,289	(129,125)	44,909,164
	265,405,044	(7,310,636)	258,094,408

2017年12月31日

	エクスポート	信用リスク軽減	信用リスク軽減後 エクスポート
政府向け	15,492,552	-	15,492,552
銀行向け	19,519,149	-	19,519,149
事業法人向け	129,607,364	(298,540)	129,308,824
株式	29,785,368	-	29,785,368
間接投資	7,672,509	(1,645,991)	6,026,518
資産証券化	4,366,731	-	4,366,731
店頭金融派生商品	11,620,076	(5,036,913)	6,583,163
リテール資産	1,525,960	(26,260)	1,499,700
その他	46,602,601	(460,376)	46,142,225
	266,192,310	(7,468,080)	258,724,230

信用格付モデル

信用格付の結果は、債務証券または貸出債権の元利金が契約上の弁済計画に従いつつ弁済される債務弁済能力の評価を通じて等級として表示されている。

当行は、債務者の信用格付を当行の内部信用格付モデルを用いてAAA～Dの14等級に分類している。同一の等級における信用力の差を区別するために、当行は14等級を補助するものとして20段階を使用している。

当行の定期的な信用格付プロセスは年に一度実行され、債務者の信用状態が変わった場合、信用格付は信用格付の適切性を維持するため必要に応じて頻繁に調整される。

信用格付の結果は、融資手続の区別、融資限度額、融資金利、融資後の融資管理標準プロセス、信用リスク測定および貸倒引当金評価のような様々な分野に適用される。

信用格付プロセス管理体制

当行は、抑制と均衡の原則に従って、信用格付システムが適切に機能するよう信用格付プロセス管理体制を確立している。

- ・信用格付の独立評価：当行の事業セグメント(RM) および信用格付評価セグメント(信用格付担当者)は独立して機能している。
- ・信用格付システムの独立管理：信用格付モデルの開発を含む信用格付システムの管理は、当行のリスク管理部門によって独立して遂行されている。
- ・信用格付システムの独立検証：信用格付システムはファイナンシャル・プランニング部門のリスク検証チームにより独立して検証されている。
- ・信用格付プロセスの内部監査：信用格付プロセスは当行内部の監査部門により監査されている。
- ・理事会および当行経営者の役割：与信プロセスに関連する主要な問題は理事会により承認され、当行の経営者により定期的に監視されている。

当行は融資を取り扱う際、信用分析に基づき債務返済能力の見直しを行う。結果次第で貸出金の保全は必要に応じて調整され、信用リスクによる金利保全のような方法が用いられる。

当行は、当初取得時に担保価値、保証履行能力および保証の法的有効性を評価する。当行は、差し入れられた担保および保証が合理的に維持されるように定期的に再審査している。

保証に関しては、当行は貸出取扱基準に基づき書面による関連保証書を徴求し、当該保証人の信用格付は信用格付付与方法に適合するとき独立して計算される。

2018年12月31日現在、担保およびその他の信用補完による減損金融資産の信用リスクの軽減の程度を定量化したものは以下のとおりである（単位：百万ウォン）。

2018年12月31日	
FVOCIで測定される有価証券	70,845
償却原価で測定される貸出債権	2,422,074
その他の資産	175,146

()信用エクスポート

2018年および2017年12月31日現在の信用エクスポートの地理別情報は以下のとおりである（単位：百万ウォン）。

	2018年12月31日				
	韓国	英国	米国	その他	合計
預け金(韓国銀行に対する預け金を除く。)	2,963,080	176,732	93,649	484,210	3,717,671
FVOCIで測定される有価証券：					
債券(国債を除く。)	8,104,236	726,131	622,036	553,182	10,005,585
償却原価で測定される有価証券：					
債券(国債を除く。)	-	-	-	-	-
貸出債権	127,656,437	1,147,917	964,356	4,944,729	134,713,439
金融派生商品資産	677,407	3,283	-	1,853	682,543
その他の資産	4,345,101	68,792	17,254	60,128	4,491,275
	143,746,261	2,122,855	1,697,295	6,044,102	153,610,513
保証	11,231,087	-	81,357	17,397	11,329,841
コミットメント	28,960,273	267,710	105,588	619,713	29,953,284
	40,191,360	267,710	186,945	637,110	41,283,125
	183,937,621	2,390,565	1,884,240	6,681,212	194,893,638

	2017年12月31日				
	韓国	英国	米国	その他	合計
預け金(韓国銀行に対する預け金を除く。)	3,603,430	3,237	101,001	680,679	4,388,347
売却可能金融資産：					
債券(国債を除く。)	9,352,893	633,974	608,602	370,648	10,966,117
満期保有金融資産：					
債券(国債を除く。)	-	-	-	10,725	10,725
貸出債権	130,150,253	1,072,177	748,063	4,491,908	136,462,401
金融派生商品資産	615,912	3,722	-	2,032	621,666
その他の資産	7,549,444	22,361	12,818	32,367	7,616,990
	151,271,932	1,735,471	1,470,484	5,588,359	160,066,246
保証	11,010,380	-	137,907	136,129	11,284,416
コミットメント	5,816,367	59,319	65,747	416,104	6,357,537
	16,826,747	59,319	203,654	552,233	17,641,953
	168,098,679	1,794,790	1,674,138	6,140,592	177,708,199

2018年および2017年12月31日現在の信用エクスポートの業種別情報は以下のとおりである（単位：百万ウォン）。

	2018年12月31日			
	製造	サービス	その他	合計
預け金(韓国銀行に対する預け金を除く。)	-	1,264,970	2,452,701	3,717,671
FVOCIで測定される有価証券：				
債券(国債を除く。)	2,390,829	6,367,151	1,247,605	10,005,585
償却原価で測定される有価証券：				
債券(国債を除く。)	-	-	-	-
貸出債権	60,756,349	63,944,732	10,012,358	134,713,439
金融派生商品資産	-	682,543	-	682,543
その他の金融資産	124,653	208,618	4,158,004	4,491,275
	63,271,831	72,468,014	17,870,668	153,610,513
保証	9,194,253	1,695,077	440,511	11,329,841
コミットメント	286,735	4,875,573	24,790,976	29,953,284
	9,480,988	6,570,650	25,231,487	41,283,125
	72,752,819	79,038,664	43,102,155	194,893,638

	2017年12月31日			
	製造	サービス	その他	合計
預け金(韓国銀行に対する預け金を除く。)	-	4,022,093	366,254	4,388,347
売却可能金融資産：				
債券(国債を除く。)	2,683,738	7,094,979	1,187,400	10,966,117
満期保有金融資産：				
債券(国債を除く。)	-	10,725	-	10,725
貸出債権	62,566,742	63,829,681	10,065,978	136,462,401
金融派生商品資産	-	621,666	-	621,666
その他の資産	138,509	196,787	7,281,694	7,616,990
	65,388,989	75,775,931	18,901,326	160,066,246
保証	8,933,696	1,806,124	544,596	11,284,416
コミットメント	207,903	6,016,498	133,136	6,357,537
	9,141,599	7,822,622	677,732	17,641,953
	74,530,588	83,598,553	19,579,058	177,708,199

2018年12月31日現在の債券の信用エクスポージャーの格付別情報は以下のとおりである（単位：百万ウォン）。

帳簿価額	12ヶ月間の 予想信用損失	全期間の予想信用損失	
		信用減損していない	信用減損している
AAA～BBB1	13,963,900	13,874,950	88,950
BBB2～CCC	11,717	11,654	63
CC以下	-	-	-
	13,975,617	13,886,604	89,013

2017年12月31日現在の預け金および債券の信用エクスポージャーの格付別情報は以下のとおりである（単位：百万ウォン）。

2017年12月31日			
預け金	売却可能 金融資産	満期保有 金融資産	合計
AAA～AA-	126,594	2,031,854	- 2,158,448
A+～A-	1,750,534	3,825,206	- 5,575,740
BBB+～BB-	1,166,917	3,542,568	10,725 4,720,210
BB-未満	-	30,292	- 30,292
無格付	1,344,302	1,536,197	- 2,880,499
	4,388,347	10,966,117	10,725 15,365,189

(3) 資本管理活動

() 資本の適正性

FSSIは、2008年7月に当行の基礎的内部格付手法の使用を承認した。2008年6月末以来、当行は信用リスク・アセットの計算に同様の手法を使用している。自己資本比率および自己資本は国際決済銀行の基準に従い、開示目的で計算されている。自己資本比率と自己資本は連結ベースで計算されている。2013年12月1日付のバーゼル の実施に基づく銀行法に従って、規制資本は以下の2つの区分に分類されている。

Tier1資本

- 普通株式等Tier1資本

当行の清算において最も劣後する請求権に相当し、発生する一切の損失において第一のかつ最も大きな割合を占め、清算以外では元本が償還されることはない規制資本（資本金、資本剰余金、利益剰余金、子会社に対する適格非支配持分およびその他の包括利益累計額を含む。）は、普通株式等Tier1資本として、普通株式分類基準を満たす。

- その他Tier1資本

劣後する資本性証券の発行に関連する資本金および資本剰余金は、非累積条件付配当または利息を有し、満期またはステップアップ条件を有さない。

Tier2資本（補完的Tier2資本）

補完的自己資本要件を満たす規制資本は、5年以上の期間を有する劣後債ならびに外部の規制基準および内部基準に従った貸倒引当金を含む。

2018年および2017年12月31日現在のバーゼル 基準に従ったBIS自己資本比率および資本は以下のとおりである。

BIS自己資本比率

	(単位：百万ウォン)	
	2018年12月31日	2017年12月31日
BIS自己資本(A)：		
Tier1資本		
普通株式等Tier1資本	29,522,899	29,412,410
その他Tier1資本	-	4,327
	29,522,899	29,416,737
Tier2資本	4,909,582	4,638,109
	34,432,481	34,054,846
リスク・アセット(B)：		
信用リスク・アセット	226,000,042	216,003,011
市場リスク・アセット	2,005,094	2,413,057
オペレーショナル・リスク・アセット	4,621,678	4,801,430
	232,626,814	223,217,498
BIS自己資本比率(A/B)：		
Tier1資本比率	14.80%	15.26%
普通株式等Tier1資本比率	12.69%	13.18%
その他Tier1資本比率	-	-
Tier2資本比率	2.11%	2.08%

BIS自己資本

	(単位：百万ウォン)	
	2018年12月31日	2017年12月31日
Tier1資本(A=C+D)：		
普通株式等Tier1資本(C)		
資本金	18,108,099	17,938,099
資本剰余金等	1,496,704	1,548,609
利益剰余金	9,796,197	9,023,996
非支配持分	-	2,639
その他の包括利益累計額	335,744	1,048,942
普通株式控除	(213,845)	(149,875)
	29,522,899	29,412,410
その他Tier1資本(D)		
非支配持分	-	4,327
	29,522,899	29,416,737
Tier2資本(B)：		
貸倒引当金等	977,343	447,445
適格資本性証券	2,900,000	2,900,000
非適格資本性証券	1,032,239	1,290,298
非支配持分	-	366
	4,909,582	4,638,109
自己資本(A+B)	34,432,481	34,054,846

(4) 市場リスク

() 概念

市場リスクは金利、外国為替相場、株式および金融派生商品の価格の変動によって取引ポジションに発生する潜在的な損失の可能性として定義されている。取引ポジションは、金利、株価および外国為替相場等のリスクにさらされている。非取引ポジションは、主に金利リスクにさらされている。したがって、当行は、市場リスクを取引ポジションによるリスクにさらされているものと非取引ポジションによるリスクにさらされているものに分類している。

() 取引ポジションの市場リスク

取引ポジションから生じる市場リスクの管理方法

市場リスクの予測において、標準的手法と内部モデルが用いられている。標準的手法は市場リスクから所要資本を計算するために用いられ、内部モデルは内部においてリスク管理のために用いられる。

2007年7月以降、当行は過去250日の時系列データを基礎に、99%の信頼区間によるヒストリカル・シミュレーション法を用いて一日VaRを算出している。その算出されたVaRは毎日モニターされている。

当行は、年間事業計画およびリスク選好度等に基づき市場リスク総限度額を設定し、各部門のVaR限度額を毎日モニターしている。

市場リスクの所要資本

2018年および2017年12月31日現在の当行の市場リスクの所要資本は以下のとおりである（単位：百万ウォン）。

	2018年12月31日	2017年12月31日
金利	65,146	53,628
株価	510	50,111
外国為替相場	18,241	15,120
オプション	61,800	60,891
	145,697	179,750

()非取引ポジションの市場リスク

非取引ポジションから生じる市場リスクの管理方法

非取引ポジションにおいて生じる最も重大な市場リスクは、金利リスクである。金利リスクは当行の財政状態において不利な金利変動によって発生する可能性がある損失と定義されており、金利VaRおよび金利EaRによって測定されている。

金利VaRは金利の不利な変動によって純資産価値が減少し得る最大額である。金利EaRは1年間の不利な金利の変動によって発生し得る純利息収益の最大減少額である。

当行の金利VaRおよび金利EaRは、FERMATの最終的金利シナリオ・シミュレーションを通じて測定され、リスク管理委員会に月次で報告されている。金利VaRおよび金利EaRの経営目標値は該当年度の初めに承認される。また、連結ベースの金利VaRと金利EaRは当行とその子会社によって採用する手法との一貫性を維持するために、標準的手法を用いて算出されている。

非取引ポジションのVaR/EaR

2018年および2017年12月31日現在の当行の非取引ポジションの金利VaRおよび金利EaRは以下のとおりである（単位：百万ウォン）。

2018年12月31日		
金利変動	金利VaR	金利EaR
2.00%	655,432	63,847

2018年12月31日		
金利変動	金利VaR	金利EaR
2.00%	856,927	26,219

()為替変動リスク

2018年および2017年12月31日現在の重要なエクスポートヤーをもつ通貨別の残高は以下のとおりである（単位：百万ウォン）。

	2018年12月31日						
	韓国ウォン	米ドル	ユーロ	日本円	ポンド	その他	合計
金融資産:							
現金および預け金	3,545,017	3,423,903	22,007	40,910	7,741	135,651	7,175,229
FVTPLで測定される有価証券	7,920,316	498,126	26,074	45	-	64,626	8,509,187
FVOCIで測定される有価証券	19,023,442	3,614,327	24	167,883	-	-	22,805,676
償却原価で測定される有価証券	1,695,927	-	-	-	-	-	1,695,927
FVTPLで測定される貸出債権	778,884	-	-	-	-	-	778,884
償却原価で測定される貸出債権	99,266,540	32,081,124	1,172,793	1,035,489	285,038	404,148	134,245,132
金融派生商品資産	3,169,723	668,497	23,333	3,214	7,175	3,966	3,875,908
その他の金融資産	3,503,783	553,615	11,442	44,919	325	86,017	4,200,101
	138,903,632	40,839,592	1,255,673	1,292,460	300,279	694,408	183,286,044
金融負債:							
当期損益認識金融負債	1,905,252	259,286	-	-	-	-	2,164,538
預金	25,306,191	6,798,287	5,160	334,374	185	1,578	32,445,775
借入金	6,154,890	12,668,379	125,215	855,910	-	5,347	19,809,741
債券	95,115,858	16,725,220	1,446,877	650,818	369,533	4,977,695	119,286,001
金融派生商品負債	2,402,018	813,032	10,414	1,653	2,706	2,805	3,232,628
その他の金融負債	3,059,512	1,845,302	38,281	17,069	290	178,816	5,139,270
	133,943,721	39,109,506	1,625,947	1,859,824	372,714	5,166,241	182,077,953
正味財政状態	4,959,911	1,730,086	(370,274)	(567,364)	(72,435)	(4,471,833)	1,208,091

	2017年12月31日						
	韓国ウォン	米ドル	ユーロ	日本円	ポンド	その他	合計
金融資産:							
現金および預け金	3,686,931	2,609,945	38,551	22,349	4,711	246,155	6,608,642
売買目的金融資産	532,899	341,291	37,013	-	-	15,534	926,737
売却可能金融資産	28,346,164	3,551,367	22	130,433	-	34,935	32,062,921
満期保有金融資産	1,588	10,725	-	-	-	-	12,313
貸出債権	101,055,808	32,548,067	1,061,489	1,100,855	167,344	345,759	136,279,322
金融派生商品資産	5,589,047	637,902	13,200	3,939	2,103	3,418	6,249,609
その他の金融資産	4,667,246	2,138,600	204,406	86,214	5,245	276,644	7,378,355
	143,879,683	41,837,897	1,354,681	1,343,790	179,403	922,445	189,517,899
金融負債:							
当期損益認識金融負債	1,434,567	149,146	-	-	-	-	1,583,713
預金	26,339,896	6,427,270	22,876	266,509	432	1,196	33,058,179
借入金	8,095,006	12,078,010	41,795	748,354	-	8,464	20,971,629
債券	94,398,139	15,371,088	1,623,208	367,484	805,053	5,254,010	117,818,982
金融派生商品負債	5,240,676	649,181	12,016	2,690	2,444	796	5,907,803
その他の金融負債	4,730,832	2,905,457	182,281	54,005	1,968	259,267	8,133,810
	140,239,116	37,580,152	1,882,176	1,439,042	809,897	5,523,733	187,474,116
正味財政状態	3,640,567	4,257,745	(527,495)	(95,252)	(630,494)	(4,601,288)	2,043,783

(5) 流動性リスク管理

() 概念

流動性リスクは、満期のミスマッチまたは予期しない資金の流出により一時的な資金不足が発生したことによる潜在的損失の可能性として定義されている。調達金利の上昇、通常価格以下の資産売却または有利な投資機会の逸失時ににおいて流動性リスクは上昇する。

() 流動性リスク管理法

当行は、流動性リスクを以下のように管理している。

流動性リスクの許容限度

- ・流動性リスクの許容限度は、流動性カバレッジ比率（LCR）、外貨建て流動性比率および残存する満期ギャップを設定している。
- ・流動性リスクの許容限度の管理基準は、FSSの指針に従い独自の厳しい設定比率を用いて設定するものとする。

<測定方法>

- 流動性カバレッジ比率：(適格流動性資産/翌30暦日間の純現金流出額合計)X100
- 外貨建て流動性比率：(期間中に満期を迎える流動資産/期間中に満期を迎える流動負債)X100
- 残存する満期ギャップ：(期間中に満期を迎える流動資産-期間中に満期を迎える流動負債)/資産合計X100

早期警報指標

流動リスクの悪化傾向を早期に特定し、これに対処するため、当行は「外国為替安定債券CDSプレミアム」等の17の指標を設定し、流動性リスク許容限度補足措置を設け、月次、週次および、日次のトレンドを測定している。

ストレステスト分析および危機管理計画

- ・当行は流動性リスクの影響を評価し、内在する欠陥を特定する。予期しない重大な流動性危機が生じることを前提に、当行は、当行特有の危機、市場リスクおよび複合的緊急事態に基づいて四半期ごとにリスク状況分析を行い、当行の支払能力検討のためリスク管理委員会に報告している。
- ・当行は、流動性リスクを管理するため、リスク状況ごとに詳細な危機管理計画を策定した。

()金融商品の残存する契約上の満期の分析

2018年および2017年12月31日現在の非派生金融商品（支払利息を含む。）における残存する契約上の満期リスクは以下のとおりである（単位：百万ウォン）。

	2018年12月31日						
	1ヵ月未満		3 - 12ヵ月未満		5年以上		合計
	1ヵ月未満	3 - 12ヵ月未満	5年以上	合計			
金融資産：							
現金および預け金	5,907,412	353,616	260,971	632,526	37,127	7,191,652	
FVTPLで測定される有価証券	11,050,975	-	-	-	-	11,050,975	
FVOCIで測定される有価証券	316,917	1,300,685	3,482,140	6,740,967	12,537,079	24,377,788	
償却原価で測定される有価証券	779	5,308	772,481	958,878	-	1,737,446	
貸出債権	11,797,900	13,603,631	48,137,262	54,905,886	16,736,033	145,180,712	
その他の金融資産	3,550,822	-	-	-	660,913	4,211,735	
	32,624,805	15,263,240	52,652,854	63,238,257	29,971,152	193,750,308	
金融負債：							
当期損益認識金融負債	74,835	388,921	736,432	695,138	638,192	2,533,518	
預金	14,854,184	4,042,772	10,658,282	3,409,477	136,453	33,101,168	
借入金	2,965,383	4,902,196	7,305,243	3,667,532	1,330,094	20,170,448	
債券	6,115,172	10,279,224	41,075,240	57,634,034	11,581,284	126,684,954	
その他の金融負債	2,930,288	2,006,912	-	-	214,750	5,151,950	
	26,939,862	21,620,025	59,775,197	65,406,181	13,900,773	187,642,038	

	2017年12月31日						
	1ヵ月未満		3 - 12ヵ月未満		5年以上		合計
	1ヵ月未満	3 - 12ヵ月未満	5年以上	合計			
金融資産：							
現金および預け金	5,590,394	192,338	504,039	321,796	13,703	6,622,270	
売買目的金融資産	926,678	-	-	-	-	926,678	
売却可能金融資産	287,400	1,537,734	6,764,184	8,995,777	15,848,543	33,433,638	
満期保有金融資産	1,504	-	10,848	115	-	12,467	
貸出債権	12,524,041	14,449,933	49,137,375	54,726,337	15,952,742	146,790,428	
その他の金融資産	6,634,313	-	-	-	750,845	7,385,158	
	25,964,330	16,180,005	56,416,446	64,044,025	32,565,833	195,170,639	
金融負債：							
当期損益認識金融負債	69,285	263,040	587,957	416,339	662,446	1,999,067	
預金	14,237,933	6,423,163	9,678,063	3,117,355	147,189	33,603,703	
借入金	3,558,421	4,189,089	7,898,567	4,340,343	1,435,422	21,421,842	
債券	6,401,501	10,955,197	44,473,217	46,565,221	16,852,878	125,248,014	
その他の金融負債	5,865,093	1,820,414	-	-	456,243	8,141,750	
	30,132,233	23,650,903	62,637,804	54,439,258	19,554,178	190,414,376	

2018年および2017年12月31日現在の金融派生商品における残存する契約上の満期リスクは以下のとおりである（単位：百万ウォン）。

差金決済金融派生商品

	2018年12月31日				
	1ヵ月未満	1 - 3ヵ月未満	3 - 12ヵ月未満	1 - 5年未満	5年以上
売買目的金融派生商品：					
通貨	19	267	768	-	-
金利	13,519	27,707	(67,905)	285,977	235,630
株式	14	-	-	-	-
					14
ヘッジ目的金融派生商品：					
金利	11,764	(4,700)	209,299	1,259,508	2,288,782
	25,316	23,274	142,162	1,545,485	2,524,412
					4,260,649

	2017年12月31日				
	1ヵ月未満	1 - 3ヵ月未満	3 - 12ヵ月未満	1 - 5年未満	5年以上
売買目的金融派生商品：					
通貨	(79)	498	(129)	-	-
金利	(3,242)	(2,210)	(86,807)	(112,351)	(40,505)
株式	134	-	-	-	-
					134
ヘッジ目的金融派生商品：					
金利	20,569	19,411	134,695	1,127,275	2,480,383
	17,382	17,699	47,759	1,014,924	2,439,878
					3,537,642

グロス決済金融派生商品

	2018年12月31日					
	1ヵ月未満	1 - 3ヵ月未満	3 - 12ヵ月未満	1 - 5年未満	5年以上	合計
売買目的金融派生商品:						
通貨						
インフロー	44,391,921	33,891,349	58,815,290	57,202,816	5,725,750	200,027,126
アウトフロー	44,408,875	33,833,123	58,659,690	57,186,864	5,792,977	199,881,529
ヘッジ目的金融派生商品:						
通貨						
インフロー	46,574	252,017	6,113,586	15,160,421	1,352,371	22,924,969
アウトフロー	57,180	263,943	6,133,158	15,110,967	1,352,215	22,917,463
インフロー合計	44,438,495	34,143,366	64,928,876	72,363,237	7,078,121	222,952,095
アウトフロー合計	44,466,055	34,097,066	64,792,848	72,297,831	7,145,192	222,798,992

	2017年12月31日					
	1ヵ月未満	1 - 3ヵ月未満	3 - 12ヵ月未満	1 - 5年未満	5年以上	合計
売買目的金融派生商品:						
通貨						
インフロー	39,285,254	35,664,287	67,286,704	51,321,999	5,411,444	198,969,688
アウトフロー	39,393,627	35,877,527	67,746,331	51,188,768	5,491,291	199,697,544
ヘッジ目的金融派生商品:						
通貨						
インフロー	34,137	338,206	11,887,281	8,582,741	1,464,554	22,306,919
アウトフロー	34,608	359,082	11,987,081	8,453,255	1,439,125	22,273,151
インフロー合計	39,319,391	36,002,493	79,173,985	59,904,740	6,875,998	221,276,607
アウトフロー合計	39,428,235	36,236,609	79,733,412	59,642,023	6,930,416	221,970,695

2018年および2017年12月31日現在の保証およびコミットメントにおける残存する契約上の満期リスクは以下のとおりである(単位:百万ウォン)。

	2018年12月31日					
	1ヵ月未満	1 - 3ヵ月未満	3 - 12ヵ月未満	1 - 5年未満	5年以上	合計
保証	1,216,626	1,857,438	4,375,807	3,851,524	28,446	11,329,841
コミットメント	115,917	90,056	882,736	2,029,013	26,835,562	29,953,284
	1,332,543	1,947,494	5,258,543	5,880,537	26,864,008	41,283,125

	2017年12月31日					
	1ヵ月未満	1 - 3ヵ月未満	3 - 12ヵ月未満	1 - 5年未満	5年以上	合計
保証	1,749,883	1,423,597	3,756,986	4,325,805	28,145	11,284,416
コミットメント	289,450	166,927	1,612,032	2,135,849	2,153,279	6,357,537
	2,039,333	1,590,524	5,369,018	6,461,654	2,181,424	17,641,953

56. 後発事象

() 現代重工業とのDSMEの売却契約

当行の子会社である大宇造船海洋（以下「DSME」という。）への戦略的投資を誘致するために、当行は、2019年1月31日に了解覚書に署名し、2019年3月8日に現代重工業（以下「HHI」という。）とDSMEにおける持分を売却するための正式な契約（以下「本契約」という。）を締結した。本契約に従い、HHIは投資事業等を除く造船事業、特殊船舶事業、産業プラント・エンジニアリング事業およびエンジン機械事業を新設会社に分割し、分割後の既存会社は「独占禁止法および公正取引法」に定義されている持株会社に譲渡される。当行はDSMEの持分を現物出資としてHHIに提供する予定である。その見返りとして、当行は、HHIの新規発行普通株式および償還可能転換優先株式を取得する予定である。HHIとDSMEの双方の権利の提供が実行され、HHIはDSMEに対して金融支援の責任を負うことになる。

本契約の成立のために、政府機関の承認プロセス（企業結合に係る国内外における承認等）のような複数の必要条件が満たされなければならない。

(6) 【その他】

特になし。

(7) 【発行者の属する国等の概況】

位置・面積・人口等

韓国は、朝鮮半島の北緯38度線のほぼ南部に位置し、国土面積約100,140平方キロメートルを有する。国土の約4分の1は耕地である。韓国の人囗は約51百万人である。韓国最大の都市である首都ソウルは、約10百万の人口を有する。

政治・外交

(a) 政治の変遷

1948年に建国された当初の韓国は、1948年、1952年、1956年および1960年に選出された李承晩大統領によって統治された。1960年に学生主導のデモに応じて李大統領は辞任したが、その後朴正熙氏が率いる軍指導者グループがクーデターによって政権を掌握した。軍指導者グループは文民政権を確立し、朴氏は1963年10月に大統領に選出された。朴大統領は、政府と反政府勢力の間の闘争が高揚した後、1979年に暗殺されるまで大統領職にあった。政府は戒厳令を発令し、次の大統領となった崔圭夏首相の下に暫定政権が形成された。政府と反政府勢力の一連の衝突の後に崔大統領は辞任し、韓国軍部の権力を掌握した全斗煥將軍が1980年に大統領を継承した。

1980年後半、大統領選挙人団による間接的な大統領選挙といくつかの民主主義改革を規定する新憲法が国民投票で承認され、その直後の1981年初頭、全大統領は大統領に再選された。1987年には、大衆デモに応えて、立法府は憲法を大統領の直接選挙を規定するように改正した。1987年12月に、金泳三氏と金大中氏の率いる野党が統一候補者を立てることができなかったため、盧泰愚氏が僅差で大統領に選ばれた。1990年2月に、金泳三氏が率いる政党を含む2野党が盧大統領の率いる与党民自党に合流した。

1992年12月に、金泳三氏は大統領に選出された。文民で前野党党首の大統領選出により、政治制度の正統性に関する議論は大幅に減少した。金大統領政権は、政治改革を行い、韓国経済の規制緩和および国際化を進めた。

1997年12月、韓国国民は金大中氏を大統領に選出した。金大統領が率いる新千年民主党（旧新政治国民会議）は金鍾泌氏の率いる自由民主連合と連立し、金鍾泌氏は金大中政権最初の國務総理となった。この連立は2000年4月の総選挙直前に一時的に解消したが、2000年6月に自由民主連合の李漢東氏が國務総理に任命されたことで継続した。この連立は、2001年9月に再び終了した。

2002年12月、韓国国民は盧武鉉氏を大統領に選出した。

盧大統領は、2003年に支持者とともに新千年民主党を離党し、2003年11月に新党のウリ党を結成した。2007年8月15日、ウリ党または中道統合民主党に所属していた国会議員85名が大統合民主新党を結成した。ウリ党は、2007年8月20日に大統合民主新党に吸収された。2008年2月、大統合民主新党は民主党に再び吸収された。2011年12月、民主党は市民統合党と統合して民主統合党（2013年5月に民主党に党名を変更）を結成した。

2007年12月、李明博氏が大統領に選出され、2008年2月25日に大統領に就任した。李政権は、規制緩和、自由貿易および外国からの投資の誘致によって活発な市場経済を追求した。2018年4月9日、韓国の検察当局は、收賄、職権濫用、横領およびその他の違法行為を含む16件の汚職により李元大統領を起訴した。

2012年12月、朴槿恵氏が大統領に選出され、2013年2月25日に大統領に就任した。2016年12月9日、国会は、憲法違反ならびに側近による国政への影響力行使および大統領上級補佐官による企業献金の強要の援助を許容するという職権濫用を含む複数の憲法上および刑法上の違反の疑いで朴大統領の弾劾を可決した。朴大統領は直ちに権限を停止され、同時に首相が大統領の権限を代行した。2017年3月10日、憲法裁判所は、朴大統領に対する国会の弾劾決議を全員一致で支持し、朴大統領は即時に罷免された。朴前大統領の捜査については、独立特別検察官が韓国のいくつかの財閥とその経営上層部に対しても贈賄、横領およびその他の不正行為の疑いについて関連捜査を行った。韓国検察局は、独立特別検察官の任期終了後もかかる捜査を継続した。2017年4月17日、韓国の検察当局は、朴前大統領を收賄、職権濫用および強要を含む18件の罪状で起訴した。2018年4月6日、ソウル中央地方裁判所は、收賄、職権濫用および強要を含む16件の罪状で朴前大統領を有罪とし、懲役24年および罰金18十億ウォンの判決を下した。

2017年5月9日に新大統領を選出する特別選挙が実施され、文在寅氏が大統領に選出され、2017年5月10日に大統領に就任した。文政権の主な優先政策には以下が含まれる。

- ・政府高官が関与した汚職の捜査、汚職防止および財閥の改革。
- ・朝鮮半島の非核化および平和の確立ならびに北朝鮮の核戦力に対する韓国軍の強化。
- ・微粒子排出物の削減、老朽化した原子力発電所の閉鎖および新たな原子力発電所建設の再検討。
- ・雇用の創出、若年者失業問題の解決および非正規労働者差別禁止法の制定。
- ・高齢者向けの雇用の創出、基礎年金の引上げおよびアルツハイマー病治療への政府補助金の提供。
- ・小規模事業経営者の保護ならびに大規模店舗および多機能ショッピングモールの出店制限。

(b) 政府および行政組織

韓国の国家権力は、中央集権化されており、大統領に強力な権限が集中している。大統領は国民投票により選出され、任期は1期のみの5年である。大統領は、首相、副首相、政府省庁の長および國務大臣で構成される國務會議（内閣）のそれぞれの議長である。大統領は、國務會議で職務を務めるべき者を選任する権限を持ち、また、選挙を通じて選ばれた地方公務員を除き、他の政府公務員を任命および罷免することができる。

大統領は新法案に対する拒否権を有する。さらに大統領は災害、重大な財政・経済危機、戦争状態またはそれに類する事態の場合には緊急措置を講ずることができる。ただし、大統領は実施した緊急措置について遅滞なく国会の同意を得なければならず、かかる同意が得られない場合、緊急措置は自動的に無効となる。戒厳令については、大統領は国会の同意を得ることなく戒厳令を発令することができる。ただし、国会は、大統領に戒厳令を取消すよう要請することができる。

立法権は、国会に与えられている。憲法および公職選挙法は、国会議員の約84%の直接投票による選出を規定しており、残りの議席は、直接選挙で5議席超を獲得したかまたは一般投票の3%超を得票した政党の間で比例配分される。国会議員の任期は4年である。国会は法律を制定し、条約を批准し、国家予算を承認する。大部分の法律は行政部門によって起案され、承認のため国会に提出される。

司法権は大法院、憲法裁判所およびその他下級裁判所に付与されている。大法院長は大統領により任命される。その他の大法院判事（大法官）は、大法院長の推薦により大統領により任命される。大法院判事の任命には国会の同意が必要である。大法院長は、大法官の同意を得て、韓国の他の裁判官すべてを任命する。大法院判事の任期は6年であり、それ以外の裁判官の任期は10年である。大法院長を除く大法院判事および裁判官は連続して再任されることができる。

憲法裁判所は、大統領により正式に任命される9名の裁判官から成る。その裁判官のうち3名は国会の指名により、さらに3名は大法院長により指名される。憲法裁判所の裁判官の任期は6年であり、連続して再任されることができる。

行政区域として、韓国は8つの道、1つの特別自治道（済州）、1つの特別市（ソウル）、6つの広域市（釜山、大邱、仁川、光州、大田および蔚山）ならびに1つの特別自治市（世宗）に分かれている。1961年から1995年までは中央政府が道を統治しており、道の公務員は大統領により任命されていた。1995年6月、道の公務員の選挙を含む地方自治が再開した。

(c) 政党

2016年4月13日に第20回総選挙が実施され、かかる総選挙で選出された国会議員の任期は2016年5月30日に開始した。現在、民主党（MPK）、自由韓国党（LKP）、正しい未来党（BFP）および民主平和党（PDP）という四大政党が存在している。

2019年3月31日現在、各政党は以下のとおり国会における議席を有している。

	議席数
民主党	128
自由韓国党	113
正しい未来党	29
民主平和政党	14
その他	14
合計	298

(d) 南北関係

韓国と北朝鮮の関係は、韓国の歴史の大部分にわたり緊張状態にあった。朝鮮戦争は、1950年の北朝鮮からの共産主義軍の侵攻とともに始まった。韓国と米国を中心とする国連軍とによって侵攻は阻止され、軍事的膠着状態の後、1953年に北緯38度線付近に国連により監視される非武装地帯を置き、停戦した。

北朝鮮は、100万人超と推定される正規兵力および700万人の予備役軍人を維持しており、正規兵力の大多数は、非武装地帯の北側の近くに集中している。韓国は、非武装地帯の南側に沿って、約63万人の正規兵力および300万人の予備役軍人からなる軍の配備を維持している。また、米国は、休戦協定の締結以降、韓国内で軍事的存在を維持しており、現在、約28,500人の兵力が韓国に駐留している。韓国と米国は、韓国内での軍事力について共同指揮体制を有している。2014年10月、米国および韓国は、将来の適切な時点での米韓共同指揮体制の解除に向けて条件付提案を行うことで合意した。これによって韓国は、朝鮮半島での有事の際には自国の軍隊の指揮権行使することができるようになる。

南北朝鮮間の緊張の度合いは不安定であり、現在および将来の事由によって緊張が急に高まる可能性もある。特に、2011年12月の金正日氏の死去以降、北朝鮮の将来の政治権力および同地域における政治的および経済的安定性に対する影響に対する懸念が高まった。金正日氏が指名した後継者としてその三男である金正恩氏が権力を掌握した。

さらに、近年では北朝鮮の核兵器開発計画および長距離ミサイル計画に加え、韓国に対する敵対的軍事行動およびその他活動に由来する安全保障にかかる懸念が高まっている。近年におけるいくつかの重要な出来事には以下が含まれる。

- 北朝鮮はその時々に、弾道ミサイルの発射実験を実施してきた。2016年2月、北朝鮮は、米国との合意および弾道ミサイル技術を利用した発射を妨げる国連の制裁に違反して、長距離ロケットを発射した。国際的な非難にもかかわらず、北朝鮮はロケット発射計画を続ける意向であるとの声明を発表し、2016年から2017年にかけて一連の弾道ミサイ

ルの発射実験を行った。それに対して、国連安全保障理事会は北朝鮮を非難し、状況の厳重な監視を続け、一層の重大な措置を講じることに合意する内容の全会一致の声明を発表した。2017年12月には、北朝鮮に課されている既存の制裁を拡大する決議を全会一致で可決した。

- ・北朝鮮は2003年1月に核拡散防止条約に基づく義務を放棄し、2006年10月から2013年2月までの間に核実験を3回実施した。2016年1月、北朝鮮は4回目の核実験を行い、これが初の水爆実験を含むものであったことを宣言した。2016年9月、北朝鮮は5回目の核実験を実施し、弾道ミサイルに搭載可能な核弾頭の爆発実験に成功したと発表した。2017年9月、北朝鮮は、大陸間弾道ミサイルに搭載されるように設計された水爆の爆発により6回目の核実験に成功したことを発表し、その結果、周辺地域の緊張が高まり、世界中から強い反発を浴びた。かかる実験（および北朝鮮の長距離弾道ミサイル計画）に対して、国連安全保障理事会は北朝鮮の行為を非難し、北朝鮮に適用される制裁の範囲を大幅に拡大する決議を数回にわたって全会一致で可決し、米国およびEUも北朝鮮に追加制裁を課した。
- ・2015年8月、韓国軍兵士2人が非武装地帯近くで地雷の爆発によって負傷した。韓国軍は、地雷が北朝鮮によって設置されたと主張し、非武装地帯の近くで拡声器を利用して北朝鮮に向けたプロパガンダ計画を再開した。報復として、北朝鮮軍が拡声器に対して砲撃を行った結果、両国ともに軍事警戒レベルが最高水準に引き上げられた。
- ・2010年3月、韓国の海軍艦艇が海上爆発により破壊され、多数の乗組員が死亡した。政府は、かかる沈没を引き起こしたとして北朝鮮を公式に非難した一方で、北朝鮮はかかる責任を否定した。さらに、2010年11月、北朝鮮が、朝鮮半島西岸の北朝鮮と韓国の事実上の領海線付近にある韓国の延坪島に100発を超える砲撃を行い、死傷者および多大な財産上の損害が生じた。政府は、砲撃について北朝鮮を非難し、さらなる挑発行為があれば断固たる報復措置に出ることを明言した。

北朝鮮の経済もまた厳しい課題に直面しており、これが北朝鮮における社会的政治的圧力をさらに悪化させる可能性がある。2018年4月および5月に南北首脳会談が、また、2018年6月および2019年2月に米朝間での首脳会談が開催されたが、今後、朝鮮半島における緊張が高まり、また、それによって韓国の経済および当行が重大な悪影響を受けることがないと保証することはできない。例えば、北朝鮮が指導力の危機に陥るか、韓国と北朝鮮の高官レベルの接触が決裂するか、または一層の軍事的な対立が発生するなどして緊張が高まった場合、韓国経済および当行は重大な悪影響を被る可能性がある。長期的には、南北朝鮮が統一される可能性はある。統一には、韓国が重要な経済的責務を果たすことが必要となるであろう。

(e) 外交関係および国際機関

韓国は、世界のほとんどの国との外交関係を維持している。韓国と最も緊密な関係のある国は米国であり、相互防衛条約および経済連携協定がある。米国と共に最大の貿易相手国である日本および中国との関係もまた重要である。

韓国は、以下を含む多くの国際機関に加盟している。

- ・国際連合
- ・国際通貨基金（IMF）
- ・世界銀行
- ・アジア開発銀行（ADB）
- ・多数国間投資保証機関
- ・国際金融公社
- ・国際開発協会
- ・アフリカ開発銀行
- ・欧州復興開発銀行
- ・国際決済銀行
- ・世界貿易機関（WTO）
- ・米州開発銀行（IDB）
- ・経済協力開発機構（OECD）

経済

(a) 世界の経済および金融危機

近年、世界金融市场においては、特に以下によってボラティリティが著しくなっている。

- ・世界中の多くの政府（特に南ヨーロッパおよび中南米）に影響を及ぼしている財政難
- ・中国およびその他主要な新興市場経済諸国の経済成長率の減速
- ・金利変動ならびに米国連邦準備銀行およびその他中央銀行による政策金利の引上げの可能性
- ・イラク、シリアおよびイエメンを含む中東および北アフリカならびにウクライナおよびロシア等の諸国における政治的および社会的不安

・石油価格および商品価格の変動

世界経済が高レベルで相互に依存していることに鑑みると、かかる展開のいずれかが韓国の経済および金融市場に重大な悪影響をもたらす可能性がある。

世界の金融および経済情勢の低迷によって、近年、韓国総合株価指数のボラティリティが著しくなっている。今後、韓国企業の株価が再び下落しないとは保証できない。将来において、株価指数が下落し、外国人投資家が韓国の有価証券を大量に売却し、その後、売却手取金を本国に送金する場合には、ウォンの価値、韓国の金融機関が保有する外貨準備高ならびに韓国の企業および銀行の資金調達能力が引き続き悪影響を受ける可能性がある。さらに、近年、主要外貨全般および特に米ドルに対してウォンの価値は大幅に変動してきた。一般に、ウォン安により輸入品およびサービスの費用は増加し、韓国企業が外貨建て債務を返済するためにより多くのウォン建ての収益が必要となる。

世界の信用市場の厳しい状況が続くかまたは世界経済が将来悪化すれば、韓国経済は悪影響を受け、韓国の銀行はより高いコストで業務資金の調達を強いられることになるか、または貸付その他の業務を支えるために必要な資金を調達できなくなる可能性がある。

世界的な情勢に加えて、韓国経済に重大な悪影響を及ぼすかまたはその一因となりうる国内の状況には、とりわけ以下が含まれる。

- ・主として抵当ローンの増加およびクレジット・カード利用の購買増加によって、住宅ローンおよび商品クレジットからなる家計債務が着実に増加しており、2010年12月31日現在の843.2兆ウォンから2018年12月31日現在には約1,534.6兆ウォンへと増加したこと。
- ・個人消費の低迷および消費者心理の落込み。これは、一部には、2014年4月の何百人もの乗客が死亡した旅客船セウォル号沈没事故および30人以上の死者と何千人の隔離者を出した感染症の発生（例えば、2015年5月に大流行した中東呼吸器症候群（MERS）等の国家的悲劇によるものである。
- ・年金および社会福祉政策に対する政府支出の大幅増加。これは、一部には韓国の総人口に占める老人人口（65歳以上の人口）の割合が、2000年12月31日現在の7.2%から2018年12月31日現在には14.3%に上昇したことによるものであるが、この割合は2020年には15.6%超および2026年には21.1%超となる見込みであり、これが韓国政府の財政赤字につながる可能性がある。
- ・消費者および中小企業の借り手による支払遅延および債務不履行の増加。
- ・韓国の不動産市場価格の下落。
- ・畜産業に影響を与える伝染病を含む、健康に重大な影響を及ぼす伝染病の発生。
- ・領土もしくは貿易紛争または外交政策の相違（例えば、米国が韓国内にターミナル段階高高度地域防衛（THAAD）システムを配備することを許可する決定に関する韓国と中国との間での現在継続中の論争など）による悪化。

(b) 国内総生産

国内総生産（GDP）とは、一定期間に一国において生産された最終財およびサービスすべての市場価値の尺度であり、時間の経過による国の生産高の増減を示すものである。GDPは、現行市場価格と「実質」または「インフレ調整」の双方により表示される。2009年3月、韓国はGDP算出方法として、国連の1993年国民経済計算体系の勧告を受けて、従来の固定方式に代えて、経済活動総計の実質成長を示すことができる「連鎖」方式を適用した。現行市場価格で表示されるGDPでは、各年の実際の価格を用いて国の生産高が評価される。「連鎖」方式によるGDPでは、連続した期間の量的成長とリンクする「連鎖指標」を用いて算出される。2014年3月、韓国は、韓国の国民経済計算統計を国民経済計算編纂の新たな国際基準の勧告に合わせ、かつ諸外国の国民経済計算との比較可能性を維持するため、2008年国民経済計算体系を実施し、基準年度を2005年から2010年に更新することにより、改訂GDP計算方法を公表した。これらの改訂の骨子には、(i)研究開発ならびに娯楽、文芸および芸術作品の創作活動に係る支出を固定投資として認識すること、(ii)韓国経済の構成に関する網羅的かつ詳細な情報を提供する、経済基礎調査、人口および住宅基礎調査ならびに2010年基準投入産出表といった多様な新しい原資料および改訂原資料を取り入れること、(iii)生産、支出および収入からのGDP測定のアプローチ相互の整合性を確保するための統計ツールを提供する供給・使用表を作成すること、ならびに(iv)国境を越えた財貨の移動よりも所有権の変更に基づいて商品貿易取引を記録することなどが含まれる。

次の表は韓国の現行市場価格および2010年基準連鎖価格によるGDPの内訳ならびに韓国のGDPの平均年間成長率を示したものである。

	国内総生産					(単位:十億ウォン)	
	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年 ⁽¹⁾	(%) ⁽¹⁾	
国内総生産(現行市場価格)							
民間部門	748,200.8	771,239.2	798,728.9	832,234.7	867,042.9	48.6	
政府部門	224,724.2	234,766.4	249,166.9	265,347.0	286,730.4	16.1	
総資本形成	435,078.1	452,315.1	480,261.6	537,732.6	537,935.9	30.2	
財およびサービスの輸出	747,134.3	709,122.0	694,216.1	745,645.6	784,379.3	44.0	
控除:財およびサービスの輸入	(669,058.0)	(600,239.3)	(581,662.3)	(652,156.8)	(694,973.9)	(39.0)	
誤差脱漏	-	(3,079.4)	1,074.9	1,595.5	1,154.4	0.1	
国内総生産に対する支出	1,486,079.3	1,564,123.9	1,641,786.0	1,730,398.5	1,782,268.9	100.0	
海外からの純要素所得	4,684.5	4,259.2	4,422.8	62.9	(1,177.9)	(0.1)	
国民総所得 ⁽²⁾	1,490,763.9	1,568,383.1	1,646,208.9	1,730,461.4	1,781,091.0	99.9	
国内総生産(2010年基準連鎖価格)							
民間部門	692,236.0	707,492.7	725,362.3	744,284.4	765,417.4	47.9	
政府部門	205,869.2	212,021.6	221,514.2	229,100.7	241,919.4	15.1	
総資本形成	430,685.5	462,114.3	488,039.9	537,370.0	527,195.5	33.0	
財およびサービスの輸出	804,797.1	803,746.1	824,330.0	840,019.9	875,264.8	54.8	
控除:財およびサービスの輸入	(706,938.4)	(721,740.4)	(755,861.0)	(808,985.5)	(822,891.8)	(51.5)	
誤差脱漏	1,019.1	2,481.2	3,261.9	3,366.9	1,444.6	0.1	
国内総生産に対する支出 ⁽³⁾	1,426,972.4	1,466,788.3	1,509,755.0	1,555,995.3	1,597,514.1	100.0	
交易条件による海外からの純要素所得	4,706.4	4,249.8	4,293.6	261.0	(1,049.0)	(0.1)	
交易条件の変化による交易利得・損失	(14,000.4)	38,787.9	59,905.5	65,729.0	42,198.1	2.6	
国民総所得 ⁽⁴⁾	1,417,814.2	1,510,005.6	1,574,137.3	1,622,212.6	1,638,879.4	102.6	
国内総生産の増加(減少)率 (前年比)							
現行価格	4.0	5.3	5.0	5.4	3.0		
2010年基準連鎖価格	3.3	2.8	2.9	3.1	2.7		

注(1)暫定値

(2)GDPに海外からの純要素所得を加えた値が韓国の国民総生産に相当する。

(3)「連鎖」方式によるGDPでは、GDPの各構成項目の合計は、GDPの合計値とは必ずしも一致しない。

(4)「連鎖」方式による国民総所得では、国民総所得の各構成項目の合計は、国民総所得の合計値とは必ずしも一致しない。

出所:韓国銀行

次の表は現行市場価格による韓国の産業別のGDPを示したものである。

	産業別国内総生産 (現行市場価格)					(単位:十億ウォン)
						GDP構成比
	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年 ⁽¹⁾	(%) ⁽¹⁾
産業部門 :	547,231.2	578,352.0	608,403.1	654,616.6	661,339.9	37.1
農林水産業	31,560.3	32,612.2	31,647.0	33,935.4	35,348.0	2.0
鉱業および製造業 :	411,030.4	426,228.8	442,502.4	479,927.3	488,053.3	27.4
鉱業	2,520.2	2,577.1	2,802.1	2,815.2	2,772.1	0.2
製造業	408,510.2	423,651.7	439,700.3	477,112.1	485,281.2	27.2
電気・ガス・水道業	37,373.8	44,988.9	49,879.4	47,531.0	43,780.6	2.5
建設業	67,266.7	74,522.1	84,374.3	93,222.9	94,158.0	5.3
サービス :	807,624.1	845,294.8	882,458.9	914,424.9	954,651.7	53.6
卸売・小売業、飲食業、宿泊業	152,205.2	156,363.1	164,350.4	168,423.0	173,940.3	9.8
運輸・倉庫業	50,306.8	56,154.6	59,230.7	56,987.2	54,721.1	3.1
金融・保険業	75,859.8	78,699.7	81,075.7	85,784.4	94,582.7	5.3
不動産・賃貸業	109,549.0	114,618.7	118,359.9	122,262.5	125,357.3	7.0
情報・通信業	52,510.8	54,257.2	56,710.7	57,581.0	58,265.4	3.3
事業活動	100,936.7	106,944.2	110,894.2	115,417.2	120,751.9	6.8
行政・国防	98,333.5	102,848.3	107,601.0	114,832.9	121,821.4	6.8
教育	74,007.8	76,237.2	77,664.4	79,432.7	82,936.4	4.7
医療・福祉	57,129.7	61,980.4	68,100.9	74,356.4	81,116.2	4.6
文化およびその他サービス	36,784.7	37,191.4	38,471.0	39,347.6	41,159.0	2.3
製品助成金控除後公租公課	131,224.0	140,477.2	150,924.2	161,356.9	166,277.4	9.3
国内総生産(現行市場価格)	1,486,079.3	1,564,123.9	1,641,786.0	1,730,398.5	1,782,268.9	100.0
海外からの純要素所得	4,684.5	4,259.2	4,422.8	62.9	(1,177.9)	(0.1)
国民総所得(現行市場価格)	1,490,763.9	1,568,383.1	1,646,208.9	1,730,461.4	1,781,091.0	99.9

注(1)暫定値

出所 : 韓国銀行

次の表は韓国の1人当たりのGDPを示したものである。

	1人当たり国内総生産 (現行市場価格)				
	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年 ⁽¹⁾
1人当たりGDP(千ウォン)	29,284	30,660	32,038	33,635	34,517
1人当たりGDP(米ドル)	27,805	27,097	27,607	29,744	31,370
平均為替レート(1米ドル当りウォン)	1,053.2	1,131.5	1,160.5	1,130.8	1,100.3

注(1) 暫定値

出所：韓国銀行

次の表は韓国の1人当たりの国民総所得(GNI)を示したものである。

	1人当たり国民総所得 (現行市場価格)				
	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年 ⁽¹⁾
1人当たりGNI(千ウォン)	29,377	30,744	32,124	33,636	34,494
1人当たりGNI(米ドル)	27,892	27,171	27,681	29,745	31,349
平均為替レート(1米ドル当りウォン)	1,053.2	1,131.5	1,160.5	1,130.8	1,100.3

注(1) 暫定値

出所：韓国銀行

次の表は2010年基準連鎖価格による韓国の産業別のGDPを示したものである。

	産業別国内総生産 (2010年基準連鎖価格)					(単位:十億ウォン)
						GDP構成比
	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年 ⁽¹⁾	(%) ⁽¹⁾
産業部門:	527,016.1	538,722.4	554,601.8	578,753.1	592,775.4	37.1
農林水産業	29,378.2	29,251.4	28,441.6	28,530.8	28,946.2	1.8
鉱業および製造業:	413,839.1	421,057.7	430,968.9	449,483.8	465,349.0	29.1
鉱業	2,344.4	2,314.5	2,357.1	2,221.1	2,081.8	0.1
製造業	411,494.7	418,743.2	428,611.8	447,262.7	463,267.2	29.0
電気・ガス・水道業	27,327.9	28,722.1	29,495.0	30,399.3	31,076.0	1.9
建設業	56,470.9	59,691.2	65,696.3	70,339.2	67,404.2	4.2
サービス:	764,283.7	786,394.3	806,312.4	823,800.7	847,416.9	53.0
卸売・小売業、飲食業、宿泊業	149,150.5	152,013.0	156,323.0	157,472.7	159,604.0	10.0
運輸・倉庫業	48,646.9	49,486.3	50,616.8	51,765.3	52,761.1	3.3
金融・保険業	83,020.5	88,568.7	90,844.7	94,249.9	98,811.1	6.2
不動産・賃貸業	97,112.9	98,773.8	99,559.1	100,496.5	102,651.8	6.4
情報・通信業	55,164.8	56,532.2	58,282.1	59,743.4	61,362.3	3.8
事業活動	91,424.0	95,713.9	97,986.2	99,948.1	101,890.5	6.4
行政・国防	87,052.8	88,495.2	90,625.4	93,008.8	96,277.5	6.0
教育	64,865.2	65,158.4	65,234.3	65,574.5	66,970.3	4.2
医療・福祉	54,740.1	58,653.1	63,157.9	67,738.3	72,806.4	4.6
文化およびその他サービス	33,106.0	32,999.7	33,682.9	33,803.2	34,281.9	2.1
製品助成金控除後公租公課	136,454.6	142,688.3	149,817.1	154,793.8	160,329.5	10.0
国内総生産(2010年基準連鎖価格) ⁽²⁾	1,426,972.4	1,466,788.3	1,509,755.0	1,555,995.3	1,597,514.1	100.0

注(1)暫定値

(2)「連鎖」方式によるGDPでは、GDPの各構成項目の合計は、GDPの合計値とは必ずしも一致しない。

出所: 韓国銀行

2014年における2010年基準連鎖価格でのGDP成長率は3.3%であった。これは、2013年と比較して民間および一般政府消費総支出が2.0%、財およびサービスの輸出が2.0%ならびに国内総固定資本形成が3.4%それぞれ増加して、これらが財およびサービスの輸入の1.5%の増加を十分に相殺したためである。

2015年における2010年基準連鎖価格でのGDP成長率は2.8%であった。これは、2014年と比較して民間および一般政府消費総支出が2.4%ならびに国内総固定資本形成が5.1%それぞれ増加して、これらが財およびサービスの輸出の0.1%の減少ならびに財およびサービスの輸入の2.1%の増加を十分に相殺したためである。

2016年における2010年基準連鎖価格でのGDP成長率は2.9%であった。これは、2015年と比較して民間および一般政府消費総支出が3.0%、国内総固定資本形成が5.6%ならびに財およびサービスの輸出が2.6%それぞれ増加して、これらが財およびサービスの輸入の4.7%の増加を十分に相殺したためである。

2017年における2010年基準連鎖価格によるGDP成長率は3.1%であった。これは、2016年と比較して民間および一般政府消費総支出が2.8%、国内総固定資本形成が8.6%ならびに財およびサービスの輸出が1.9%それぞれ増加し、これらが財およびサービスの輸入の7.0%増加を十分に相殺したためである。

暫定データによると、2018年における2010年基準連鎖価格によるGDP成長率は2.7%であった。これは、2017年と比較して民間および一般政府消費総支出が3.5%ならびに財およびサービスの輸出が4.2%それぞれ増加し、これらが国内総固定資本形成の2.2%の減少ならびに財およびサービスの輸入の1.7%増加を十分に相殺したためである。

(c) 産業

次の表は、韓国の主要工業製品の工業生産指数および総工業生産に占める割合の推移を示したものである。

工業生産 (2015年 = 100)	(1)	指数加重値				
		2014年	2015年	2016年	2017年	2018年 ⁽²⁾
全産業	10,000.0	100.3	100.0	102.3	104.7	106.1
鉱工業	9,611.6	100.2	100.0	102.4	104.6	105.8
鉱業	33.9	98.5	100.0	101.4	100.2	89.4
石油・原油・天然ガス	8.7	120.4	100.0	96.8	86.5	73.4
金属	0.9	126.6	100.0	95.0	84.0	104.8
非金属鉱物	24.3	93.6	100.0	102.7	103.8	93.1
製造業	9,577.7	100.3	100.0	102.4	104.6	105.9
食料品	434.4	98.2	100.0	102.4	103.2	104.1
飲料	82.4	97.2	100.0	103.7	105.7	105.2
タバコ	43.2	107.9	100.0	113.0	122.4	101.0
繊維製品	160.6	106.6	100.0	98.0	95.1	88.7
衣服・装飾品・毛皮製品	145.2	104.0	100.0	95.9	95.5	93.0
皮革なめし・装飾製品・鞄・履物	42.1	105.9	100.0	93.1	82.5	84.6
木材および木・コルク製品(家具を除く。)	31.7	96.4	100.0	101.6	106.2	95.9
パルプ・紙・紙製品	126.8	101.1	100.0	99.4	97.2	97.2
印刷・記録媒体複製	50.2	102.7	100.0	101.7	101.3	101.5
コークス・無煙炭・褐炭固体燃料・石油精製品	471.0	94.3	100.0	106.3	113.0	113.7
化学薬品・化学製品	847.5	97.8	100.0	105.6	109.4	111.9
医薬品・医薬用化学製品・植物性医薬品	144.1	98.1	100.0	109.2	118.6	128.1
ゴム・プラスチック製品	421.1	100.1	100.0	100.5	99.9	94.9
非金属鉱物製品	271.7	93.8	100.0	109.2	111.4	107.0
卑金属	827.6	101.7	100.0	100.7	102.6	99.4
金属加工製品	557.8	104.6	100.0	99.3	96.7	89.0
電子部品・コンピュータ・ラジオ・テレビ・通信機器・電気器具	1,794.3	98.7	100.0	107.0	112.6	125.3
医療機器・精密機械・光学器械・時計	148.1	104.2	100.0	101.0	119.0	136.8
電気機器	479.5	103.4	100.0	103.3	105.5	105.2
その他機械設備	803.6	103.2	100.0	101.4	115.1	111.8
自動車・トレーラー・セミトレーラー	1,076.4	98.7	100.0	97.7	95.0	93.7
その他輸送機器	506.5	109.9	100.0	89.0	68.2	63.3
家具	69.5	94.7	100.0	107.0	110.3	102.3
その他製品	42.4	103.8	100.0	104.4	108.2	103.1
電気・ガス	388.4	100.7	100.0	100.8	106.3	110.2
指数合計	10,000.0	100.3	100.0	102.3	104.7	106.1

注(1)指数加重値は2015年工業国勢調査に基づいて設定され、その年の鉱業・製造業および電気・ガス産業の付加価値合計に対する割合で表された表示分類それぞれの製品の年間の付加価値の平均値を反映している。

(2)暫定値

出所：韓国銀行、韓国統計庁

2014年には、主として輸出が増加したことにより工業生産は0.2%増加した。2015年には主に輸出が減少したことにより、工業生産は0.3%減少した。2016年には、主に国内消費が増加したことにより工業生産は2.2%増加した。2017年には主に国内消費および輸出が増加したことにより工業生産は2.4%増加した。暫定データによると、2018年には主に国内消費および輸出が増加したことにより工業生産は1.3%増加した。

(d) 物価、賃金および雇用

次の表は表示された各期間における物価および賃金の代表的指標ならびに失業率を示したものである。

	生産者 物価指数 ⁽¹⁾ (2010年=100)	消費者		賃金指数		前期比 増減率 ⁽¹⁾⁽³⁾ 失業率 ⁽¹⁾⁽³⁾	
		前期比 増減率	物価指数 ⁽¹⁾ (2015年=100)	前期比 増減率	(2015年=100)	(%)	(%)
2014年	105.2	(0.5)	99.3	1.3	97.1	4.1	3.5
2015年	101.0	(4.0)	100.0	0.7	100.0	2.9	3.6
2016年	99.0	(1.8)	101.0	1.0	104.2	4.2	3.7
2017年	102.5	3.5	102.9	1.9	106.4	2.1	3.7
2018年	104.6	2.0	104.5	1.5	N/A(4)	N/A(4)	3.8

注(1)年間平均

(2)製造業における平均所得の名目賃金指数

(3)経済活動人口に対する割合

(4)未入手

出所：韓国銀行、韓国統計庁

インフレ率は、2014年には1.3%、2015年には0.7%、2016年には1.0%、2017年には1.9%および2018年には1.5%であった。

失業率は、2014年には3.5%、2015年には3.6%、2016年には3.7%、2017年には3.7%および2018年には3.8%であった。

1992年から2009年までの期間、韓国の経済活動人口は約24.8%増加して24.3百万人となった一方、韓国の雇用者数は約23.7%増加して23.5百万人となった。15歳以上の全体の人口に対する15歳以上の経済活動人口の割合は、過去10年間に61%から64%の間で安定している。50歳以下の労働者のほぼ全員に識字能力がある。2018年12月31日現在、韓国の経済活動人口は27.9百万人であり、雇用者数は26.8百万人であった。

国際収支

国際収支は、経常収支および資本収支により表される国内外への財、サービスおよび資本の相対的な流れの尺度となる。経常収支は、国の財およびサービスの貿易ならびに支払移転を追跡するものであり、国が貿易および投資による所得の範囲内に支出を抑えられているかどうかの尺度となる。資本収支は、国内外への資本移転を含むすべての取引（借入および投資を含む。）をカバーする。総合収支は、経常収支および資本収支の合計額を表す。総合収支の黒字は外貨の純流入を示し、その結果現地通貨に対する需要は増大し、その価値は上昇する。総合収支赤字は外貨の純流出を意味し、現地通貨に対する需要は減少し、その価値は低下する。金融収支は総合収支を反映する。総合収支がプラスであれば、その国の貯蓄を表す黒字がその国の貿易相手国の総合収支赤字を埋めることとなる。従って、金融収支は総合収支黒字に等しい現金の流出を示すこととなる。しかしながら、総合収支がマイナスの場合には、その国はファイナンスされるべき赤字を有していることになる。従って、金融収支は総合収支赤字に等しい現金流入を示すこととなる。

次の表は韓国の国際収支に関する一定の情報を示したものである。

国際収支⁽¹⁾

（単位：百万米ドル）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年 ⁽⁴⁾
経常収支	83,029.6	105,118.6	97,923.7	75,230.9	76,408.5
貿易収支	86,145.0	120,275.0	116,461.7	113,592.9	111,866.6
輸出 ⁽²⁾	613,396.5	543,082.5	511,926.1	580,310.2	625,437.4
輸入 ⁽²⁾	527,251.5	422,807.5	395,464.4	466,717.3	513,570.8
サービス収支	(3,290.1)	(14,625.8)	(17,338.4)	(36,734.1)	(29,737.1)
所得収支	5,159.4	4,454.6	4,567.1	5,336.9	2,777.7
経常移転収支	(4,984.7)	(4,985.2)	(5,766.7)	(6,964.8)	(8,498.7)
資本および金融収支	86,340.5	102,724.3	99,765.1	84,398.5	70,678.2
資本収支	(8.9)	(60.2)	(46.2)	(26.8)	188.9
金融収支 ⁽³⁾	86,349.4	102,784.5	99,811.3	84,425.3	70,489.3
正味誤差脱漏	3,328.7	(2,273.9)	1,933.8	9,221.2	(6,108.1)

注(1)数値は、2010年12月にIMFが発行し、2013年12月に政府が導入した国際収支マニュアル第6版（BPM6）に基づき作成された。2018年12月に韓国銀行は、新たな経済活動を把握し、原データの変更を反映するために、韓国の国際収支に関する情報を修正した。

(2)貿易統計による。評価はFOB基準（すなわち保険料および運賃を除いたもの）。

(3)IMF借款、シンジケート・ローンおよび短期借入を含む。

(4)暫定値

出所：韓国銀行

韓国は、2017年に約75.2十億米ドルの経常収支黒字を計上した。2017年の経常収支黒字は、2016年の97.9十億米ドルから縮小しているが、これは主にサービス収支による赤字が拡大したことによる。

暫定データによると、韓国は、2018年に約76.4十億米ドルの経常収支黒字を計上した。2018年の経常収支黒字は、2017年の75.2十億米ドルから拡大しているが、これは主にサービス収支による赤字が縮小し、これが経常移転収支および商品貿易収支黒字の縮小を十分に相殺したためである。

外貨準備高

次の表は、韓国の公的外貨準備高を示したものである。

	公的準備高				
	(単位：百万米ドル)				
	12月31日現在				
	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
金	4,794.7	4,794.8	4,794.8	4,794.7	4,794.8
外貨 ⁽¹⁾	353,600.5	358,513.8	361,701.4	379,476.6	393,332.5
金および外貨合計	358,395.2	363,308.6	366,496.2	384,271.3	398,127.2
IMF準備ポジション	1,917.1	1,411.8	1,727.5	1,621.1	2,140.4
特別引出権	3,280.5	3,241.4	2,878.0	3,374.3	3,426.6
公的準備合計	363,592.7	367,961.9	371,101.6	389,266.7	403,694.3

注(1) 韓国の外貨準備高の95%超は、換金可能な外貨で占められている。

出所：韓国銀行、国際通貨基金

主に貿易黒字および資本の流入が継続したため、政府の外貨準備高は、1997年12月31日現在の8.9十億米ドルから、2018年12月31日現在には403.7十億米ドルに増加した。2019年4月30日現在の政府の外貨準備高は404.0十億米ドルであった。

貿易

貿易収支の数値は、その国の輸出と輸入との差額を測定したものである。輸出が輸入を上回る場合、貿易収支は黒字となり、輸入が輸出を上回る場合は赤字となる。赤字とは、その国が外国に対して支払う金額よりも外国からの受領金額が少なく、ファイナンスされる必要がある状態を表し、当該国は債務国となる。黒字とは、当該国の対外支払額を外国からの受領額が上回る場合で、黒字額の範囲内で貿易相手国の正味赤字の補填のためファイナンスすることができる状態を表し、その国は債権国となる。

下表は、表示期間中における韓国の貿易収支を示したものである。

	貿易収支					
	輸出 ⁽¹⁾	GDP構成比 ⁽²⁾ (%)	輸入 ⁽³⁾	GDP構成比 ⁽²⁾ (%)	(比率を除き、十億米ドル)	
					貿易収支	輸入に対する 輸出の比率 (%)
2014年	572.7	40.6	525.5	37.2	47.2	109.0
2015年	526.8	38.1	436.5	31.6	90.3	120.7
2016年	495.4	35.0	406.2	28.7	89.2	122.0
2017年	573.7	37.5	478.5	31.3	95.2	119.9
2018年 ⁽⁴⁾	604.9	37.3	535.2	33.0	69.7	113.0

注(1)これらの項目は、CIF基準（すなわち、商品価格に保険料および運賃が含まれる。）に基づく通関統計による。

(2)現在の市場価格による。

(3)これらの項目は、CIF基準（すなわち、商品価格に保険料および運賃が含まれる。）に基づく通関統計による。

(4)暫定値

出所：韓国銀行、韓国関税庁

韓国は天然資源がないため、成長のためには広範な貿易活動に頼ることになる。国内で必要な石油、木材およびゴムの実質的に全部ならびに石炭と鉄鉱石の大部分は輸入されている。輸出は一貫してGDP比で高い割合を占めており、従って、国際経済環境が韓国経済にとって決定的に重要である。

下表は、韓国の輸出入の主要商品別分布を示したものである。

	主要商品別輸出 (CIF基準) ⁽¹⁾						(比率を除き、十億米ドル)		
	2014年		2015年		2016年		2017年		2018年
	合計に 占める 比率	(%)	合計に 占める 比率	(%)	合計に 占める 比率	(%)	合計に 占める 比率	(%)	合計に 占める 比率
	2014年	(%)	2015年	(%)	2016年	(%)	2017年	(%)	2018年 ⁽²⁾ (%) ⁽²⁾
食品および消費財	7.0	1.2	6.8	1.3	7.4	1.5	7.8	1.4	7.9 1.3
原材料および燃料	59.2	10.3	39.5	7.5	33.0	6.7	43.1	7.5	55.1 9.1
石油および石油製品	51.2	8.9	32.4	6.1	26.8	5.4	35.4	6.2	47.0 7.8
その他	8.0	1.4	7.1	1.3	6.2	1.3	7.7	1.3	8.1 1.3
軽工業品	38.6	6.7	35.4	6.7	35.4	7.1	36.0	6.3	35.8 5.9
重化学工業品	467.9	81.7	445.1	84.5	419.7	84.7	486.8	84.9	506.1 83.7
電子および電子製品	174.4	30.5	170.5	32.4	159.4	32.2	192.0	33.5	214.8 35.5
化学薬品および化学製品	65.6	11.5	55.9	10.6	55.3	11.2	65.7	11.5	74.0 12.2
金属製品	47.5	8.3	41.4	7.9	39.9	8.1	46.9	8.2	48.1 8.0
機械および精密機器	57.9	10.1	57.3	10.9	55.2	11.1	63.3	11.0	69.4 11.5
輸送機器	116.5	20.3	112.8	21.4	101.0	20.4	108.8	19.0	87.4 14.4
乗用車	44.8	7.8	41.7	7.9	37.5	7.6	38.8	6.8	38.2 6.3
船舶およびボート	38.7	6.8	38.8	7.4	33.5	6.8	41.4	7.2	20.7 3.4
その他	33.0	5.8	32.3	6.1	30.0	6.1	28.6	5.0	28.4 4.7
その他	6.0	1.0	7.2	1.4	8.9	1.8	10.1	1.8	12.5 2.1
合計	572.7	100.0	526.8	100.0	495.4	100.0	573.7	100.0	604.9 100.0

注(1)これらの項目は、CIF基準（すなわち、商品価格に保険料および運賃が含まれる。）に基づく通関統計による。

(2)暫定値

出所：韓国銀行、韓国関税庁

主要商品別輸入 (CIF基準)⁽¹⁾

(比率を除き、十億米ドル)

	2014年 合計に 占める 比率	2015年 合計に 占める 比率	2016年 合計に 占める 比率	2017年 合計に 占める 比率	2018年 合計に 占める 比率
	2014年 (%)	2015年 (%)	2016年 (%)	2017年 (%)	2018年 (%) ⁽²⁾
工業材料および燃料					
原油	311.2	59.2	219.0	50.2	191.0
鉱物	94.9	18.1	55.1	12.6	44.3
化学薬品	24.6	4.7	17.6	4.0	15.5
鉄鋼製品	43.9	8.4	39.6	9.1	39.1
非鉄金属	27.0	5.1	21.2	4.9	18.9
その他	12.8	2.4	11.6	2.7	10.7
資本財	108.0	20.5	74.0	16.9	62.5
機械および精密機器	149.0	28.3	150.8	34.5	147.8
電気機械および電子機械	50.8	9.7	49.1	11.2	47.8
輸送機器	84.5	16.1	87.5	20.0	84.9
その他	11.6	2.2	12.4	2.8	13.0
消費財	2.1	0.4	1.9	0.4	2.1
穀物	65.3	12.4	66.7	15.3	67.4
直接消費財	7.9	1.5	6.9	1.6	6.2
耐久消費財	16.7	3.2	17.1	3.9	17.8
非耐久消費財	24.7	4.7	26.6	6.1	27.0
合計	16.0	3.0	16.0	3.7	16.4
	525.5	100.0	436.5	100.0	406.2
					100.0
					478.5
					100.0
					535.2
					100.0

注(1)これらの項目は、CIF基準（すなわち、商品価格に保険料および運賃が含まれる。）に基づく通関統計による。

(2)暫定値。

出所：韓国銀行、韓国関税庁

2014年の韓国の貿易黒字は47.2十億米ドルであった。輸出は、2013年の559.6十億米ドルから2.3%増加して572.7十億米ドルになったが、これは主に米国、EUおよび東南アジア諸国からの半導体、無線通信装置および鉄鋼製品に対する需要が増加したためであった。輸入は、2013年の515.6十億米ドルから1.9%増加して525.5十億米ドルとなったが、これは主に自動車、無線通信装置部品および牛肉の輸入が増加したためであった。

2015年の韓国の貿易黒字は90.3十億米ドルであった。輸出は、2014年の572.7十億米ドルから8.0%減少して526.8十億米ドルになったが、これは主に国際経済環境の悪化によるものであった。輸入は、2014年の525.5十億米ドルから16.9%減少して436.5十億米ドルとなったが、これは主に石油価格の低下と、それに伴う他の主な原材料の単価の低下によるものであった。

2016年の韓国の貿易黒字は89.2十億米ドルであった。輸出は、主に世界経済が引き続き減速したため、2015年の526.8十億米ドルから6.0%減少して495.4十億米ドルとなった。輸入は、主に石油価格が引き続き低下し、主要な原材料の単価の減少にもつながったことで、2015年の436.5十億米ドルから6.9%減少して406.2十億米ドルとなった。

2017年の韓国の貿易黒字は95.2十億米ドルであった。輸出は、主に半導体および鉄鋼製品に対する需要が増加したため、2016年の495.4十億米ドルから15.8%増加して573.7十億米ドルとなった。輸入は、2016年の406.2十億米ドルから17.8%増加して478.5十億米ドルとなったが、これは主に石油価格の上昇とそれに伴う他の主な原材料の単価の上昇ならびに機械、精密機器および電子機械の輸入の増加によるものであった。

暫定データによれば、2018年の韓国の貿易黒字は69.7十億米ドルであった。輸出は、主に半導体および石油製品に対する需要が増加したため、2017年の573.7十億米ドルから5.4%増加して604.9十億米ドルとなった。輸入は、2017年の478.5十億米ドルから11.8%増加して535.2十億米ドルとなったが、これは主に石油価格の上昇とそれに伴う他の主な原材料の単価の上昇によるものであった。

韓国最大の貿易相手国である中国、米国および日本の輸出入比率は以下の通りである。

	(単位：%)									
	2014年		2015年		2016年		2017年		2018年 ⁽¹⁾	
	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入
中国	25.4	17.1	26.0	20.7	25.1	19.9	24.8	20.5	26.8	19.9
米国	12.3	8.6	13.3	10.1	13.4	9.9	12.0	10.6	12.0	11.0
日本	5.6	10.2	4.9	10.5	4.9	10.9	4.7	11.5	5.0	10.2

注(1)暫定値

出所：韓国銀行、韓国関税庁

金融制度および通貨政策

(a) 金融部門の構造

韓国の金融部門には、以下に分類される金融機関が含まれる。

- ・韓国銀行
- ・商業銀行
- ・ノンバンク金融機関
- ・その他の金融機関（以下を含む。）
 - 金融投資会社
 - 信用保証機関
 - ベンチャー・キャピタル企業
 - その他

金融取引における透明性を強化するためおよび金融市场の統一性と効率性を高めるために、韓国の法律は金融機関に対し、取引業務を行う際に顧客が実名を使用していることを確認するよう義務付けている。流動性危機を緩和するために、政府は、1998年、実名金融取引制度を変更し、国内金融機関を通じての外貨販売または預金を許可し、国債を含む一部の社債の買入れを実名の告知をせずにすることを許可した。政府はまた、民間金融取引の秘密保護を強化させた。

2007年7月、韓国国会は、金融投資サービスおよび資本市場法（以下「FSCMA」という。）を採択した。同法に基づき、現行の様々な業界ごとの縦割りの資本市場規制制度は、単一の規制制度に統合された。FSCMAは2009年2月に施行され、金融商品の定義の拡大、ならびに金融投資会社によるさらに広範な金融サービスの提供と共に投資家保護および開示要件の強化を可能とする機能に基づく規則によって、認可された投資関連金融商品および活動の範囲が拡大する。

FSCMAの施行前には、様々な種類の金融機関は、金融機関の種類（例えば、証券会社、先物会社、信託会社および資産運用会社）に応じて異なる法律による規制を受けており、（例えば、証券取引法、先物取引法および間接投資資産運用業法に基づき）個別の免許および継続規制要件に服していた。同一の経済的機能を有する金融業に対して横断的に統一規則を適用することで、FSCMAは、資本市場関連業務に関する同一の経済的機能に対して複数の規則が適用されていた従前の規制制度から生じる問題を改善し、かかる問題に対処することを目指している。そのために、FSCMAは資本市場関連業務を以下の6つの異なる機能に分類している。

- ・投資取引（金融投資商品の取引および引受）
- ・投資仲介（金融投資商品の仲介）
- ・集団投資（集団投資スキームの組成およびその運用）
- ・投資助言
- ・投資一任運用
- ・信託（上記の5業務と併せて、以下「金融投資業務」と総称する。）

従って、金融投資商品に関連するすべての金融業務は、上記の金融投資業務のうち1つ以上に再分類されており、金融機関は、その金融機関の種類にかかわらず、関連する金融投資業務に適用される規則に服する。例えば、FSCMAの下では、証券会社および先物会社が行うデリバティブ業務は、少なくとも原則的にはFSCMAに基づく同一の規則の適用を受ける。

銀行業および保険業はFSCMAの対象ではなく、引き続き個別の法律により規制される。ただし、FSCMAに基づく免許を必要とする金融投資業務がその業務活動に含まれる場合には、FSCMAの適用を受けることとなる。

金融市场

韓国の金融市场は、コール市場ならびに短期国債、通貨安定社債、譲渡性預金証書、レポ取引およびコマーシャル・ペーパーを含むその他の広範な短期金融商品の市場からなっている。

証券市場

2005年1月27日、現在は廃止された韓国証券先物取引所法に基づき、韓国証券取引所、韓国先物取引所、KOSDAQ株式市場（KOSDAQ）および以前KOSDAQを運営していた韓国証券業協会KOSDAQ委員会が統合され、韓国取引所が設立された。韓国取引所は、3つの主な市場（KRX KOSPI市場、KRX KOSDAQ市場およびKRXデリバティブ市場）を運営している。韓国取引所は、ソウルに2つの立会所（一つはKRX KOSPI市場向け、もう一つはKRX KOSDAQ市場向け）を、釜山にはKRXデリバティブ市場向けに1つの立会所を有している。韓国取引所は有限責任株式会社であり、その株式は(i)以前韓国先物取引所または韓国証券取引所の会員であった金融投資会社および(ii)KOSDAQの株主が保有している。現在、韓国取引所は韓国唯一の証券取引所で、その会員によって運営されており、韓国の金融投資会社および外国の金融投資会社の韓国支店数社が会員となっている。

韓国取引所では、10秒ごとに韓国取引所に上場されているすべての持分有価証券の指標である韓国総合株価指数を公表している。韓国総合株価指数は、合計価額法により計算されている。この方法は、すべての上場企業の時価総額を一定の調整をしたうえ合計し、この総額を、1980年1月4日を基準日とするすべての上場企業の時価総額に対する百分率で示すものである。

次の表は、表示日現在の韓国総合株価指数の価値を示している。

2014年12月31日	1,915.6
2015年12月30日	1,960.3
2016年12月29日	2,026.5
2017年12月28日	2,467.5
2018年12月31日	2,096.9

1997年の最終取引日である1997年12月27日の指数は、1997年9月30日の647.1から急落し、376.3を示した。この下落は、韓国の金融部門および法人部門の弱さ、韓国の外貨準備高の減少、米ドルに対するウォンの価値の急落、ならびに1997年10月24日の香港での株価急落および東南アジア諸国の金融混乱などのその他外部要因に対する懸念の高まりによるものであった。韓国総合株価指数は回復して2007年後半には2,064.9に達したが、その後指数は下落した。2008年9月以来、流動性および信用に対する不安ならびに世界の金融市場のボラティリティが著しく高まるにつれて、2008年第4四半期および2009年上半年には韓国企業の株価は全体に大きく低下し、それ以降、不安定な状態が続いている。2019年6月10日現在の指数は2,099.5であった。

監督制度

銀行監督院、証券監督院、保険監督院およびその他すべての金融業規制当局は、1999年1月に統合され、金融委員会が設置された。金融委員会は、金融監督院の執行機関の役割を果たす。金融委員会は総理室の監督下にあるが、総理室からは独立して業務を行っている。

企画財政部は、金融政策および外貨規制を担当している。韓国銀行は物価安定を目標にして通貨政策を管理している。

預金保険制度

韓国の預金保険制度は銀行、ノンバンク金融機関、証券会社および生命保険会社への預金額を保証している。

2001年1月以降、各金融機関について、預金額に関係なく保証額の上限が1人当たり50百万ウォンとなった。

政府は、レポ取引等の一部の預金を保険制度から排除した。また、保険制度が適用される経営不振の金融機関の定義を拡大して、被保険金融機関が支払う保険料を段階的に増額した。

(b)通貨政策

韓国銀行

韓国銀行は、中央銀行および韓国で唯一の通貨発行銀行として1950年に設立された。韓国銀行の通貨・金融政策は、韓国銀行総裁が議長を務める、合計7名からなる金融通貨政策委員会によって決定され、管理されている。

インフレ目標の設定が、韓国の通貨政策の運営の基本である。消費者物価指数が韓国銀行の目標指標として用いられている。設定されたインフレ目標を達成するために、韓国銀行の通貨政策委員会は、韓国銀行と相手方金融機関との買戻契約などの取引に適用する参照レートである「韓国銀行基準金利」を決定し公表する。韓国銀行は、コール・レートを通貨政策委員会の目標レートに沿って維持するための主要な手段として公開市場操作を行っている。さらに、韓国銀行は、韓国の銀行に対する貸付および支払準備要件に関する政策を確立することができる。

金利

韓国銀行は、世界経済および国内経済の停滞に対応するため、政策金利を2013年5月9日に2.75%から2.5%に、2014年8月14日に2.25%に、2014年10月15日に2.0%に、2015年3月12日に1.75%に、2015年6月11日に1.5%に、2016年6月9日に1.25%に引き下げた。2017年11月30日、韓国銀行は、インフレ圧力の兆しならびに世界経済および国内経済の継続的な成長に対応して、政策金利を1.25%から1.5%に引き上げたが、2018年11月30日には1.75%に更に引き上げられた。

韓国銀行は、2004年2月2日付の銀行の要求預金に対する金利の規制廃止により、1991年に発表した「4段階の金利自由化計画」に基づく金利の規制廃止を完了した。ただし、普通当座預金に係る利払禁止は維持された。

マネーサプライ

下表は、韓国のマネーサプライを表している。

	12月31日現在の残高 (単位：十億ウォン)				
	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
マネーサプライ(M1) ⁽¹⁾	585,822.6	708,452.9	795,531.1	849,862.4	865,851.8
準貨幣 ⁽²⁾	1,491,411.4	1,538,922.1	1,611,928.0	1,680,491.2	1,834,510.6
マネーサプライ(M2) ⁽³⁾	2,077,234.0	2,247,375.0	2,407,459.1	2,530,353.6	2,700,362.4
前年比増加率	8.1%	8.2%	7.1%	5.1%	6.7%

注(1)流通通貨ならびに金融機関における要求預金および普通預金からなる。

(2)定期預金および積立預金、市場性商品、実績配当型商品ならびに金融債を含む。ただし、2年超の年限を有する金融商品を除く。

(3)マネーサプライ(M2)はマネーサプライ(M1)と準貨幣の合計である。

出所：韓国銀行

外国為替管理および為替相場制度

為替相場管理

企画財政部に登録された認可外国為替銀行は、外国為替取引を行う。企画財政部は、その他の種類の金融機関を指定し、これに限られた範囲での外国為替取引の取扱いを認めている。

韓国の法令により、一般的に、国際債券およびその他証券の発行、対外投資ならびに外国為替支払を伴う一定のその他取引を行う際には、企画財政部、韓国銀行あるいは認可外国為替銀行のいずれかの該当機関に対する報告が必要とされる。

1994年および1995年、政府は外為ポジションの上限規制および外為取引管理に要求される書類の規制を緩和し、非居住者が韓国の外国為替銀行で開設することができる自由ウォン口座を創設した。自由ウォン口座に預入れられたウォン貨の資金は、政府の承認を要することなく外貨に転換され、韓国国外に送金ができる。1996年12月の韓国のOECDへの加盟後、投資資金、配当金および利益の本国送金のほか、貸付返済金や利息支払金の本国送金を自由に行なうことが可能になった。政府は、かかる外国為替の改革が韓国の競争力を強化し、国内外の主体間の戦略的提携を推進するものと期待して、WTOのもとでの新たな貿易体制を含む世界経済の変化に対応して為替管理の縮小を継続して実施している。

1998年9月、国会は外国為替取引法を制定した。同法は1999年4月より施行され、その後、何度も改正されている。原則として大半の通貨および資本取引は自由化された。かかる取引に含まれるのは、

- ・韓国企業および金融機関による外国に所在する不動産への投資、
- ・韓国企業および金融機関による海外支店および子会社の設立、
- ・非居住者による年限が1年超の預金および信託商品への投資、ならびに
- ・韓国市場における非居住者による社債の発行である。

韓国資本市場のさらなる開放による弊害を最小限に抑えるため、企画財政部は短期の投機的資金の流入を制限する可変的な預金義務システムを導入する権限を付与されている。

また、政府は、2001年1月から第2段階の自由化構想を実施した。かかる構想のもとで、海外渡航費、外国相続財産送金および海外移住費用を含む居住者の対外決済限度が廃止された。居住者による海外預金、信託、外国有価証券の取得およびその他の外国資本取引ならびに非居住者による韓国通貨建の預金もまた自由化された。かかる自由化に即して、非合法な外国為替取引を抑止し、外国為替市場を安定化するための処置が講じられる予定である。

2006年1月1日付で、政府は、「資本取引」に適用ある規則を自由化した。かかる規則の規定によれば、資本取引について何ら規制上の承認は必要ではない。資本取引は以前、承認要件に服していたが、現在は報告要件に服するのみとなった。

2010年1月、金融監督院は、法人投資家による外国為替リスクのオーバーヘッジを防止するため、外国為替デリバティブ取引リスク管理ガイドラインを発表した。2010年7月に改正された同ガイドラインによれば、金融機関または公的企業以外の法人投資家が銀行との間で為替先渡し、為替オプションまたは為替スワップ契約の締結を希望する場合、かかる銀行は、かかる法人投資家の資産、負債または契約が、為替先渡し、為替オプションまたは為替スワップ契約により軽減可能な為替リスクを抱えているか否かを確認しなければならない。さらに、かかる銀行は、かかる法人投資家のリスクヘッジ率（リスク総額に対する想定元本総額の割合）が100%を超えないことを確保しなければならない。

為替相場制度

下表は、表示日現在におけるソウル・マネー・ブローカレッジ・サービスズ・リミテッドが発表したウォン・米ドル（1米ドルに対するウォン）間の為替レートを表している。

為替レート

1米ドルに対するウォン貨の為替レート

	1米ドルに対するウォン貨の為替レート
2014年12月31日	1,099.2
2015年12月31日	1,172.0
2016年12月30日	1,208.5
2017年12月29日	1,071.4
2018年12月31日	1,118.1

1997年11月まで、政府は、1日の為替レートが上下2.25%の範囲内で自由に変動することを認める為替相場制度を運用していた。1997年後半の韓国の経済危機によって引き起こされたウォンに対する大きな引下げ圧力に対応して、1997年11月、政府は1日の為替レートの変動幅を上下10%に拡大した。この為替変動幅制度は1997年12月に廃止され、現在、ウォンの為替レートは市場の実勢に従い変動している。米ドルに対するウォンの価値は、1997年6月30日現在の1米ドル=888.1ウォンから1997年12月24日には1米ドル=1,964.8ウォンに下落した。経済状況の改善および貿易黒字の増加により、米ドルに対するウォンの価値は徐々に高まってきたが、2008年3月にかかる傾向は逆転した。2008年1月2日から2009年4月16日までの間に、米ドルに対するウォンの価値は約29.9%下落した。これは主に、流動性および信用に関する懸念ならびに国際信用および金融市場におけるボラティリティによる経済情勢の悪化、ならびに韓国の株式市場からの外国投資家による投資の引揚げによるものであった。2019年6月10日現在の1米ドルに対するウォンの平均為替レートは、1米ドル=1,179.5ウォンであった。